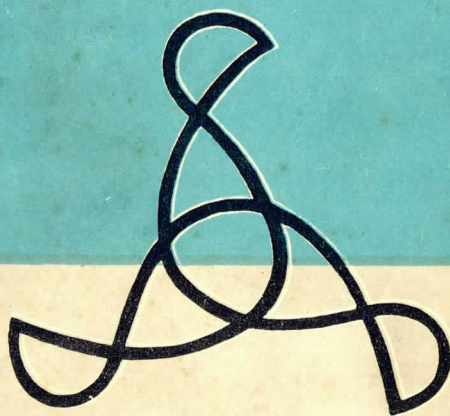


スケート年鑑

第 二 號



1950-1951

日本スケート連盟

1950-1951

スケート年鑑

第二號

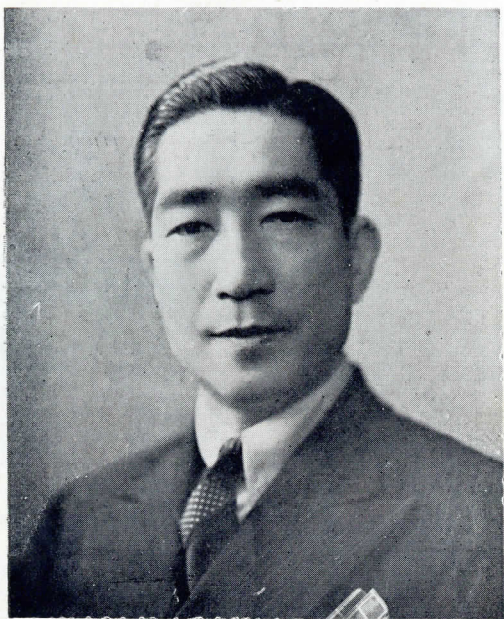
日本スケート連盟

高松宮殿下からお言葉を賜う



第三回國民體育大會冬季大會スケート競技は昭和二十三年一月二十三日から三日間岩手縣盛岡市高松池で舉行。總裁秩父宮殿下の御名代高松宮殿下には當日御臨場、開會式には選手、役員に親しくお言葉を賜う。

會長と兩副會長



日本スケート連盟

會長 竹 田 恒 徳

副會長 林 信 雄 副會長 増 澤 龜 之 助

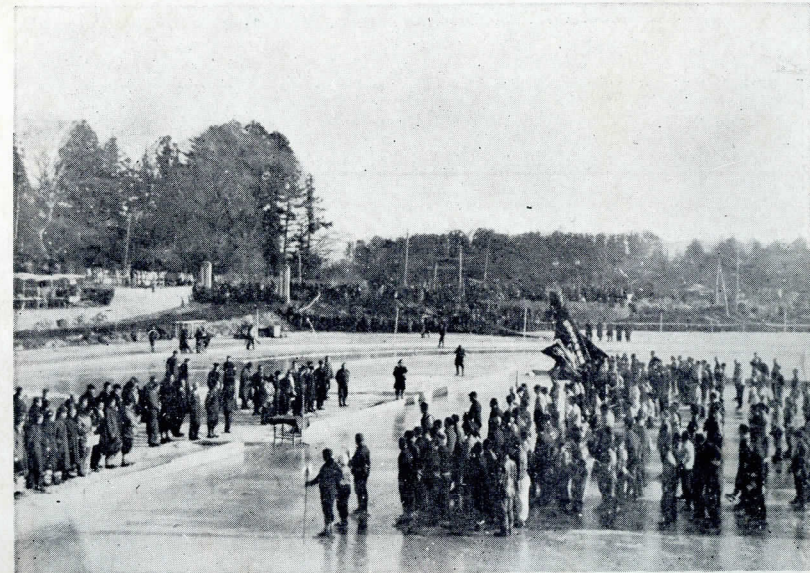
高松宮様と竹田會長



盛岡市高松池で開かれた第三回國體スケート競技會第二日は途中からあいにく雪となつたが高松宮様にはこの雪の中をスピードトラックに立たせられて御熱心にレースを御覧になられた。

中央 高松宮様 左 竹田日本スケート連盟會長 右 兩角理事長

第一回國民體育大會スケート競技會

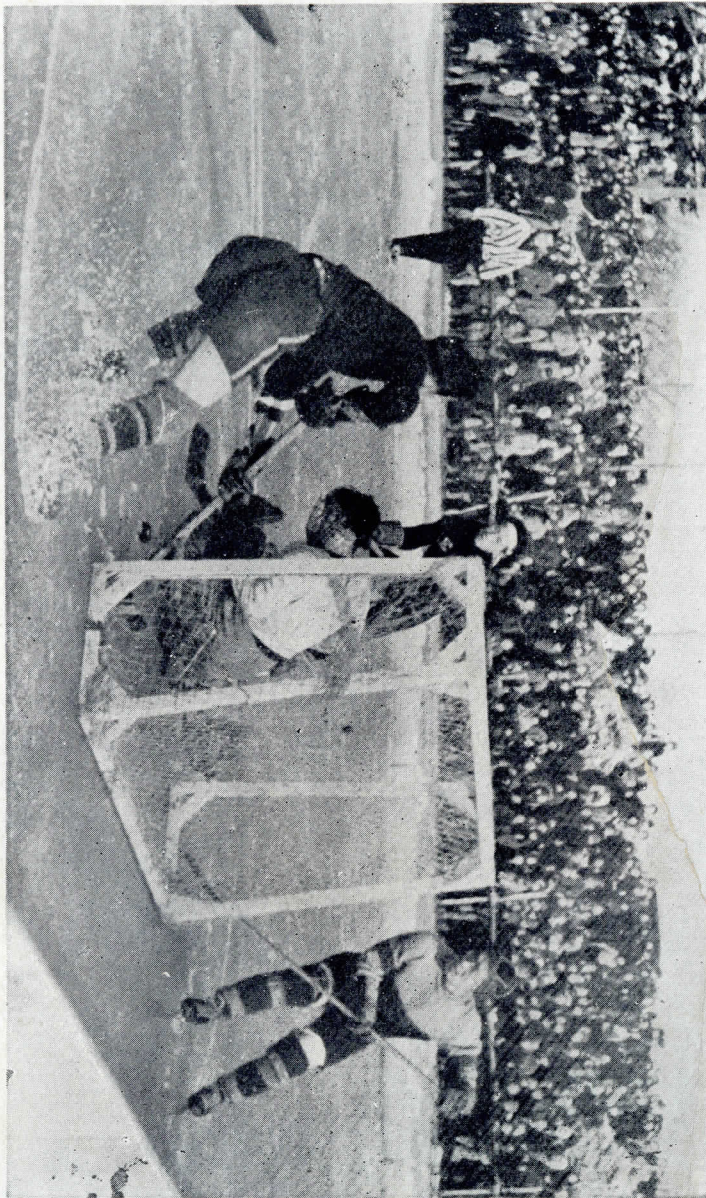


上……會場青森縣八戶市長根リンクの開會式における北海道中村禮吉選手の宣誓。

下……同會場の開會式

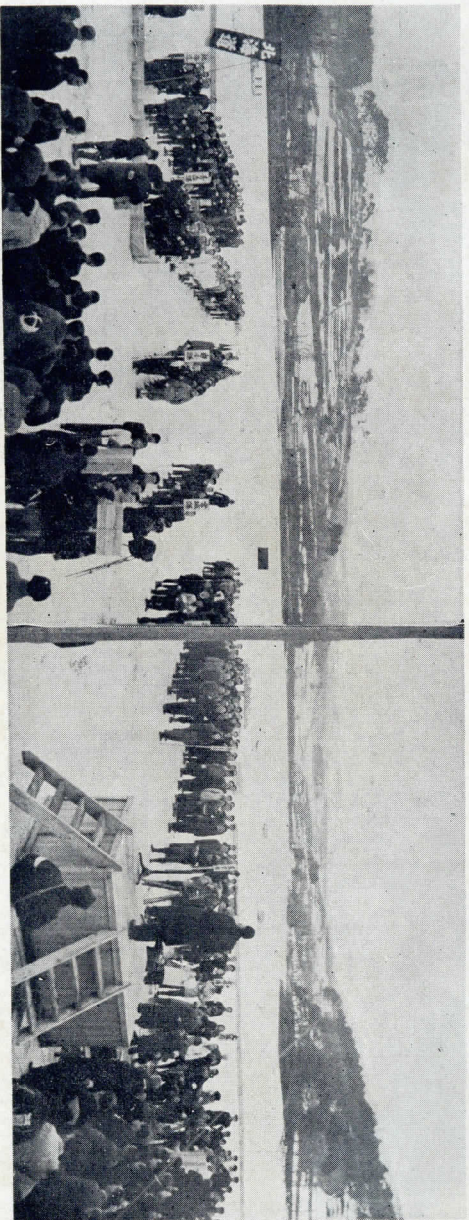
昭和二十二年一月二十五日

第一回國民體育大會アイス・ホッケー試合



八戶市長根リンクにおけるアイス・ホッケー試合全明大、全早大の對戦 7-1 で全早大勝つ。

第三回國民體育大會スケート競技の開會式



第三回國民體育大會冬季大會スケート競技會は昭和二十三年一月二十三日から三日間
岩手縣盛岡市高松池リンクで舉行。開會式には御臨場の高松宮殿下から全競技者に對
し感銘深いお言葉をいただいた。
寫眞は式壇に立たせられた高松宮殿下。

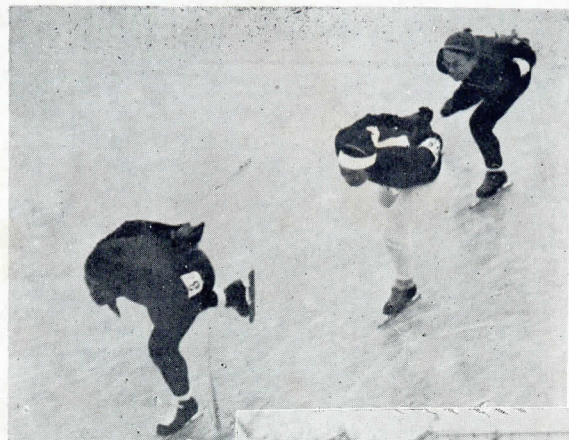


フリー・スケーティング

上……八上戸市長根リンクの第一回國體スケート競技會における女
子ファイギユア第二位生田嬢のフリー・スケーティング。
下……盛岡市高松池リンクの第三回國體スケート競技會女子ファイギ
ユア第一位丹羽夫人のフリー・スケーティング。



第一回 第三回國體スケート競技會



上……第一回國體スケート競技會のスピード 5000 米（オープン・コース）レース、先頭 長尾（大阪）
 中……第三回國體スケート競技會の 5000 米レース（オープン・コース）先頭 菅原（福島）中島（北海道）
 下……第三回國體スケート競技會アイス・ホッケー 全東京對北海道 3-0 で北海道の勝。

スピードとフィギュア・スケーティング



上下…盛岡市國體スケート競技會のひとつときを見て、女子グループ・スケーティング。右から加藤禮子、生田艶子、丹羽芳子、饗場奈奈、野村沙紀子の諸嬢。
 中……同スピード 5000 米レース（オープン・コース）先頭から小泉（長野）菅原（北海道）山本（栃木）長岡（北海道）

オリンピック回想



上……ガルミツシュ・パルテンキルヘンの日本アイス・ホッケー・チーム。

下オリンピック競技 日本と英國の對戦(向つて右日本) 2-0英國の勝。ガルミツシュ・リーゼル湖。

二度のオリンピック出場

上……ドイツ、ガルミツシュ・パルテンキルヘンにおける第四回冬季オリンピック大会の入場式。日章旗を捧持した日本スケート・チーム主將老松一吉選手。
下……第三回冬季オリンピック大会(米國レーク・プラシッド)のスキー、スケート・チーム。





上……昭和三年一月第四回全日本學生選手權大會における早大一満州醫大のアイス・ホッケー評合、12—0 で満州醫大勝つ。松原湖。

下……昭和六年一月第七回全日本學生選手權大會。早大對慶應アイス・ホッケー快勝。3—2で早大優勝。高松池。

スケート年鑑第二號目次

一、スケート年鑑第二號の發刊に當つて……………	日本スケート連盟會長……………	竹田恒徳(二)	(一)
一、スケートの普及と發達を期して……………	日本スケート連盟副會長……………	林信雄(五)	
一、日本學生氷上競技連盟……………	日本スケート連盟顧問……………	平沼亮三(九)	
一、昔の思出……………		兩角政人(一三)	
一、竹田會長を推戴して……………		兩角政人(一五)	
一、スケート連盟廿年の回顧と明日の課題……………		編集委員(三)	
一、世界スケート界の動き……………			
學生連盟の廿五年を回顧			
一、學連第一回選手權大會を想う……………		佐藤昌彦(六)	
一、學連を生み出すまで……………		村津要(三〇)	
一、學連の創立と競技會……………		編集委員(三)	
一、學連の盛岡三年の回想……………		倉町太郎(三)	

第五回冬季オリンピック大會

- 一、サンモリッツ大會の全貌……………編 集 委 員 (元)
- 一、スコット嬢を語る……………編 集 委 員 (四)
- 一、アイス・ホッケー界の肅正……………飼 手 譽 四 (五)
- 一、木谷徳雄君の靈に捧ぐ……………小 池 富 治 (五)
- 一、深井恒雄君を憶う……………三 野 勉 (五)

選手権、國體、學生大會

- 一、學生連盟と學連大會について……………矢 野 博 一 (六)
- 一、第一回國體スケート大會の思い出……………久 保 榮 (六)
- 一、第十七回フィギュア選手権大會の感想……………久 保 信 (六)
- 一、岩手のスケート界……………岩手縣スケート連盟 (七)
- 一、盛岡大會を顧て……………中 楠 敏 士 (七)
- 一、盛岡大會出場の思い出……………高 林 忠 三 郎 (七)

- 一、第十九回學生スピード競技を觀て……………高 林 三 郎 (七)
- 一、第十九回學連五百米滑走を顧みて……………高 林 清 高 (七)
- 一、第十九回學連フィギュアの感想……………伊 藤 八 郎 (七)

各地のスケート發達史

- 一、宮城縣のスケート史を語る……………五十嵐 悌 二 (八)
- 一、諏訪湖を中心としたスケート史小觀……………加 藤 博 行 (八)
- 一、東北のスケート界展望……………星 憲 道 (八)
- 一、愛知縣から報告……………愛知縣スケート連盟 (九)

技 術 研 究

- 一、スピード技術の研究……………編 集 委 員 (九)
- 一、五百米の技術的研究……………内 藤 晋 (一〇)
- 一、一萬米滑走法……………小 池 富 治 (一一)
- 一、私の走法……………安 田 富 男 (一二)

思い出の競技

一、スピード監督としての思い出	吉田正男(二六)
一、なつかしい思い出	稻田悦子(二八)
一、二つの大会	長野富子(二九)
一、第一回選手権大会回想	大澤義一(三一)
一、選手権思い出話	河村泰男(三三)
一、満洲氷滑會出場記	宮澤留十(三七)
一、思い出の札幌大会	砂田重民(二九)
一、一萬米レースの思い出	小池富治(三三)

レークブラシッドを語る

一、オリンピック回想	佐藤昌彦(二四)
一、レークブラシッド	河村泰男(二五)
一、思い出のままに	星野仁十郎(二五)

一、レークブラシッドの春	老松一吉(二四)
--------------	----------

記録

一、全日本選手権記録(第一回大会より第十六回まで)	(二六)
一、國民體育大會記録(第一回より第三回まで)	(二七)
一、學生選手権記録(第一回より第二十回まで)	(二八)
一、明治神宮大會記録(第七回より最後まで)	(二九)
一、日本スケート連盟役員及加盟連盟	(三〇)

規約

一、日本スケート連盟規約	(一)
一、競技一般規程	(六)
一、日本體育協會アマチュア規程	(九)
一、スピード・スケートテイング競技規則	(一一)
一、フィギュア・スケートテイング競技規則	(一七)
一、國際アイス・ホッケー競技規則	(三七)

第二號の發刊に當つて

日本スケート連盟創立二十周年を記念して、このスケート年鑑第二號は刊行されたのであります。今後毎年一冊ずつ發行されるのでありますが、それには日本スケート連盟の關係者は勿論であります。一般スケート愛好家各位の御協力を希つており、またこれがないと希望の達成はむずかしいのであります。そんな譯ですから、第三號以降の年鑑發行に當つては是非とも各位の御協力を期待する次第であります。へき頭とくにこのことをお願いしておきます。

終戦後のスケート界は、一般スポーツ界と共に、國民各層によく理解され、その必要性が認識されて來ましたので、復興への度合が非常に早く、技量の點は兎も角として、一般的普遍度は、加速度的の觀を呈しています。これは、スケートのレクリエーションとしての價值が認められて來たからであり、それはとりもなおさずスポーツの生活化を意味することにもなつていたのであります。だから、これからのスケートは、技術の向上をはかるとともに、レクリエーションスポーツとしての一般的普及を期したいのであります。

スケート界は他の、一般スポーツ同様、オリンピックという一つの目標はありますが、これにこだわることなく、ことしばかりは内容の充實、内部的整備に重點をおいて、スケート界の發展に邁進するのが、地味のようではありますが、飛躍に臨んでの大きな力となるのだと信じます。

スケート年鑑の役割は、一年間におけるスケート界一切の事象を網羅して記録として残し、またこれに多少でもよいから推進的力を附與したいのであります。

スケート年鑑第二號の刊行に當つての所感であります。

スケートの普及と發達を期して

日本スケート連盟會長 竹 田 恒 徳

我國のスケート界は、戦争の間全く中絶していたものではあつたが、一般スポーツの復興と共に、今では完全に戦前への立ち直りを見せた。既に全日本選手権大會をはじめとして國民體育大會スケート競技會その他各種の競技會など全く戦前とかわりのない状態である。殊にスケート人口の急速の増加は驚くばかりで、一般のスケートに對する關心がいかに高まりつゝあるかを物語っている。

スケートはスポーツの中でも特にリズムミカルの美とスピーディな爽快さを持つていて、大衆的スポーツとしては非常に發展性の多いものである。それは獨得の魅力のほかに冬季スポーツの華として明朗であり健康的でありかつ文化性にも富んだ新日本の國民生活には極めてふさわしいスポーツだからである。それにまた國際性のあるところがこれまた見逃しがたい魅力となつて復興を早めたもので、この意味から日本の平和的新生は先づスポーツからということがいえ、スポーツの持つ國家的意義は非常に大きなものと私は感ずる。

しかし、我がスケート界は、まだまだ決して隆盛になつたとはいえない。隆盛期に入るべき氣運が漸く出て來たというのがほんとの現状ではなからうか。そこで正しい堅實な普及發達はこれからの努力如何によるのだというべく、我々スケート界の運営に關係する者の責任はなかなか重いと思う次第である。

ちやうどこの發展の緒についた時、日本スケート連盟が創立二十週年を迎え、久しく絶えていたスケート年鑑の第二號を發刊するを得たことは極めて意義のある喜ばしいことである。

さて、スケートの普及發達の爲にはどうしたらよいのか、それには、先ず競技會を開くことが必要であり早道であることはいうまでもない。しかし私は、今にして基礎的な事項を十分に究明確立することが、正しい堅實な普及發達を期する爲の要諦だと考へる。

即ち、氷と、スケートと、人との三つの基本要素に關し徹底的に研究し施策することの必要を、先づ私は何よりも痛感しているのである。

氷に就て見ても、人工氷の室内リンクが、今の日本には只の一つもない。人口密集し文化の中心ともいふべき大都市で、スケートが全く出來ないと云う哀れな實狀では、何とも必細い極みである。それはともかくとしても、スポーツとしての眞のスケートの醍醐味は大自然の懷に抱かれた天然氷の上を滑ることにある。ところが天然氷のリンクまでが終戦後満足なコンディションで競技會を終始し得た例は殆んどない。變更、延期、中止等が常態の如き有様である、これを天候氣溫のせいだとして片附けるには餘りに我々が無能である。施設の整備擴充は勿論、氷その物に就て更に深く科學的研究を遂げられなければならないとつくづく思う所以もこゝにある。

次にスケートそのものに就て見ても、相當な成果を擧げている選手の大部分は外國製の用具を用いている。日本製のスケートに未だ十分な信用が持てないというのが偏らざるところのようである。しかしそれが高價な爲に普及面においても亦支障を來している。此の點から見ても眞の普及發達はまだ一〇道遠しの感がある。恰も日本刀が世界一によく切れる刀であつたように、世界一によく滑るスケートを日本で作することは不可能な事であらうか、又普及版スケートの増産はどうしたら出來るのだらうか、思い惑ふことは山ほどにある。

ところで氷やスケートが如何に研究されたとしても、人の問題が主體であることはいうまでもない。醫學的、體育的な

諸問題はもつと深く不斷に掘り下げて研究して行かなければならず、而もその上にスポーツ精神の確立ということにまで入つてゆくとき、問題の重要性は限りなく深い。

更に人に關連した問題として重視されるのは技術である。外國選手と比べると殘念ながら體格的に及ばない我が國選手に期待するものは正に技術以外にないからである。他の多くのスポーツと比較して、スケートは技術によつて體格のハシデキップをカバーする希望が最も持ち得るスポーツだと思われる。そこでスケートが我が國にとつては國際的に有利なスポーツだと云い得べく、オリンピック参加の明かるい望みを持ち得るに到つた今日、技術の急速な向上の爲には特別の考慮をしなければならぬ秋が來ているのである。

普及發達の爲になすべきことはかくも多い。然し斯く述べて來ると或いは少し悲觀的にとれるかも知れない。だがこれは大いに希望があればこそ述べるのであつて、更には又惡口に聞える面があるかも知れないが、實はその多くは連盟自體が行うか、指導すべきものであり、それ等の未解決は會長たる私自身の至らざるを告白して居る様なものである。

然し惡口になつても、恥を忍んで述べなければならない程に問題は重大である。勿論連盟としても決して放任して居るのではないが、一人連盟本部のみのよく解決し得るところでもない。全國スケート關係者の眞剣な御協力によつて速かに之等の基礎問題を解決することが現下の緊急事であると思う。そして基礎から固められか合理的な綜合成果の上こそ正しい立派なスポーツ精神も確立し得ると信ずるのである。

單にスポーツの爲のスポーツとしてではなく、スケートはすでに社會的に益々有意義な目標を持つに至つて居る。いまこの盛り上つて來た氣運を遺憾なくとらえて、スケートが廣く正しく普及され、而も立派に堅實に發達する日の一日も速かならんことを祈念して已まないものである。

學 連 の 使 命

——創立二十五周年を迎えて——

日本スケート連盟副會長

林 信 雄

一、戦争は、われわれに、大きな歴史的試煉の機會を與えたのであるが、われわれは、その試煉に耐えることができず遂に、今日の惨敗を喫したのである。惨敗を喫したその原因を奈邊に求めるかは、人々々その見解を異にするではあろうが、われわれは、われわれの身につけていた教養乃至は文化とでもいふべきものの餘りにも批判性に乏しい封建的な特徴的缺陷にその原因を求めて然るべきであるとしたのである。されば、やがて、文化國家の建設ということが國民的課題とされることになつたのである。

そもそも、文化という言葉は、極めて多岐多様な意味を持つものとされ、一定の概念を引き出すことは、まことに、困難であると思ふ。いま、われわれが、これを狭い意味において理解すれば、物質文化に對して言われる精神文化であつて、經濟や政治と區別されて文化と言われるものがこれであり、いわゆるイデオロギーの總體を意味するものでもあると言ふべきか。ところが、文化というものをば、いま、廣い意味で理解すれば、人間社會が創造した一切のものといふこととなり、機械も器具も宗教も藝術もスポーツも、いずれも文化の要素をなすものと言ひうるであらう。このように廣狹二義に理解できる文化は決して二律背反的な概念ではない。されば、イデオロギーと呼ばれるものとの間には、一見し

たところでは、何んの關係もないかの如く思われるスポーツが、實は、豊かなイデオロギー性を内包し、それぞれの時代の時代精神とでも言うべきものとの間に内的關連性をあらわしているのである。

二 私が京洛の地で學生生活を送つた大正の末期から昭和期のはじめにかけての頃は、日本における學生の文化運動が、最も活潑にそして、極めて勇敢に闘われた頃である。日本資本主義が爛熟して、やがて、深い長い不況に沈淪し、滿洲事變に血路を見出すべき歴史的必然の一端を、ひた押しに、辿つていた頃である。心ある學生は、學生生活の在り方について、極めて眞摯であることを要請されたのである。スポーツは、かような情勢の下にあつては、少くとも客觀的には、學生の思想的自覺を阻止するための具に供せられたのであつて、思想的なものへの、従つて生活の現實的なものへの、高まり行く關心を減殺するのには好個の手段とされたのである。近代的文化を表現すべき筈のスポーツに附與された形相と色彩は、まさに、封建的な特徴的缺陷を露骨に曝露したものと言ふべきである。やがて、スポーツのイデオロギー階級性ということが問題とされたのである。スポーツは、まさに、消極的な反動的な文化的役割を演じ、學生が身につけるべき教養乃至は文化の進歩的展開を阻止すべき保壘としての機能を營んだのである。まさに、スポーツは、ブルジョア學生の閑暇と富の誇左でもあつたわけである。學内文化團體とスポーツ團體との對立と抗争、いわゆる體育會費の不拂運動、廢止運動はブルジョア・スポーツに對する一般學生の大衆的抗議の一表現であつたとも見らるべきものである。

ところが、今次の戦争が始められると、スポーツの名を冠せられるもの多くは、『敵性』の名を冠せられることになつたのである。スポーツの階級性の抹殺の上に、スポーツの戦技化を通しての大衆化が企てられたのである。われわれが身につけていた教養乃至は文化の特徴的缺陷は、戦争挑発者達によつて、見事に、乗ぜられるところとなつたのである。スポーツすることさえもが反戰的・反軍的、反時局的であるとされ、戦争挑発者達のいう武技のみが競技とされたのである。スポーツの戦技化がこれである。それは、戦争のためのスポーツというような生やさしいものではなくて、まさに、スポーツを自家藥籠中のものとしたとでもいふべきか。スポーツは、僅かに、戦技としてのみ、その餘命をつないだのである。

ある。

終戦後においては、スポーツを戦技化した舊い勢力は地を拂い、『民主化はスポーツから』の標語も鮮やかに、別の勢力によつて別の目的をもつて、利用され始めたのである。敗戦という冷酷な現實は、スポーツから資材や設備は勿論のこと、スポーツする機會さえも奪い去り、そのために、スポーツを商品化しようとする人々によつて、『民主』化の名の下に、利用されることになつたのである。かくて、スポーツするためのスポーツではなくて、見せるためのスポーツの發達となつたのである。やがて、スポーツは興行化され、時には勤勞意欲を失つた徒食の輩の賭博の機會手段にさえも利用される。プロ・スポーツがこれに拍車をかける。まさに、スポーツは、文化の名において、教養のない俗人どもの最新式な手取早いいわゆる文化生活の一樣式に加えられようとしている。學生スポーツは、インフレーションの重壓のために手も足も出ないので、好むと好まざるとに拘らず、傳統的な封建的な選手制度を溫存するために、見せるためのスポーツに同調することもまた、やむをえないとされるのである。

三 いま、創立二十五周年を迎えた日本學生氷上競技連盟もまた、このような世相の推移變遷から超然とした存在ではありえなかつた。そして、インドア・リンクを失つた今日、悩みは、ひとしお、深刻である。しかしながら、それ故に、いまこそ學連本然の姿を、學生アイス・スケートの眞意義を、發揚すべきではあるまいか。文化が一部特權階級の手中に収められ歪められた時代から、文化を大衆の手に奪還するために、文化のための活動が、未來を背負う大衆によつて、雄々く押し進めるべき時代への轉換の現代的過程は、まこと正しい文化としてのスポーツを要請している。まことに、アマチュア・スポーツの興行化からスポーツの興行化からスポーツを解放することなくしては、民主化されたスポーツはありえないし、スポーツの文化性の昂揚は期しえない。見せるためのスポーツから學生スポーツを解放することなくしては、學生スポーツが學生生活に根を張るスポーツとして、本然の姿をあらわにすることは望み難いし、スポーツを通じての文化國家への寄與は、日暮れて道遠しといふほかはない。

いま、十有八校をその傘下に収めて、學生スポーツ界に君臨する日本學生氷上競技連盟は、文化國家日本の建設のため選ばれた戦士の結集體でなければならぬ。それはただ、アイス・スケートの技のみに秀で文化としてのスポーツに盲目な片輪者の集團であつてはならぬ。まこと正しいスポーツマンは、常に、文化としてのスポーツの實踐者として、國家と人類のために文化的任務を果すことの社會的意義を自覺し高い知性と廣い教養を身につけた文化建設の戦士でなければならぬ。日本學生氷上競技連盟はかようなスポーツマンの育成のための温床でありたいものである。その使命はまことに重且つ大であると言ふべきである。

★

★

★

昔の思出

日本スケート連盟顧問 平 沼 亮 三

昔は私も随分澤山のスポーツ關係の會長を引受けたので會長屋などと悪口を叩かれたが言譯してみるが、決して私が進んで引受けたのではなく、其頃は容易に會長を引受けてくれる方が無いので、不得止私が頼まれちまつたものだが、左りとて私は自分の経験のない競技の會長は決して引受けぬ事にしていたが近來はスポーツが頗る勃興して來て私などが會長にならずとも立派な方が争て引受けてくれる事になつたのは大にスポーツの爲め慶賀すべき事と思う

が、其代り競技其物に経験が無いのみならず、甚しきは見事もない競技の會長になる方もあると聞くが、私などにもよく世間から君は何々の會長をヤツテ居るソードが其競技の経験はないのでしよう、などよく質問を受けるが、前にも述べた様に自分が多少心得て居らぬ會長は一切引受けぬが昔日本に初めて排球の協會の創立をした時に會長を頼まれたが當時關係して居らぬのでお断りしたら、頼みに

來た協會創立者が協會の歴史の如きものを調べられ、明治何年かに初めて米人によつて日本に紹介され、基督教青年會館にて之が指導をした際にあなたは入會して指導を受け、後には横濱の青年會にて練習を續けた事が當時の記録に残つて居ります、とのことで遂に引受けたが後には宅の邸内にコートまで作つて試みた事があつた。

然し全く経験のないにも不拘會長を引受けたものが二つあつた。重量挙げと送球で、日本で初めて試みられた重量挙げは、米國より、送球は獨逸より來たものなれど當時日本には誰も経験はないので陸上競技連盟と體操協會で萬事幹旋して協會を創立したので、適當の會長の出來るまでの條件の上、陸上競技連盟と體操協會の會長であつた私が暫時お引受けして後に夫々會長が出來た。送球は數回練習して規則位を覺えたが重量挙げは遂に試みなかつた。

本年は學聯創立廿五周年に當るが私のスケートとの關係

は随分古い、初めて此競技を試みたのは今より約四十五年前に長男と長女を諏訪湖に連れ出して練習した、其二人が其時六歳と七歳であつたのが今四十一歳と四十二歳になる其頃土地の者は相當滑つていたが東京から見えて居たのは斯界の先覺者河久保、交野、田代の諸先輩で私は子供と共に指導を受けた、いつも滞在は精々一週間位であつたが毎年お正月にはよく出掛けて湖上一周などを試みた後に下諏訪神社の森蔭に怪しげなリンクが出来、茲でホッケーを試みたがステッキがないので横濱から大工の手斧の柄を十數本集めゴールも粗末な木製の枠に鈴を下げパツクが入ると鈴が鳴る様に作つて持ち込だ事も覺えている此リンクでは土地の小供が幅を利せ中々手上にホッケーを試みていた其後スケートも段々と發展して赤坂の山王にリンクが出来日本最初の試みでもあり物珍しく相當繁昌したが間もなく芝浦に堂々たるものが出来アイスホッケーなども相當上達した。

此芝浦リンクで或大會に秩父、高松兩殿下御揃いで御覽になり私も陪席していた時の事、プログラムにペアスキーディングと云うのがかいてあるにも不拘行わぬのは何故かとの御下問があつたが、實は前日になり警視廳より差留められた事を御答えしたら、殿下がオリンピック種目にもあり我選手が之に出場するとすれば練習の必要もあり之を止めるのは解らぬとの御言葉なので、御尤と存じ私が警視

いに慶應の主將が来て、今日は強敵古河との顔合せなれど田舎武士には敗けられません必ず勝つて御覽に入れますからとは亦私の古河の重役とは氣付かず大に豪語して歸つたあと、殿下は却つて私が双方に深い關係のある事を御存知なので今日の試合には平沼はドチラに肩を持つか之れは見ものだと思ひになられたが慶應は豪語にも不拘ず敗退した。

此試合を御覽になつて秩父宮殿下は高松宮殿下に向いアイスホッケーは實にスピーディーで、見る度にイツモ是非自分もやつて見たいと思ひ、と仰せられ、高松宮殿下がチャレバイージャナイデスカと御應答していらせられた事を横に聞いていた私は今でも耳に残っている。アイススケートが隆盛を極める以前一時ローリースケートが大に流行を極めた事があり、東京にも各地にローリースケートリンクが出

廳の係りの方に直接交渉すると係の申すにはまだスケートとして規則はないが舞踊の處に「公衆の面前に於て男女相抱擁して舞踊する事を禁ず」と云う事があるので此條項に當てハメテ禁止したがオリンピックに備えて練習するなれば公衆の居らぬ處なればペアスケイティグも許可するとの事であつたので此旨殿下に御傳えすると、殿下は他人の居ない處にて相抱擁しようとは何をしようと警視廳の許可は入らぬデンようと大に笑われていたが全く其通りで、男女手を繋でスケートする位を相抱擁して舞踊云々を當ハメルが如き當時の頑迷さが察せられるが今日では公衆の面前に於て男女相抱擁してダンスしてる處かアベックタイムとかには男女の學生が接吻したまゝでダンスするでもなく唯互に堅く抱擁して音楽につれて場内を動いてる寫眞が先頃新聞に掲げてあつたが如何に民主主義とかが徹底したとは申せ僅か數年の内にあまりにも警視廳の取締方針の變化には驚くの外はない。

此大會のホッケー試合に慶應軍と日光の古河とが戦う事となつた。すると私は古河電工の重役で日光のスケートに對しては鞭撻もし獎勵もした關係で古河軍の監督が主將を連れ殿下と同席していた私の處に挨拶に来て私と慶應との深い關係を知らぬ古河の監督が今日は大に頑張り必ず慶應を敗りますから御安心下さいと云うて歸て行つた。入れ違

來、殊に横濱には相當大規模のものが出来外人なども相當來場し中にはフィギアーなど上手に滑るものも居た。私も一時可也熱中して宅にも五十坪程のリンクを作り慶應の舊野球部の選手連中など集まつてローリースケートでホッケーを試みて居た。大正三年頃慶應野球部を率いて米國に遠征した時に紐育で三島彌彦君の案内で一般日本人は入場禁止されてるローリースケートリンクに行て多數の外人と共に二三回試みた事があつた。大抵はペアスケイティングでローラーでダンスを試みていた。ローリースケートの優秀の器具も米國や獨逸より相當買集めたが關東大震災に約二十數組も焼いたので以來諦めて仕舞つたがかくかいて見ると私とスケートには縁が薄い様に見えるが學連創立廿五年より十年も前に已に試みて居たので本當の繋りを持つてゐる。聊か往時を追懷して記念とする。

竹田會長を推戴して

兩 角 政 人

竹田恒徳^{トシノリ}會長を日本スケート連盟の會長に推戴申上げてから、早くも一年を過ぎた。

去年の一月廿二日午後四時、われわれ日本スケート連盟役員は、高松宮様と御一緒に盛岡にお着きになつた竹田會長を、直ちに會長推戴式の式場である岩手縣縣會議事堂に御案内して、各都道府縣連盟代表役員列席のもとに、交野政邁、久保田敬一、久保田晴光、喜多壯一郎の各會長に次ぐ日本スケート連盟第五代の會長竹田恒徳氏の會長推戴式を行つたのである。

高松宮様の盛岡お成りは國民體育大會の總裁秩父宮様の御名代ということであつて、丁度同じ列車で日本體育協會の會長東龍太郎博士、日本體育協會理事長清瀨三郎氏、同常務理事小川勝次氏、同企画部長森田重利氏更に文部省體育局長東俊郎博士（東會長の令弟）が到着されたので、これ幸いと體協關係の方々を推戴式に臨席願えたのはこの記

念すべき式典に一段の光彩をそえ得たものとして喜ばしいものであつた。

式は兩角日本スケート連盟理事長の會長推戴の辭、次いで竹田會長の日本スケート連盟會長就任の挨拶、更に東日本體育協會々長の祝辭があつて終つたのであるが、竹田會長の就任挨拶を要約すると次のようであつた。

今般第三回國體スケート並第十六回全日本選手權大會が盛岡で開催される機會に、はからずも日本スケート連盟會長の職をけがすことになりましたことは、私の大きな喜びとするところであります。本年はスイス・サンモリツツで第六回冬季オリンピック大會が開催されるわけでありますが、これと時を同じうして、やがて外國と信を結ばれる日を心に期しながら全國から馳せ参じた選手諸君がその妙技を示すことの出来るのは、スケート關係者として欣快とするものであります。スケート技術の水準

は未だ戦前のそれに到達していないように聞いておりますが、それも各連盟の協力と熱意、選手諸君の一段の精進によつては引出來るものと信じます。

私も一たん會長をお引き受けした以上は單なる置き物でなく役員各位と協力實際に仕ごとをして見たいと思つております。各連盟役員各位の御協力を乞うものであります。



一つの團體の中心となるべき會長を決定するについては、日本スケート連盟の場合にしても、連盟關係者として

は、スケートに理解のある人でないと、完全に責任を果すことはむずかしいであろうと結論をした。そんな關係で終戦以後スケート連盟は竹田會長推戴まで、會長は空席、理事の合議で會務を遂行するのやむを得なかつたのである。

終戦までの會長喜多會長は早大スケート部の創立者でありスケート連盟の創立にも深い關係をもつておられ、いわばスケート界生えぬきの關係者だつたので、總べての點にわれわれ連盟役員と完全なる歩調の一致があつて名會長であつたが昭和廿年を境に一應ビリオードを打つた方が會長自體も吾々役員もさつぱりした氣持ちになれるというので、何んというか戦争の終局によつて自動的に引退となつてし

まつたわけで、喜多會長にはまことにお氣の毒に思つてゐる。

理事の合議によつて會務を運行して行くことは、各理事にそれだけの理解と協力さえあれば實行し得ることであつて、民主的という點から云えばこれに越したことはないわけである。しかし事務的にはそうであつても、社會的關連性という點を考慮すると會長の存在は大きな意義をもつのであつて、會長にその人を得たならば一日も早く會長を決定した方がよいのである。幸い竹田會長という申分のない會長を探し當てたとは、言葉は悪いが、日本スケート連盟としてはもはやこれ以上の會長はないのである。

竹田會長は誰でも知つての通り、明治天皇の御直系である。その方をわれわれは會長に推戴したのであるが、われわれはそういう方であるから推戴申上げたというよりは、竹田會長が古くからのスケーターであつたからである。花月園に、芝浦に、日光に、諏訪湖に。しかも日本スケート連盟に對しては秩父宮様のアイスホッケー選手權、久邇宮様の男子フィギュア選手權、昌德宮妃の女子フィギュア選手權、各賜盃と共に男子スピード總合選手權に優勝カップを賜つていて、スケート連盟とは古くから關係が結ばれていたのである。つまり、われわれはこのスケートに理解のある、またスケートを愛される、更にスケート界の發

展に熱意を有たれるお方である點で特に御就任を願つたのである。だからわれわれは會長と共によりよい日本人として、社會人として、スケートを通じての日本の文化昂揚に努力を傾けたいと思つてゐるのである。

◇

スポーツの、國民生活の中にしめる位置がどんなに大きいものであるかは今更いうまでもない。明るく、純真で、正しいスポーツ。われわれはこのスポーツの世界を通じ、最も優良な社會人となるよう、會長もわれわれも歩調を合せて行きたいのであつて、これが今日のスポーツ人の果す社會的使命の一つであると思う。

従來スケート連盟は主として、競技を中心としてその運営に萬全を期して來たのであるが終戦後は競技と共に一般的普及とスポーツ文化の昂揚という點に相當力を入れるように方向づけられて來た。これでこそスポーツの社會性が認められるわけで、これを如何にして實行に移して行くか、竹田會長の御就任を機會に少しづつでよいから實現して行

きたいと思ひこの點特に會長に期待してゐるのである。

現在日本スケート連盟は、竹田會長を中心に林、増澤の兩副會長、これに兩角、榎本、金子、矢崎、西川、小池、中澤、朝長、小西、倉町、辻、小森の各理事が連盟の執行機關として陣容をかため、母體としては北海道、青森、岩手、宮城、福島、栃木、東京、山梨、長野、愛知、大阪兵庫、學生連盟があつて將來の飛躍を期しているが、スケート界をより強力に發展せしめるにはどうしたらよいかの點について、その基本條件を考察すると、何んといつても母體である地方連盟の強化、これと並行し東京本部の強化につぎるのではないかと思う。そしてその各連盟の役員の協力一致して運営を民主的に運んで行くことが強化の具體化だと信じてゐる。

竹田會長を推戴して一年、吾々は連盟強化に關し、萬全を期しているが各連盟の各位にもまた日本スケート界の飛躍のため一段の御協力を期待するものである。

(早大OB日本スケート連盟理事長)

スケート連盟廿年の回顧と明日の課題

兩 角 政 人

一

日本スケート連盟が全国各地のスケート團體の世話係、連絡機關全國スケート團體のまとめ役、外國との折衝機關として生れてから廿年になる。

日本スケート連盟の創立した昭和初頭は、國際的には第一次世界大戰後の影響をうけた平和運動が最後的にはあつたがまだかすかな動きを見せていた頃であり、國內的にも自由主義思想の未だ旺盛な當時であつたので、スポーツ界は一舉に目覺しい躍進を遂げた。スケート連盟の誕生はこの平和の雰圍氣の中に全國的協力を得て輝かしい發足を果たわけだが、この生誕までの胎動には約十年間の時日を要した。しかしこの胎動十年間のスケート界の動きは決して無駄なものではなく、これがあつたからこそ、日本スケート連盟創立後四年目早くも冬季オリンピック大會に代表選

手を派遣することが出來たのである。

競技團體の使命は、事業的方面では競技會の開催、技術の向上などあり、事務的な面では對外對内關係の處理、團體の總體的發展施策があるのであつて、日本スケート連盟もこの原則に従つて全面的發展策を講じて來たといえる。

この原則的業績を顧ると、スケート連盟はまことに微力ではあつたが一通りのことはやつて來たように思う。もつともこれは全國各スケート連盟の協力があつたからこそのことであつて、いわば力を合することの如何に偉大なものであるかを物語るものであつたといえよう。

日本スケート連盟廿年間の業績はというと、先ず國內的には我國スケート界の競技的最高峰を行く全日本選手權大會の開催や代表的競技會の主催及後援、技術指導講習會の主催と後援、更にスケート技術の普及施策、これに對して

國際的には、國際スケート連盟及國際アイス・ホッケー連盟との連絡、アメリカ・レックブラシッドで行われた第三回冬季オリンピック大会とドイツ・ガルミツシュ・パルテンキルヘンで行われた第四回冬季オリンピック大会、この二回にわたるオリンピック出場、その他カナダ・アイスホッケーチームとオーストリアの世界的女子フィギュア・スケートイングの名華フリッツ・ブルガー嬢の招聘。スピード、フィギュア、アイスホッケー三種目の全日本の精鋭をすくった所謂全日本軍の二度にわたる満洲への遠征など、なかなか多彩なものがあつた。これ等は競技的方面の業績であるが、内部的運営面はと見ると、創立當時から戦前までの間大日本スケート競技連盟の名稱のもとに構成母體として各地域のスケート發達に努力して來た北海道氷上競技連盟、東北スケート連盟、關東スケート連盟、中部スケート連盟、全關西スケート連盟、朝鮮氷上競技連盟、關東州體育協會が終戦後都道府縣別に分れて躍進に數歩の前進を見せることになつたことである。即ち新しい構成母體として、北海道氷上競技連盟、青森縣スケート連盟、岩手縣スケート連盟、宮城縣スケート連盟、福島縣スケート連盟、栃木縣スケート連盟、東京都スケート連盟、山梨縣スケート連盟、長野縣スケート連盟、愛知縣スケート連盟、大阪府スケート連盟、兵庫縣スケート連盟、これに日本學生氷

上競技連盟が特殊の位置にあつて構成母體に加わつて、日本スケート連盟の組織が、府縣別という最も自然の形態に改められ、全體的には自治的基盤が確立されてスケートの發展に事實上の前進を見せたことである。これ等都道府縣及び學連を併せると十三團體になるが、今後室内スケート場が主要都市に施設され、やがてこれ等の府縣がスケート團體を結成して日本スケート連盟に加盟するとなれば、日本スケート連盟の世帯は自然に増大するわけで、これを如何に運営して行くか、當事者の責任も倍加するものといえる。しかし戦争當時六、七年間というものの、戦時型にゆがめられて、それより一步も出ることの出来なかつたスポーツ運営も、今日では確然として正しい方向が示され、すべてが民主化されて來たから日本スケート連盟本來の使命達成もこれからというわけで、當事者としては大いに張り合ひを感じているのである。

二

日本スケート連盟が創立されたのは、今から廿年前の昭和四年だが、スケート界全體を記録的に遡ると、胎動期の十年の他更に古い歴史が展開する。それを馳け足で展望して見る。

一體スケートが日本に輸入されたのはいつ頃のことかという、我國スケート界の大先輩北海道の内藤芳雄氏によ

ると、明治十年今の北海道大學の前身札幌農學校に米人ブ

ルックス氏が教師として招聘された際、アメリカからスケートを携えて來て滑つたことがあつたという。恐らくこれが本道（北海道）におけるスケートの第一歩であると推測されると語られたがこれは即ち日本におけるスケートの第一歩であると信じてよくはあるまいか。その後明治廿四年三月新渡戸稻造博士が、海外留學から歸朝の際米國製スケートを三足携えて札幌へ來て當時の札幌に大センセイションを巻き起したという。北海道はこれを契機にスケート熱がより上つて學校や官廳にはスケート俱樂部が出来るなど、一躍スケート王國になつたようである。

北海道についてスケートをはじめたのは、東北地方の仙臺のようである。「スケートの諏訪湖」か「諏訪湖のスケート」かといわれるほど日本的になつた諏訪湖のスケートは、それよりずつとあとのことである。これも日本スケート界の大先輩諏訪の三輪充武氏の話では、中部地方でスケートをはじめたのは松本地方が最初で、明治卅四、五年頃松本市にドイツ人の二家族が住んでいて松本城のお濠でスケートを滑つたことからじまつたようである。それからというもの松本地方にも滑走者が出來、松本中學校内同氣會購買組合とかいうのは、仙臺からブレードに溝のある仙臺式スケートを取次ぎ販賣して愛好家の需要に應えたよ

うである。

諏訪では明治三十年頃農學博士稻垣乙丙氏が歐洲から歸朝の際、靴に着脱する本部と金具で出來ているスケート器具を携えて來て上諏訪の小學校に寄贈し、スケートをすゝめたと話が残っているが本格的に普及して來たのは北海道札幌から轉任された田中稻實氏兄弟が、その美技をわれわれに示されたからで、當時既に下駄スケートが出來、非常に勢いで流行して行つた。この諏訪式下駄スケートは諏訪地方にスケートを普及させるのに非常に役立つたかわりに器具として不合理のため技術の發達を阻害し、現在まだその影響を受けているのは惜しい。と三輪先輩の語るところである。

諏訪湖のスケートが本格的に盛んになつたのは、明治卅八年の暮中央線が開通してからのことである。

諏訪湖のスケートというのは、日本のスケート界にとつては大きな存在である。日本における近代的スケートの發達は總べてといつてよいほど、諏訪湖が中心となつてゐる。地元の南信日日新聞社が明治四十一、二年頃から諏訪湖一週スケート大會というのをやつて、それが中央にけん傳されるようになり、大正八、九年ごろ日本スケート會がわが國最初のスケート團體として誕生し、さらに大正十三年の暮全國學生氷上競技連盟が創立され、それから五年目

の昭和四年日本スケート連盟が生れるまで、これら創立に關係した人々はみんな諏訪湖で滑つた人達ばかりで、諏訪湖の水が縁結びの神様となつたのである。

暮から正月にかけて、學校や會社が休みになるころ、スケート愛好の士はぞくぞく諏訪湖へ諏訪湖へとつめかけた。銀盤というがこの時季の諏訪湖の水は、暗緑色をした一種無氣味な色彩を帯びている。しかしスケーターはこのまじり氣のない、つまり雪のまじつていない暗緑色の水が何んともいえず魅惑的である。諏訪の油氷、零下七、八度で凍結し、やゝ軟度のある、弾力性を帯びたこの氷は日本一であるかも知れない。そんな氷で滑るスケートイングには一種の丸味が出て来る。サークルを描くにも無理がなく極く自然の力でスウツ、スウツと描ける。ごく自然の滑り具合。これは諏訪湖の油氷でないといえないかも知れない。こんなによく滑る氷だからスピード・レースの場合など記録がよい。五百メートルで二秒位の差はきつと出るだろう。

氷質のよいことと、東京や名古屋などに近いことで、諏訪湖の暮から正月は、押すな押すなであつたが、ひと冬暖氣が訪れて正月になつても諏訪湖に春波が立つている時はみじめだつた。何しろ食糧萬端整えて來た面々のことではあり、今更引きあげるのも剛腹というので、諏訪湖の周邊や富士見高原にまで氷を探して歩いた。岡谷の間下の池、富

士見の太平の池などは、この時の産物でその後諏訪湖が張つていても、白樺の疎林にかこまれ、八ヶ岳の峯を眺めることの出来る太平の池に出かける人が現われて來た。

第一回全國學生選手權大會の年もこの暖かな諏訪湖の凍結しない年であつたらう。あてにした諏訪湖に氷がないのだから、役員連中大いに慌てて、からくも松本市から一里も山の中へはいつた六助の池に氷を探しあてて兎も角も大會を終了させたようなこともあつたが、こんな騒ぎの間に學生連盟の先輩や日本スケート會の人達の協力で日本スケート連盟（當時は大日本スケート競技連盟）は、昭和四年十二月呱呱の聲をあげたのである。

三

日本スケート連盟廿年間に活躍した印象に残る選手はどんな人々であつたらうか、またこの間の一般スケート界の動きは、更にオリンピック出場はどんな模様であつたであらうか。

先づスピード界で印象に残る人々はというと、なんといつても石原省三君であらう。ドイツのガルミツシュ・パルテンキルヘンで行われた第四回冬季オリンピック大會の五百米レースで44秒1を出し、第四位に入賞したことは、日本スケート界の誇りである。彼の脊を丸くした滑走ぶり、世界のスピード選手間でも評判のようだつた。河村泰

男、木谷徳雄君等も、同時代滿洲に育ち、國際的に活躍した忘れ難い選手諸君だ。この時代内地で活躍した諸君は潤間留十（現宮澤）小池富治君などで、昭和十年前後の諸君としては、金正淵、崔龍振、戦争前活躍した選手で記憶に新しいのは早大の山下勝久、慶大の深井恒雄君。この二人を戦争で失つたことは惜しい。女子では滿洲育ちの江島八重子、汾陽泰子、北海道の坂本きよ、中川きよの諸嬢。

フィギュアは、男女を通じて稻田悦子嬢の存在は壓倒的高位にあつたといえよう。第四回冬季オリンピック大會に最年少十三歳で出場。兎に角その十三の子供があれだけ安定のあるがつちりとしたスケートイングを見せるとは思わなかつたとガルミツシュジの話題であつた。男子の片山敏一君も連盟廿年間の忘れ難い代表的選手である。得意のジャンプとスピンは、片山君のスケートイングが安定あるものだけにゆつたりとした氣持で観ることが出來た。今でもそうである。終戦前の有阪隆祐君も片山君と共に代表的な選手といえよう。終戦後も依然元氣である有阪君はこれからいよく圓熟する人である。

アイス・ホッケーは、團體ゲームであるから個人をとりあげるのとはどうかと思うが、それでも洗練された個人技は、しばしばゲームを左右することがある。滿洲醫大の黃金時代を作つた庄司敏彦、平野進、木下梢君等の好プレー

は、いつまでも頭に残つてゐる。この三人は大學を出てから技いよく熟して大學選手に負けず重厚なプレーを見せ、第四回冬季オリンピックの代表に選ばれている。その後慶大の龜井、立大の砂田、小柳君など名選手が現われたが、室内リンクのない現在では、大學チームの技量全く低下、昔日の感なきはいささか淋しい。

四

日本のスポーツ界は、つい最近まで學生が主動力をなして一般社會人は、片隅によせられていた。これは學生がスポーツ界にのさばつたからではなく、社會がスポーツに對して認識を缺き、理解を持たなかつた結果から來た片跛な現象であつた。

スケート界も一般スポーツ同様學生が主力をなし、殊に技術面では一般社會人は近寄ることが出來ない時代があつた。ところが理解のある熱心な指導者をもつてゐる地方では、冬季における健康と明朗性から來る能率維持、或は増産をスケートに求めて、一般或は職場スケートが盛んになると共に技術方面でも學生群を壓倒するようになるとが見受けられるようになって來た。北海道の王子製紙を中心とする苫小牧のスケート、日光の古河精銅所を中心とする日光のスケートなどはい例のよう思う。苫小牧は齋藤

隆、川添翁、高田良作、高木工場長、西田信一氏等、日光古河は、現社長西村啓造氏、佐々木耕郎氏等何れも日本スケート界にとつては忘れることの出来ない人達である。

スケートの大衆化は指導者の熱意に負うところが多い。

熱心な指導者があつて、青少年を冬の健康地帯氷上に誘導することが出来れば先づ第一に一般的普及が實現され、やがて技術の向上が期せられる。熱心な指導者を得ることはむずかしいことではあるがスポーツが理解され認識されて來た今日ではもはや昔のようにむずかしいことはあるまい。しかし理解の深度は深いに越したことはないのだから、それには中央の連盟と地方の連盟が一層緊密な連絡をとつて、スポーツの認識と理解、スケートの認識と理解を徹底させるよう努力する必要がある。

日本スケート連盟廿年間の動きは、一口にいえば消極的面が多かつたが、戦争後の今日は、スポーツが社會生活の上に立派な存在價值を示して來たのでスケート界はこれからようやく積極化して行くものと想像される。即ち一般的スポーツ認識はこれからのわれわれのスポーツ活動を圓滑に進めてくれるものと期待されるのである。わけても屋内スケート場が各地に施設される日が來ればスケートは自然的に大衆の間にしん透して行くであらう。

過去廿年間、日本のスケート界は、一般社會から見れば

けだが、餘りぜいたくはいえない。とに角二度のオリンピック出場で各種目共これだけの成績を記録したのは、國內的にレベルの上つてゐることを語るものであつた。

ところが、折角あがつたこのレベルも戦争のために目茶目茶になつてしまひ、終戦後四度目のシーズンを迎えてやゝ持ち直し状態にあるとはいへ、戦争前のレベルまでに漕ぎつけることは、選手にしても關係者にしても大へんな努力が要ると思う。

五

現在日本のスケート界は競技主義に動いてゐる。大別すると全日本選手権大會、國民體育大會、學生選手権大會。この三つが主流をなして動いてゐる。この傾向はスケートばかりでなく各種のスポーツが大部分この競技主義である。これは一般社會生活の中にスポーツを融合させないがために起つた現象であつて、文化水準の低い日本としては、まことに當然のことかも知れない。

われわれはこのあやまつたスポーツ觀念を是正して行きたい。競技に主動力を置くと共に、これと同等の力を一般社會生活のスポーツ化にまで持つて行きたいのである。

もともとスポーツはレクリエーションの一つなのであるから、そこには當然社會生活と融合すべき性格があるわけ

認識外の世界にあつたので、オリンピック遠征の場合など、その派遣のためには相當の困難を経験したのであるが、その困難を押し切つてこれを實現した當事者の努力は大いに敬意を表すべきものがあつた。

日本スケート連盟が最初のオリンピック遠征をしたのは昭和七年（一九三二年）米國レーク・ブラシッドに行われたい第三回冬季オリンピック大會であつた。

この時の代表選手役員は、監督佐藤昌彦、副監督飯田洋二（現北村）トレーナー小林進、星野仁十郎、選手スピード木谷徳雄、石原省三、潤間留十、河村泰男、フィギュア帶谷龍一、老松一吉で、成績は二の次としてこれ等選手役員の體験は、それからの四年目の、ドイツ、ガルミツシュ・パルテンキルヘンの第四回冬季オリンピック大會の基礎のためとなつたわけである。

四年後のガルミツシュ・パルテンキルヘンへは、スピード、フィギュア、アイス・ホッケー三種目、役員をも合して卅六名の大遠征部隊をシベリヤの曠野はるけくドイツへと送つた。男子フィギュアの片山選手は出場者廿五名中十五位、女子フィギュアの稲田選手は卅三名中十位、アイス・ホッケーは對英國0—3、對スエーデン0—2の二戦二敗スピードは石原省三選手が五百メートルに44秒1を出して四位に食い込んでいる。惜しいところでの丸を逸したわ

で、スポーツ界はこれを輕視して、スポーツは競技者だけのものとぎめて、レクリエーションとしてのスポーツ發展に努力を拂わなかつたことが、スポーツの社會認識をおくらせた結果となつたのである。そこで冬のスポーツとして特に存在價值をもつスケートはレクリエーション的意義を一層はつきりと徹底させたいものである。

スケートをレクリエーションとするといつても、その方ばかり氣をとられて競技を忘れてしまつたのでは、スケートをレクリエーションとして發達させる目標を失うことになつて片手落ちである。よくスポーツ界でいう言葉だが三角形の頂點と底邊、ピラミッドの上と下。これはすべてを端的に説明する言葉だ。要するに底邊を作れば頂點も自然に出來て來るのであつて、底邊が擴大強化されれば頂點も當然高く強大になつて行くのである。更に煎じつめれば、スケーターの數を増加すればその中から自然に力量があり素質のあるスケーターが現われて來て、三角形の底邊と頂點となるわけである。日本スケート連盟としてはこの三角形をしつかりとした少し位の地震では崩れないものにして行きたいのである。そしてこれを着々と強化擴大して行きたいのである。スケート界も競技方面では一應軌道にのつたかと思う。これからは三角形の底邊を一層強化し擴大するように普及方面に努力を拂いたいと思う。スケート人口を

増大することによつてレクリエーション方面の効果をあげ、その中から選ばれる選手によつて技術の向上を期して貰おうというのである。

しかし、それにはいろいろの手段が必要であらう。大衆化のためには用具の入手、しかも出来るだけ安い値のもの、それからスケート場、即ち滑る場所。未開拓地の開發。また技術向上のためには、從來のような便宜主義でなく、科學的根據の上に立ち、また科學的指導方針を確立して選手の養成を合理的に行うことなど、注文はあとからあとから出て来る。

スケートの未開拓地といへば全國的に見れば相當なものではあるまいか、これを漸次開發して行きたいと思ふのが實現するためには、各地連盟が自主的に動いて貰うより他には方法がない。といつて中央が手を拱いているわけではない、中央は中央として積極的にスケートの認識と理解を徹底させるため適時機會を作ることに努力する必要がある。この場合も中央、地方の連絡は密なるを要するわけである。

スケートの普及は受入態勢が整いさえすれば、ある點までは自動的に實現して行くものであるが積極的普及を期するためには、スポーツの文化性を認識徹底させることが必要であらう。このスポーツの文化性は戦後のスポーツを認

世界スケート界の動き

編集委員

世界のスケート界は、今どんな状態を示しているか、また勢力といつたようなものの分布状態はどんなであるか、といつたようなことについては、スケートに關心を持つ人である限り、一應知りたいところであらう。

一九三六年の二月、ドイツのガルミッシュ・パルテンキルヘンで開かれた第四回冬季オリンピック大會、それから二、三年引き續いて行われた世界選手權大會や歐洲選手權大會以來、世界をひつくるためのスケート状態はわれわれ遂ぞ知るを得なく今日に立ちいたつた。

それが兎も角、おぼろ氣ではあるが、大勢らしきもの、として知ることの出来たのは、戦後最初の冬季オリンピック大會たる一九四八年のサンモリッツ大會である。

世界の各國は、今度の戦争では、日本同様競技會の開催は勿論のこと、満足な技術訓練さえ行うことが出来なかつたであらうに、オリンピックの成績を見ると、戦争終了後

識するには重要なことであつて、これを認識することが即ち今日社會生活をする人達の缺くことの出来ない生活資格である。戦後の日本人は正しいスポーツ觀を持たなくてはならないのである。スポーツの性格の中にはスポーツ独自の文化性が包含されていてしかもこれは他の文化と稱するものよりはるかに高い高度を持つてゐる。これを具體的に説明すればスポーツ文化は健康性と明朗性と多角的な社會性の中にあり更に國際性などの諸條件を要素として成り立つてゐる。したがつて現在の社會においてスポーツがどんな役割を果しつゝあるか、また今後如何にすればより多くの効果が得られるか、スポーツの文化性は今日では既に一般社會に對して重要な課題を投げているといえる。人間生活の文化的水準は、このスポーツの文化性をとり入れることによつて地位を改めるものとなる。スケートを普及させるにスポーツの文化性を認識して貰うことが絶體必要のゆゑである。

日本スケート連盟も創立廿年を迎えたがこれからは競技主義と並行して、スケートを大衆化せしめ、人間生活の福祉たらしめるよう持つて行くことに努力する必要がある。これが日本スケート連盟に與えられたこれからの課題であらう。

の四年目早くも立派な立ち直りを見せてオリンピックに見参したのには驚いた。しかも立派な、堂々たる技量を示し、殊にスピード・スケートなどは、新記録續出という活躍ぶりを見せたのは、流石に輝かしい傳統と確固とした基盤を誇る國々であると感じたえないものがあつたが、更にスポーツを愛する國民の熱情の結集を羨ましく思つた。

そこへ行くと日本はまだ若い。戦争前いたっていた國民のスポーツ觀念は眞のスポーツの認識とはいわれない必勝主義の軍國的スポーツ觀の基盤に立つたもので、それが最近ようやくのことほんとうの意味のスポーツを知つて來たわけで、したがつて國民のスポーツに對する理解と熱情を世界のレベルにまで引き上げるには、まだまだ多くの時日が必要であらうし、その低調の中から生れ出る力であるから、スケートをもひつくるめた一般スポーツの眞の力量は道未だ遠しである。しかしわれわれは希望をもつてよ、

日本が進むべき道は“平和”の道一本である。この平和の先頭の旗印は文化である。またその文化のトップを承わるのは健康と明朗と更に社會性と國際性を最も豊かに持つスポーツである。この“平和”の旗印の進むところ、國民の熱情も一本に結集されるからである。スポーツが平和のシンボルとして國民の間に滲透して行く速度はもはや加速度的だからである。國民がスポーツを理解し熱意を傾ける日も加速度的であるところに、われわれスポーツ關係者は大いに希望を持ちたいのである。

戦争前の第四回冬季オリンピック大會(一九三六年)頃の世界スケート界の勢は、カナダのアイス・ホッケーを除いては、ほとんどが歐洲でその勢力を占めていた。スピードの北歐、フィギュアの中歐、多少の例外はあるにしても、スケートといえばヨーロッパということになつていた。ところが終戦後サンモリッツで開かれたオリンピックの結果を見ると、アメリカの擡頭が豫期した通りに現われている。

アメリカのスケートは、大體カナダ寄りの北部地方が盛んであるが、一寸とした都市には大がけの屋内スケート場があるので、スケートのことは比較的よく知つてゐる。それにスケートの大衆性とレクリエーションとしての價值が、他のスポーツに比べてはるかに多いので競技こそはやらなくともよく滑る。

セレナーデ” “氷上の花”これ等のスケート映畫はアメリカのスケート界にとつて絶好の宣傳普及用具となつて、スケートの魅力は完全にアメリカの若い人達を興奮させた。

サンモリッツのオリンピックに現われたアメリカの成績は、スピード・スケートの短距離でフィッツ・ゼラルド、バーソロ・ミューの活躍が目立ち、アイス・ホッケーは五位、フィギュアは男子でデイツク・バットンがカナダの女子バーバラ・アン・スコット嬢と共に一位を得ている。

この結果だけでアメリカ・スケート界の動き全般を知ろうとすることは無理であるが、スケート・クラブがだんだん數を増し、その内容も漸次強化されて來たということはアメリカのレベルが一段と上つて來たと見ることが出來よう。ただ、アイス・ホッケーが非常に職業化し、アマチュアとプロフェッショナルの限界がいまいになつてゐる點、アメリカのアマチュア・スケート界全體として注目すべきものではないかと思う。

カナダはアメリカと陸続きの國だから、アメリカと同じような傾向にあると思われるが、この國はアイス・ホッケーを國技とまでしているのだから、アイス・ホッケーの發達は他のスピード、フィギュアに比し、はるかに上位にある。サンモリッツのオリンピックでも一位を占めて國技としての傳統を誇つてゐる。フィギュアもスコット嬢の優勝

そのアメリカも、スケートに今まで以上の關心をもつて來たのは、一九三二年北部アメリカのカナダ境にあるレークプラシッドで行われた第三回冬季オリンピックからである。この頃、既にアメリカにはスピード選手としてジャック・シェーとかアーヴィング・ジャファイとか、相當目星しい選手がいて、北歐に脅威を與えていた。

アメリカはこの大會のスピード競技に、興味本位のオーブン・コースによる競技方式を行つてまふと失敗、競技會は大混亂をしたが、アメリカ全體にスケート熱をあふつたことは事實で、それから四年後のドイツの大會に多數の代表を派遣する機會を作つた。

しかしアメリカが急激に頭を上げ、アメリカ中がスケートの熱病に冒され出したのは、一九三六年ドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘンの第四回冬季オリンピック大會を最後にアマチュア・スケーターからプロフェッショナルスケーターに轉じた例の銀盤の女王ソニア・ヘニ嬢のアメリカ入り以來ではなからうか。

ソニア・ヘニ嬢は、アメリカ入りと同時にニューヨークのマジソンスクエア・ガーデンにコスチューム艷かに姿を現わした。マジソンスクエア・ガーデンは満員續きの日ばかり返えされた。それから間もなくヘニ嬢は映畫女優としてスクリーンに活躍を開始した。“銀盤の女王” “銀嶺

がこの國のフィギュアの基盤の強固さを語つてゐる。

アメリカも、カナダもスケートの下地は十分に出來てゐるのだから、指導者に人を得たならば優秀なスケーターが次々と生れるであらう。殊にカナダは氣候的にスケートには恵まれており、スコット嬢の優勝に刺戟されて、一段と力こぶを入れることであらう。

北歐はスピードである。スエーデン、ノールウェー、フィンランド、この三つの國が世界のスピードスケート界を牛耳つてゐる。この状態は戦前も戦後もかわりないようである。しかしこの強さは、何んの理由もなしに強くなつたのではない。またスケートばかりが強く、世界を牛耳つてゐるのではない。およそ、一つのスポーツが強くなるためには、他のいろいろの種類のスポーツが盛んになり、その原動力としては、國自身がスポーツを愛し、スポーツを解し、スポーツに情熱を感じなくてはならないので、この北歐の國々はこれにあてはまるよい例となつてゐる。

北歐諸國のスポーツは、生活必需品である。スポーツがなくては一日の生活が出來ないのである。したがつてこの國々のスポーツは、アメリカのように企業性もないし、ソ連のような階級性もない、また英國のように貴族的でもなく、どこまでも市民的農民的國民的である。だからそれは生活に結びついて健康と明朗が必然に保持される結果と

なつてゐる。この國々の人達はきびしい冬をスポーツで突破しているといえよう。

スエーデンで行われている一般的スポーツはというと體操と陸上競技で、これ等にかわつて冬はスキー、スケートとなる。ノールウェーはスケート王國であると共にスキー王國である。またフィランドは、陸上競技をはじめ、サッカー、スキー、スケートが盛んであるが陸上競技は冬のスケートと共に名選手を出している。長距離のヌルミ、リトラ、槍投のミイラ。

スケート界での北歐の勢力はスピード・スケートであるが銀盤の女王ソニア・ヘニイもノールウェー生れでありドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘンのオリンピック女子フィギュア第五位フルテン嬢、男子でアメリカ、レークプラシッドのオリンピック第二位のギルス・グラーフストロームなど何れもスエーデン、またはフィンランドには同じくオリンピックで活躍したニッカネンなどあつて、アイス・ホッケーが俱樂部戦に火花を散らしていることなど思い合せると、スケート全般にわたつて北歐の意欲は相當なものと思像出来る。が、なんといつても北歐のスケートはスピード・スケートである。フィランドのツンベルグ、ノルウェーのエンゲネスタンゲン、マチーゼン、バラングルード。スピード、スケート史に長く名をとどむべき人達

イングであつて、アイス・ホッケーは、フィギュアやスピード・スケートに比べるとはかにおくれて盛んになつた。もつともアイス・ホッケーは、十九世紀にカナダに生れ、それから歐洲に渡つたのだから無理もないことである。

今日、北歐を除いた歐洲の國々は矢張りフィギュア・スケートにけんを競つてゐるようである。戦争前の歐洲での勢力分布を見ると、英國、奧太利が兩翼となつて、これに獨逸、白耳義、洪牙利、瑞西、佛蘭西其他が続いてゐる。

戦後の状況はオリンピックの成績で推して見るより他ないのだが、奧太利は相變らずよい成績を示している。フィギュア・スケートは、天才的才能技術も必要であらうがそれにもまして絶對的必要とされるのは練習量と指導者である。これが果して歐洲のスケーターにあるかどうか。サンモリッツのオリンピックの成績から見ても、歐洲は今のところ、天才か熱心な努力家が出現しない限りどん栗の背比べといふところである。

アイス・ホッケーも歐洲では、戦前同様の分布状態で、チェッコ、英國、瑞西などといふところが活躍している。サンモリッツのオリンピックでのチェッコの成績は一位のカナダとは同成績で僅かに得點率で二位になるという大活躍であつた。アイス・ホッケー界の今後はカナダ、チェッコ、米國、瑞西、これに英國、瑞典が加わつて世界の分野

である。

これ等の人達にかわつて現われたサンモリッツ、オリンピック大會の新人で北歐諸國の選手といへば、スエーデンでは、一萬米の一位アケ、セーフアルス、五千米の三位グーテ・ヘルグンド、四位グスタフ・ヤンソン、ノールウェーでは、五千米一位レーデル、リアクルス、二位オッド・ルンドベルグ、五百米一位フィン・ヘルゲッセン、二位ベルグ、千五百米一位ファルスタット、フィンランドは五千米二位のファルケン、一萬米三位ベンチ・ラミオこれ等の人達であるが、各種目の上位を占めている點から想像して北歐諸國のスピード・スケートの王座は依然ゆるぎないものと知ることが出来る。

和蘭、丁抹、獨逸、佛蘭西、奧太利、瑞西、洪牙利、白耳義、伊太利、など中歐或は西歐の國々の状況はどんなであらうか。

スケートの發祥は、いずれは北歐の寒い國であらうが、やがてそれが瑞典人、丁抹人、和蘭人、獨逸、佛蘭西と中歐から西歐に傳わつて英國に渡つたものらしい。スケートが歐洲に普及されてから技術は漸次高度化し、中歐の都市ウィーン、ブタペスト、ブラーグ、ミュンヘン、ペルリンなどさがならスケート都市の觀を呈するに至つたが、こゝで行われるスケートイニングは總べてフィギュア・スケート

は決せられるか。

日本と同様オリンピックに参加しなかつたドイツとソ連の力量は材料不足で知ることが出来ないがドイツは日本と同一の條件下にあるとはいへ日本ほど技量は低下してゐない。またソ連は、これは、鐵のカーテンで内部を見せないだけのこと、フィギュア・スケート、スピード・スケートアイス・ホッケーも相當のものと想像がつく、分けてもスピード・スケートは自信満々のようである。

朝鮮は今のところ、スピード・スケート一點張りである。戦前には日本のスピード・スケート界に中心勢力をなしたのであるが、現在南鮮では思ふような練習も出来ないだろうから戦前見たあの活潑な活躍が見られるかどうか疑問である。しかし體力的には日本人より優つてゐるから日本人もぼんやりしていると追いつかれるおそれがある。

日本人も朝鮮人もせめて中歐諸國のスピード程度にはなりたい。ところがサンモリッツの成績を見るとオランダやハンガリーの選手が四位五位に入つてゐる。

世界スケート界の分布は戦前と大してかわつてゐないようであるがアメリカだけは注目してよい。日本もスピードフィギュア、アイス・ホッケーなどを十分に検討し最も進出に可能なものに重點を置いて特色づけに行くことなど躍進の進めの一つの方法であらう。

學生連盟の廿五年を回顧して

學連第一回選手權大會を想う

佐藤昌彦

大正十三年の秋に成立した學連——我々は學連とは言わなかつた。常にインターカレヂと稱して居たが、大正十四年の一月に淺間の六助池で舉行した第一回大會の想い出話を書けと言ひ兩角君からの注文である。その注文の手紙によると學生連盟は二十五週年を迎えたとの事である。麴町の富士見町にあつた日齒の山田君の下宿にあつまつて連盟創立の相談をした早稻田の小口君、慶應の青木君、それから帝大の私の中の誰が、二十五年後の今日を豫想したのであらうか。夢のような話と言ひながら、偽らざる感想である。想ひ出話は無數にあるのであるが、何れも老人の昔話で聞く

方にはあまり興味はないであらう。その上記憶があまり確かでなく、別に記録もしないから益々あやしいものである。話があまりはつきりしないのであるから當時の連中相集つて想い出話をするのであれば、互いに補ひ訂正し合つて正確な事が出て来るであらうが、今日の狀態では夫は先づ出来ないであらう。止むを得ずあやしいのは承知の上で想い出話を書くわけである。

先づ六助池の想い出話と言われると、まつさきに眼の前に浮んで来る風景がある。夫は暗黒の山道を一臺の自動車に走る光景なのである。その自動車の中には、私は確實に

乗つていた。それから死んだ早稻田の柳澤君が居た。それだけは確實であるが、その他に誰が乗つて居たか、更に記憶がない。柳澤君が乗つて居たのを記憶して居るのも彼が自動車のヘッドライトで照らされる道路を見て居て、烈しく凸凹のある箇所に自動車がさしかゝると「ソラ來たぞ」と聲をかけた事が私の頭に深い印象を與えたからであらう。柳澤君の聲の度に、自動車は烈しいバウンドをした。此の道は私には未知の道であつたのである。そして之は我々インターカレヂの役員連が、第一回の大會をやろうとする六助池を見に行つた時の風景なのである。然しこんなに暗くなつてから氷を見に行つても無意味であつた事は明かであるから、之は見に行つた歸りであつたかも知れない。とにかく我々は大事な大會の前日になつて大會場を見に行つたのである。やれるかやれないかを確めるために。夫は氷の狀態ばかりでなく、大きさを知る爲めにも必要であつたのである。そしてインターカレヂの創立者の一人で役員の一入であつた私が、六助池がどんな所か知らなかつたのである。之は私の怠慢ではなかつた。大部分の役員が知らなかつたのである。六助池をよく知つて居て、そこで大會を開く事を主張し、又出来るように努力したのは松本高校出身で當時帝大の部員であつた可知君であつた。六助池の大會は此の可知君と六助池の傍らに住んで居た非常にスケ

ートの熱心な中村氏——不幸にして名は失念したが、かつては松本高校の體操の教官であつたとの事である——及び氏の家族のおかげなのである。ホッケーのネットは、中村氏の奥さんと娘さんが徹夜で編んだ手編の網であつた。學連は中村氏に大いに感謝しなければならぬのであるが、我々は氏の好意に酬いるには甚だ薄かつた事を、今も私は恥ぢて居る。中村氏も奥さんも今は勿論故人となられたであらう。娘さんは我々位いの年輩であつたようであつたから、若し此の一文が何等かの機會に目に觸れるような事があるならば、私はまことに嬉しく天を二十五年前の謝恩の一端としたいのである。

學連の第一回大會はまことに不用意に計畫され實行された。適當な場所が大會の間際まで發見出来なかつたのである。氷がなかつたのである。之にこりて次回からは、必ず氷の松原湖にもつて行つた。我々は此の様な出鱈目な競技會を行つたのであつたが、意外な人の好意に浴する事が出来た。大會が無事に終つた時、参加四校即ち早大、慶大、帝大、松高の代表者四人は氷上から中村氏一家に謝辭を述べた。中村氏、奥さん、娘さんは何れも和服姿で池の岸に立つて居られた。その傍には一家をあげて苦心のゴールとネットとがあつた。スポーツに對する眞の理解を象徵するかの様に。(東大OB前北大教授現判事)

學連を生み出すまで

村 津 要

大正年間の中葉頃までは、日本のスケート界は唯同好の士が集つて楽しむ程度、又諸學校に於ても個々に校内大會を開催する位のこと、スケートをする者は全國に非常に多數あつたのであるが、之を纏めて統一した團體と名のつくものなく、従つてスポーツとしてのスケート競技全體を正確に知ることは出来なかつた。一部の學校を除いてはアイスホッケーとはどんなものか解らず、スピード競技も正規のトラックで二人づゝ走り時間により勝負を決すると云う様なことは到底考え及ばない様な状態であつた。僅かにフィギヤーだけは日本スケート會と云うものがあり、河

久保、交野、五代氏等が主となり一種の社交的クラブの延長の如き組織ではあつたが、兎に角熱心に研究指導し當時のスケート界のパイオニヤーの役目を果し數年後には日本スケート連盟と同様の仕事をする様になつた。尤も大正末期より昭和初頭に掛けて大改造を斷行して現在の組織に

なつたのであるが之は本稿に直接關係がないので省略する。然し何んと云つても日本スケート會が黎明期の日本を開發した功績は大きい。

大正十三年頃東大の學生であつた筆者等はこれだけ盛んなスケートを競技として何んとか纏めてみたいと考え、同志を糾合し現在の學連設立の第一歩を踏出した。當時は前述の如く日本スケート會が唯一の團體で、之はフィギヤーを主とした俱樂部の如きものであつたから、どうしてもアイスホッケー、スピード、フィギヤー三種綜合の統一せる團體の設立が必要であつた。この目的を達する爲め兎に角學生同志で學連を作り乗出してみようと思ふことになり、早大小口孫六、兩角政人、柳澤敏文、慶大高島直定、青木重、日齒青木末弘、明大塚本強、東大佐藤昌彦、中西久、筆者等相集り全國大學高專に呼びかけ學連設立に努力した。學校當局者も大いに力になつてくれ東大井口博士、滿齋大久

保田博士、早大喜多、深澤、兩教授等熱心に援助して下さい。

何しろ三種目共日本には競技規則なく新規に制定しなければならぬのである。外國から本を取寄せ、それを翻譯して、しかもよく理解してプレーに支障の來さない様にしなければならぬのだから大變なことである。特にアイス

ホッケーは歐洲米國、加奈陀等あり、各地をめぐり異つたルールによつて研究練習している状態なので、早急に學連のルールを制定し、之によつてゲームをしなければならぬのだから、皆手分けして分擔を決め、譯文を持寄り、更に協議を重ねると云う様に、試験勉強より苦しい日が續いた。今でも思出すのは慶應の青木君がアイス・ホッケーを氷奔球と譯したことだ。之は英語より難しいと云うので原語の儘とした。又反則の項は議論百出し決定までには随分頭を悩ました。然し是が非でも大正十四年新春には學連競技大會を開催しなければならぬと設立の希望に燃えた吾々は、惡戦苦闘どうやらルールの制定を完了し、更に學連の組織を作り上げた。今度は役員の問題になつた先輩の少いスケートのことに苦勞したが、結局慶應の大先輩たる平沼亮三氏に無理に御願して會長になつて頂くことに決り、ホッと安心した。經理方面では當時收入の道のない學連のこと、各加盟校よりの少額の會費で總てを賄ねばな

らない、節約にも限度あり自腹を切ること多く學生の身として、どうにも苦しく、屢々の會合には辯當持參で個人の家に集ると云う様な始末であつた。

それでもどうやら恰好が付き、豫定通り大正十四年一月初旬諏訪湖に於て開催の段取となつた。ところが不幸にして湖水は凍らず附近のリンクも駄目で全く悲觀したが、スピードは諦めとしてもホッケー、フィギヤーは何んとかして舉行したいので、筆者の高校時代よく滑つたことのある松本市郊外六助池は如何かと云うことになり、若し出来なければ中止と悲壯な決心をして各學校選手大舉して松本に行つた。幸に急造フェンスも出来上り不完全ながらもゲーム遂行可能となり漸く愁眉を開いた。

アイスホッケーは柳澤、小口の居る早大が東大、慶大、松高を破り初征覇を遂げた。フィギヤーは各學校人數揃わず個人競技の様なことになり、幸にして筆者が優勝した。試合終了後淋しき山中の六助池で早大小口、慶大高島筆者の三人手を握り合い肩を叩き不完全ながらも第一回大會を開催し得たことを涙を流して喜んだ。

翌十五年一月には信州松原湖で第二回を開催した。第一回の経験もあり學連の存在も全國的に知られる様になり總てが大會らしく盛大に舉行出来た。スピードは初めてではあつたが規定通りのトラックで運行にも何等支障なく三競技

共全部無事終了した。第二回ではあつたが完全に出来た。とから云えば之が最初である。スピート早大、ホッケー東大、フイギユア北大が夫々優勝。筆者はフイギユアに個人優勝しホッケーと合せて優勝盃二個を獲得東大としては大いに喜んだものだつた。

東大卒業後は主として日本スケート競技連盟に關係し、學連は相談を受ける程度であつたが早慶ホッケー戦だけは五年以上もレフェリーをやつたりした。其後學連は益々發展し太平洋戦争直前頃の盛大さを感じる時誠に感慨無量なるものがある。事變中長い間召集され、復員後もスケート競技は未だ見ていないが、水を見れば滑らずには居られない。學生の多いスケートのこと、然も廿五年の歴史を持つ學連であるから益々發展することは信じて疑わない所である。現在は吾々時代とは別な方面に種々困難があると思ふが、熱を以て總ての惡條件を克服する様希望して止まない次第である。(東大OB本連盟評議員)

☆

☆

り、高島城趾の猫の額のリンクで我慢したりして居たが、かゝるスケート場探しで苦心をなめて居る中、各大學スケート部員間に自ら相通するものが生じ、大正十三年の暮、氷がないと、ぐちをこぼしながら、とうとう全國學生氷上競技連盟が組織されてしまつた。勿論ことゝに至る迄には幾度かの折衝が各校間に行われたのであつたが、スケート界の先輩と云われる人達を、この結成に介入せしめず、學生自身がお互の信念を以て結成し組織し、それがその後聊かの内紛内訌の如きものもなく強固なるスケート界の力となつたところに大いなる誇りがあると、當時の學生、今の先輩は若いものを集めて氣を吐いて居る。

諏訪湖の結氷が年毎に危うくなつて來たので、先を見越した慶大は大正十二年の冬から八ヶ岳の東北側にある松原湖に根を生やした。これは一人の先輩が夏のハイキングで發見した湖水だつたが案外結氷もよく、大正十三年には早大、明大も合宿するようになった。だから第一回の學生大會を搖籃地諏訪湖で行うべく計畫し、その諏訪湖の結氷があぶなつかしくて淺間の六助池に持つて行き、そこも全國的暖氣の爲ではあつたにせよホッケーとフイギユアだけしか行い得なかつたのであるから、今後的大會場は少しは不便であらうとも松原湖に持つて行こうということに一決したのは不思議のことではない。かくて第二回大會からは

學連の創立と競技會

編集委員

全國學生氷上競技連盟が生れたのは大正十三年の暮、最初的大會をやつたのは翌年の十四年一月、それ以前から各大學にはそれ／＼スケート俱樂部、乃至はスケート部が出来て居つて毎冬のように諏訪湖へ出かけて行つた。

大正十一年頃の諏訪湖は未だ今のようなことはなく、正月元旦と云えば全面結氷して氷滑子を喜ばせたものだ。早大を除く他校は殆んど悉く上諏訪の湖畔に合宿し、早大だけが下諏訪に合宿して、高濱瀧頭から上諏訪の鶴遊館沖迄一面油を流したような、素晴らしい油氷の上を、毎朝十人、十五人と隊を組んで滑つて來て居た。

各大學は諏訪湖でお互いに名のりを上げたのであるが未だ／＼結束して連盟を作ろうなどという進歩的なところに迄は考へが進んで居なかつた。みんな諏訪湖の素晴らしい氷原に氣を奪われて只スケーチングそれ自身に對する熱情があつたのみ。

大正十二年頃から諏訪湖の結氷が思うように早くなく、各大學の氷滑子は遠く富士見高原に迄氷を探しに出かけた

八ヶ岳の硫黄岳の岩壁を眺めながらなつかしい松原湖のスケート大會というのはじまつたのである。

松原湖の大會は昭和五年迄四年間行われたが、スケート競技の地方的發達と普及をはかるために昭和六年及七年八年の三ヶ年間は盛岡市外高松池を會場として大會を行い東北地方のスケート界に刺激を與えるところ大であつた。昭和八年の暮に日光の細尾に一周四百米の特設トラックが出来たので東京から便利だというのが昭和九年、十年はこゝで大會を行い、素晴らしい成績を擧げるようになった。

選手の間が向上し躍進する頃、東京の市内に屋内スケート場が二つ三つと現われて來た。この特設リンクの出現は、フイギユアと云わずアイス・ホッケーと云わずスピード迄も長期に亘つて練習が出来るといふことが技術的に大きな効果を與え、各選手の技術はまた一段と進歩を見せるようになった。

スケート界の歴史は既に三十年にもなり、その間しばしば競技會も行われたものではあつたが、何れも一部分のものであり、乃至親睦的運動會的のものにしかすぎなかつた。けに、この學生連盟の選手權大會は我國スケート界の最大の力となり、正しい方向を示す中心勢力ともなつた。

全國學生氷上競技連盟も昭和廿四年で既に廿五周年を迎えた。この間に於ける學生連盟の使命は大きなものであつ

た。そして日本のスケート界は、日本スケート連盟と学生の協力に依つて正しい發達を續けつゝある。

スピード・レースで覇を稱え強陣を誇つたのは早大であつた。第二回はじめてスピード・レースの行われた松原湖の大會から盛岡市高松池の第七回大會迄兎に角ぶつ續けてスピードの覇權を握つて居たなどは、如何に早大のスピード陣が充實して居たかを物語るものであつたが、昭和八年遂にこの強陣は強敵明大のために崩されるに至つた。そしてその明大は早大にかわり八年間スピードの覇權を續けたことがある。

アイス・ホッケーは昭和三年滿洲醫科大學チームの参加に依つて從來のアイス・ホッケー技術に一大革命を與え、學生チームの強味と内容を愈々充實せしめた。

アイス・ホッケーの第一回大會に於ける選手權は早大が獲得、その後帝大、慶大の進出となつたが、終戦後は、早、慶、明、立、帝のほか、中、日、法の活躍が目覺ましい。

フィギュア競技は、昭和三年の第三回大會以後完全に慶大に於て選手權を獨占したまゝ、これに追い迫る帝大、明大、關學を一步も近づけずフィギュア王國の優位を誇つて居た。個人的には金子、久保、帶谷、小林、老松、長谷川、片山、有阪が代表的で、特に片山のフィギュアは、斷然頭角を現わすものであつた。

終戦後の學生スケート界は非常に低調を極めているが先輩の指導、先輩との協力によつて漸次戦前の水準に復しているのは嬉しい。

學生の技術的水準の向上は、獨善を排し先輩と協力することにあると思う。學生は視野を擴くして技術を研究することが大切である。

☆

☆

☆

☆

☆

☆

學連の盛岡三年の回想

倉 町 太 郎

會地としては感心出来なかつた。

唯一の記録 自分としては唯一一つ練習中に計時された五百米四六秒Fの記録が思出として残っている。丁度此の日是小雨の降つた日でゴールインしてから轉倒して五、六十米水中を滑り全身ぬれ鼠となつた事を覚えてゐる。但し大會當日は雪水で問題にならなかつた。

スケートの都會進出 インターカレッジと云えば松原湖に相場が決つた感を抱いていた吾々學生にとつては正に田舎者が都へ出た感じであつた。松原湖ではクリスマス・イブも無ければ當時ラジオ一臺も無かつた。喫茶店玉突場は勿論の事、お恒ちゃんや云う娘さんの營む「おしるこや」が日野屋の上に一軒有つた丈で上野、小海間の乗換えの待ち合せ時間に撞球場か何處かに立寄り鍋焼うどんの熱いのを喰べるのが關の山だつた、處が盛岡に來ると市中には文化的な臭が相當に流れている氣配がした。街を歩いていると

昭和五年の一月學生大會を終えて八戸の全日本選手權(第一回)出場の途中下車して盛岡に立寄つたのが自分にとつては初めてである。一行は盛岡出身の今野氏を始め矢崎(現理事)寺尾、難波、金子武康(以上三名共故人)都合六名だつたと思う。早速高松池に案内されたが驚いた事に誰一人練習していない、勿論手入も除雪もした様子が無い氷は雪が固つた程度であるからスピードスケートの様な薄刃では全然滑れないで引揚げて了つた。

宿へ歸つてから土地の人に聞くと毎月初めには良い氷が張るとの事だつたが何だか氷を探して歩く吾々にとつては丸で詐された様な氣持がして割切れないものがあつた。愈々明けて一月開催が迫つたが年内に中等大會が終り一日から高専大會となつたが餘り良好な氷質は見られなかつた。成る程十二月末頃までは油氷で朝の中は良い狀態でも午後からは使用出来ない時が多く従つて良い記録も出ず大

(松原では夜の外出等思いもよらぬが)レコード、ラジオ、コーヒーの香り、廣告等、又合宿も土地の一流旅館を割當てられ、毎日の練習もバスかハイヤーで往復するので夜中にメガホンで召集されて氷の手入れする必要もなければ、就寝中窓から雪が吹込んで頭を眞白にする事も無く安眠出来る様になった。正に吾々に取つては豪遊そのものであった。

大會運行、施設等について専らその衝に當つたのは時の當番校慶應でその中でも金子君(現理事)で、その爲遂に疲労で倒れて大會出場も不可能になった同君の活躍は全く御苦勞様であつた。

講演會初登壇

確か十二月の二十五日頃だつたと思う。

市公會堂でスケートの講演會が催され滿員の聴衆を前に各競技毎に講演を頼まれ、自分はスピード競技を受持つ事になった。市長横の雛壇に座らされ、市長の挨拶が済むと自分が眞先に召され、何をしゃべつたか判つていなくて二十分間程だつたと思う。學生服を着た若僧が何を云うのかと思われはしないかと考えるとゲームやレースに出る前以上の興奮を覺えた。話の途中で一番後方の椅子を占領していた明治の同僚連中に「聲が小さいぞ」とどなられた。今考えて見て只今の様に録音されていない丈まあ良かったと考える位で、大して参考になる話をしたとも考えて

したと云うエピソードも有つた。

幸い氣温が暖いので凍死する者も居なかつたから大過なかつた。

優勝の機を失す

取らぬ狸ではないが其年は明大に取つ

て優勝の絶好のチャンスであつた。十二月一日赤城山小沼が結氷して一週間完全な練習を終え陣容も未だ嘗て見ない豊富なメンバーが揃い一人の事故者もなくスピード、フィギュア共に問題なく優勝出来、ホッケーが一、二位を争う位の處まで仕上げて來たのだ。スピードのメンバーに餘裕が出たので自分始め矢崎、寺尾と三人でホッケーのF、W、の交代に出る事になり、ホッケーの強化策を以て良く行けば三部優勝の絶好のチャンスとばかり張切つていたが天は儘ならず遂に流會に終つた。丁度流會決定の朝松平康昌部長始め先輩續々と應援に來盛された年丈に残念でならなかつた。

初優勝嬉しからず

昭和八年の大會を最後に自分は卒業

するのだと思うと何としても一度優勝して卒業して見たいと相當猛練習を始めた。バスケット、自轉車のトレーニングを始め秋は甲子園に合宿して朝日ビルで朝晩ホッケーの練習等して、シーズンになつてからは山王で猛練習を續けた。スピードは思つたより樂に優勝したが自分は五百米にラストストレートの氷の割目に這入り轉んだが全くの優勝

いない。此の外早大の小西君、慶大の金子君が學生として出演したと記憶する。

こんな時にスケート教本の様なものが有ればと今以て痛感する次第だ。

昭和七年の流會

此の年は全國的な暖氣に見舞われ、危険を冒し乍ら高専、中等が辛うじて終つたがインターカレッジは遂に流會になつて了つた。

其の年は結氷状態悪く氷下に洗禮を受けた者は數十人以上を數えたと思う。丁度年内の五帝大アイスホッケーリーグで北大と東北のゲーム終回近くになつて氷の状態は既に赤信號が出ていたが選手もレフエリーも無中だつたと見える。北大が攻めて行く側が特に危険状態だつた。プレイしている者は何ともないが見ている側では氣が氣でなかつた。相手のゴールキーパーもコーナーの混戦になると見ていられなく逃げ腰になつていてゴール前で守っているデフェンスに遠ざかれと云う様な態度で大聲を出している最中に果せる哉北大の久保氏ともう一人が遂に水中の人となつた。これが新聞種になつたから大變父君が心配して電報を寄越すやら、又其試合遂に中止となつたが今度はそれを見ていた連中やら選手が急いで陸に揚ろうとしたので此處でも數名墜落、それを見ていた同僚が直ぐに助けないで持合せのカメラに収めたので友達甲斐が無き過ぎるとふんがい

で何だか張合抜けした様で嬉しい氣持に浸れなかつた。却つてホッケー決勝で慶大に敗れた事と勝つてくれると思込んでいたフィギュアが敗れた残念の方で胸が一杯になつて本業のスピードが勝つた事位ではプラスにならなかつた。案外全部優勝しても勝つ時と云うものは側で見る程喜ばしいものではない様な氣もした。

最後の洗禮

今迄自分は長い間スケート生活をしていた

が一度も氷が落ちて泳いだ経験は無かつた。丁度學生生活最後に優勝はしたものの、綜合優勝を失し残念でならなかつた。愈々閉會式集合のアナウンスに先輩に元氣付けられ乍ら選手生活と御別れするかと思うと何となくセンチになつて控所から部旗に續いてスケートを兩腕にかゝえて掛板を踏んで一、二歩來た處で沈み始めた。今考えると高松ホテルの直ぐ下の邊りだ、大して深くあるまいと思つている内に首まで這入つたが足が届かないので一心に岸まで泳いで陸に揚つたがその時の水の冷めたさは未だに忘れられない。これが最初で最後だと思ふ。將來も御免蒙り度い、こればかりは経験者でなくては味が判らないと思う。考えれば貴い経験であつた。御陰で閉會式は遠くで素裸に毛布に包まれ乍ら見物して終つた。全く最後の洗禮になつた。今年の冬十數年振りに高松池に着いた時先づ自分の落ちた處を探していたのに我知らず苦笑した、恐ろしく一生忘れ様と

しても忘れられない體驗である。

それと同じ事が今年の大會中にも随分起つた、一番氣の毒に思つたのは國體最終日の男子千五百米決勝の時實況放送をするため東京のN・H・Kから態々出張して來たアナウンサー君（特に名を記さず）すつかり準備完了して決勝線近くに机椅子を並べてスタートの合圖を待期していた、
「號砲一發只今男子千五百米決勝選手一せいにスタートを切りました」と言つた瞬間ゴボンと椅子と共に沈んだので自分もすぐ側に居たから手助けしてやり度いと思つたが大切な決勝審判長である自分に氣付いてレースにすぐ目を移した。幸い胸まで這入つた丈で兩腕が氷上にあつたのですぐ引揚げられたが、でその放送は都合に依り中止と放送された事であらう。笑ひ事ではない。

昔も今も又將來も冬が来る度に高松池は幾人か幾十人かの人を陥れるであらう事を思うと氷上に縁の有る者何時も油斷してはならないとしみじみ感じ自戒してかゝらねばと思つた。

其他 まだ色々追憶すれば出て來ると思うのはカーニバル、裸詣り、等然し直接スケートに關係薄いものであるから紙面の許す時に残して置く事にする。盛岡三年の回想としては氷に關する限り餘り恵まれなかつたと云う結論に到着し相で盛岡の御熱心な方々には誠に氣の毒に思うがこれ

が赤裸々の言葉である。將來は是非共恵まれた氷が出来ます様にと高松池に御願ひして回想を結ぶ。（明大OB日本スケート連盟理事）

☆

☆

☆

☆

☆

☆

第五回冬季オリンピックピツク大會

サンモリツツ大會

編集委員

ツ毎日紙上より轉載して、第五回冬季オリンピック大會の記録とする。

一九四八年一月卅日金曜日の朝廿八カ國からはせ參じたアマチュア・スポーツの代表者達は、思い思いの装いで、サンモリツツのメインストリートで第五回冬季オリンピック大會々場を目指してけんらんたる行進を開始、ここに戦後はじめてのオリンピックの日は開かれた。

大戦後初めての世界的なスポーツ祭典、第五回冬季オリンピック大會は一九四八年（昭和廿三年）一月卅日から十日間スイスのサンモリツツで開催された。戦争中にいやおうなく植えつけられた各國間の感情の離反や物資の不足等大會の遂行をはばむ悪條件が多々あり、米國のアイス・ホッケー代表チームのアマチュアにからむ問題は遂にI・O・CとI・I・H・Fとの決別にまで發展して紛糾を重ねたが、近代オリンピックの精神をまもる參加各國の若いアスリートはスポーツマンシップは盛況裏に全日程を終了させた。ここに第五回冬季オリンピック大會の概要を、スポー

輝かしい冬の陽ざし、一點の雲をとどめぬ紺壁の空——この週間はじめてのよい日和は、雪におおわれたサンモリツツの町中を行進する各選手達を視うかのようだ。アメリカ

カの二つのホッケー・チームAAU、AHAの両チームは大会前オリンピック史に初めての紛争をまき起したが、この日は両チームとも開會式の行進に加わらなかった。(AHAチームは同日アメリカIOC委員ブランデー氏にはつきりアメリカ代表ではないといわれながらスイスと對戦5-4で敗れた) 氣溫華氏12度(攝氏零下10度) えんえん一マイルにわたるユニフォーム姿の選手達はあるいはスキーを肩にし、あるいはスケートを手をさげて定刻より遅れること四十五分午前九時十五分入場行進を開始した。ブランデー氏以下アメリカのオリンピック委員達は大星條旗に續いて選手團の先頭に立つ。

この日、サンモリッツにおける交通の混雑はアメリカでフットボール試合のある時よりも甚しい。わずかなスイスの警察官は狭い往來を競技場へと殺到する約二萬のファンにもみくちゃにされてしまった。群衆を分けて自家用車タキシード、ジープ等が名物の馬そりに交り大混雑、サンモ、リッツ湖の東にそばだつアルプス連峰の上から太陽は、暖かくこの雄大な大自然を背景としてはあまりにも小さく見えるスポーツセンターをスポット・ライトする。選手團が狭い谷を會場へと下つて行く頃五機の輕飛行機がアルプスのピークをすれすれに會場上空を亂舞する。

公式の代表團の終るころAAU、AHA兩チームもリン

クに現われた。手に手にステイックやグローブをさげた選手達の顔は雪焼けに黒い。行進の先頭にはオリンピック發祥の地のギリシャ代表が立ち、以下アルファベット順に各國代表が續く。最後は主催國のスイスである。

最初の競技は、ブランデー氏の否定したAHAチームとスイスのホッケー試合である。ブランデー氏が、「今回のオリンピックにはアメリカを代表するアイス・ホッケー・チームは出場しない」とアナウンスする。そしてその瞬間、アメリカの標識をつけた一團が競技場の氷の上にすべり出た。パックが投ぜられ、試合は始まつたのである。

時に十二時。試合開始前の式典に際し、スイス共和國大統領エンリコ・セリオ氏は「平和と好意の新らしい時代を象徴する第五回冬季オリンピック大会を開催することを喜ぶものである」と述べた。

〔第二日〕冬季オリンピック大会は第二日も快晴に恵まれ、氣溫は零下八度まず絶好のコンディションであり、大会第一日におおいかぶさつて暗い影を投げていたアイスホッケー問題もようやく關心から遠ざかつて競技一本槍の氣分に歸一して來た。しかしアイスホッケー問題はまだかたずいたわけがなく、IOCのアイスホッケー除外の強硬態度に對しこの日國際アイスホッケー連盟は「アイスホッケーは依然正式オリンピック種目である」と反抗の聲をあ

げ、また問題を持ち越している一方、競技は大會の主種目スピード・スケート、スキー・レースの登場で本格的な大會氣分を漲らせ始めたが、スエーデンがスキーの長距離に三位までを獨占、五種競技のスキーでも四位まで、他國選手の食い込みを許さず斷然たる強味を示した。これに加えてスピード・スケート五百米で一位と四位を占めたノルウェーの活躍を加えると大會第二日はスカンジナビヤ・デーであつた。しかし同じ五百米レースで二位は三者同タイム)二位に二者を食い込ませた米國スケート界の躍進も注目に値するものがあつた。なおスケート界のダークホースとして各國スケーターに脅威を與えていた朝鮮代表は、この日あまりふるわなかつた。

二人乗ボツプスレー

◇總合成績(一、二、三、四回戰總合タイム)

- 1、スイスB(エンドリツヒ・ワレール) 5分29秒2
- 2、スイスA(フエラベント・エーベルハールド) 5分30秒4
- 3、米國A 5分35秒3
- 4、ベルギー 5分37秒5
- 5、英國 5分37秒9

スピード・スケート

◇五百米競走

- 1、フィン・ヘルゲソン(ノルウェー) 43秒1(オリンピック新記録)
- 2、フィツゼラルド(米國) 2、バーソロミュー(米國) 2、ビベルグ(ノルウェー) 43秒2(オリンピック新記録)

從來のオリンピック記録はバラングルード(ノルウェー)が一九三六年大會で樹立した43秒4であつた。期待された朝鮮代表選手李孝昌選手は45秒9で廿三位、崔龍振選手は45秒7で廿一位であつた。

〔第三日〕(二月一日) 第三日はスケートの五千米、スキーの複合(ジャンプ)の兩競技を中心に熱戦を展開した。

五千米は降雪と逆風の悪コンディション下で舉行され、ノルウェーの郵便配達夫のリアクレフ選手が8分29秒4で優勝したが記録的には第四回大會の8分19秒6に比して約10秒も悪かつた。スキーのジャンプ競技は各國選手がベタつく雪に苦勞しながら妙技をふるつた。結局フィンランドのヘイキハス選手がジャンプに二〇八・八點近郊競走二四〇・〇點を得て合計四四八・八點で制勝したがこれは常になつた。この日も第二日に優勝を示したスエーデンが五千米の三、四位と複合の三位に入賞者を出して總得點三二點

でリードを保ちノルウェー、フィンランドの北歐勢がこれにつづいた。更に依然問題を持ち越しているアイスホッケー問題はIOCがアイスホッケー連盟の卅一日の「アイスホッケーはオリンピック大會種目として行われている」との反ばくに對し正式文書で眞向からこれを否定したため事態はますます悪化の一途をたどりつつある。

スピード・スケート

◇五千米競走

- 1、レーデル・リアクレフ（ノルウェー）8分20秒4
- 2、オツド・ルンドベルグ（ノルウェー）8分32秒7
- 3、ゲーテ・ヘグルンド（スエーデン）8分34秒8
- 4、グスタフ・ヤンソン（スエーデン）8分34秒9
- 5、ヤン・ランゲデイク（オランダ）8分36秒2
- 6、ビーキ・ブロークマン（オランダ）8分37秒3

なお朝鮮代表の李鐘國選手のタイムは9分36秒7で同選手はレース後疲労のため失神したが間もなく回復した。

〔第四日〕（二月二日）スピード・スケートの千五百米では、ノルウェー、トロントハイム出身のファルスタット選手は、2分17秒6で優勝、マティーゼンのオリンピック記録を1秒6ちじめ續くセイファレス（スエーデン）ルンドベルグ（ノルウェー）も新記録であつた。新複合滑降は、フ

もコースのふちすれすれに巧みな操縦で切り抜けると見えだが惜しいところで頭から先にコース外に轉落した。

スピード・スケート一萬米には、廿八人しか出場選手がなく、世界記録保持者であり前大會の勝者ノルウェーのマティーゼンもレース直前に棄權した。けれどものため醫者に出場を禁ぜられたためである。スエーデンのヘドルンドも同じ理由で棄權した。前日千五百米で二等になつたセイファレスは、オリンピック記録より2秒おそかつたが優勝。スキーの四十キロリレーでは、アメリカ・チームも醫師の進めで棄權したため出場チームは僅か十一であつた。

〔第六日〕（二月四日）早朝から降雨のため気温はぐんとあがつて、悪コンディション中に行われた新複合男子回轉では、フランスのエース・アンリー・オレイエが悪條件にもかかわらず悠々と新複合のチャンピオンとなつた。フランスのジエムスコット選手も斷然優れていた。女子競技はオーストリアのバイザーとアメリカのフレイザー二人が争つたが結局バイザーが選手權を獲得した。

〔第七日〕（二月五日）前日に變る好コンディションに恵まれ雪、氷共に良質。競技は、午前七時半前日二種目を行つたのみで延期されたフィギュア女子スクール競技から開始され、次いで午前八時にアイスホッケー世界選手權の四試合、同八時半番外のクレスタがかんかんに凍てついていたボ

ランスのオレイエ選手が優勝。この日天気よく、気温も氷點下をわずかに降る程度で競技場には大群衆がおしよせた。ニュージーランド州エルゼルウッド出身十八歳のバットン選手は、スクール・フィギュアに斷然優位を示し、アメリカ・チームに初の金メダルの希望を持たせた。バットン選手は既に歐洲選手權を得ているが、この日も九人の審判中八人から最高點を得て、世界選手權を保持するスイスのゲルシュウイラーをおさえた。

今歳廿四歳になるスイスのレストラン主の娘さんH・シユルネツガーは、女子新複合の滑降で一際目立つ見ごとさを示した。男子では優勝の呼聲の高かつたフランスのデイオリエールは決勝線三百フィート前で見ごと宙返りして敗退、宙返りまでは3秒以上も最高記録をやぶる快速であつただけに惜まれた。

この日期待された朝鮮の李鐘國、李孝昌、崔龍振選手は千五百米レースに出場したが全く振わなかつた。

〔第五日〕（二月三日）早朝の気温は、零下十度位であつたが競技開始頃は陽光さんさん気温はぐつと上つた。危険で有名なクレスタ（二人のりそり）では「ジャトルコック」の難カーヴでオーストリアの克蘭ダ、スイスのフィシユバーカー兩選手がコースの外に飛出したが怪我はなかつた。フィシユバーカーも優勝候補でジャトルコックの難所

ツプスレー・コースでスピードとスリルのレースを展開した。

女子のスクールに次いで行われた男子フリースケートティングでは、米のホープ十八歳のバットン選手は特にルーマニアの小曲を伴奏にえらんで見ごとなパーフォーマンスを示し、スラローム・バーンにおける男女子回轉競技の女子レースでは、お下げ髪の前フレイザー夫人が優勝してオリンピック・スキーで初めてメダルをアメリカにもたらした。

〔第八日〕（二月六日）バーバラ・アン・スコット嬢は、豫想通りフィギュアに優勝して同嬢多年の宿題であるオリンピックの金メダルを獲得した。スエーデンは非公式ながら總得點で優勝の色濃く、米ボツプスレー・チームも好調にある。

スコット嬢の美技は、ソニア・ヘニイ以來と賞讃され、二位のアルトウィツク嬢も見ごとであつたが、七千觀衆は審判部から順位が發表される以前にスコット嬢の勝利を確信して拍手を惜しまなかつた。

スキーの五十キロ・レースでは、スエーデンの勇者カールソンが危げなく勝つて、母國に四度目の金メダルをもたらず。同レースでスエーデンは一、二、五位、フィンランドは三、四位。スイスが六位に入つたが北歐スキー王國の強さは依然たるものがある。

四人乗ボツブスレーは、スイスのナンバーワン・チームがリードしているが、アメリカのBチームも好調だ。しかしコースがひどくあれたため、残りの二回のレースは、第九日に持ち越された。

ホッケー世界選手権ではともに五勝無敗のカナダとチェッコがこの日顔を合せた。試合は果然白熱し、第三ラウンドの終り頃サイド・ライン近くにいたチェッコの有名な庭球選手がこの日デフェンスをつとめるドロブニー君とカナダのメアー君が口論をはじめ、ついにパンチの交換とまで相成り結局審判の仲裁で納つた。試合は0-0の引き分け、スイスはこの日ポーランドを14-0と一蹴して六勝無敗で一位となる。

〔第九日〕(二月七日) 四人乗ボツブスレーでレックブラシッドタイラーを艇長とするアメリカのBチームは、アメリカのため三度目の金メダルを獲得した。純ジヤンプではノルウエーのP・フーグステットが65米、70米を飛んで優勝。前回、前々回の勝者ルード(ノルウエー)は惜しくも二位、しかしノルウエーは三位までを獨占した。

ベルギーのM・アルノイ、P・ポニーエ組は、鮮かなペア・スケートイングに堂々優勝、スコット嬢の場合と同様審判の判定が下る以前に観衆はその勝利に拍手を送つた。前日までホッケーの首位にあつたスイスはチェッコに敗れ

オリンピック大會では、古代オリンピックの精神を引きついで、優勝の栄位は個人に與えられる。月桂冠を頭に飾ることがこの大會の最高の榮譽となつてゐる。

しかし、近代オリンピックでは、選手が優勝の榮譽を表彰される時、その國の國旗が掲揚され、國歌が吹奏される。したがつて何れの國が優勝したか、どの國がこれに續いたかも、この大會の成果を示す大きな表示となつてゐる。國の名譽を測定するとき、オリンピックの傳統を最も生かした方法は、入賞者數による決定法であつて、一位、即ち金メダルを最も多く獲得した國をもつて優勝國とする。今度の大會ではスエーデンとノルウエーがともに四つの金メダルを得た。ついで二位(銀メダル)三位(青銅メダル)もともに三つずつあつて、この方法による優勝國の決定は不可能となつた。

第二の方法は、一位から六位までに得點を與えて得點合計を合算する方法だが、一位を六點とし、以下順位にしたがつて一點を減ずる方法によるとスエーデン、スイスがともに65點となつて同點であるが、スエーデンの第一位が四個でスイスの第一位が三個である點を考慮してスエーデンの非公式優勝を決定することも一つの方法である。

いずれにしてもこの大會が、各國の非常な接戦に終始したことを意味するもので、冬季オリンピック創設以來斷然

カナダはオーストリアを軽く破つて、アイス・ホッケーの王座は未だチェッコ、カナダ何れのものとも決しない。

〔最終日〕(二月八日) 廿年來の猛吹雪のうちに明け、スキー競技はこの日番外の軍隊レースを廿キロ七百のコースで展開、ホッケー四試合も舉行されて全日程は降りしきる雪の中で終了、直ちにオリンピック・アイス・スタジアムで閉會式を舉行了した。中央メー・ボールには、先週盗み出され、滑降優勝のレイナルダー(スイス)によつて奪還された五輪旗がひるがえる。聖火の燃えさかる中にIOC會長エドストローム氏のあいさつあつて、ここに十日間にわたる大會の幕は閉じられた。

物議をかもしたアイス・ホッケー競技は、全日程を通じて紛議を續け、試合もまたアマチュア競技にふさわしくなく粗暴に流れてIOC委員の大半は、この大會をもつて五輪競技から同競技を除外する決意を固めた模様だ。この日もカナダ對スイス戦は、スイスもし勝てばチェッコと優勝を分ち合い同競技に競合するスエーデンを脱落して非公式ながら第五回優勝國となるので觀衆は一隊となつて、スイスの應援に常軌を逸した振舞いを見せる有様であつた。結局カナダ、チェッコ共に七勝一敗、ゴール・アヴェレージのよいカナダの優勝と決つた。

たる強味を示して來たノルウエーがスエーデン、スイスなどの追撃を受けてその王座を守り切れなくなつたこと、米國が躍進して非公式得點法によると64點25でノルウエーを抑え、一位のスエーデン、スイス兩國とわずか0・75點の差にせまつてゐることなどが特筆される。(サンモリッツにてV・ピンクレイ特派員發)(UP特約)

スピード・スケート

◇五百米レース

- 1、フィン・ヘルゲッセン(ノルウエー) 43秒1 (オリンピック新記録)
- 2、フィッツ・ゼラルド(アメリカ) 2、バイソロミウ(アメリカ) 2、ビベルグ(ノルウエー) 43秒2 (オリンピック新記録)

從來のオリンピック記録はバラングルード(ノルウエー)の43秒4、朝鮮代表崔龍振は45秒7で廿一位、李孝昌は45秒9で廿三位

◇千五百米レース

- 1、スヴェレエ・ファルスタッド(ノルウエー) 2分17秒6
- 2、アケ・セイファレス(スエーデン) 2分18秒
- 3、オッド・ルンドベルグ(ノルウエー) 2分18秒

9 (以上オリンピック新記録)

4、グスタス・ヤンソン(スエーデン) 2分20秒0 5
ジョン・ワicket(米) 2分20秒2 6、レイチネン
(フィンランド) 2分20秒3

従来のオリンピック記録はマチゼン(ノルウェー)の
2分19秒2

朝鮮代表李孝昌 2分23秒3で十九位、崔龍振 2分29秒8
卅一位、李鐘國 2分30秒9 卅六位

◇五千米レース

1、リーデル・リアクルス(ノルウェー) 8分29秒4
2、オツド・ルンドベルグ(ノルウェー) 8分32秒7、
3、ゲーテ・ヘグルンド(スエーデン) 8分34秒8 4
グスタフ・ヤンソン(スエーデン) 8分34秒9、5、ヤ
ン・ランゲダイク(オランダ) 8分36秒2、6、ビーキ
・ブロークマン(オランダ) 8分37秒3
朝鮮代表李鐘國 9分36秒7 卅八位

◇一萬米レース

1、アケ・セイファルス(スエーデン) 17分26秒3、2、
ラウリ・ファルキエン(フィンランド) 17分36秒3、3
ペンチ・ラミオ(フィンランド) 4、コルネ・パヨール
(ハンガリー) 5、セー・ブロークマン(オランダ)

フィギュア・スケート

◇男子フィギュア

1、デイック・バットン(アメリカ) 順位点10、2、ハ
ンス・ゲルシュヴァイラー(スイス) 23、3、エディ・ラ
ダー(オーストリア) 33、4、ジャック・レツエンガー
バー(米) 36、5、エド・キラリー(ハンガリー) 42、
6、ジョニー・クロガン(米) 62

◇女子フィギュア

1、バーバラ・アン・スコット(カナダ) 2、エヴァ・
パウリツク(オーストリア) 3、ジヤネット・アトウ
エツグ(英)

◇ペア・スケーチング

1、ミシュリーネ・アルノイ、ビエール・ポーニエ(ベル
ギー) 2、ケーシー、キラリー(ハンガリー) 3、モロ
1、マイヤー(カナダ)

アイス・ホッケー

アイスホッケー種目は、アメリカのアイス・ホッケー・

スピード成績表

各種目三位までの入賞者次の通り(但し千五百米の二位
は三人)

	1位	2位	3位
瑞典	4	3	3
瑞西	3	4	2
諾威	4	3	3
米國	3	4	3
奧太	1	3	4
芬蘭	1	3	2
佛蘭西	2	1	2
伊太利	1	0	0
英義	0	0	2
白耳義	1	1	0
加奈陀	2	0	1
チエツコ	0	1	0
洪牙利	0	1	0
合計	22	24	22

チームAHAとAAUをめぐつてIOC(國際オリンピック
委員會)とIIHF(國際アイス・ホッケー連盟)が對
立して大會當初オリンピック種目から除去されていたが、
大會九日目に至り、兩者の了解がなり、オリンピック種目
に復歸した。ただし試合に参加したアメリカのAHAチ
ームは依然オリンピック・チームに承認されなかつた。
この最後になつて復歸したのは、同競技へ澤山の切符を
賣つて困つたスイスの顔を立てたもので、IOCは勝者に
メダルや證書は渡したが試合はすべて公式とは認めなかつ
た。

第一日

ス イ ス 5—4 米國(AHA)
カ ナ ダ 3—1 スエーデン
チエツコ 22—3 イタリ
ポーランド 7—5 オーストリア

第二日

米國(AHA) 23—4 ポーランド
ス イ ス 16—0 イタリ
英 國 5—4 オーストリア
チエツコ 6—3 スエーデン

第三日

ス イ ス 11—2 オーストリア

勝したカナダのバーバラ・アン・スコット嬢がその美し

編集委員

女子新複合	女子滑降	女子廻轉	軍隊競走	五百米	千五百米	五千 米	一萬 米	男子 子	女子 子	二人 乘	四人 乘	五種 競技	アイス ホッケー
オーストリア	スイス	アメリカ	スイス	ノルウエー	ノルウエー	ノルウエー	スエーデン	アメリカ	アメリカ	スイス	アメリカ	スエーデン	カナダ

アイス・ホッケー成績表

— 48 —

い容姿とすぐれた演技で壓倒的な人気を呼んだと報ぜられていた。彼女の名聲は出身地のオッタワから米大陸、歐洲と世界的なものとなつた。」

十九歳、クリームがかつた桃色の頬、まん丸い青い目、バラのツボミのような口、とび色の頭髮が肩にかゝつて肉すきはホリウッドの女優のひなのような鳩胸でなく、腰部の線はスケーターにあり勝ちな太りすぎでもない。

いかにも楽しそう

彼女のスケートは氷上を流れるようで、ターンも意表に出してしかも技巧のあとがない。スケールのループ・チェインジ・ループをやる時にしてもワザとらしい力は少しも出さぬ。いかにも楽しいという風である。キチンと正確なのが彼女は何よりもすきで大抵のスケーターとは反對に、あの骨の折れるむづかしいスクールの方が好きなのもそのためである。そのスクールで競技の六割がきまる、「多くの人は氷を冷たい人工的なものと思つてゐるが、私には温い生きものの感じがです。」とも云つてゐる。

ヘニイと違ふところ

彼女がオッタワの一少女から世界のスコットになるまでには両親特に父親の深い愛情が働いてゐた。第一次歐洲大戦で不具となつたお父さんはスコット嬢を「よろずや」さんの愛稱でよび、すきなことは何でもやらせいつくしんだ。六つの時初めてスケートのクツをはき、九つのときはもう相當にこつて學校はやめてしまつた。その代り毎朝二時間餘良い家庭教師についた。泳ぎもやれば馬にものりゴルフもやつた。

十五歳で選手權もつ

十歳になつてソニヤに會つた。その翌年全カナダのジュニア選手權をとりその二年後にお父さんがなくなつた。それから精進の決意は一層つよくついに十五歳のときシニアの選手權をものにしたがもともと豊かでない上にお父さんをなくしてはコーチ料やクツを買ふ金にことかいた。これを援助したのは亡父の親友の實業家で昨冬ストックホルムの世界選手權に行けたのもその力ぞであつた。

よき家庭の女性である

昨年世界選手權を勝ち得てからは全カナダのヒロインで

スコット嬢のスケートを語るとききまつて引き合ひに出されるのはノールウェーの生んだ名スケーター・ソニヤ・ヘニイだがソニヤを氣力のスケーターとすれば彼女のは女らしさの一語につきる。ソニヤのスクールは完成には今一息のところであつた。スケートはスコット嬢より體の重さもあつて氷を深く切つてゐた。

スコット嬢は一日平均八時間の練習をつんでゐるが、ソニヤは決して三時間以上の練習をしなかつた。スコット嬢のスクールはまず完璧と云つてよい。フリースケーティングになるとソニヤの見せ物的な効果は無類であつた。觀衆を完全に魅了しつくした。その上一寸した失敗をおぎなひかくす手だても心得てゐた。この點バーバラもソニヤにはかなわない。

二人ともダブル・ジャンプをやつてしくじるよりはシングル・ジャンプをやる方が賢明だとの考えをもつてゐる。そのためのフリーに大膽なところのないのが似てゐる。二人の似てゐるのはこれくらいでソニヤの怒りっぽい氣性に反し、スコット嬢は内面タフなところもあるがいつもニコニコと女らしく可愛い女性である。

六つでクツをはく

オリンピック行きの寄附金もたちまち集まりキンブ首相はカナダの大使と呼んでゐるほどだ。その彼女も家庭にあつては掃除もすれば洗濯もする。今度オリンピックに優勝し演技の頂點に達して一つの岐路に彼女は立つてゐる。

プロ轉向のうわさも飛ぶ

コーチのアメリカ人ガルブレイス氏は彼女のフォームを見せもの的なものに發展させようとすると、一方お母さんはさらに選手權の數をふやしていつまでもこのまゝでいてほしいという。當のスコット嬢はそろ／＼コーチの説得に傾いてゐるようだ。それではプロに轉ずるだろうか。ホリウッドがさかんに秋波を送つてゐる。

石鹼やローションの無數の本社が手ぐすねをひいてゐる。でも今のところ彼女は次のようにいつて問題の焦點をぼかしてゐる。

「私がプロになるだろうというような話はやめて頂きたい。プロには技を競うということがないでしょう。私は競技がすきなんです。その上家政學も修めたい。いつか家庭をもつたらオリンピックのスケートのようにキチンと家事が修めてゆけるように。」

(註 ス嬢は既にプロに轉じてゐるスポーツ毎日より轉載)

アイス・ホッケー界の肅正

— I.O.Cアマチュア問題で乗出す —

飼 手 譽 四

近世オリンピックの始祖クーベルタン男の「アマチュア問題は永遠のなぞであり、永遠に若い」という言葉をそのまま上演したのがサンモリッツの第五回冬季大会の根底を揺がした米國アイス・ホッケーの代表問題であつた。

問題の背景

アイスホッケーは冬季室内競技の花形である。米國では既にプロチームが生れ、プロフェッションナリズムの醸成を許す環境のうちにアイス・ホッケーは成長して來た。この結果ことに米國ではアイスホッケー界でアマとプロと識別する一線が極めてあいまいとなりいわゆる選手のアマチュアステータスに疑惑を抱かせる點が多々あつた。このアイスホッケー界に君臨するのが米國アイスホッケー協會（AHA）である。アマチュアリズムの正統を行く米國オリンピック委員會では、この事態を熟知しているから、AHA

をさん下團體と認めず、新に勢力下にある米國アマチュア競技連盟（AAU）の中にホッケー部を設けて、アマチュア精神に立脚したチームのきう合に乗出しているが、まだその勢力は微々たるもので、到底AHAの實力には及ばない。こうした關係から國際アイスホッケー連盟では米國アイスホッケー界の統轄團體と認めてこれの加盟を許して今日に至つたのである。

ブランドー氏の立場

米國のアイスホッケー代表問題が話題になり始めたのは昭和廿二年十二月米國NOC會長ブランドー氏が「もしAHA代表チームが冬季オリンピック大会に出場するようであつたら、米國はこの大会から手を引く。米國NOCは米國代表にAAUのホッケー部チームを推薦する」。

と語つたところに端を發する。しかしAHAの實力を重視しこれを加盟させている國際アイスホッケー協會にもいい分はあつた。その一つはAHAのもつアマチュアリズムの疑惑は世界のアイスホッケー界に共通であるから、AHAを排撃するブ氏の言はたゞちに連盟自身に對するちよう戦であつた。その二つはAHAは昨年中二度AAU加入を申込んだが、NOCが拒否した事實である。

スイスNOCの立場

戦後の疲弊は世界共通の事情である。永世中立の國スイスとてもそのうち外にあるわけではない。

冬季大会最大の入場料をあげる種目は何かいわずと知れたアイスホッケーである。そこにスイスNOCの弱點があつた。同じ事情がアイスホッケー連盟にとつては強味とアイスホッケーの國際大会はいついかなる場所で行つても立派に採算がとれる。萬一IOCが連盟にいぢみかゝつて來た場合には、たゞちに世界選手権大会に變形して獨自の大会をもち得るというのが連盟側の切札であつた。

台風はせまる

冬季大会の直前のIOC總會が動亂の舞臺となり、席上ブ氏が一舉にショー・ダウン戦法に出ることがはつきりし

て來た。ブ氏が繰返した「もしAHA代表が出場する場合

には米國は選手團を總引揚げする」との聲明は連盟側を硬化させない譯はなかつた。連盟側では米國NOCの態度を強壓と受取つたからである。しかも今日まで冬季競技における米國の立場は新參者であり、派出な田舎者として取扱われその成績も芳しいものではなかつた。「米國何するものぞ不参加も結構だ」という氣構えが冬季大会をつむ空氣の中に看取された。

IOCの決定

アマチュア問題については一步も下らぬブ氏にはまた國際スポーツ界の苦勞人としての一面があつた。二十七日IOCの常任委員會開催に先だつてブ氏は

「AHAもAAUも参加させないでアイスホッケー競技を行う方法もある」

と意味深い暗示を公表した。二十八日の常任委員會はブ氏の解決方針を採用、二十九日のIOC總會は熱論五時間の後十六票對十票で常任委員會案を支持し一應IOCの立脚點は明りようとなり、連盟の出方を注視することゝなつた。時に開會式に先立つことわずか十時間であつた。

その後に來るもの

スイスNOCは直ちに緊急總會を召集した。一方連盟でも首腦者の協議會を開いた。その結果はAHA代表を参加させるという既定方針を固執してIOCに立向つた。しかし開會式をめぐる「新雪」は冷たかつた。スイス國民は米國からこの平和の土地にもち込まれた「スポーツ内亂」をけん悪した。そして直感的に「それは米國の問題である」と會得した。その結果白い眼が米國選手團に對して向けられた。開會式場へと進む選手團の列に惜しげもなく歎呼と拍手とを送つたスイス國民が米國選手團が眼前を通過する瞬間ビタリと拍手をやめ口を閉じた。

IOCの攻勢

式場ではスイス大統領のすぐ後にブ氏が起つてゐた。開會式がいま終ろうとするときUP記者が「一體アイスホッケーはどうなるんです」とたずねた。ブ氏は靜かに確信に満ちた口調で

「オリンピック大會にはAHAもAAUも出ません。」と答えた。その瞬間であつた。ブランドー氏の鼻先をかすめるように一つの影が横切つて行つた。アイスホッケー第一試合が始まろうというのである。そしてAHAの選手がリンクの真中へ急ぐ姿がそれであつた。UP記者は驚いてブ氏を見返つた。ブ氏はもう一度前言を繰返した。

ッケー界はこの投石のまに／＼波亂を起して行くであらう。(共同通信編集局次長)(スポーツ毎日より轉載)

國際氷上ホッケー連盟除外

ブランドー氏から發表

サンモリッツの第五回冬季オリンピック大會におけるアメリカのA・H・AとA・A・U二つのアイスホッケーチームにからむ五輪アイス・ホッケーの紛争は、日本スケート連盟としても相當關心をもつてそのなり行きを注目してゐたが、昭和廿三年四月十七日附アサヒ・スポーツ誌は次のようなAP特電を掲載してゐる。

アメリカ・オリンピック委員會々長エヴァリー・ブランドー氏はこのほどこで、國際アイス・ホッケー連盟はアイス・ホッケーが國際スポーツとして完全に再組織されるまで、IOC(國際オリンピック委員會)から除外されたと發表した。そして右について次のようにいつてゐる『サンモリッツで大會の最後になつてアイス・ホッケーがオリンピック種目に復歸したのは、同競技へ澤山の切符を賣つて困つたスイスの顔を立てたもので、IOCは勝者に

三十日の午後IOC總會は二時間にわたつて開かれた。一、アイスホッケーはオリンピック種目から除外される。

一、國際アイス・ホッケー連盟から國際統轄團體たる權威を剝奪する。

一、大會を主宰するスイスNOCが自國選手とAHA選手との試合を許可したことは遺憾至極である。

聲明發表ののち圓滿な常識家バーレー卿さえ

「残念ながらこれより外に方法はなかつた」と語つた。アマチュアリズムを守る——始祖クーベルタン男の遺した精神がこの時脈々として再現した。そしてそれはブ氏の勝利でもあつた。

あれほど強氣であつた連盟が今度はオリンピック大會の名に固執し始めたのは何故であらうか、ロイター通信は明白に同連盟が内部分裂の危機をはらんでゐることを指摘している。オリンピックに参加したいという選手の氣持も無視し難からう。それにもましてIOCに對する反逆が、各自國においてNOCとアイスホッケー界の摩擦を起すことも恐れている向きもあらう。また英國のように夏季大會を目しように控えた國ではこの際アマチュアリズムとIOCの權威を強く擁護すべきだという特殊な理由も見出せる。いずれにせよすでにさいは投げられてゐる。國際アイスホ

メダルや證書は渡したが、試合はすべて公式とは認めなかつた。従つて國際アイス・ホッケー連盟は、IOCで公式に承認してゐる各スポーツ連盟のリストから除外されたので、アイス・ホッケーがアマチュア規約により正當に再組織されるまで今後アイス・ホッケーはオリンピックにないことになつた』

木谷徳雄君の靈に捧ぐ

小池 富治

戦争犠牲者と云う痛ましい言葉の中に我が國スポーツ界でも幾多の國際的有名人を失つてゐる。私共スケート界からも南に北に不幸散華した人々の有る事を今更に憶ふ。

連盟本部に籍の在つた翠川理事、滿洲安東縣出身の木谷君、早大の現役で彈丸滑走で有名だつた山下勝久君、慶應の深井恒雄君等何れも我が國スポーツ界にとつて惜しい人々であつた。

私の現在までに知つた人々の中に特に私のスポーツ生活に最も深い僚友として關係の有つた木谷徳雄君がシベリヤの曠野で逝いたと聞き、彼が靈に捧げんとする心情から此の稿をあえて終戦後初めてのスケート年鑑に掲載願ひ、ス

ボーツマン木谷徳雄君の靈永遠に安らかなれと祈念する次第である。

大正十二年頃今から二十五六年前になるが私が諏訪でスピートスケーターとして將來への希望に燃えて諏訪湖上で盛んに滑べり當時日本スケート會が生れて正式な五百メートルに依る記録も生まれ従つて内外國の記録等にも興味を持つ様になり殊に滿洲に於ける氷上界の様子等も新聞やスポーツ雜誌等で知る事が出来彼我的記録等比較して胸躍らせた頃既に木谷徳雄君の名前を知つた。

記録等も一歩進んで居つた事を想う。

彼、木谷徳雄君が、愛稱、徳ちゃんとして日本スケート界のスピート陣にアツプされて來たのも此の頃であつたと思う。

當時滿鐵の安東縣事務所に籍を置き、スケートに絶對的理解も有力なる後援者市民の中にスケーターとして彼獨得の頑張りとなげばりで鴨綠江の氷上に精進練磨の育成に努力した彼の姿の在りし日を想うのである。

斯くして滿洲氷上界の第一人者としてシーズン毎に其の實力を上げた彼が昭和二年、林田學氏を監督として大澤、多田、佐川の三選手と共に初めて諏訪湖に來て内地軍と對戦した、此の年私は入營して居り殘念乍ら對抗戦に参加出来得なかつたが一步二歩先進していたスケート技術を内地

力を初めて歐洲の氷上に刻んだ。彼の良きスポーツマンとしての練成の賜で有つたことと思ふ。

越えて昭和七年（一九三二年）第三回オリンピック（アメリカレークブラシッド）には監督佐藤昌彦、飯田洋二兩氏の下に石原、宮澤、河村君等と共に彼は主將として出場しアメリカンシステムに依るオープンゲームで大いに活躍し、オリムピック終了後當地に於ける世界選手權大會（セパレートコース）では五百米、四七秒四、十八位、一位、ノルウェー、ペテルセン、四四秒四、五千米、九分二三秒三、一位ノールエー、バラングールド、八分三七秒、千五百米、二分三八秒八、二十一位、一位、バラングールド、二分四四秒八、一萬米、一分三六秒、十二位、一位、バラングールド、一七秒五八秒。

全種目を通じて良く彼の力を發揮したがこうして長年頑張つて戦跡を顧る時……他の選手よりも腰を立て肩で調子を取つてグイ／＼と蹴つた足を急速度にピン／＼と上げて終始變動無きビツチの連續に頑張り、當時續々と進出して來た新人をおさえて依然、徳ちゃんの本領を發揚し続け、彼獨得のフォームに自信を持ち續けたのも彼の性格の強さが生んだ結果なりと思われる。

普通人より稍、細身長身の彼には彼獨自の性格と共にあんなフォームが良かつたのかも知れない。他の選手の滑走

に紹介してこゝに内地スピード界に一新紀元が畫されることになつて滿洲内地間のスケートは交流を開始するに至つた。

彼の名前は其の技術と共に表面に出て同時にスケート安東縣と鴨綠江の名前も氷上界に認められるに至つた。

昭和四年私が僚友宮澤、濱君等と共に初の滿洲遠征に内地代表として鴨綠江上の全日本に参加した時も彼は滿洲の第一人者として特に長距離に石原、大澤、池見、吉岡君等と共に華しく活躍をしたものであつた。

此の頃より滿洲内地間のスケート交流は隆盛を極め年毎に記録も更新されていつたがその間彼は連年優位を保つていた。それにはスポーツマンとしての血のにじむ努力があつたからこそでその強い信念を保持した彼徳ちゃんの精神力こそ偉なるものと思ふ。

斯くして昭和六年十二月滿洲氷上界が畫期的事業として決行した初の歐洲遠征に際しては岡部監督の下に石原、河村君と共に選ばれてストックホルムに於ける歐洲選手權及ヘルシンキに於ける世界選手權の兩大會に出場した。

ストックホルムでは五千米に九分二十九秒、五千五百米では二分三十四秒六の共に日本新記録を生み、ヘルシンキでは五百米、四七秒二、五千米、九分三十一秒、千五百米、二分三十三秒九、一萬米、十九分五十二秒、と氷上日本の

振りを意に介せず獨自のフォームを完成し得た彼、安東縣、鴨綠江の水が生んだ徳ちゃん有つたと思ふ。

其の後彼はまだ／＼滑べつた。内地の選手權にも出場した。此の頃から彼は最も良き後繼者を作つた。それは肉身である弟の清君で有つた。後年清君が滿洲代表として良く大會に出場し頑張つた姿を見た。

斯くして彼が宿望たりしスケーターとしての使命を果し、清君の技術も一流選手として力量を得るに至つた頃大東亞戦争は遂に民族も國境も乗り越えて人類文化創造の使命を有するスポーツ人を次から次と奪い去つて行つたのだつた。

僚友徳ちゃんの戦死を悼むと共に逝きし多くのスポーツマン諸子の靈に對し吾等は今後スポーツ文化向上發展の爲め同志と共に協力一致一段の努力を傾注することを誓うものである。

深井恒雄君を憶う

三 野 勉

『ラップ四十四秒』『ラップ四十三秒』『後一週』。一晩で結氷した信州松原湖の青く澄んだ油氷の上にタイマーの聲

が響く。忘れもしない昭和十五年十二月二十二日の夕方、深井君が日本選手として初めて非公認乍らタイマー三人の時計の上に確實に刻み付けた十七分五十六秒〇の記録だ。最後の一週を四十秒で相手選手村上君を二週以上抜いてゴールインをした深井君は双眼に涙を浮べて少時の間言葉も無く私の手を両手で握り締めていた。

あの時の情景を八年後の今日未だに鮮明に思い浮べる事が出来る。そして其の後日本公認記録として昭和十六年度に十八分〇秒六を出しているが、非公認の練習記録としては十七分四十七秒を始め十七分臺を數回出している。彼は、自己の最上の調子で十七分臺の公認記録をどんなに出したかつた事だろう。他の運動競技と異り、天候及氷面状態に左右されるこの種目に於て彼は實に不運であつたと云い度い。

其れにしても是等の記録が生れる迄の彼の選手生活の裏面は凡そ外部の人々には想像もなし得ない事が多いであらうと思う。東京に育ち、成年期になつて初めて室内スケート場でスケートイングを習い、スピードスケートイングに這つて四年目の短時日にあの記録を作り、年々自己の記録を更新する彼を見て多くの人々は、唯彼は生れ乍らの才能がある特殊な選手であると云つていたが、當初から彼の選手生活を共にして來た私は、深井君は決して世に云う天才ではなく絶対に努力であつたと云い度い。實際に彼は全學

私は此の努力を賞賛すると共に見逃すことの出来ない事柄は、彼の御両親が彼の努力に對して深い理解と愛情を持たれて共に協力されていたことだ。此の理解と協力によつて彼の努力も助長されより以上の力となつてあの成功が爲し得たものであると信じている。深井君は單なる天才では決して無かつたのだ。両親と云う最大の且つ最高の協力者を持つた一つの努力の塊りであつたのだ。

終戦後の今日あの熱情と、努力を限りなく、スピードスケートイングに打ち込んで一日一日と、亦歩一步と進んで行く彼深井選手の眞摯なる姿に再び接し得ないことは實に實に残念なことである。

深井選手は昭和二十年四月十五日ルソン島ピナツプ山麓で散華された事を本誌上に於て御報告すると共に遙かなる彼の靈に對し祈りを捧げつつこの稿を終ることとする。

(慶應OB、本連盟スピード専門委員)

生生活を、そして私生活の行動のすべてを完全にスケートイングと云うものに關連させて毎日の一つ一つの行動が即ち練習だつたのだ。或る時は授業時間中に椅子を外して中腰で授業を受けたり、階段は必ず一段一段踵を付けて昇り降りしたり、或は街路上で通行人を避けるのに足を交叉させて氷上のコーナーワークのクロッスの練習としたり、一々とても書き連ねる事は出来ないが、此の様にすべてをスケートイングに結び付けて生活をしていた。

リンクの上では倒れる迄練習をする選手は居るが、彼のように彼處迄打ち込んで一年中の一日を練習に懸けていた選手は恐らく他にはなかつたのではなからうか。そして彼深井君も若く一個の青年だつたのだ。或る時はスケートを離れ、右に行き度い時も、左に行き度くなつた時もあつただらう。併し其の時々に自分の心をぐつと抑えて眞直に自己の進む可き方向、スケートに集中して直進し得たその精神力と努力とは實に尊敬に値する。彼は自己に勝つ事が出來たのだ。そして初めて他の人々に勝つ事が出來たのだ。氷上に於ける一闘争心より、毎日々々の生活で自分の心に對し、ひたすらに、スケートイング、スケートイングにと一直線に進ませた其の闘争心と忍耐力は實に偉いものだと思ふ。此の努力に努力を重ねた結果がああ短期間に於ける成果となつて現われたのだ。

選手権・國體・學生大會

學生連盟と學連大會について

矢野博一

學連が再發足しようとする機運が起つたのは終戦の年、昭和二十年暮頃の事である。僕が復員して早大復學の直後だつたから、この記憶に間違はない。當時僕は家族が大連にいて、音信不通であり、復學はしたものゝ、その日の生活すらどうしたらよいかわからなかつた時だから、學連の仕事も思うように出来なかつたのも致し方なかつた。しかもスケート界出身の各大學先輩連も未引揚者が多く、それに戦後の動搖する世相の中では、戦災などで移動した人々の住所を知ることすら出来ず、學校に行つても部員がいるわけではなく、結局學連發足も時期の問題であつた。

その後どうして集るようになったのか、もう覚えていないが、慶應の小菅、立教の石橋兩君と前後四五回にわたつてお茶の水の岸會館で會つた。その頃にはインカレの復活とか、學連規約などを、集つた時にはそれでも眞剣に話し合つたものである。しかし結局は、いくら眞剣になつても部員がいないのだから、試合などが出来るわけではなし、規約の方も戦前の規約がないために、作ろうと力みながら、作らずじまいになつてしまつた。

先輩達にもどうして連絡出来るようになったか覚えていない。なんでも慶應OBの辻さんが日本橋白木屋の三階で

いることを聞いて一度尋ねたことがあつた。この時鬼鞍さんが古川電氣に出ていることを聞いたりして、段々と連絡がとれて來た。

こうして各大學先輩連と連絡が出来るようになって來ると、先輩連も好きな道だけにだまつてはおらず、二十一年の二月初旬日光で初のスケート大會が行われることになつたのである。この大會はその後の學連のみならず、スケート連盟自體の結束を早めるのに役立つた。この大會に出場したチームは全早大、全慶大、全立大の三チームに戦時中無キズだつた日光製銅所の四チームであつた。勿論このときはアイスホッケーのみで、エキジビションとして坂本壤のフリースケートティングがあつた。最近はもうなれつになつて何でもないようだが、戦後間もない當時では派手な服装で滑走する坂本壤の美しいフォームは、モンペをつけた日光の人々には特に人氣があつたようだ。

とにかく二十一年度はそれでもスケート界にとつては多大の成果をあげてシーズンを終つたのである。僕はこの年の九月卒業の豫定であつたし、生活にも追われていたもので五月から現在の日刊スポーツに入社してしまつたから學連の仕事からは手を切つてしまつた。この年の新學期に入つてからは各大學とも新入部員や舊部員が復學して漸次部の形態を整えて來た。中でも早立兩校はホッケーのチームが

編成出来たから最も早く部、そのものゝ活動も、連盟への働きかけも活潑になつた。この年の連盟委員は早大加賀谷、慶大小菅、立大村田、明大西村、法大黒崎等の面々で、連盟の仕事は加賀谷、村田の兩君が中心になつてやつていた。そして連盟規約が大體の形を整えたのもこの年であつたし、二十二年一月戦後初めてインターカレッジが行われる運びになつたのも、これ等各校代表委員達の努力によつたものである。しかしこの間規約改正やインカレ開催等に盡力した先輩團の力が多くあつたことはいうまでもない。

初のインカレは豫想以上の成果をあげることが出来た。一月四、五兩日松原湖で行われたる豫定であつたこの大會も五日午後からの猛吹雪で六日に延期され三日間を要したわけである。大會はホッケーに優勝した立大の總合優勝ということになつて終つた。要するに主に學生の手でこのインカレを無事終へることが出来たところに大きな意義があつた。

この大會後の學連はもう完全に軌道上を走つていた。學連の組織は更に強化され規約の補充等に各校委員達の努力は集中された。二十二年十月頃に學連の會長を各大學部長の中から戴こうということになり、十一月早大林信雄部長が學連會長に決定したのである。この後に行われた二十三年度の一月三日から六日までの四日間行われる豫定であつ

た復活第二回（第十九回）インターカレッジは前年同様最終日が猛吹雪で七日に終幕したのである。しかしこの大会には十八校の参加という、参加数だけでも戦前の大会をしのぐ盛會裡に終えることが出来たのだ。

學連の地盤はきづかれた。しかしすべてがうまく運んでいるというわけではない。残された多くの問題がある。それはまた今後の學生達が打開してゆくだろう。



こうして、多くの學生あるいは先輩達の努力によつて復活した戦後のインターカレッジを回顧して見る。

漸く復活の運びに到つた第十八回インターカレッジは、多くの困難と、多くの人々の犠牲によつて開催することが出来たのである。

學連が熱心な學生達の手で組織化され、いよいよ話が學連の最大行事であるインターカレッジに及んだ頃は、實際には話だけで果してインターカレッジが開催出来るかどうかは危ぶまれる状態であつたのである。勿論スピード、ホッケー、フィギュアー三種目の選手を揃えたチームなどはあろうはずはなく、ホッケーのチームがあつてもスピードの選手がおらず、特にフィギュアーの選手は早大を除いては、どの大學もいなかったといつてもよい。一人原口が京大から出場した

が、京大はあとにもさきにも彼一人の参加だつたのだから推察出来よう。

こんな状態にあつた各チームがホッケーにしてもスピードにしても充實したメンバーを揃えていたわけがなかつた。特に團體競技であるホッケーでは各チーム共にその内容が貧弱であつたのは當然であらう。

更に選手達を苦しめたのは資材の不足と、インフレの波に乗つて物價の昂騰であつた。戦災引揚等で失つた器具の不足は、選手達にスケートから揃えなければならなくなつたのである。生活にあえぎながら古道具屋をのぞき、或は先輩、知人の家に行つて都合をつけ、インターカレッジ開催を合議決定しながら、未だスケートも持たないというのが、選手達の實状であつたのだ。

しかも開催地に定められた松原湖は、戦時中閉鎖した旅館が多く、その頃漸く復活はして來たものの、寢具、食料等、あらゆる點に困難を感じさせたのである。當時より更にインフレの度を高めた今日、當時の宿泊料、其の他をこゝに並べたとしても、物價高に悩んだその頃がピンとはこないだろう。宿泊料平均三十圓、主食一人一日四合五勺持参となつており、こういった大きな負擔が選手達に暗いかげを投げていたのである。これに各校は戦後初のシーズンであり、湖上にリンクを作るための木材費が、一リンク分

三千五百圓を要し、更に現在流行の權利金百圓を一リンク毎に地元漁業組合に要求されたのだから、學連の悩みが深刻を極めたのも無理はなかつた。當時早大スケート部に與えられていた體育會豫算が四千圓であつたから、この間のことは察せられよう。

しかし學生達はこの困難を乗り越えた。これらの問題解決のために開催地長野縣へ委員を出頭させ協力を求めたのである。長野縣でもこれらの學生の熱意を買つて、協力を約し、こゝに戦後初の第十八回インターカレッジは昭和二十二年一月四日長野縣松原湖で開催されることゝなつたのである。

参加八校二百餘名の選手達は喜びの中に銀盤上にエッジをきらめかせて走り廻つた。戦後初めて開く大きな競技會であつたから無理もなかつた。しかし大會内容は、先にも述べたようにホッケーチームはあつてもスピードの選手がおらず、結局ホッケーの選手がスピードのレースにも出場するといふ、あたかもスケート界の元老達の昔話に聞いた、吾がスケート界初期の大會を地で行つた感じのものであつた。

それでも各種目ともに數名の戦前選手がいたから、戦前のこの大會を彷彿させて先輩達を喜ばせたものである。そして覇權は戦前からの選手らの多いチームが、それぞれの

種目に優勝を獲得することになつたのである。

スピードでは高林兄弟の明大、ホッケーは村田、中村の立大、フッギュアーは京大の原口が一位とはなつたが、川島、岩崎、渡邊の早大が優勝し、總合優勝は學連規約でホッケー優勝の立大に輝いたのである。

こうして戦後初のインターカレッジは學生達の熱心な努力によつて、まがりなりにも無事終えることが出来た。大會そのものは技術的にも記録的にも振わないものであつたことは致し方ない。又戦時中のブランクが學生達に、試合場でのマナーを忘れさせ、試合態度等に二三の感心出来ないシーンもあつたが、これも時間的に解決される問題であつたのだろう。又大會スケジュールの運び方にも學生の不馴れから圓滑を缺く所が多かつたが、これも止むを得なかつた。

要するに缺點を數えることよりも、この大會を開催し、これを無事終らせた學生の努力を賞揚すべきであらう。こうして一度足場を築いたインターカレッジは翌二十三年には素晴らしい飛躍を遂げる結果となつたのである。



第十九回のインターカレッジは二十年一月三日から七日に到る六日間、前年に續いて松原湖上に華々しく行われたのである。参加十八校、三百五十餘名の選手が、それぞれ校旗を

おし立て、スピードコースを一巡して入場、林學連會長、宇野長野縣知事代理挨拶、文部省栗本體育振興課長祝詞が述べられ、三日午後二時から大會の幕は切られたのである。入場式だけでも、二十一年度の大會とは雲泥の差であつた。これと共に大會内容も一年を経過した各チームの充實によつて飛躍的な向上を示したのである。

二十一年度冬季シーズンの劈頭を飾つたインカレに續いて、吾がスケート界も全日本選手權、國民體育大會を青森縣八戸市に開催、日光では關東選手權、冬が過ぎて春になつてからも、東京ではメモリアルホールでホッケー、フィギュアーと種々の大會が行われて、スケート界は活潑な動きを開始したのだ。これは各地のスケーターを刺激した。戦前のスケーターは再びスケートをつけ、若い人々がスケートに關心を持ち始めたのである。

これはシーズンを終えて新學期に入つた各大學、専門學校にすぐその効果を現わした。新學期と共に東京の各大學もその内容を一新したのである。日大には二十一年度全日本選手權スピードに大活躍した北海道の菅原、佐藤等の選手が入學、ホッケー部にも北海道、岩手方面から多くの入學があつて、面目を一新したのである。明大は長野縣諏訪方面からスピード選手が入り、早、明、立、法、中等のチームには滿洲方面から引揚げた學生でホッケーに充實した

一萬米に19分17秒1、佐藤(恒)が千五百米に2分32秒6の戦後最高記録を生んで、二十一年度シーズン劈頭のこの大會でスケート界を刺激し、その後行われた全日本選手權大會等に好影響を与えたのなどは賞された。ホッケーも前年とは比較にならない向上を示したが、戦前のそれには未だ程遠いものであつた。フィギュアーはむしろ前年度の大會よりも低下していたが、これは後續の無い上に、インドアリンクを失つたことが原因で止むを得まい。

いづれにしても學生スケート界が向上して來たことは事實である。(少くともスピードとホッケーにおいては)。しかしこれが今後も更に續くものと考えことは間違いない。この進歩、向上と思われるものは、個々人のプレイヤーが質的に向上したのではなく、戦前から一應スケートをこなしていた選手達が行揚、復員等で量的に増えたものと見るべきだろう。だから素質を持つ多くの選手が、現在學生スケート界にはいるわけで、この意味では更に進歩向上するものと見るべきだが、實際には戦前がスケート界に多くの名選手を生んで來たスケートの温床、滿洲を失い、且つ總てのインドアリンクを失つたがスケート界は、それだけ後續を絶たれたものと考えなければならぬ。現に二十三年度全日本選手權、並に國民體育大會は殆んど總て北海道勢に占られている。これは地理的な優位がそうさせたの

のがそれだ。

これらのメンバーの充實は、各校部生活をも充實し、シーズン外のトレーニング等に力の入る結果となつた。部生活の充實は必然的に學連の活動を活潑なものにした。これは學連の組織や規約改正等となつて現われ、十一月には早大スケート部長を會長に戴く等益々學連の動きが有機的なものとなつて行つたのである。

勿論再び迎えたインカレの時には前年より以上にインフレは昂進していたし、物資の不足等は前年同様の状態に置かれていたが、學生達は前年よりも容易にこの困難を乗り越つたのである。そして戦前にも優る盛んなインカレを開催したので。

大會は各チームの充實によつて技術的にも進歩したし、記録的にも大きな進歩を遂げたのである。これには多くの先輩達が合宿に入つて、熱心な指導をしたことや、役員として權威ある人々が多數参加したことも大きくあづかつていた。

結局覇權は菅原、佐藤等の活躍で大量得點した日大が、明大の追撃を退けてスピードに優勝、ホッケー、フィギュアーは早大が優勝して、總合優勝はホッケー、フィギュアーに一位、スピードに三位を占めた早大のものとなつて終つた。特にこの大會中、日大菅原が五千米に9分10秒5、

で、今後東京あるいは地方の學生のみならず一般の老幼男女にスケートを透徹させて技術的なレベルを維持して行くためには、早急なインドアリンク建設が必要だ。學生スケート界も、こういった意味では危機に立つているといつて過言ではない。子孫が絶えようとしているのである。

また戦時中のブランクは國際的にも大きくわがスケート界のレベルを低下させた。ホッケーのルール變更だけでも約十年の差がある。これはわがホッケー競技界を根本的にくつがえすような變化を呼ぶかも知れない。學連は少くもわがスケート界のリーダー格である位の誇を持つて、こんなことにも早く着目してリードして欲しい。

學連は今後も、つきることのない課題を前にしている。氷が融けてもシーズンオフではない。多くの課題は學生の手で解決されることを待ちあぐんでゐるのだ。生活も苦しいには違いない。學問もしなければならぬ。しかしどんな困難をも退けて、わがスケート界を良いものにして欲しい。(早大OB、東京都スケート連盟、日刊スポーツ記者)

第一回國體スケート大會の思い出

久保 榮

終戦第一回のスケート競技大會、思い出はそれからそれへと脳裡を駆けめぐる。選手の宿舍やら経費の捻出等問題は次から次へと出て来る。先づ下斗米豊次郎氏の計畫に従つて大會事務局の設置、協賛會設立等着々準備を進めた。

問題は氷の状態を最良のコンデションにし選手に思ふ存分滑つてもらいたい。これが我々スケート愛好家の念願だつた。今にして思えばよくやれたものだづく、感じさせられる。私は氷の整備状況を大會の思い出として綴つてみようと思う。

如何にして氷を最良のコンデションにおくか、これはいつも頭から離れなかつた。

リンクに水を入れることから始めた。十月の下旬、下斗

米氏と私と流水を止めるにリンクに出かけた。先づ水門から水がもらないようにと水門を止める板と板の間に紙をはさんだ。水はうまいぐあいに板の間から漏れない。これで先ず成功、コースは明治神宮大會を行つたところしよう。それにはうんと水をためなければならぬぞと二人は話しながら歸つた。

二三日すると下斗米氏から電話で水門の底から水が漏つていようだから止めに行かうという。早速出かけてみると水門の底から音を立てゝ流れ出ている。色々手をつくしてみたがどうにもならなかつた。二人は相談の結果思ひきつて水門をはなすことにした。三分の一程もたまつた水を流すのは惜しかつたがしかたがなかつた。水は奔流のよう

に水門から流れて行く。下斗米氏は離れた板を持つて例の調子で「ななに、何でもなし」と自信たつぷり。短い日はすでに西の山にかくれ、寒さが身にしみる。下斗米氏は上半身はただで靜かに水面をみつめていた。

翌日また水門止めをやつた。こんどは底へたまつた砂をかき出すことからしんちようにやり始めた。水は止つた。あとは氷の張るのを待つばかり。

最初に張る氷によつて、よい悪いが決定するので寒氣がやつてくると、その頃雪が降るのが心配でたまらない。運よく條件にめぐまれて油氷が張つた。だが最初に考えた明治神宮の時にとつたところへはコースをとることが水不足のため出来なかつた。

どこへとうるか。石原さんの意見をいれて風は正面からあたるが、競技には大した影響がない。あのよい氷にリンクをとつた方がよいということにたつて道路に沿つて香月園よりリンクをとつた。

毎日朝から出かけてリンクの手入をした。長者小學校の兒童が雪が降ると出動することにしていて、雪の降つた朝手に手にほろぎや雪がきを持つて出て来るので大變助かつた。リンクの手入で晝食をたべないことが時々あつた。

明治神宮大會の時に大會前夜降雪を徹夜で除雪し。カナを曳いてコースを何十回と廻り夜明けと共に撒水して大

會を無事に終了したことを思い出しては、今年はそんなことがなければよいがと話し合つていた。

一月十九日暖氣が来て雪が晝頃から雨と變つた。市内學校生徒の勤勞作業をお願いして除雪にかかつたが、雨と雪とで除雪は大變困難をきわめた。除雪した雪の重さで氷が下り、穴がところどころに出来てくる。ゴム長靴が半分も水につかる状態だつた。コースの中のホツケーリンクの除雪は氷に大きな穴をあけてそれに雪を投げこんだ。又四方を鋸できつて浮き上らせた。この頃は夜の七時頃だつた。最後に二十名位でやつと作業を終つたが終日雨にうたれてからだの中まですつかりぬれていて、めしも食はないで家に歸つたのが夜の十時、それでも疲勞も感ぜず翌日は又リンクへ出かけていつた。

コースの東側コーナーが大變悪いので氷を切取つてとりかえることになつた。これが又大變、天候と相談しなければ氣温が上つたり雪が降つたりしたら大變なことになる大會四日程前にこの作業を行つた。コーナーの悪い氷を切つて氷の下に入れ、よい氷をその穴と同じ大きさに切つてそのコースの穴にはめるのだ。これも夕方までかかつて出来上つた。翌日行つて見たら立派に出来上つていた。勿論下斗米さんの指揮だ弟さん二人も連日來られてリンクの整備に一生懸命、全くその努力には頭の下る思いだつた。

大會が近づくとつれ選手がぞくぞく入り込む。氷は油氷だから安心だけれども、當日の気温が氣にかかつてならなかつた。毎晩下斗米さん兄弟と五六人で撒水そりを曳いてリンクを廻つた。話はいつもジープ位の自動車をほしいものだ、除雪も出来るし撒水も出来る。誰か金を寄附してくれる人がないかと、それにおちるのだつた。

待ちに待つた大會第一日。入場式の壯觀さ、氷つくりの苦しみも忘れて唯感激、これまで氷を維持した喜びで胸がうつばいだ。

試合開始後気温がぐんぐん上昇してプラス四度を示している、試合を中止して午後まで待つたが駄目、夜になつて撒水しようとしたが氷がゆるんで撒水桶をせることがあぶない位だつた。じやがいををかじりながら気温の下るのを待つた午後十時になつたが零下にはならなかつた。すつか

りあきらめてみんな運を天にまかせて歸つた。翌日四時頃起きてみたらぐんと寒い。七時リンクに行つて見たら鏡のような氷面になつていた。氷面をなでて今日の大會をひとりほくそえんだ。

會場をうづめる觀衆萬餘、天候はよし、気温も上々、全く競技日和、フリースケーティングの妙技、中村氏（舊性老松氏）と月岡さんのペアースケーティング、觀衆はすつかり大會氣分に酔つた。五箇所のホッケー競技場、試合は一日でどこころりなく終つた。

私は今までの苦勞もすつかり忘れてリンクの一隅でこの氣分をしみじみ味い、感激と安心とで胸いつばいだつた。

思ひ出はまだまだつきないがこれで筆を擱くこととする。（青森縣スケート連盟）

第十七回フィギュア選手權大會の感想

久保信

今回の全日本フィギュアスケート選手權大會は曩に開催された國民體育大會スケート競技大會に引續き一月廿六日、廿七日の兩日同じ會場盛岡市高松の池に於いて行はれた。

偶大會前より全国的に天候變調で気温著しく上昇し時々降雪などを見て競技場のコンディションは非常に悪かつたのである。

地元役員の不眠不休の氷手入れも廣域を必要とするスピード・トラック、アイスホッケー場の管理に迫はれフィガー競技場として當てられた處は前日ホッケー試合で傷められた氷に申し譯だけ撒水したホッケーリンクであつた。

斯の如き情勢で全日本選手權フィガーの如きスクール課題の高級な競技を果し實施すべきかを役員間に於いても問

題にせられたのであつたが結局大會期日の關係又交通事情など考へ他に移動不可能なるを認め無理に實施したのであつて出場選手には誠に氣の毒なことであつた。

斯る事態は天然氷屋外スケート場に於いて競技會が開催される場合當然起り得ることで開催地元關係者としても充分に心がけフィガー特設リンクの設定と共に氷の手入れにも充分研究されることを望む。

競技を通しての感想は氷のコンディションもさることながら選手の技量、出場數共に寂寥たるものであつた。

フィガー競技は元來單なる體力の充實、一時的の頑張りとなどでは處することの出来ないもので平常不斷なる練習と克明なる理論の研究を必要とする競技であつて終戦後の吾が國の實狀として充分に行うことが出来なかつたことは疑

へぬもので其の結果出場選手の顔觸れも戦前活躍した古顔ばかり之に地理的に出場困難であつた爲か出場者數も少なく且つ練習不足で技術的にも低調という状態であつた。

之等のことを豫め豫想して主催者側の連盟フィガー部門に於いてスキールの課題を全種目に出題することを除け事前に課題を發展し選手が短時日の練習でも集中的に課題種目に向けられる様取計ひ又更に競技審判に於ても氷のコンディションに依る技術の低下を考慮すると共に選手全體に平均して割合に甘い採點を行つて居た。

以上は悪い方面に就いてのみ云つてゐる様で誠に申譯がないが反面には非常に良い特筆すべき事も多々あつたと思ふ。

第一に選手諸君の競技會に臨まれた態度であり、誠に眞面目なスポーツマンとして立派なものであつた終戦前いかめしいお役人に依りスポーツ行政が司さどられて居り少しでも何かあると非國民呼ばはりせられた當時でも競技會其のものに選手の不平とか其他種々事故があつたものであるが、本競技會には競技條件としては誠に悪かつたにも拘らず何れの選手も只各自の技量の發揮に努め競技に全力を注ぎ役員審判の指導に順し行動せられなごやかに大會を終了せしめた態度は如何にも再建平和日本のスポーツマンとしてスポーツマンならでは見られぬ状況であつた。

離して優勝して居る老巧良く弱點を補つた競技振りであつた。女子選手權に於いては優勝者丹羽芳子夫人と第二位生田艶子嬢の接戦は最後各審判員の採點を合計する迄判然としなかつたスキルに於いては寧ろ生田嬢が秀れていた様にも思はれる。

加藤嬢は前述の如くフリーには非常に良い行き方を示して居たがスケート技術に劣る處があり兩君との懸隔が生じたものである。

ジュニア選手には男女を通じ小林正水君のみで他に見るべき處がなかつた。小林君は今後共一層精進せられ選手權舞臺に活躍を望む。

最後にフィガースケーティング競技が終戦後の實情として誠に恵まれざるものであることは疑へぬ事實であるが既に社會事情も次第に好轉しつゝあり、更に此の種競技が國民文化面の動向と相容る處の多い點から今後インドアスケートの完備と共に正しく明き平和日本國民のスポーツとして大いに發展さるべきものと考へられる。幸ひ吾々スケート關係に今回復深き聰明果斷たる竹田恒徳連盟會長を戴くことが出来益々隆盛に向ふべき機運であることを自覺しお互に斯界の發展に努力すべきである。(明大OB、北海道氷上競技連盟理事長、日本スケート連盟公認審判員)

技術的面に於いてはフリースケーティングが正しく解釋せられ非常に良い方向に進められていることが認められたのである。

過去に於ける何れの競技會で見るフリースケーティングは之に使はるゝ音楽を無視し何んの爲の奏音が解らぬスケーティングを行い更にスケーティング其のものもむづかしいジャンプだとかスピニングなどを滑走することが出来れば只無闇に之を羅列し體の動きのことも全體の調和の點にもおかまいなしと謂ふように見受けられた。然るに今回の競技會を通じてのフリースケーティングはスケーティング技術に劣るところがあるとしても奏樂とスケーティング或ひは上體の動きなどがリズムカルにマツチして居り、肢體の躍動の美化、滑走速度と動作の強弱度合等の組合せの調和、氷域滑走位置の妥當性等著しく進歩を見せ所謂フリースケーティングの眞髓を把握し進められつゝある傾向が明かに認められたのである。

特に女子選手權に出場された加藤禮子嬢のフリーは特筆すべきものと思う、惜むらくはスケーティング技術が之に伴はざる憾みがあつた。男子ジュニアの小林君のフリーも同様誠に良い傾向と思はれた。

競技の結果として男子選手權は有坂隆祐君の獲得するところとなり衰へたとは謂へ第二位の鹽田直重君を大きく引

岩手のスケート界

岩手縣スケート連盟

第三回國民體育大會及全日本を初めて開催した岩手として縣民に與へた感銘は多大なもので其の現れとして大會終了後盛岡市當局の配慮に依り約六〇坪の建物を譲受け愈々今冬からは約四〇名の選手の合宿が出来る事になり選手と共に役員一同喜びにたへない處である。益々縣民各位の期待に添ふ様既に今春五月から練習を開始してゐる。

さて今冬あたり期待出来る選手の横顔をまずスピード選手から見ると、既に承知の事と思はれるが満洲で存分の活躍し終戦後岩手の人となつた日本長距離界の雄中楠君が居るし短距離には之も有名な本籍を岩手の花巻に持つ明大OBの阿部剛君有り、最近は餘り成績も芳しくはないが、走法に於て亦スケートの理論にしろこの兩君の存在は今後の岩手スケート界に如何なる影響を持たすかは敢て云ふまでもないと思ふ。かつては岩手の選手は中央の話題となつたものもなくその存在も實に淋しいものであつたが、過日の全日本選手指導で優秀な成績を納め日本優秀選手にランキ

ングされたのも彼等兩君の指導の賜物でしかない。高松地での全國大會の刺戟を受け若い中學生等も混ぜ目下工藤谷藤を中心とした三十名の選手が入混れてのトレーニングも力強い感を與へる、二〇分のランニング續いて柔軟體操にクツシングローリングと約一時間の練習であるが、中でも昨年あたりから初めてスケートを始めた川口、大坪、三上、佐々木あたり今年あたり相當な實力を出すものと期待される一方やかましやの藤原あたりが嘗てのインターカレデの優勝した當時そのまゝの精神的な所謂相手に勝つ前に自れに勝ての主義で相當のキツイ練習方法でやつてゐるので殊に若い中等校生には勉強する處が多いと思ふ。

今まで女子選手のなかつた當方として今年初めて七名の女學生が練習に参加して居るが陸上競技やら體操の選手なのでスケートはどこまで成績を上げ得るか全く未知數であるが、お隣の青森八戸の選手ぐらゐはお相手出来る様にしたと思つてゐる。

次にホッケーの選手の横顔を見るに岩手はスケートと云つたならホッケーと云はれる程ホッケーの歴史は古い然しその盛んであつたホッケーが今だに日本のレベルに到着してゐない事は残念だ、云はば指導者の不熱心と選手の熱意の缺除に外ないと思はれる。然し先般全國大會の試合で相當に得る處あつて盛岡鐵道チームあたり中心に夏期トレー

義深いものが有つたと參加選手の一人としても大いに喜びに堪へなう。

今此の二つの大會を顧て私達選手として最も残念な事は五百米五千米にやつと戦後最高記録を出したのみといふ、他のスポーツに比べて著しく立直りのおそかつた事である。折角の役員の方々の不眠の努力にも不拘暖氣、降雪等にわざわひされてコンディションの悪かつた事、日程の變更に依つて豫定のプログラムを終へるには選手に對し過勞だつたといふ事も其の理由の一端としては有るだらう。

事實其の不満を口に出して降雪中のレースを「軍國ばり」だ等といつてゐる者も耳にしたが選手として此の不満を口外する前によく自己の實力を考へて見る必要があると思ふ。そして此の位のコンディションは物ともしない強い心と身體を養ふ事が我々として先決問題で有り此の心構へ有つてこそ始めて戦前のレベルに達し更に世界のレベルにも達する事が出来るのではないだらうか。

過去の日本のスケート界は滿洲朝鮮等といふ氣候に恵れた國々の参加があつたことも有るが、兎も角世界の水準にまで達してゐた。一例としてガルミツシュのオリンピックには石原先輩によつて五百米四位入賞といふ輝しい歴史を持つてゐるので有る。これは單に氣候に恵れたといふだけではなく數多い先輩の撓まざる努力によつてなされたのだ

ニングを行つてゐる。技術的な指導訓練も勿論必要ではあるがチームワークの點を十分考慮してやつてゐるので期待に添ふことの出来るチームが生れ出るものと思ふ、昨年活躍した本館、砂子澤、梅里にDFの上野あたり健在の爲めチームワーク一つで立派なチームの編成もあながち無理な事でもないと思はれる。

盛岡大會を顧て

中 楠 敏 士

第三回國民體育大會冬季スケート競技會及第十六回全日本スケート選手權大會は昭和二十三年一月二十三日から五日間に亘つて盛岡市高松の池で開催された。

終戦後二年多くの人に依つてスポーツの復興が叫ばれ凡ゆるスポーツが戦前の水準を追ひ更に世界の水準へと躍進し、有るは、スケート界に於ても數多い惡條件を排除して此の二つの大會を開き、然も戦前にも例のない様な盛會に終へた事は關係役員の方々の御苦勞もさる事ながら眞に意

といふ事を忘れてはならない。

そして我々の先輩は氷上の技と力のみでなくスケートを通じて多くの苦しみと戦ひ其の中から精神的な何物かを把んで居られた様だ。

日本最大の此の大會での好成績者は一應日本の選手として認められるで有らうが先輩の言を以つてすれば戦前の中等學校にも劣る實力しか持合せのない我々が宛ら大選手の如くコンディションを云々する事は先輩に對して精神的な弱みをも曝け出した様で全く恥しい限りで有る。

昨年の八戸大會以來一年、及ばずながら此の大會を目指して來た我々にはあの惡條件は些か残念では有つたが殊更に口外しなくとも全ての人によつて認められてゐる事なのだ。戦前にはあの位の惡條件を兎や角言ふ者はおらなかつたで有らうし、又相當の記録を出してもいた。それにスポーツの目的は只勝つ事、好記録を出すのみではないと言ふ事も考へなければならぬ。

開會式當日總裁代理高松の宮殿下の御言葉に「スポーツの精神はフェアプレーの精神で有り、フェアプレーの精神の有る國民に道義の頹廢はなく、戦後の國民道義の頹廢はこのスポーツの精神に依つて更生させねばならない」といふ事が有つたが此の御言葉を待つまでもなく戦後の荒み切つた日本に明朗清新な氣を吹き込む爲スポーツの持つ使

命は眞に重大なものが有る。

水泳界に於ては既に世界記録の更新さへなされてゐるのだ。戦ひによつて消息を斷たれたスケート界の先輩も大部の人が歸つて來られ大會毎に懐しい人の顔が次々とふえてくるのは大いに喜しい事でありスケート界の今後の推進力ともなつてくれるものと大きな力強さを感じる。

これ等の先輩方の中には眞に裸一貫で歸られた方もおられるがスケートに對する情熱は昔と變りなく夫々の地で後進の指導に御骨折下さつて居られる事を耳にし我々これ等先輩の御指導に依り戦前はおろか來るへきオリンピックには世界の名手を相手に堂々の陣を張るべく平常の精進を重ね一面には道義昂揚の爲にスポーツの期待する所に酬ゆべく人格の練磨に勵まねばならない。(岩手縣スケート連盟)

盛岡大會出場の思い出

高林忠三郎

絢爛多彩な次回オリンピック競技會に希望をのせて目指

ションの良好を一番期待している。私もその一人であり、折も折大會が悪天候にかゝつた事は實に残念であつたが、降雪を衝いて參集した觀衆がスタンドを埋め、しきりに聲援を送つてくれたことは出場選手を一入奮起させた。

また地元の方々が如何に此の大會に對して熱意を示し市民舉つて歓迎をしてくれたか私達は各種の大會に臨んだがこれが初めての感激で、かゝる大會が悪天候にもかゝわらず無事終了出來た原因でもあらう。

又大會役員先輩が率先リンクに於て指導努力された事に對して全く敬服の他はない。

開會式の折總裁秩父宮御代行高松宮殿下のお言葉に「フェア・プレーの精神こそ道義の類廢を防ぐもので……」とお言葉が有り私達選手は競技進行に多少無理の感があつたが何等不服なく出場出來た事は高松宮殿下のお言葉に深く感銘し又粉雪がしきりに降り視界を遮るリンク上に役員先輩の競技進行の困難を克服しての熱意あつたがために他ならないと思つた。

本大會に於て記録的には何等得る處が無かつた。最悪のコンディションとは申してもやはり第一の原因は全選手のトレーニング不足にあると思う。戦前の様に強豪滿洲朝鮮チームが居なくなつた爲に刺戟が少なく夏期トレーニングが行なわれていないではないかと思う。私自身もそれで有

すは新記録、氷の覇者たらんと終戦後三年目の春は此の熱に拍車をかけて例年に見ざる物凄い闘志がたぎり豪華なプログラムが進められた盛岡大會を思い出し記す。

白銀の氷上に榮ある天皇杯爭奪をめぐる府縣對抗となつた第三回國民體育大會、又全日本選手權大會最初の氷上競技會として冬季競技開催地の盛岡大會に全國の精銳を網羅した事は偉觀であつた。たゞ期待に副う内容を齎らさなかつた事は遺憾と云えよう。

だが此れも降雪と暖氣の爲に選手の實力を發揮出來得なかつた點に有ると思う。

會場に高松宮殿下を迎えて華やかな大會が出來た事は盛岡全市民に今後の大會の聖戰場たるべき地でその最初の大會がかくも成功裡に終了を告げた事は誠に喜びに堪えないところであり盛岡としては實に幸先よいスタートを切つたと云つても差支えない。

此のリンクは滑走可能時より關係者が苦心して建設し其のいかにも無く暖氣となり私達選手一同不安に襲われ此の分だと大會も中止の止むなきに至るのではないかと思つたが製氷技術の結果かく出來上つた事は大なる成功と云うべきではないかと思う。

だが選手としては日頃の練磨を發揮するには最大のコンディションで出場する事が一番で、特にリンクのコンディ

つた。今回の大會には非常にコーナーあたりで轉ぶ選手が多かつた。氷質に大なる原因が有ると思うが私自身選手として大會に望んでの経験では氷質のみでなく選手全般の脚力の不足の爲にその安定を失ない轉倒する結果となつたのではあるまいか。

大會に望み痛切に感ずる事は脚力の養成、要するにキツクを強くし、スプリントをつける必要が今の全選手に要望されているのではないかと思う。

戦争で中斷されたとは云え、大會三年目を迎える選手として實に恥ずかしく思う次第である。又多くの選手はオーブン・レースに馴れていないため自力をどの様に用いて良いやら判らず滑走した者が多いと思う。

私自身五百米のオーブンは初めてで唯無中で滑走したと云うだけで何等力の配分をも考へる事が出來ず終つてしまつた事は今後大いに研究する餘地が残されたわけである。

第四回國民體育大會には各地域とも研究され本年の様ではなく進歩されるではないかと思う。本大會に出場致して痛感したことはアウト・シーズンにおけるトレーニングの不足であつた。吾々選手に課せられた今後の問題は日本記録の更新であり、その更新の爲日頃の怠らざる努力である。(明大OB長野縣代表選手)

第十九回全國學生水上選手權大會

—— スピード 競技を観て ——

高 林 三 郎

大正十三年全國學生水上競技聯盟が創立してより既に二十五年の歴史が流れました。

記録によりますと第一回大會は大正十四年に淺間の六助にて舉行されましたが、暖氣の爲にスピード競技は流會の止むなきに至り大正十五年に第二回大會が松原湖に於て開催され、その時スピード競技が始めて舉行されたのであります。

第二回大會以來昭和七年迄競技回数五回共早大のスピード陣がその覇權を握つておりましたが昭和八年明大に敗北し明大は八連覇の偉業を遂げました。昭和十六年より早、明、日の順にてそれ／＼優勝して來ましたが戦時に入り中

止の止むなきに至りました。當時の學生選手の技倆はスケート界に於て恐らく高度に躍進しつゝあつたものと思ひます。其後長期に亘り中止状態にあつた事はスケート界の爲實に残念の極みです。

終戦後昭和二十二年第十八回大會が松原湖に於て再び開催さるゝに至りスピード競技は明大が二位の日大を十七點引離し優勝するところとなり、第十九回大會に於ては日大が明治を五點の差で退げて優勝しました。

本大會を顧みて二、三氣の付いた點を述べて見ますと、先ず技術的方面に於ては戦前に比して見劣が非常に致します。第一に完全なるスケーチングをしている選手が二三名

に過ぎない。即ちストレートに於て完全にエッジに乗り切つてゐない。コーナーに於ては全選手が非常に無理をしてゐる。コーナー即ちストレートの延長なる事を繕へてゐない。第二として短距離選手に於て力の配分を考えず最初から自己の全勢力を以つて滑走し續けるといふ點、それが爲ラストの四コーナー以後疲勞しきつて大切なラストのストロークに力が入つてゐない。

千五百米では一部の選手を除いては最初のラップに比して最後がガタ落している、ラップの研究がまだ／＼不充分だと思ひました。

第三に長距離選手ですが自己の實力を過信してその結果ラップが實に不揃である事、一萬米の如きに於ては五秒乃至十秒の開がある、これも又一考を要すると思ひます。

次に記録的に見ますと全選手の目標觀點が非常に低い事五百米に於て四六秒臺千五百米に於ては二分三〇秒臺五千米に於て九分十秒を一萬米に於ては十九分臺を出せば優勝確實だといふ點であります。結果から見れば高林清高(明)君の五百の四八秒一、佐藤(恒)君(日)の千五百の二分三六秒九、菅原君(日)の五千米九分一七秒五、同じく一萬米一九分一九分一七秒一でありました。

斯界の第一線を行く大學選手に於て斯様に低調であることは實に心細き感があります。

次にリンクコンディションですが氷質に於て過去の大會と比較して本大會は先づ／＼上々という状態だと思ひました。天候も快晴無風氣溫二度で後半氷質稍々軟くなつたが先づ大會日和といふところ斯様な條件に於て期待に副う記録を齎らさなかつたのは遺憾でした。

次にシーズンオフのトレーニングが等閑されている點であります。スケートシーズンは他のスポーツに比して非常に期間が短かく練習期間は殆んどなく學生大會迄は一週間前後の練習であつて、この短期間に體力技倆共に練磨する事は不可能な事であります。選手のアウトシーズンのトレーニングこそ來るべきシーズンの覇權を決定する重大なる鍵である事と自覺して日頃の撓まざる努をして欲しいと思ひます。

以上が氣付いた點です。何時の時代に於ても學生大會は日本記録の更新を賭けての大會であります第三回國民體育大會第十六回全日本選手權大會の成績から見ましても上位は殆んど學生選手が占めているのでありまして學生選手の今後の活躍は實に日本氷上界の躍進であることも自覺し尙一層の精進を切望する次第であります。(明大OB日本スケート連盟スピード専門委員)

第十九回全國學生 氷上選手權大會

——五百米滑走を顧みて——

高 林 清 高

終戦後二年目の學生大會を迎え、又昨年より一層記録が進歩した事は喜びとする所であります。戦前に於ては、日本スケート界は殆んど學生が其の中心をなすと共に、又記録をも保持して居ました。何故學生は強いのか、其れは敢えて言う迄もないが、母校の名譽の爲自己の記録進歩の爲に不斷の努力をして居るからであると思います。まだ〳〵先輩の記録には及ばぬが第十九回全國學生氷上選手權大會に於て自分の五百米滑走を顧みて記す事に致します。

學生大會地の松原湖の氷の状態を見るに、氷質としては大會當日前散水した爲氷質は上々であつたが、各部分に非常に龜裂が多く第三第四コーナーには氷塊が多かつた。又氷面は波形の状態にあつた松原湖の氷質は蓼ノ海の氷質に良く似ており蓼ノ海の練習記録は四十六秒代であつた故、

のです。

本年度の大會を顧み自分のシーズンオフのトレーニングの不足、技術的から見てまだ〳〵と痛感するものがあります。先輩各位の指導を受け研究しなければいけないと思ひました。

自分の本年度の滑走の不十分及び缺點としては、第一第二コーナ及びバックストレッチ迄は自分では滑走して居るなど云う意識はあつたが第三コーナに入る頃よりスケールテングも亂れて來たのです。即ち滑走する事を忘れ、腰は浮き、唯ビッチでスケートを動かして居る。結局エッジに乗る事なく、ホーム・ストレッチの百米に於ては膝が離れイン・サイド・エッジのみで滑走して流れ込む状態であつた。又スプリントもなくなる。

結局力の配分が悪いと思ひ先輩各位の話、又滑走寫眞を見たりし矢張り今の滑走方法では記録の向上は不可能である事を痛感致します。以上が私の五百米の本年度の缺點であつた様に思われます。

では今後如何なる點に注意せねばならぬかと云いますと結局第三、第四コーナで腰が浮いたりラストに於て膝が離れたりする事は體力の不足、技術が低い爲であらう。

第三、第四コーナの走法の研究がもつとも重要な點であると思ひます。

氷面がもつと良好であつたならば四十六秒代で滑走する事が出来たと思ひます。氷面の各部分が悪い爲練習記録は望む事は出来ないが、なんとか努力して練習記録の四十六秒代で滑走し様と努力しました。

當日の天候は無風快晴でプラス二度と云う大會には最良のコンディションであつたのです。

大會當日自分のレースの始る前、スタートラインに立つた、ラインに立つても非常に不安の氣持で一杯であつた。何故であつたかと云うと氷面に龜裂があり、氷塊がある事を知つて居なからであります。龜裂の中へスケートを入れて顛倒せぬ様にとスタートした、第一第二コーナ及びバックストレッチの中途迄は思う様に滑走が出来たが第三コーナへ入る二十米前の大きな龜裂を見ると腰が浮いてしまつた。腰を低くして第三第四コーナを廻らねばならぬと云うのに腰が浮いてしまふ〳〵した状態でゴールへ流れ込んだ、記録は四十八秒一であつた。自分の練習記録より一秒及び一秒半のハンディがあり残念に思われた、五百米は非常に距離が短い爲技術的に非常に困難のレースなのです。

短距離選手で、ある程度體力を持つて居ると、五百米でも四十八秒位で滑走する事が出来たと思ひます。其れ以上の記録を出すには體力と技術に依らねばならぬと思ひ

今後シーズン・オフに充分體力を備へ、シーズンに入つて諸先輩に技術的指導を受け自分の走法の缺點をなおし記録更新に努力致そうと思ひます(明大スケート部)

第十九回學連フィギュアの感想

伊 藤 八 郎

終戦後二回目の競技として、前年度に比し大なる收獲とも云うべきは出場者十六名参加校十校というフィギュア選手權大會としては實に盛會だつた事である。量的に斯くも賑やかであつた事は、戦前昭和十六年以來の事であり、選手個人の技術は別問題として將來多數の優秀選手輩出を約束するものである。

フィギュアスケールテングの如く繊細微妙なるエッジの使い分けを要する競技は、從來の如く、インドアリンクにて毎日數時間の練習量を以てしても尙競技當日の身體のコンディション、氷面、氷質等の變化に多大の制約を受け百パ

1セントの實力を發揮することが困難であつた。然るに戦後インドアリンクなく、シーズンに入つてから僅か十日二十日間の合宿練習で試合にのぞむ選手が大部分を占める現狀では、技術の向上を望むのが無理ではあるが、さりとてこれを放置すればフィギュア界の進歩は考えられず、方法を替えて、如何にしたら短期間の練習量で最良のコンディションに持つてゆくかを研究する方が、合理的であらう。恐らく全選手が、それ／＼の勘に頼つて滑つて居る事と思われるが、毎日氷に乗つて居れば所謂勘も正確に働くのであるが、シーズン當初十日二十日間の練習では頼りとする勘のつかみ方が不確實であり、フォームの亂れに氣付かず間違つた乗り方（エッジの把握）の上に不正確な勘に頼つて滑ることになり、理論的にも、實際的にも、正しい滑り方は不可能だろうと云う結論に達する。

されば如何にしたらその勘なるものを比較的速度やかに、正確なものにするかと云う問題である。私案として申上げるならばアウトシーズンに根氣よく練習のデータを記録し置きシーズンに入るや、たんに昨年作つて置いた記録を読み返す事によつて、頭の方で勘を把握することにつとめ、やがて實際に滑りつゝ試みてみると案外調子よく回復するものである。

本年度出場選手中上位二、三人即ち早大の渡邊、首藤、

東大の吉川を第一群とすれば、第二群は同志社、關學の關西勢以下三群と明確に差が認められ、上位の選手ですらエッジがガッチリと乗つて合理的に滑つた者は一人も無いと云つて良い位であつた。従つてスケールとフリースケーティングとが跛行的となり、男性的なスピードのある所謂豪快なフリースケーティングは誰も出來ず、スケールの時とほとんど變らぬスピードで只轉ばぬ様、無難に滑つたと云う感のみしか受けなかつた。

畢竟するに、インドアリンクの出来る迄はフィギュア界は大幅の進歩こそ望めないが、それにしても選手諸氏の自覺と旺盛なる研究心により、小幅ではあるが、着々たる實のある進歩はあたえられるものと思ひ、我々スケーターとして一日も早くインドアリンクの出現をかつ目して待つものである。（早大OB愛知縣スケート連盟）

各地のスケート發達史

宮城縣のスケート史を語る

宮城縣のスケートの發達史即ち仙臺のスケートの發達史の前期の分はとりもなほさず日本スケートの發達史と云つても過言ではあるまい。

仙臺のスケートの開拓者であつた田代三郎、佐藤幸三、河久保子朗の諸氏が日本スケートの開拓者であるからである。リンクで一汗流した後すき焼の鍋を圍みながら三人の先輩にスケートの搖籃時代の談を聞くことが冬の楽しみの一つであつた。それに依ると、仙臺でスケートらしいスケートがはじめられたのが明治卅八年頃らしい。當時中學生の佐藤さんが兄さんの大友幸助さんと向山の池で滑り出したそうだ。當時のスケートは眞田紐で靴にしぱりつける

五十嵐 悌二

もので當時としてはなかくの貴重品であつたらうが、今考へると不安定極りないもので、今の若いスケーターにはかせたら何んと云ふだらう。よち／＼滑るのが勢一ぱいといふ代物であるが、南町の橋本と云ふ店で「仙臺スケート」と銘打れて賣出されたもので、其の後諏訪方面にも擴つたそうである。向山の池の主であつた佐藤さんが或る日五色沼に行くとき色の黒い鼻のつんとした見るからに生意氣な奴があざやかに滑つてゐる。しばらくはにらみ合ひの後やがて其の男が佐藤さんに「貴様なか／＼上手だなあ」と言葉をかけてきた。

此の男が田代さんだつたそうで、こうして五色沼の氷の

上で結れた二人の友情は愈々深くなり、後年田代さんは日本スケート界の指導者として日本のフィギュア・スケータングの發達に大きな功績を残し、仙臺スケート協會の創設者となり指導者となつて若いスケーターから慈父の様に慕れた。冬来る毎に田代さんは仙臺に來られ、氷上に會する兩先輩の友情に本當に美しい限りのものであつた。田代さんが晩年病を得て仙臺に歸られて佐藤さんの特別の病室で佐藤さんの手厚い看護を受け、又佐藤さんの友情は特に探し求めて五色沼の繪を病室にかけ、そして田代さんはそれを何よりよきこばれながら逝れたと云ふ美しい談も残つてゐる。

當時田代さんは宣教師のデブイソンから教つたそうであるがその田代さんや佐藤さんあたりが日本最初のフィギュアスケーターではあるまいか。やがて田代さんも佐藤さんも同時に二高に入學し獨逸語の先生ウイルヘル氏や小池さん等と共に盛んに滑り、そして二高生の間にスケート熱をあほつた。今の二高のスケート部と云つても大した存在ではないが當時の二高スケートは學生スケート界唯一の存在であつたかもしれない。やがて名實共に我國スケート界の大先輩河久保さんなども此の雰圍氣の中より生れ、更に後年五代さんや、佐藤昌彦さんあたりが若手の第一人者として登場したのも成程とうなづけることと思ふ。

さんは大正七年仙臺に歸つて再び後輩の指導に當り、やがて大正九年から十二、三年にかけて五代、佐藤（昌）、中西、島野、五十嵐兄弟、山田等の諸君が二高生として活躍した時代であり、學生アイスホッケーの先覺者として後輩の指導に當つた北村洋二君（舊飯田）等も此の頃與平沼でスケートの手ほどきを受けたものである。

廣瀬川の大橋の上流で二高の第一回のスケート大會が開かれたのが大正十一年のことであり翌年は第二回の大會が與平沼で開れ、仲々盛んなものだつた。此の頃の課題はホワアワードのアウト・イン・チェンジ・スリーと云つたところで河久保さんの指導で其の滑り方もインターナショナル式に進んできた。

當時の仙臺の研究熱はなかなか盛んなものだつたが、唯一つの指導者は河久保さんが最初に書かれた「氷滑り」と云ふ小さな本一さつだつたので了解し難い點もあり苦心が多つた。それで田代さん河久保さんが仙臺に來られたら、もうつききりで離れないで、其の教を乞ひ、兩先輩も又親切にコーチして下さつた。此の頃東大の井口（兄）さんも一しよに來仙されて熱心にコーチして下さつたものだ。此の頃の河久保さんがバックアウトを得々として滑つていた時代で其のプロマイドが東一番丁で賣出されたものだ。そして仙臺のスケーターはその「こつ」をつかまんと必死で

二高時代の田代さんや佐藤さん達は米國ウインスロー會社製のクラブスケートを手に入れて益々得意だつた。二高のスケート熱は愈々盛んになりウイルヘル氏湯目氏それに高工の神谷氏等が先達となつて伊豆沼遠征が行はれたのも當時のことであり（明治四十二・三年頃）帆を作つて田代さん、佐藤さんが組んで滑つてゐる寫眞がプロマイドとなつて仙臺一の繁街の東一番丁に賣出されておつたそうだから、その人氣はさしづめ今のスターと云ふところで大したものだつた。明治四十四年佐藤、田代、河久保と相ついで東京の大學に移つたので仙臺のスケートの研究熱は中絶となつたが、一般のスケート熱はなかなか盛んなものとなり、日曜日の與平沼などは大小のスケーターで大した賑ひ振りであつた。時の一流スケーターはクラブスケート得意になつて用ひ、今日の様なインターナショナル型の正式の圓形を滑ることは知らなかつたが手を後に組んで反身になりながら半圓を畫きつゝ前方へ鮮に滑つていつたものだ。丁度此の頃田代、河久保、佐藤さん達が東京で正式の研究を重ねておつた時代であらう。

與平沼の近くに家のある五十嵐兄弟は小供の時から氷に乗ることが好きで此の頃は中學生時代でクラブスケートを手に入れて盛んに滑つておつた。仙臺スケート協會の島田廣一君なども當時の第一人者だつた。大學を卒業した佐藤あつた。田代さんは例の諧謔交りに笑せながら持病の「ゼンそく」に氷上で「モルヒネ」の注射をうちながらの熱心な「コーチ」であつた。「ジャクソンヘンズスピン」とはこうやるものだなど型通りやつて一回から二回位廻つてはしりもちをつき呵々大笑。いがいのスケーターがくるくるくる廻る今から考へれば「なあんだ」と云ふかもしれないが此の田代さんのスピンの日本に於ける最初のものではなかつたらうか。此の後二・三年交野さんが歐米を廻つて歸られて仙臺に作られ與平沼で鮮なスピンを見せて頂いたのが仙臺に於る最初の本格的なスピンでありやがて二・三の仙臺のスケーターも懸命の練習でどうやら廻れるようになった。

大正十年から十一年にかけて二高生として活躍した五代さん、佐藤さん、中西さん等は相次いで東大に去り、其の後には冬毎に河久保さん方と行を共にして來仙されて指導して下さつた。大正十二年頃迄は天然の氷の良いところを探して滑つていた仙臺のスケーターも技術の進むにつれて氷の手入れが問題になり、山田（三郎太）君等の提唱で佐藤さんに御願ひして仙臺スケート協會の誕生となり、五色沼を專屬リンクとして使用するに及んでスケート愛好家の數は急激に増大した。細谷慎治さん等も協會創立に當つての佐藤さんのよき協力者であり又よくリンクに出かけて若いス

ケーターを相手に滑つたものだ。佐藤さん、一力さんの御嬢さんは仙臺に於る當初の女子スケーターであつたらう。大正十三年に至り五十嵐兄弟は東北大學に進み同好の小野兄弟、東君等と計り箕作さんを中心に佐伯さん、井口(弟)さんの協力を得て東北大學の學友會にスケート部を設置し、スケートの學生スポーツとしての確固たる地盤を築き仙臺スケート協會に協力するに及び仙臺のスケート界は愈々隆盛となつてきた。

佐藤さんが御醫者さんであつた關係からであらうか、御醫者さん間に同好者が多く特に黒澤さんや、鈴木さんが熱心にリンクに通ひ鮮なホームで若いスケーターを驚し、箕作さん、佐藤(清吉)さん、井口さんは奥さんと手を取り合つて共に滑り、共に轉んで周圍を羨しがらせたものだ。現市立病院長の一見さん等も熱心に五色沼に通つた一人だつた。HKのアナウンサーであつた川崎君は佐藤さんの秘書役として雑務一般の世話をしながら自らも鮮なスケータリングに五色沼の人氣を集めた。與平沼に近い五十嵐兄弟は、與平沼の主として、餘り五色沼には姿をみせづ後で仙臺の代表選手となつた關君や、現宮城縣スケート聯盟會長仙臺スケート協會長の伊澤平勝君等と共に與平沼で練習に餘念なかつた。

二高を経て東大に進んだ飯田、小野木、田中君等は松高

にして仙臺にアイスホッケーが紹介され次いで二高、高工、東中等にアイスホッケーのチームが編成されるに至つた。

大正十二年に誕生した仙臺スケート協會は毎年一月末の最も氷の條件の良い折を選んで五色沼で大會を開いたが、此の催しは所謂氷上運動會式のもので老若男女こぞつて出場する和氣霽々たるものであつたので非常に盛大となり、觀衆も又五色沼の土堤を埋める盛況であつた。大正十四年の大會はフィギュア・スケータリングの東北選手權大會と銘打つて行はれ、課題もバツクのイン・ブラツケット・ループと當時としてはかなりむづかしいものとなり、フリースケーティングも加へられた。此の競技への参加者は川崎君と五十嵐兄弟の三名であつて五十嵐(弟)君の優勝となつた。此の東北選手權競技は以後毎年行はれ五十嵐(信)、大宮、關、皆川、八木、伊勢等の諸君に選手權は移つた。昭和三年には佐藤さんのよき助手として熱心に協會の仕事に盡力した川崎君が弘前に轉任し其の後を大石實君がうけ繼いでよくやつてくれた。昭和三年には五色沼で初めて日本のフィギュアコンテストが行はれ慶應の金子選手明大の久保選手に依り妙技が競れ地元選手として關君が出場した。此の大會も仙臺のスケート界に寄與するところが大きかつた。昭和五年の大會には特に若いスケーターを養成する意味で田代さん佐藤さんが尺餘の大トロフィーを提供されて尋

出の手塚君等とアイスホッケーのチームを作り相手を求めて東北大學に挑戦してきた。勿論東大もホッケーを初めてばかりであり東北大學は何も知らない頃のことであり、まあ教へてやるからやつてみないかと云ふ次第で創設後間の無い東北大學も心よく此の挑戦に應じたのが大正十四年一月のことであり、五色沼に假のヘンスを作り練習試合の形式で東北大學對東京大學の對抗試合が行はれた。東北大學のチームは五十嵐兄弟に松高出の飯澤君が主力であつたので兩大學のチームの中心は高校時代共に滑つた間であり、謂はば「昨日の友は今日の敵」と云つたところで試合は極めて勇猛、果敢に行はれ兄貴分の東大に勝となつたが其の間舊友久し振りに氷上に會して舊交を暖め懇親會其の他極めて和なものであつた。

此の練習試合は翌年より正式に對抗試合の形式を採り數回にわたり五色沼で行はれ、上中君を中心にした東北大學のチームが大勝を博して久し振りに溜飲を下げ、仙臺のファンを喜ばせたのが昭和四年のことだつたらう。其の後この試合も學生聯盟の大會の開催地で行はれたこともあり、開始當時のあの和な雰囲気も次第に薄らいでいつた。ともあれこのホッケーの試合も我國當初の試みであり、後年餘り強くなかつた東大も當時は前記のムムバーで學生聯盟の大會に優勝したもので、當時の最強チームであつた。斯の様

常小學生以下のフィギュアコンテストが行はれた。此のコンテストには五色沼の少年選手としてピカ一だつた尾形君の優勝が豫想されて参加者も少なかつたが五十嵐(廣)君(當時六歳)との競技にさすがの名審判の田代、交野の兩氏も其の優劣を決し兼ねて再滑りとなり遂に六歳の豆選手が此の大トロフィーを頂くことになつた。此の大きなカッブにはチョコレットが一パイに入つており、重くて持てない廣君は同じく選手權に優勝した六尺豊な關君に手傳つてもらつてやつとカッブを佐藤さんから頂いた時には満場思はず大喝采であつた。此の少年少女のためT・Sカッブ争奪戦も廣君の引續いての優勝となり昭和九年に至りカッブは廣君に永久授與となつてしまひ、フィギュアスケーターとして期待された廣君も中學に進むに及び男性的のアイスホッケーに轉向してしまつた。此の間女子のスケート熱は餘り振なかつたが今泉嬢が熱心に練習を重ねて他の追従を許さなかつた。

一方昭和五年は仙臺のスケート史上悲しい年でもあつた。異様な暖氣をおして舉行された二高の校内大會の「パン喰ひレース」の最中に氷が破れて十數名がおり重なつて水中に落ち遂に二名の犠牲を出すに至つた。今仙臺のスケート界の發達の跡をたどる時、當時の悲しい情景がまざ／＼と眼前に浮び上つてくる。謹んで哀悼の意を表し其

の冥福を祈る次第である。

昭和六年には佐藤さんを初め協会の盡力でフィギュア・スケートキングの全日本選手権が五色沼で舉行され、當時の一流のスケーターが盡く仙臺に集つて、仙臺のスケーターが其の妙技に接することが出来たのは大きな幸福であつた。そして初めて見た老松選手のスピンは唯啞然とするのみであつた。殊に此の大会は日本が初めてオリンピックへスケートの選手を送るべく、その豫選を兼ねたものであつたので、選手も関係者も非常な張り切りかたで、觀衆もまた文字通り土堤を埋め盡した。競技は老松、帶谷、小林（進）、和田等の一流選手に地元選手として關、實吉、山木、五十嵐（信）等の諸君が出場し、老松選手の優勝となり多大の成果を収めて盛況裡に終了した。屋内リンクが東京、大阪に出来てからは、東京、大阪の選手が一年を通して練習するのに對して冬の短期間のみしか氷にのれない仙臺の選手との間に技術的に大きな開きが出来たことは當然のことであり、此の大きなハンディキャップにもかゝらず仙臺の選手が涙ぐましい練習を重ねて困難な課題を滑りこなし殊に關君が北海道代表を破つて第六位に進出したことは大きな手がらであつた。

全日本選手権大会に刺激を受けて仙臺のスケート熱は愈々たかまり、一般のスケーターの数は増える一方であつた。で、驛からホテル迄の自動車に抜劍の警官が二人、兩側に乗り込み辛じて途を開いて除行した程であつた。當夜の五色沼は協會創設以來の夥しい人出となり、關係者一同も大いに張り切り、フットライト迄用意して準備萬端遺憾はなかつたが折悪しく暖氣のため氷のコンディションが悪く、大選手に對しては誠に御氣の毒であつた。しかしさすがに世界的のブルガー嬢の妙技は數千の觀衆を魅了し盡した。

此より先佐藤さんは仙臺スケート協會長として三つの理想を持つておられた。其の二は宮さまの御出を願ふことであり、其の三は世界的のスケーターを仙臺に紹介することにあつた。昭和六年には希望通り最も充實した全日本の選手権大会が仙臺で開れ、此の大会には、スケーターとして有名であらせられた久邇宮様の御來仙が豫定されたのが御風氣のため御取止めとなつて残念だつたが昭和九年の大会に御在仙中の東久邇宮様が御來場になり熱心に御覽になられた。そしてブルガー嬢の妙技を仙臺に紹介して三つめの希望を實現した佐藤會長は愈々引退されることとなり、別れを惜しむ仙臺のスケーターはカーニバルの夜を期して盛大なる御別れの會を催し、氷上に祭壇を設けて三枝さんが、「のりと」をあげて其の勞を謝し、擴声器を通じて其の功績を讀へ、記念品を贈つたりして昔を偲びつつその引退を

がスケート史の前期に於いて日本のスケート界をリードした仙臺も屋内リンクを持たぬ悲しさに東京、大阪に對し技術的には全く手も足も出せない形となつてしまつたことも是非もない次第であつた。然し寒國の冬の唯一つのスポーツとして、健全なる娛樂として發達したスケートは、愛好者の身心の鍛鍊に役立つことが極めて大きかつた。此の頃五十嵐成一君はフィギュア・スケートキングの國際公認審判員として權威ある競技會に出席して審判に當り、常に日本スケート界の新しい動きに對應して後進の指導に當つた。

昭和九年の大会は御在仙中の東久邇宮様の御來場を得て、特に盛大に行はれ、一見（OB）、三浦（女子）、五十嵐（少年少女）、沼澤（ジュニヤー）、伊勢（選手権）等の諸君の優勝となり、更に當日の夜行はれた第一回のカーニバルは仙臺として初めての試みであつたが、工夫をこらした出場者の珍藝に抱腹絶倒、又忽然として女流スケーターや少女スケーターが現はれたり、新郎新婦のペアスケートキングが行はれたりして夜の更けるのを忘れ、寒空の一夜を楽しく送つた。此の催しは非常な人氣を博し以後數年間繼續され、年を次で盛んになつたが、日華事變の進展と共に中止された。又昭和十年には來朝中のブルガー嬢を五色沼に迎へることゝなつた。佐藤さんや、朝日新聞社の植村さんの御骨折りに依つたものでこの時の仙臺の人氣は大したもの

惜んだ。會長を辭された佐藤さんは其の後にも相變らずよく相談相手となつて下さつてゐる。

佐藤さんの後をうけて會長となつた三枝さんは、岩本さん岡部さん等と共に斯道の發達に盡力され、翌年には稻田、片山の兩選手を仙臺に迎へて當時の男女の日本選手権保持者の妙技に接することが出来た特に初めて見た兩選手のペヤースチーキングは非常にフアンを喜ばせた。此より先、昭和二年に仙臺に紹介されたアイスホッケーは、競技者自身に興味の深いことゝ、一般觀衆に對しても其のスピードでスリルに富むところに魅力が大きく盛んになり、大學、二高、高工、東中、大學OB等の間にリーグ戦等も行はれた。東北大學は毎年學生聯盟の大会に出場し、二高は高校聯盟の大会に出場して活躍したが、フィギュアと同様に練習期間の關係で對外的に良い成績を擧げる迄には至らなかつた。

又昭和九年から東北大學の主催で關東北の高専ホッケー大会が仙臺で行はれ、仙臺の二高、高工に加へて、岩手、東京等よりも参加があり殊に昭和十二年當時中央で覇を競つていた立教、慶應豫科の出場は仙臺に初めて本格的のアイスホッケーを紹介したもので觀衆は其のスリルを満喫してホッケー熱は愈々高潮した。

昭和十二年には仙臺、盛岡、八戸の三都市對抗競技會が

仙臺で開れ、フィギュアとホッケーに仙臺が優勝して優勝杯を獲得した。フィギュアには黒澤君、沼澤君が出場して優勝したが、ホッケーは地域的に仙臺より恵れている八戸、盛岡勢に對し熱戦の後遂ひに覇權を獲得したのである。此の時のオール仙臺のメンバーはOB東北大學、二高、東中等の優秀選手のビックアップチームで慶應で活躍した伊澤君、五十嵐君等が指導者兼選手となり若い選手と共に全員一丸となつて奮闘して遂ひに兩強敵を破つたのであつた。特に氷の都合で夜半一時より五色沼で行はれた一戦は出場した選手にも見ておつた者にも忘れ難い思出である。此の年のスピードは與平沼で舉行され、澁谷君、矢戸君等が奮闘したが地域的に恵れない仙臺が遂ひに第三位になつたことは是非もない。此の三都市對抗試合の第二回は八戸市で舉行され、仙臺の選手も遠征したが試合半ばで紛争を生じて中絶となつたことは遺憾でらる。

此の記述に於てスピード・スケートに關しては餘りふれないのは、仙臺にはスピードを練習すべき適當なリンクがないので従つてスピードに關し特に記述する程の資料もないからである。唯、其の間、村岡、澁谷、突戸、青木等の諸君が極めて不利な條件の中で盛岡、八戸に對抗して奮闘した位のものである。

以上述べた様に盛んであつた仙臺のスケートも昭和十三

年頃より日華事變の進展と共に、いつとはなしに、スケートをやる人の數も減り、又思出の行事も取止めとなり、最後に氷上剣道なるものが、試みられるに至つて終幕となつた。終戦後は五色沼は米占領地域内にある關係で全く立入禁止でどうにもならないので與平沼を主なるリンクとして仙臺のスケート界は立上つた。然し戦災でスケートを焼いた人が多く昔日の様に多數の人がスケートを樂しむ様になるのは何時のことであらう。幸ひ滿洲よりの引揚者中に優秀選手も多く、二十二年度の大會に少女選手として徳江嬢の出現が目され、二十三年の國民體育大會、全日本女子選手權大會に備へて五十嵐、伊澤の兩君が熱心にコーチに當り野心満々として盛岡へ遠征した。年令の關係で出場不許可となつたことは非常に残念だつた。然し、現伊澤會長は三技前會長の跡をうけ、協會の再建に選手の養成に懸命の努力をつゞけておるので仙臺のスケート界が昔日以上に隆盛となる日もそう遠くはあるまい。(此の記述は戦災の關係で乏しい記録と、記憶に依つたところも多いので書きおとしや誤記があれば御許を願ふ次第である。)(宮城縣スケート連盟)

諏訪湖を中心としたスケート史小觀

加藤 博行

今でこそ諏訪は、スケートのメッカとして全日本的なものとして、自他共に許しているが歴史の頁を繰いてみると、その幼稚さに思わすふき出す程度のものであつた。

街道の急坂や田圃へ撒水して、駒下駄で一散に走つて行つてはスート滑つて「おすべり」といつて、これが諏訪のスケートへの初歩なもので、少し進んで駒下駄の裏に竹を割つてうちつけて滑り出し、更に鐵板を二分幅位につけて滑る様に變化した。

本格的なスケート器具が、移入されたのは、日露戦争直前渡歐した農學博士稻垣乙丙氏が明治三十年歸朝に際して、ドイツから土産として持ち歸つた。これを上諏訪町(現諏訪市)の高島小學校へ寄附し「歐洲ではこれを靴の下につけて氷の上を盛んに滑っているから一つやつてみてはどうか」と勸奨されたが、當時は非常に珍らしいものだと思はれ、徒に標本室の

一隅にほこりにまみれて居つたと云ふ状態であつた。實際に諏訪湖上にトレースを畫く様になつたのは、明治三十六年北海道より諏訪中學(現清陵高校)へ轉校して來た田中稻實、同克積氏の兄弟が北海道から携えて來た仙臺式スケートで滑つたのが初めてであるが、湖上に田圃に滑走する鮮かな姿にも多くの同好者がなく僅かに同校の生徒春日幸雄氏のほか微々たるものであつた。翌三十七年に同校へ赴任して來た山本喜市教諭が、東京で習練して來たローラースケートを氷上で行つたり、英語原書スケート指導書を英語教諭と和譯し、苦心して指導した甲斐があり順次數を増して來た。明治三十九年(その前年中央線開通)頃より、東京、横濱からスケーターの來訪も見られる様になり、興味が急激に増大した。同年時の日本體育會の淺津辨吉氏が、スケート器具十餘種類を携えて、諏訪中學校を訪れたり、又上諏訪、下諏訪の旅館主や町當局理事者等に、スポーツ

としてのスケートの將來性を説明して、その施設の急務を勧めたものであつた。下諏訪町の故大久保要四郎（丸屋旅館主で後町長）が、私財を投じてリンクを作り偶々滞在中の北海道出身の美術學校生徒の湯地航一氏を依頼し、中小學校生徒に指導し、諏訪湖高濱沖に第一回大會を開催したのが、スケート大會の皮切りであつた。當時靴スケートは五圓、十圓（米一俵が四圓位）と云ふ高値にて、一般には手がでなかつたので、下諏訪町の長崎壽馬吉氏らが中心となつて下駄スケートの製作を始めた事により漸次普及發達した。

明治四十年には各地がスケートの團體組織が發足し、リンクも數多く出來たがその組織の連合體が諏訪スケート中央會で、その設置したリンクは下諏訪町高木下の湖畔よりのもは、休憩場を新設、紅白の幕を張りめぐらし大きな標識旗を立てたと云ふ當時としては畫期的なもので費用千圓を要したと云はれている。鐵道もこれに呼應して、諏訪湖スケート團體客の便を圖つて飯田町、新宿、横濱等の各驛から「諏訪湖氷滑入場券」一持參者に割引乗車券を發賣した（飯田町、新宿より往復二等五圓、三等三圓、横濱から二等五圓五十錢、三等三圓三十錢）東京の芝南商會當時の漫遊用達會社今の交通公社では非常に大がかりの團體募集をする等盛大なものとなつた。

つけざるべからず、右は鐵にて作られたる一種の鐵底の如きものにて螺旋を以つて靴にしかと取り付けたり而してそのまた底に同じく鐵製の形さながら鳥賊の甲羅の如きものを取り付けこれに依つて滑り行くなり、但し鐵は錆び易きを以つてニッケルを着せたるものあり、この様な靴は東京にては求め難からん、横濱の外國人について習ふべし「初心の人、諏訪湖は結氷期に於て人馬を通ずと云へど氷面破裂等憂無きにしもあらず故に初心の人が迂濶に水を踏むは危険なり、若し誤つて轉倒する時はしばし手足を傷け或は激しく頭部を撲つことあり依つて不馴れの人是最初より大膽なる獨歩を試みず成るべくは馴れたる人の肩に縋るか又は杖を用ゆべし是れ少しく不恰好に見ゆれども先づ安全ならん、もつとも老人等は其の修練にやゝ困難を感すべきも少年の如きは容易に上達すること受合ひなり、最初まづ千鳥に滑ること習ひ覺へてその熟練に隨ひ半月形に大きく滑る事を習ふべし、之を卒業せば懷手にて悠々數町を滑り行くこと難からず、現に獨逸等の婦人は兩手を手筒に入れたるまゝ氷滑りを試みるもの多々あり、服裝の事は別に仔細なし、各自隨意の服裝にて成るべく寒からぬ用心さへすれば足れり、身輕にせんと薄着せば感冒を引く憂ありまた誤つて顛倒せし場合に身を痛む事多かるべしやはり陸上に在ると同一の服裝が無事安全ならんか云々」と。かゝる過

又英國代理大使ローガン氏夫妻、書記生ダビソン氏フランス人クラリー伯、印度留學生エー・エンミタル、エス・エス・ボース氏、東京工業教授大友幸助氏、早大學生河島宗義、學習院生伊達九朗氏同三島彌彦氏、慶應學生稻葉三郎、松本常三氏等著名の内外人陸續と入諏した。伊達九朗氏は

曉霧漸噴旭日紅 鷺湖一面玉玲瓏
縱橫鐵屐如飛鳥 數百里程一瞬中

右の様な詩をものして、スケートの壯快味を贊へたものだつた。

ローガン氏は英國に於ても有名なスケーターであつたといわれ、當時の新聞に「綿地背廣型の洋服を着たる紳士、疾走一轉、背進すらしつゝ妙技を示すものありて、見物人一同何れも驚嘆しつゝありたるがこれ即ちローガン氏なり」とあり又故小川平吉氏（元鐵相諏訪出身）も東京各大新聞の代表部を卒いてスケート視察された。

當時のスケートをするのに左の如き注意を與へてゐたのも技術の程を知る一助となるから記載する「靴の注意、靴は編上を可とす、ゴム靴はゴムが動き易くして運動に不便なり、編上も普通の中深より一寸位深ければ更によし、然も無くば長靴を撰むべし、勿論靴はそのまゝにて滑り得るものにあらねば普通の靴の下に滑靴註スケートの意を

程を兎に角過ぎ順次スケーターも姿を増し、明治四十二年二月十四日我が國スケート界最初の競技會と稱する南信日々新聞社主催の諏訪湖一周競技會が開催されたのであるが、從來の競技會といふのは、旗拾ひ、股くぐり、罎拾ひ、パン喰ひ競争と云つた類のもので、まあ單なる陸上運動會の感があつたのである。この本格的な競技會は二月十一日（元紀元節）を期して行われる豫定の處、五十名の定員に對し三百餘名の申込みにて豫選會を十一日に行ひ、十四日改めて大會を舉行したのである。選手の服裝は上下共白にて頂度今の野球のユニフォームの如きものに靴下をはいた者、着物の下に股引の者等種々雑多の服裝にて赤帽をかぶつて號砲一發「敢て絶後と云はず空前の大壯舉」信毎所載は決行されたのである。諏訪湖一周三里六丁（八哩）下諏訪、湊、豊田、と三ヶ所で通過券を受け上諏訪に到着すると云ふコースだつたが、スタートやゴール、關門等々には家族知人應援にて「それ蜜柑」「それ氷砂糖」「それ林檎」とものすごい熱狂振りであり、東京よりは鐵道主催の團體にて列車の増發、旅館料亭等すべて超満員、街道には掛茶屋が出來、一杯酒、焼芋、饅頭等々お祭り騒ぎであつた。

競技成績は一位諏訪中學生徒の若冠小口卓裏氏でありタイムは四十五分三十秒、二位漆村花岡俊春氏（農）四十七分

十五秒、三位林福一氏五十分五十秒、四位小口光雄氏、五位濱秀一氏（以下略す）の諸氏が入賞した。

此壯舉には沿岸町村が一ヶ月前よりその準備にとりかり用意萬端整へて待機したが、コースの除雪には一番頭を痛めたがそのコースの除雪にわざ／＼六尺幅の大鉋を作らせて馬にひかせたが見事失敗、人夫を總動員して除雪したがその晩の降雪にて三十分の豫定時間を遙かに超過した四十分臺になる様な結果にて選手は非常な苦勞したものである。翌四十三年の第二回大會には、帝大三島彌彦氏、二荒芳徳氏、谷勝重氏を始め柳谷午郎氏、京大大谷尊重氏同尊由氏兄弟や早大有江茂雄氏、江原賢作氏、八戸の接待道次氏の諸氏が参助したが大谷兄弟、江原、接待、谷の五氏は途中落伍し、二荒氏二十三位、柳谷氏卅五位、有江氏卅六位、三島氏三八位に止り、榮冠は再び小口卓裏氏の頭上に輝いたのであり、名譽の金牌を贈られこれを限り勇退した（當時の諏訪のレースに於て二回連續優勝の節は勇退と云ふ申合せがあつた）成績は一位小口卓裏氏四〇分四五秒、二位花岡俊春氏四七分、三位濱秀一氏四八分六秒、四位笠原重氏、五位小口勝郎氏（以下略）右の様な成績で遂年隆盛になり、女子選手も弗々現はれ明治四十五年の第四回大會には正式に女子競技も取入れられたのである。當時の南日紙上には「氷滑はたゞに男子のみならず、女子の間にも

だつた」と語つてゐる。

大正七八年頃よりスピードスケートは漸く衰微し始め、フィギュア熱が昂まり大正十一年には下諏訪町秋宮リンクに於て、日本スケート會主催にて華々しくフィギュアのコンテストが行はれ諏訪からも小澤、小口、篠原氏等の選手が出場し、交野政邁、河久保子朗、田代三郎、柳澤敏文の諸氏審判の下に一位五代正友（帝大）二位平川一郎（松高）三位小澤重武（上諏訪）四位小口勝郎（下諏訪）五位篠原茂雄（下諏訪）六位森田諒三（松高）七位村津要（松高）八位小口孫六（早大）の諸氏が入賞した。翌十三年の第三回大會にはフィギュアでは五代氏が優勝した。スピードでは日本齒科と諏訪中學が夫々優勝したが、この年上諏訪にも小松直治、立木茂、三輪充武、關貞英、濱榮祐、小澤重武、古畑永太郎氏の努力にて高島城趾の堀にリンクを特設し「設備は日本一だ」と自慢し、日本スケート會報にも「かつてない華やかな年」と報ぜられていた。

第四回大會は秩父宮殿下をお迎へして川岸村駒澤リンクにて舉行された。又我が國初のホッケーの對抗試合が下諏訪の秋宮リンクにて行はれた。この時の参加チームは早大、松高、慶應、帝大等であつた。尙この年上諏訪スケートクラブが諏訪湖上に正式四百米のコースを作製して諏訪地方大會を行つたが記録はさして良くはなかつた。

著しくその技を試みる者を生じ來りたる事として本年の大競走には女子のみの選手の申込みを受けたるが五十名中遅刻不參二十名を算したれば三十名の選手を一行横隊に整列せしめ午前十時半一周約二哩のグラウンドに於て滑走を競わしめたり、白のリボンを髪に粧いて裾高の袴をつけ黒の靴下をはきたる可憐の乙女は本邦の氷滑に新なる記録を作るべく雄々しく出場したることゝて喝采しばらくは鳴り止まざりき」と報じてゐる。

成績は一位笠原とくゑ（中洲村）九分三十五秒、二位河西しず（下諏訪町）十分一秒、三位牛山やす（同）十分四十五秒、四位伊藤みつ（同）五位畑まき（同）であり、一位の笠原さんはその年の優勝者河西喜代司氏と兄妹であつた。

この大會はその後二年間は結氷不充分にて中止したが第七回迄續行したが大正五年の第七回にて周圍の状況にて惜しくも中絶された。

スピード競技の第一回第二回と連續優勝した小口卓裏氏はこの大會當時を回顧して「優勝して賞つた賞品は各新聞社の金メダルが三十個を超へ、ユニフォーム、タイツ等山の様で一回で運べず二回に家へ運んだ、二年目の大會にはスイス製の靴スケート十圓で買つて履いて出場した。その後英國大使館武官バーチ少將の斡旋で英國製スケートを二十五圓で買つたが當時の二十五圓は米が五俵も買へる金額

昭和に入つて三年に大日本氷上競技聯盟が生れ第一回大會を諏訪湖に開き、昭和四年には對抗して日本スケート會を主體とする大日本スケート連盟が生れ第一回大會を同じく諏訪湖に開いた。次いで昭和六年この兩團體の合體による大日本スケート競技聯盟主催の第二回大會がスピードは諏訪湖で、アイスホッケーは蓼の海で行はれた。この様に連續した全國大會を諏訪に於て開催されたのに刺戟され小池富治、潤間留十、正見兄弟、金子武康、行田和氏らの選手が育ぐまれて行つたのであるが、その後昭和七年霧ヶ峯スキー場が突如世に出るに及びウィンタースポーツの人氣はスキーに奪はれ一時寂寥を極めたが十二年の第八回全日本選手權、十三年の第九回神宮競技、引續いて第十回神宮競技、第十四回學生選手權、等々相次いで蓼の海で舉行されるに至り又々めざましい活況を呈し、高林三郎、花岡光夫、古厩泰治、高林忠三郎、小口大八、寺島俊、磯兄弟等々の優秀選手を輩出したが諏訪湖一周大會が諏訪のスキーターの傳統と云ふのか、スピード選手養成に編重の嫌ひがあり、フィギュア、アイスホッケー等の選手の出ない悩みを指導書により是正され三者一體となつて育成されん事を祈つて諏訪スケートの發達史の擱筆とする。（長野縣スケート連盟常務理事）

東北のスケート界展望

星 憲 道

此二十年間の東北のスケート發達の歴史は、大體何處の地方もそうである様に、全日本選手権大會その他の競技會に選手を送つたり、そう言う競技會が開催されたりして來た事によつて、刺戟され助長されて來て居るのだから、東北に於いて、此二十年間に行われた競技會を主として考えて見よう。

先ず其の前に二十年前の東北のスケート界の様子はどんな情況であつたか。仙臺、盛岡、八戸共、他の地方、例えば諏訪、北海道等と同じ様に、明治の初期既に洋行歸りとか、外國人とかによつて洋式のスケートが傳えられ、その模造品やそれ／＼の土地で發達した和式スケートによつて、殊に約半年も氷雪の中に暮す盛岡、八戸等は子供ばかりでなく、大人もスケートによつて冬を樂しむ生活をして來て居つた。それが他のスポーツの發達につれて現今の形態の協會又はスケート會が夫々組織せられ、各人の好みに

で初めて公式の記録が樹立された。此の競技會には地元からも選手が出場し、スケート場が全國大會の檜舞臺として認められたばかりでなく、スケーターも始めて全國同好者の仲間入りをした記念すべき競技會であつた。

その翌年、即ち昭和六年には全日本のフィギュア競技會が東北のスケートの先進地、仙臺の五色沼で開催され、盛岡には第七回全國學生選手権大會が行われ、共に地元官民、スケート協會員の努力によつて、盛大に遂行された。

翌七年には盛岡に、前年に引續いて學生選手権競技が舉行され、八戸には第三回全日本選手権大會のホッケー競技が開催されたが、盛岡の競技會は不幸、天候に恵まれず、流會に終り、次の年八年に續いて第九回の、學生選手権競技會を無事遂行すると共に、盛岡のスケート協會や市民達は、此の七年の流會によつて、冬將軍の活動に對する信頼を失つたのか、この後約十五年もの間、全國的な競技會を敬遠したのは、或は他の原因、例えば協會、又は市民のスケート熱の冷却とか協會員の競技會開催に對する意欲の消長とか、或はその他の理由とかがあつたかも知れないが、結果として、大きな競技會が暫らくなかつた爲、スケートの普及發達に拍車をかけなかつた事は否めない事で、その點此の十五年の空白期間は、盛岡地方として全く惜しいものであつた。然し、この八年には地方的には決して無爲な年でなく、

よつてスピードや、フィギュアの練習をやり、大正の末期から漸く盛になつて來たアイスホッケーと共に、競技的なスケートチングの形が整つて來た。

其の頃スケートの全國的な纏りとしては、河久保氏等を中心とする、日本スケート會があり、それが次記の大日本氷上競技連盟と對立的に、大日本スケート連盟を作り、外に全日本學生氷上競技連盟の先輩達を主體とした、大日本氷上競技連盟があり、各々独自の活動をして居つたのが種々の経緯を経て合同して、大日本スケート競技連盟となり、その記念すべき第一回の競技會のスピード競技が丁度二十年前の昭和五年一月、此の東北のスケート好適地八戸市長根リンクで開かれ、八戸市官民の熱意、及び八戸スケート協會員の努力によつて、競技會が盛大に遂行され、五百、千五百、五千、二千米リレー等の競技に、木谷徳雄、河村泰男、石原省三の三君により、日本記録を更新され、日本

第一回の盛岡對八戸の都市對抗戦が、八戸主催で長根リンクに於いて行われ、それ以後、盛岡と八戸で引續き交互に開かれ、更に十三年には東北スケート連盟の結成と共に、仙臺市を容れて東北のスケート競技選手権大會と併行して、三都市對抗戦に發展した事は、他方八戸に開催された數次の全日本選手権大會や、學生連盟の競技會、神宮競技會、等と共に、進歩の遅かつた東北のスケート界に良い刺戟を與えた事は、見逃す事が出来ない。此の三都市對抗試合は戦争による競技會の中絶期まで續き、その後、二十一年に再び八戸、盛岡の都市對抗競技として復活し、今に及んで居る。

ついでにこの頃から盛になつて來た地方的、又は局地的な競技會は夫々の協會で地方の學生競技會、市民競技會等を主催して來た外に、八戸スケート協會主催の北日本スケート競技選手権大會が第一回を昭和四年に長根リンクで開かれて、中絶期を續いた。初めこの競技會には、函館、秋田からも参加し、盛會であつたが後には、それ等の地方から参加がなくなり、主に八戸、盛岡の参加者による競技會になつてしまつた。

この外地方競技會としては、二十二年に、北海道、八戸、盛岡の間に話が纏り、北海道、東北の定期戦を舉行する事になり、第一回を苫小牧王子リンクで二月初旬舉行し、全

日本に次ぐ大競技會として發展させて行く積りであつたが、第二回は東北で開催の豫定の處、盛岡で行われた國民體育大會冬期スケート競技會及び全日本選手權大會の會期の都合で見合せとなり、今年は第二回を行う事になるが、日本のスケート界の現状から見て、相當に意義ある企であるから、是非永續させて行きたいものである。

尙日本體育會の主催で東北高校のスケート競技會の第一回が二十三年一月八戸で開催され二十四年には盛岡で、それ以後は適當な土地で引續き行なわれようとしている。

地方的競技會は大體こんな風に進んで來たが、第九回の學生連盟以後數年をいで、第十四回の學生連盟スピード競技が昭和十三年、八戸、長根リングで舉行され、續いて五帝大、及び全高校の氷上競技も開催され、同十六年、第十七回學生連盟競技會がまた八戸で開催された。此時には昭和八年第九回に明治大學がスピードで優勝して以來、八回に亘つての制覇を昭和六年以後破り得なかつた早稻田大學が遂に破つた興味深い競技會であり、その時の早大の主將藤原君が、この東北盛岡の出であるのも又、一段と面白味があつた。

この間、昭和十四年には蓼の海で開かれた第十回全日本スピード競技會で、八戸商業生以來黙々として精進して來た、泉山貞義君が（當時明治大學生）多年の努力が實を結

仕事を終つた事になる。

その時全日本の初期に女流選手を送り競技會に相當活躍を續けるだらうと思われた八戸の協會がわずかに泉山君の努力によつて、彼が選手權を得た外、餘り成績の見るべきものがなかつたが、久し振りにこの大會に女子スピード選手を送つた事は、その成績は必ずしも芳ばしくなかつたにしても、東北のスケート界に與えた刺激は大きなものであつた。

中絶期が過ぎて二十一年一月には、早くも八戸、盛岡の都市對抗が復活し、盛岡軍が八戸に遠征した。これはスケート界ばかりでなく、他のスポーツに於いても終戦後の對抗試合の魁であつたらうと思われる。

次いで二十二年には第一回國民體育大會冬期スケート競技會、及び第十五回全日本選手權大會が八戸に於いて開かれ、前者に於いて八戸中學が舊制中等校ホッケーに優勝し、藤原君を主班とする盛岡のスピード選手團注目を引き、二十三年にはそれ等大會が盛岡に開かれ、八戸高校がホッケーに又全日本では同じく八戸ホッケーチーム、ホワイトベアが優勝し、男子は盛岡のスピード團から工藤、谷藤の兩君が十傑は選ばれ、女子は八戸の數年の精進の甲斐があつて田名部セツ嬢が十傑の選に入つた。

第一回全日本スピード競技會が八戸で行われてから十九

んで、スピード綜合選手權を獲得した事は、滿鮮系の選手のみ選手權大會の觀があつた當時として、第七回滿洲の安達君以來四年目で日本人が優勝した事は單に東北としてばかりでなく、日本としても特筆すべき事ではないか。

彼泉山君は、その翌年八戸で開かれた第十一回全日本スピード競技會に特に賜暇を得て、弘前の聯隊から優勝杯返還式に向き、満場の役員、選手觀衆、感激してこれを迎えた彼はその後出征、中支に轉戦中遂に不幸戦死を遂げたが、好漢泉山君の爲にその冥福を祈つてやまない。

次いで翌年には前記學生連盟の第十四回スピード競技會が同じ八戸長根リンクで開かれ、其の次の昭和十七年はそれまで數回の全國的大競技會が開かれ、スケートには充分の理解を持つようになつて居た八戸地方の民衆が、待望の第十二回明治神宮國民體育大會冬期大會スケート競技會が行われ、總裁秩父宮殿下の御名代として高松宮殿下が臺臨せられて、一般地方民がスケートばかりでなく、スポーツについての認識を一層深めた事は、實に大きな收獲であつた。

翌十八年、群馬縣榛名湖に開かれた、第十三回神宮競技會兼第十四回全日本選手權大會に、東北連盟からホッケーに東北大、スピードに盛岡八戸の選手を送つた。これを以つて中絶期に入り、同時に東北スケート連盟の

年、今度二十年を諏訪の競技會で迎えようとして居る。二十年と言へば二十昔、當時二十歳前後の紅顔の選手達は今は四十歳前後の社會人である。決して短かい月日ではないが、東北のスケート界に於ける出來事は前述の様な工合で神宮、全日本、學連、國體等全國的な競技會が十三回、中絶期を除いて十六年間に十三回、此冬開かれるインターカレッジを入れて十七年間に十四回、その間、スピードの選手權を得たもの一人、ホッケーの選手權一チーム、同じく高校の優勝二回となる。つまり競技會が數多く開催された割に、東北選手の成績は餘り芳しくなく、優良選手と言へば滿鮮、北海道に占められて居た事になるが、東北と言つても各々中心になつて居る仙臺、盛岡、八戸で種々違ふ。學生や市民に理解の割に多い仙臺は氷に恵まれず、仙臺と共に東北の學都として學生生徒の多い盛岡は割に雪が多く、市の内外でスキーが出来る爲、稍それに壓倒されて居る形で、舊制の専門校が五、中等校が十一もあつて、終戦後ホッケーチームのある學校がわずか四、スピード選手を出して居る學校が二（各々一名宛）。八戸は市の内外では多はスケートだけしか出来ない處で、地方民の理解も相當深いが、日本の現状から言つて各種スポーツ共學生の活躍に負う處多い所から八戸にはそれが非常に少ない事が他に比べて、スケートの發達に決して立遅れて居ない東北が

割合に目ぼしい成績を挙げ得ない理由ではあるまいか。

然し、中たるみの状態にある様な東北のスケートも、八戸では嘗つての明治の名選手、中村、田村の兩君を根幹とするホッケーチーム、ホワイトベアは今後益々その活躍が期待されるし、後續部隊として優勝校八戸高校を持つから、選手の補充も心配がないだらうし、盛岡のスピードは今の處、元早大のスピード主將藤原君を主班として、學生連盟で活躍した阿部、中楠君を先達としてほとんど社會人であつて、學徒の様に顔ぶれが變らない處に強味があり、傳統を誇る仙臺のフィギアと共に、將來日本スケート界に、大きな足跡を残すことを豫想されるし、また、その様に努力すべきであらう。(岩手縣スケート連盟理事)

愛知縣から報告

愛知縣スケート連盟

戦前二つのインドア・リンクと大井ダム、保古沼のアウトドア・リンクに恵まれ、關東、關西に次ぐ優秀選手出生の地であつた愛知縣も戦争中冷凍機械、動力等の供出で二つのインドア・リンクを失ひ、大井、保古の天然リンクも御多聞に洩れぬ交通難のため手輕な練習場を持たないのが一つと、戦災に依つてスケーターが道具を失ひ、皮製品の法外な増値に手も足も出ないのが他の一つの原因となつて、

昨年度今年度共に競技會を開催するに至らず、従つて全日本選手權、國體共に選手を派遣する事も出来なかつた。

然しながら早大OBの上遠野兄、伊藤八郎、鈴木壽人、明大OBの山本嘉成、大會根、日大OBでスピンドルでお馴染の酒井克己、愛知縣から初の全日本出場者である上遠野弟、加藤好子、公認審判員の靜勢陽介……と多士濟々の陣容にて明年度全日本、國體にそなへ愛知縣連盟を設立し、派遣選手の選衡を終り夏季トレーニング、結氷期に入れば直ちに合宿練習と準備おこたらないところである。

今年度の事業としては、愛知縣連盟の設立と、今一つは中部日本スポーツ株式會社により、インドア・リンク建設の敷地問題から既に設計も出来上り、近々着工と云ふ我々愛知縣のスケーターに取つてこの上もない喜ばしい努力が續けられてゐる事を御傳へする。これが竣工の曉は國體、全日本の誘致、東西對抗、インターカレッジの開催も可能であると考へられる。

戦前はローカル大會として全名古屋選手權を年一回開催し其他に東西の優秀選手の招待競技、エキジビション、講習會等を開催して來たのであるが、戦後は競技方面迄末だ手が延びていなかったのを、今回加盟の承認を得、愛知縣連盟役員選手一同大いに感謝し、必ずや御期待に副ふべく努力しつつあることを附記して愛知縣の巻を終りとする。

技術研究

スピード技術の研究

優秀選手・コーチ團の研究会

編集委員

日本スケート連盟創立廿周年を機會に今後毎年行うことになつた最初の優秀選手強化合宿練習會は、昭和廿三年暮長野縣諏訪郡北山村池の平で行う豫定で準備を進めていたところ、例年にない暖氣という天候異變のため残念ながら取り止めとなり、國體と全日本大會が終つたら二日や三日の合

宿練習は出来るものと期待したところ、廿四年一月末から二月上旬にかけての天候は、國體スケート大會を終らせるのがやつとのことで、全日本大會は中止、合宿練習も遂に取りやめのやむなきに至つた。

しかし折角の機會をただ別れるのは残念とスピ

ード部の選手の一部とコーチ團が一日諏訪にふみとどまつて、練習會にかわるべきスピード技術の研究會を開いた。

以下はその時の記録であるが相當參考になるものがあつたのでここに公表することにした。

(小池記)

場所 諏訪市観光ホテル

日時 昭和廿四年二月三日午後二時—六時
出席者

(會長) 竹田恒徳、(副會長) 増澤龜之助、(理事長) 兩角政人、(總務部長) 小池富治、(主事) 目黒清忠、スピード部長 矢崎猶重

コーチ團 倉町太郎、河村泰男、石原省三、大澤義一、宮澤留十、高林三郎
選拔優秀選手出席者

(男子) 内藤晋、菅原和彦、佐藤恒男、高林忠三郎、高林清高、安田富男、花岡光男、

(女子) 田名部節子、伊藤英子、杉山千恵子、小口いく子
外早大、明大、東京スピード俱樂部等選手三十名出席

矢崎スピード 連盟本部が創立二十週年記念事業として来るべきオリムピック準備に對處して計劃しました昨年度優秀選手強化合宿練習も暖氣の爲め遂に中止となりま

年度の大會も選手各位大いに張切りながら國體だけは終了しましたが選手權大會は遂に開催不能となつて重ね重ね残念に思います。

然し乍ら今回の國體の成績其の他を考慮し優秀選手を選抜すべく銓衡委員會を組織し優秀なる選手を銓衡し之にコーチ團を結成致し只今發表致します選手及コーチ團によつていよ／＼スピードの向上發達を目標にスタートを切る事となりましたことはまことに喜ばしいことであります。

従つて本日は暖氣の爲め全日本も出来ませんし合宿も出来得ないのでコーチ團及選手各位の研究座談會を開いてお互の參考といたしたいと思ひます。出来得る丈け各位の意見を交換し有意義に會談される様お願ひ致します。

尚コーチ團の専任といたしまして河村さんに司會の方をお願ひ致します。

會長 只今矢崎君から説明の有ました様にスピード競技も遂次盛んになりオリムピック出場を目標とし今後いよ／＼内容の強化に努力せねばなりません。連盟としても之が目的達成の第一歩として強化合宿等も計劃いたしました次第です、暖氣の爲め種々の計畫實行の作出得ませんことは誠に残念ですが、本日の研究座談會を意義あらしめ又協力一致強化の爲めに盡力される様希望します。

河村(司會者) 私達は水の有る所に生まれスピードの爲

河村 これは云ふまでも無くノルウェー製の物を最高なるものとして居りますが現在では思ふ様に手に入りません

が。

矢崎 マテイゼンとハーゲンとはどちらが良いと思ひます

か。

内藤 私はマテイゼンの方が良いと思ひます、ハーゲンは少し重い様です。

河村 現在外國製を使つて居る人は何人位でしょうか、
(十人位有り。)

今女子ではいて居る人は無い様ですが外國では殆んどノルウェー製を使つて居り、ノルウェー製は金屬も優秀であり是非共入手出来る様に早くなつてもらいたいと思ひますが目下の所不能のため適當なる國産品を欲しいと思ひます

が現在國內のメーカーも此の際吾々スピード人と連路をとつて技術を最高度に生かす様に願ひたいと思ひます、國産恒では何が一番良いでしょうか。

倉町 佐藤恒君は何を使つて居りますか。

佐藤恒 後藤製を使つて居ります。自分は以前から國産品を使つて居ります。

河村 皆さんは主に何を使つて居りますか。

(ここで一人一人聞いて見る)

大體全員が外國製で有り、一部の人かバラングールドモデ

めに生き且生きて行きたいと念願して居ります。只今會長より挨拶されましたスピード競技の發達向上の爲め斯うした機會の得られた事はお互に心からよろこばしいことであります。

どうか今日の研究座談には優秀選手及其の他列席されて居る選手各位も遠慮なくどんな質問して下さい。

それで大體研究要項を次に申します様に分けて順次行つて行きたいと思ひます。

一、スピード用具の點

二、金具の取付方

三、スタートの方法

四、コーナー滑走

五、直線滑走

六、短距離レース

七、長距離レース

八、オープン競技に對する滑走及觀察

九、シーズンオフに於けるトレーニング

十、コンディションの調節

大體以上の様な順で研究を運びたいと思ひますので斯うした機會にお互の貴い經驗からして材料を提供し合つていただきたいと思ひます。

スピード用具の件

ル(後藤製)女子に多し。

河村 宮澤さんバラングールドモデルとハーゲンモデルとどちらが角度及エッジの質等良いでしょう。

宮澤 角度等の點は大體外國製に負けないと思いますが、エッジの質が良くない。

佐藤恒 私エッジの質は良くないと思ふ。

河村 今まではエッジの點でしたが今度は構造の點で石原君どうぞ。

石原 カップ及前足の高さは使用する選手の體格によつて異つて來ると思ふ、之を自分の體格に合せて作ることが必要と考へて來たが自分は此の點未完成に終つた。

然し長距離にはマテイゼンの様に先は短く後が長い方が良く、短距離にはハーゲンの型が良いと思ふ。國產品でも結構ですから自分の體格に合つた物を作る様になりたいと思ふ。

河村 石原君の説に依れば短距離には比較的カップの高い物、長距離には低い物が良い様で有りますが外國の選手等も此の點は特に研究して居るようです。

金具の取付

河村 此のスケートの取付け方は各人がそれ／＼異つて居ると思ひますが、短距離の内藤君はどんな様に取付けて居りますか。

石原 國產品でもエッジのコボレや何か悪い點が無ければ自分の體に合つた物が作れるから靴も同様に非常に理想的で有る。

宮澤 私はハーゲンの愛好者でありオリンピックにもハーゲンを使ひましたが、遠征の途中アメリカのウエッジ選手が君のスケートは高過ぎると云われ非常に氣にして直ちに直して低くして世界選手權に出て好成绩を納めた經驗があるが自分に合つたスケートを使ふと云ふことは非常に大事で有る。

河村 スケートテングの技術面に入りますがスタートは其のダツシユ等非常にむづかしが高林君此の點でどうぞ。

高林忠 短距離のスタートとして自分の體験はスタートは最初の三十米位に於て或る速度を得て後は流して行く方法をとりました。

河村 内藤君どうぞ。

内藤 自分も今高林君の云つた方法をとつて居る。

河村 スタートラインにそつてどんな様に立つのが良いだらうか。

ラインに對し、直角、眞横、斜めいづれにしても自分が最もマスター出來得る角度を以つて立つ事が良いわけですが最初のスタートダツシユを得る最も良い位置を定める必要が有る様です。

内藤 左は中央、右は中央より中に入れて取付けて有りませう。

倉町 誰か取付けに不安の人は有りませんか、女子の選手はいかがですか。

安田 自分は普通の人と異つた足くせが有りますので人並の取付け方では合わないの自分で色々考へて取付けて居りますが何か最も標準になる取付の型が欲しい。

石原 スケートは左廻りだから左は中央に右は内に入れて居るのが當然ですが右足を完全に乗り得るならば内に入れて必要もないと云ふ事も考へられます。

河村(實物を見せて説明する)中央の線を標準として各人の足くせ等も良く研究の上適當に直すことが良いと思ふ。

菅原 自分は右足は相當中に入れて取付けて居る。

河村 大澤君前の長、短はどう考へますか。

大澤 比較的前の短いものの方が良いと思ふ。

河村 用具の點で外に、

花岡 石原さんは長短共に強かつた様ですが主に何を使われましたか。

石原 ハーゲンの二七番、マテイゼンも使つたがレースには使わなかつた。

河村 マテイゼンもハーゲンも共に昔よりも大部カップの位置などは、同一型になつて來た様ですが。

石原 自分は兩足をスタートラインに並行に置いて居た。立つてスタートをすることは飛ぶ結果となる、飛ぶことは良くないと思ふ。

どこまでも滑べつてピッチを上げることだ、だから滑べつてスタートを切る事が必要で有る。

河村 過去に於て最もスケータテングのすぐれて居りました石原君の説は、最初より滑べつて出る必要からスタートの姿勢で落ちついた腰を其のままで滑べつてスタートを切る。

決して腰をのばさないことで有り、此の姿勢を最後まで持續する、之が短距離選手の最も重要なことで有る。

コーナー滑走

河村 之は各人各様でそれぞれ個性による特長は有ると思ひますが、所謂コーナーワークと云ふ點で研究して見たいと思ふ。

先ず、直線のスピードをコーナーに於て殺さずに更にスピードを加へる位の技術も修得したいものだ。

コーナーを最も合理的に滑走するためには左足の強さを最も必要とし、コーナーに入る時は必ず左足より入るべきで私の見た所で今一番悪い點は交叉するモーションがスリーモーションである、之は最も大切なことであり、右足を寄せる際ツーモーションで投げ込む様にすることだ、即

ちツモーションを出来るだけ滑べつて實行することだと思ふ。

短距離に於けるコーナーワークの點を石原君どうぞ。

石原 なるべくトレースを短くすると云ふ點から考へればピッチをあげることが必要ですが今の選手はピッチがあがらず従つて、外廻りをして損をして居る者が多い。

左足のキックを強くすることであり、スピードが早ければ早い程左足のキックを強くしてピッチをあげることは最短距離を走ることとなる、入る時より出る時にスピードが加わつて出る事が大切で有りますが、自分はまだ此の點研究を完成することは出来得なかつた。

河村 コーナーに於けるピッチの數及び手の振り方に付いて具體的檢討を願ひたいと思いますが之は非常にむづかしい事である。

高林 (三) 石原さん左足のキックは良く解りますが右足キックをどの程度にすれば良いでしょうか。

石原 コーナー滑走は直線の延長で有る事は事實ですが、今の選手を見ると特に目立つて惡い點は體と足が一致して居らず又重心の移動を十分に行へないで居る。

右足は無理せずに左足のキックを十分に使ふ事が必要と思ふ。

倉町 左足を強くすると云ふ點で所謂きき足という事が問

努力することが少くとも短距離選手には絶対必要である。

手を振る爲めにタイムの悪い事が過去に於ても非常に多かつた、此の點も深い研究を要する事であり、フィンランドのツンベルグ選手彼が五百米の全盛時代の滑走法はランニングに近ひ手の振り方であり、石原君の滑走法とは全々違つて居る。

次は直線滑走の場合の根本的フォームと云ふ様な點に付いて宮澤さん。

宮澤 私はウエイトが無いために上體を立てて滑べる事と自分の個性に合つたフォームを完成するべく腰を強くするためにトレーニングを行ひ、昭和六年頃初めてフォーム丈けを完成する事が出来たように思うがアメリカでバラングルードの滑走法を見て特にこの點感じた。

石原 今宮澤さんの云われたトレーニングは結構と思ひますが、直線の場合にスピードが出れば出す程横に押すと云ふ感じを強くすることが必要である。

河村 陸上のトレーニングに同一な筋肉を使つてやることは良いがスピードが無い爲めに此の點の體重の移動を考慮してやる必要があり入れた力をにがさない様にする。

長い金のスケートでけるので無く押すことであり完全に押すには腰もヒザを深くすることが大切で有り之を完全に練習することでありへばつて來れば腰とヒザが立つて來

題になると思ひますが、一方の足を強くするために私は片足運動をやつた経験が有る。

河村 菅原君のコーナー滑走を見るに左足が強い様に見へますが。

倉町 セパレートコースに於けるアウトコースのコーナー滑走の點は誰しもなれて居らない様に見られるから此の點は特に注意して練習してほしいと思ふ。

河村 此のコーナー滑走に於けるピッチ及兩足の使ひ方と云ふ點は非常にむづかしい問題であり理論的説明も困難であると思ひますので之は宿題として置きまして、手の振り方に付いて石原君どうぞ。

石原 右手は直線と同じで有り、左手は振出しを防ぐために小さく振る事が良いと思ふ。

河村 上體の曲げ方はどの程度が理想的かと云ふ點ですが。

アメリカの選手はランニングの時の様に振つて居り。

石原君の説は遠心力に備へて振る、その時上半身はどの程度に曲つて居るか云ふ事ですが、石原君のコーナー滑走はスケーテングが良く滑べつた點は特にコーナーに於て手を振るために頭及腰の位置を狂わさない點が特長であつた。

結局コーナーワークを完全に自分のものにする事に専心

る。

佐藤恒君の滑べり方は只がりく／＼頑張つて居る點が良く解るけれども本人は自覺して居らないと思ひますが、お互に直せば直ることであると思ふ。

安田 フラットで滑べる方が抵抗が少くて良いと聞いて居りますが一つのストロークの場合のパーセンテージと云ふ様なものがどの程度でしょうか。

宮澤 それはノルウェーのバラングルードの場合など考えて見ると足をおろした直後即ち滑走に移る直後アウトエツヂから直ちにフラットに集る様に見えた。

石原 之は重大なことでありますが大體ケルと云ふ言葉は當らないと思ひますか押切つた直後極めてキレイにバット足を上げる感じであり、又之が必要と考えられる。

宮澤 菅原君の滑走振りを見ると其の點現われて居ると思ふ。

石原 安田君の場合はそれが無い。

河村 外國の選手の場合は誰でもそれが見受けられた。

石原 安田君の云つた、フラット・アウト・インエツヂのパーセンテージの問題はこれを數字で現わすことは出来得ませんがアウトエツヂは餘り使わないと云ふことを原則として良いと思ふ。

大澤 キックとトレースの問題ですが餘りトレースをのば

することは良くないと思ふ。

長尾 ローリングしてからキックするか、押しながらキックするかどちらかでしょうか。

高林 (三) 安田君の場合は體重が移つてからキックして居る。

河村 宮澤、それでよいでしょう。

宮澤 ストロークの最初よりキックであるとも考えられる即ち押して行くことで有り、其の間腰が上つたりすれば亂れるから最初入れた力を終りまで完全に押し切ることである。

大澤 腰が落ちる時に足ののびると云ふ點も考へるべきことと思ふ。

石原 上體の姿勢ですが、胸を張らずに圓くかゝむ方が足に力が入ること、頭の位置はアゴを出来る丈け引く方がよいと思ふ、手を組む場合も極めて無理の無い様に自然に組む方がよい。

河村 滑走技術の點ではまだ色々に有りますが此の邊で次はレースの方法に付いて、

オープンレースとタイムレースに對する選手諸君の意見を聞きたい。

菅原君どうですか。

菅原 タイムレースの方がよい。

河村 オープンレースに對する會長の御意見はいかがでしょう。

會長 國體の性質上オープンレースを行ふのだから競技法について理想的な方法があればよいと考へて居る。

菅原 責任先頭は定められたラインを通過する時丈け先頭を取ればよいのだから良くないと思ふ。

宮澤 アメリカでは責任先頭を一週負荷されたことも有つた。

佐藤恒 それはひどい。

倉町 五六名で全部タイムを取る方法も良いと思ふ。

矢崎 私は全員の記録をとらずに各組の三名位のを各人三個のウオッチで計時することも考へて居る。

金子 前に捧名湖の大會の時の一萬米では記録的には斷然弱かつた選手が終始後にびつたり付いて最後にぬいて勝つたと云ふ例もあるから、實力の發揮と云ふ點から考へればオープンレースは良くない。

佐藤恒 今年の點から云へば現在の責任先頭の方法も良いと思ふ。

矢崎 決勝審判の場合一二三差位ははつきり判るけれど其の後には判然とせぬ事が多く此の點は考へものだ。

倉町 オープンレースの方法も色々考へられるが來シーズンまでには最も良い方法をお互ひに研究して置きたい。之

杉山 (女) タイムレースの方が實力がはつきりして良いです。

内藤 スタートの困難が無ければオープンも良いと思ふ。

矢崎 記録的にはどうですか。

内藤 スタートさえ良ければ記録も良いと言ふ。

倉町 役員間でも重大なる問題として話題になつて居るから。

安田 千五百米まではセバレットをやつてほしい。オープンの場合力が同一である場合は振り切ることが非常に困難である。

河村 オープンコースは危険もあり世界にも少いけれど石原君がオープンレースでアメリカで十七分臺を出したことなどはオープンレースのためである。

宮澤 石原君の其の時のレースには自分も一諸に走つたけれどぐんぐん置いて行かれた、石原君の滑走法は實に上手だつた。

石原 自分は滑走中に休すむことを其の時覺へた。

矢崎 オープンの場合の人員は、

佐藤恒 自分は五千米の場合七人で滑べつたが苦勞であつた。

矢崎 責任先頭を苛酷に與えた方がレースにはスピードも有り記録も良いと思ふ。

は宿題にしてほしい。

河村 では次に、シーズンオフに於けるトレーニングに付き、現在行つた人、之から實施する人等の意見をお聞きしたい。

私の経験としては、陸上競技をやつて居つた關係上、精神的肉體的方面共に陸上で鍛えて居つたが最後のオリンピック前には最もスケートのフオームに近い曲身の方法をとつた。自轉車もレースに出る程度にはやり外にテニス等もやつたが氷に乗つてから體を作ることはおそい此の點短距離の内藤君などどう考へて居るか。

内藤 曲身力を作るために陸上主に短距離をやつた。

河村 百米をどの位のタイムで走るか。

内藤 そうですね、十四秒位です。

高林清 明大ではランニング・マラソンを夏の間やり秋になつて曲身運動をやつた、ランニングは出来る丈け長距離をやつた。

高林忠 ランニング、クッション等の運動をやり初頃からは諏訪湖一週をやつた。

河村 諏訪湖一週はどの位の距離ですか。

矢崎 十六キロ位いでしょう。

河村 菅原君は

菅原 野球部に入つて居るので野球ばかりです。

河村 女子の人達もシーズンオフには良くトレーニングをして下さい、最も合理的に鍛える事が結構シーズンになつて強弱を決定すると云ひ得ますから其の點は特に重要視してほしい、體操等をもつと専門的に研究する必要があると思ふ。

自轉車等も良いと思ふが安田君どんな方法でやつて居りますか。

安田 一日五十キロ位走つて居る。

宮澤 自轉車は私も経験が有るが餘り長距離は關節を痛めることが有り良くないと思ふ。

石原 自分も自轉車は關節を痛めると思ふ、神経痛で二年休んだことがあり、ドイツのオリムピック前に東京から諏訪まで徒歩でやつたことが有つたが、之は色んな點で非常に有益だつたと信じて居る。

陸上なども良いと思ふが、強歩の程度が最も良いと思ふ。

副會長 誰か諏訪の選手で田の草取りをやつて腰を強くしたと云ふ話を聞いたが。

宮澤、石原 それも良いと思います。

兩角 今石原君から、歩ると云ふ事が出ましたが之は私なども非常に良いと思ふ、之を日常生活の中にとり入れたならば最も理想で有る。

河村 大澤君も良く歩るいた方でしょう。

大澤 長距離の場合は餘り必要で無いと思ふが短距離の場合は轉倒したりする場合が多い。

河村 アップを氷上で無く、他の方法で實施することを研究してほしい。

會長 外國ではどうして居るか。

河村 多くマツサージで補つて居る様です。

菅原 オリムピックの場合、アップは餘にやらせないですか。

河村 今までではただ、呼出しが有つてからオーバーを着て一週滑べる位の程度だつた。

宮澤 榛名の大會では豫備リンクを作つてそこでアップをやらせ本リンクでは全然滑べらせなかつたら、大部不満が

河村 シーズンオフのトレーニングは十分にやつては欲しいが往々にして過度になりやすいことも又考慮して先ず自分の生活環境と身體の状態を良く検討して實施して欲しい。

河村 コンデションの調節と云ふ點も一寸むずかしいことです。ウオミングアップの點に付いて研究したいと思ふ。

外國の選手はレース前のアップはしない人が多い。日本の選手はアップしなければ調子が出ない人が多い様ですが、昔からみんなそうだつた、みなさんの位の距離として滑つたか。

小池 レースの朝五千米位。

内藤 五千米位。

菅原 五千米位で終りの二週位をスパートする。

花岡 餘りアップを必要としない。

河村 レース直前のアップの點で少し研究したいと思ふが外國に行つては之は不可能であるから此の點次回オリムピック参加等を考える時に考慮したい、菅原君日大の水泳の古橋君等に此の點聞いて見ることも参考になつて良いと思ふ。現在の諸君は相當アップの必要が有ると思ふが今後はレース直前に氷の手入をする關係等で全國各選手のアップを認めないと云ふ様なことも有り得ると考へられます。

有つた。

河村 今日こうした會合は初めての事であり非常に意義にスピートスケート全般に亘つてお互に研究出來得たことを司會者として感謝致します。

尙參考までに世界記録と日本記録の差をお傳へ致します。

(斯くして各種目の記録對照説明あり)

會長 長時間に亘つて誠に有意義な研究が出來御苦勞様でした。

今後出來得るだけ機會を得て皆さんのきたん無い意見の交換をお願いしたいと思います。では之を以つて閉會と致します。

五百米の技術的研究

内 藤 晋

一、スタート

「用意」の合図によつて腰を落し前足をスタートラインに對し出發の號砲と共に滑走し得る方向に向け後足は前足に對してほぼ直角よりやや狭い角度開く此の際兩足の間隔を餘り離し過ぎるとスタートする時後足に力はいらなくなるから接近させた方がよい、後足の踵の線が前足の内側の線と大體一致する位に構え體重は後足のインサイドエツヂに乗せ上體は滑走時の様に曲げて後のスケートの方向に引きつけ目は前方約二、三十米邊を見る、スタートの號砲と共に後足で強く氷面をキックし前足で滑り出すと同時に上體を前足の滑走方向に強く振つて飛び出す。

二、スタートダツシユ

二、三十米邊りまで速かに一定のスピードに達する様に

短距離に於ては兎角體重の移動が完全に行はれない傾向がありその爲切角加はつたスピードに乗り切れない嫌ひがあるから上體も長距離に於ける時と同様に正しくスケートの進行方向に向つて移動して行かなければならないこの爲にはキックした脚と同じ側の肩を移動する側に入れる様な氣持で持つて行けばキックも強くなり體重の移動もよく行はれる様になる上體の上下動は腰が浮いたりしてフォームが亂れる因になるから慎むべきであらう。

四、コーナ

最も大切で併も難しい點であるから充分研究して自分のものになる様心懸けねばならない、左脚のアウトサイドエツヂに充分乗つてキックした右脚を迅速に左右前にクロクスして出した足で斜後方にキックするが此の時左脚が良く伸びきらずキックが不充分になり易いから腰及左肩を入れて良く押えキックを強くする、此の場合左足首が内側に曲つているとキックが弱くなつたり、靴の外側が氷に接觸して轉倒したりする事があるから氣を付けなければならぬ、右足のキックはストレートに於ける時と同様である。上體は内側へ向き勝ちであるがストリートと同じくスケートの進む方向に正しく向けることが重要である、左腕は肩から離さない様に腰の近くから振り前に出した時肘から下

する、その爲にはインサイドエツヂを使ひ腕を小さく強く速く振ることが必要である然し餘りピツチを上げ過ぎるとスケートの先に力が入つて氷面にささつたり、股が開き腰が浮いたりしてフォームが亂れスケーティングが不完全になりスピードを減殺する結果となるから注意しなければならぬ。

三、ストレート

スピードが加はると共に腰を更に落しアウトサイドエツヂに乗つてストロークを延ばして行く體の重心はなるべくスケートの中心よりも後方に置き脚は良く伸ばして氷面を押えエツヂ全體で強くキックする、キックした脚は前脚の膝に引きつける様な氣持で素早く戻し腕は力を入れて強く振る様にする、但し後方に餘り大きく振りあげてモーションを大きくすることは避けた方がよいと思う。

を曲げ強く止めて戻すこの時左腕が右肩の方に入り過ぎると上體が起きてしまふ、コーナりの入口に於てエツヂに良く乗つていなければ體が浮いたりしてコーナワークがよく出来ず折角ストレートで出たスピードを殺すことになる、出口に於てもそれ迄のスピードを生かしてストレートに飛出して行く様心がけなければならない、コーナりが重要な部分であることは申すまでもないがその良否は特に今述べた入口と出口に於けるスケーティング・テクニツクにかかつているのであるから充分なる研究と練習を望んでやまなう。

五、其他

以上部分的に述べたが五百米レースに於てはピツチをあげる事にのみ捉はれ過ぎると氷上を走つてゐる様な恰好になり肝腎のスケーティングが不完全となるから體力の消耗が大きい割に好記録が得られ難い従つてスタートからゴール迄一步も無駄にすることなく、一足一足を大切に良くスケートに乗つて力強くキックし滑るというスケートの原則各自のペースをマスターする事が肝要である。又短かいシーズンに備えてアウトシーズンからトレーニングの一部として屈伸運動、縄跳び等を行ひ強靱なスプリントの涵養に努力し萬全を期せられる様望んでやみません。この拙ない

文が若きスケーター諸君の練習上に多少の参考となり、石原選手の偉業を繼いで我國距離界が再び世界的レベルに到達し得る一石ともなれば幸甚であります。

(日大OP北海道スケート連盟)

一萬米滑走法

小池富治

スピードスケート中長距離レースは、滑走中氣分的にも亦技術的にもかなり餘裕を持つて滑走することが出来る。自己の最も得意とする直線及コーナー等に於ける滑走の技術と力量を發揮する事も短距離に比すれば可能性が多い。そこでレースに最も必要なものは強力なる耐久力と極めて正確な規則的ビッチの連續であらねばならない。自分の經驗を中心に滑走法に付いて若いスケーター諸君の爲に何分の参考ともなれば幸甚と考えて敢て起稿する。

大體一萬米を三分して第一段を最初の約七千米第二段を中邊の約七千米、第三を最後の約七千米とする。

第一段階 日頃かなり合理的な長距離向きの練習をして居つてもよくレースになれば、氷其の他の條件によつてフーム、ビッチ等所謂本調子が出ないものである。自己

が日頃の練習に在る確信ある意識的な好調子を早く出すことがベスト、記録への前提である以上、第一段階の前半に於て先ず整備し、正確なるフームとビッチであるや否やをラップタイム其の他に依り見出す必要があり、後半に於ても此のペースで最後まで連續出來得る絶對的確信を得る事が先ず必要である。

第二段階 滑走相手の強弱、溫度、風速等の影響に依つて一番ビッチ、フーム、ラップタイム等の亂れ易いのは此の邊であり勝敗、記録にも重大なる分岐點となるといいたい、相手が自己と同一程度の力である場合に於て、特に此の第二段階の滑走には重點を置きたい、即ち第一段階の後半よりの確信を持つた滑走により相手を引離し、二三十米の差で急迫を受けつゝ好記録を生むチャンスをつかむのもきであると信する。要するに自己の有する全力量を十二分に發揮し得るのがセパレートコースの特長である以上あへてこうした滑走法を推奨したい獨走の如き場合は只ベストを盡しての滑走あるのみである。

結論 最長距離レース故時間的にも長いし、例へばコーナ滑走等は、四百米リンクで二十五回即ち五十回のコーナ滑走があるわけで、一回のコーナ滑走に一秒づき早いと遅いとは五十秒の差の出る點考へる時決して輕視出來ない點であり、コーナー線上すれすれに極めて上手に滑走するのと、半米外側を滑走するものと秒差を數字的に考へる時、大いに慎重を期すべきものあるを信する。

第三段階 相手を引離し得た時、又同一タイムで平行の場合又獨走の如き場合等に依り各々條件は異つて來る相手を數十米引離し得た場合は之を更に引離すことに力走すべきであり、第二段階の引離し得た好調子を決して亂さない様前進又前進である。相手と同一タイムで滑走の場合双方共に疲勞も同じ程度である場合は、かなりデリケートの問題である此の場合は前からの調子で終りの一千米邊(アト二回)で先ず日頃の練習による確信あるフームで特にコーナー滑走に力を注ぎ、自ら進んで全力を傾注して相手のいかにかくわらず力走をすゝめたい。之は萬一ゴール寸前で相手にリードされても記録の點では自己の力量以上の好結果を生む可能性が多く、スポーツマンとして満足すべ

私自身の競技生活中一萬米滑走に付いては一貫せる信念として前記の如き滑走法に終始したので、その體驗をそのまゝここに記した譯である。尤もこれを若い諸君に全面的に強要することは國民體育大會のやうなオープンレースを採用してゐる競技方法もあるので好ましくないがことレースである以上策戦は當然附随すべきものであるから一應の考慮は必要のことであり、一方スポーツマンの信念としてはおくありたいと念願して止まない次第である。故に長距離レースの練習としては先ず體力と不屈の精神力、滑走技術の修得であらう。體重、骨格、身長等自分には自分の特徴なり缺點があるからこの點をよくつかんで他人と比較し

自己の個性に合致するや否やを綿密に検討すべきであらう
自己の悪い點を發見することは困難であるから、此の點
は良いコーチヤーが欲しい。氷上を極めて早く滑走するこ
ゝふことは要するに合理的滑走法であり更に頑張りであら
う最も合理的滑走法を自己の個性の中に完全に樹立する事
が氷上競技の最上の重點としたい。

私の走法

—五千、一萬米—

安田 富男

五千、一萬に於ける私の走法も練習にも次の様な事項を
特に留意して居ります。元來ロング・レーサーは内臓には
絶對的な自信を持ちまして、シーズンには距離に馴れる
事です。

五千には一萬を、一萬には二萬をと言ふ如く最少限二倍
は滑ります、そして五千は短い距離に。一萬は得意の距離
とする事です、斯様に距離を自分のものにします、其の爲
には一日に五萬米位は滑らねばなりません、そして練習時
事のラップタイムを正確に記録して、意識し乍ら滑ります、

又先輩の記録を集め之に仍つて、力の配分を研究します、
そして練習記録集の總合平均を出してラップ表を作成致し
ます。そうすると大體可能滑走タイムが出ます、其の後は
そのラップ表に依り、ラップの引上げとタイムの更新に多
角的に練習をします。然し今後新記録（世界又は日本）樹
立を畫するならば少くも五千、一萬に於ても中距離同様の
ラップで滑らねばなりません。

四十秒臺で何周、四十二秒迄で何周、ラスト・スパート
は何秒でと言ふ如く、ラップタイムと闘はねばなりません。
又途中でラップが落ちた場合等自己の體の調子と照合
して次回にラップを上げる可きか、又最後迄其の力をたく
わえる可きかを滑走中に考へます其の様に常に意識したラ
ップで滑ります、次にセカンド・ウインドですが距離が長
い爲最初無現な、ラップで滑ると必ず早く参ります、之も
各人各様で一概に云へませんが、大體に於てラップが急に
二秒以上も意識しないで落ちる時は、セカンド・ウインド
であると云へるでしょう。

此のセカンド・ウインドは練習時に常に意識してラップ表
に記入して置けば試合前に豫め準備が出来て好都合です、
そして常に、ロングレーサーは自己の力を良く知り記録と
闘ふ事です、其の爲には實力養成はもちろんの事。

力の配分と合理的なる滑走法によるロスの防止とラッ

の引上げを研究する事です、以上の事を私は練習時に注意
して居ります。

私は幸にも滑走法は日本スピード・スケート界の大先輩
河村泰男氏の直接の御指導に依りまして氏の理想とされる
ノルウェー式走法で世界のスピード界をねらつて居りま
す。走法は彼のノルウェーの天才兒バラングールド等世界
のレコード・ホルダーの走法、其のものです。非常に合理
的です、力のロスがありません。特に長距離に於きまして
は最上の走法です、然し現在の私（昭和廿三年）は未完成
ですが、之が完成致しますれば日本記録の更新も可能で
す、この走法は體重と身長を要求しますから、日本人でも
外國人並の體の人は大いに走法を研究されん事を切望致し
ます、私はこの走法で世界の氷上界を目指して居ります。
特に走法は優美性（力學的合理から）に富み力の配分が平
均であります。其の爲體全部が砲丸の様に一つものとな
り、重心は完全にスケートに乗つてゐて良く滑ります。私
はこのフォームを常に多角的に研究を續けて居ります、そ
して一日も早く自分のフォームとして、世界記録を生む可
く。ピラミッドを日々に築く如く常にスケートを念頭に置
いて居ります。

“世界のスケーターたらん日を願ひつゝ”

（明大スケート部）

思 い 出 の 競 技

スピード監督としての思出

吉 田 正 男

監督生活二十年、その大部分を外見單調に見えるスピード競技に終始して来た。この絶ち難いきずなが、根強いみわくが、スケート競技の環境に恵まれたこゝ苦小牧の地に、私の半生を固定的に安住させる結果になつたと言つても過言ではない。併しこうした事は當地のスケート協會の役員には敢えて珍らしいことではない。

一流選手のフォームをただもう鵜のみに模倣これ努めた時代勝利の歡びにのみ胸ふるわせてファイティングが外に旺盛した時代、オリンピックに遙かな夢と希望を寄せてアンビションが内燃した野心的な時代、そして更に、解決された筈のセオリーのなまが如何に科學性を有たぬ粗雑なものであつたかを冷靜に反省するようになった分別盛りとも言ふべき時代——、これらがそれ／＼その年々によ

つて組合わせ方を量的に異にしながらも、一つの螺旋狀の過程を辿つて選手と俱に私自身も又育てられて来たのだ……と折にふれて沁み沁みと考へる。

今はもう一昔も前になるがある事で、私が失意にあると考へての友情から、その頃の朝日スポーツ所載の「恵まれざる監督」という見出しに赤インクでしるしをつけて私に屈けてよこした友人があつた。いかにもサトウハチローらしいテーマを扱つたもので私に起きた問題には何の關連もなく、たゞその題目が彼の友情を私に向けさせた次第なのであるが、全く地方の監督こそは「恵まれざる監督」として人知れぬ勞苦を噛みしめるものである。スケータチングの第一歩からの指導、併しそれはシーズン毎に後繼者の爲に反覆されるのだ。やがてこれからと言う時になると、巢立

ちする鳥のように大きく羽ばたいて他へ飛翔する——。吾が子達とゆつくり過ぐす歳末も年始も勿論休暇も無い時間的なロスは初めから覺悟したことであるから別して、スポーツを通しての人格陶冶と言つた空間的なものは抽象的な理論ではないだけに堆積される苦慮はなみ／＼ならぬものである。殊に女子の場合は、年少の者が多いだけに、舞臺が大きいだけに、華やかなフットライトの照明と拍手による刺戟の影響に對しては慎重を期せざるを得ない。

畢竟地方の監督というものは、ピラミッドの土臺石に働きかける恵まれざる性格に徹すべきもので、極めて地味な勞苦の裡にひそかな悦びを見出して行くべきものではあらうが、斯うした力が擴大されないとともに、スケート界の一般的レベルの向上が期し難い一つの要因がひそむ事と思ふ時、私は後に續く人達の爲に、先づ地方監督の素描に筆をふれざるを得なかつた。

クーベルタンの言の如く大會に参加することはほんとに大切なことだ。單に技術の面以外教えられる無形のものには實に多い。

昭和十四年の一月、私は女子選手と夢の海の碧水莊に宿をとつたが、丁度隣室に、苦小牧スピード競技の搖籃時代コーチに來られたことのある潤間氏が居られた。水作りの爲に年末から此の山莊にこもつておられたのである。此の

時の大會で男子の五千米（明大の張君）と女子の三千米（當地の中川）に日本記録が樹立されたが、「新記録が生れると人夫達と煎餅を嚙つてお祝いするんですよ。」と語られるのを聞いて、地元にはかりいては馴れつこになつてゐる蔭の力には、つと打たれたことであつた。別れる時氏から贈つていた古いサイン入りのバトーンを眺めるたびに、あの時の姿が、そして毎朝氏の部屋から窓を開ける音と共に聞こえて來た愛國行進曲の歌聲が、眼に耳に今も彷彿とする。

昭和十八年の日滿對抗競技が、新京の初めて經驗する零下三十度の氣溫と大理石の様な感じの氷の上で展開された。女子選手達の内地製のスケートがアップして來たゞけでもブレードがぐにやりとするのはあわてたが、大會が濟んだ晩、勝つてもちつとも勝利の歡びが胸に込みあげて來ず、選手の部屋で獨りスケートの手入れをして廊下に出たとたん「おめでとぅ！ 長い間の苦心が報いられたね。」といきなり私の手をぐつと握つてくれたのは滿洲の監督大澤氏であつた。氏の事は前からスクラップを通して知つてはいた。然し面接したのは此の大會が最初なのである。何時私を識つてくれたのか——、輝かしい女子選手の歴史のために此の度こそはと雪辱に燃えた鐵壁の陣であつたらうに、我が敗戦は露語らず、監督のはしくれとしての遠來の田舎者の爲に、涙して慶びの握手をしてくれた氏の眞情は、

今憶うだに目がしらの熱くなるのを覚える。數多く参加させていたゞいた大會の追憶は多様であるが、頭の下がるも

のとして以上の二つの思出を溫め此の稿を結ぶ。(北海道氷上競技連盟理事、日本スケート連盟スピード公認審判員)

なつかしい思い出

稲田悦子

氷を始めて知つたのは今から十數年前私が八歳の時でした。今にして思えばよくぞやり通して來た事だと思ひ出はつきる事はありません。當時朝日ビル屋上スケートリンクの中央にはレックブラッドオリンピックに第一回のフィギュア選手として出場された中村(老松)、帶谷兩兄を始め現在東京在住の片山さんの學生帽姿、故佐藤、倉橋兄弟、北川さんなど、女子では錢高、安宅、佐藤さん等の姿も混りまことに賑か且なか／＼隆盛なもので一人がスピンをするその他の者がこれを批判、あれこれと言つて居られる姿を見て一度あゝして並んで立つて見たいものと子供心にも何か寄りつく事の出來ない隔りを感じて居りました。關西の方では土瓶の小さいのを(キビシヨ)と云われて居りますが私は小さかつたので皆からキビシヨと云われてヒヨコ／＼眞中に出て行くと皆から子供は外々と云われた事等少しも

いやな思い出としてゞなく忘れる事が出來ません。そう云う時代が三年程過ぎ始めて全日本フィギュアスケート大會に上京する事となり山王、伊勢丹兩リンクで滑り次の年はじめて芝浦リンクに出場した時の自分の姿は今でもはつきりとよみがえつて参ります。あの當時としては日本一大きいリンクにあの觀客、片山兄等は「悅ちゃんの子供だからアガリもしないでヘイチャラヤロ」と言い勵げまして下さつたが次々と増えて來る觀客の黒い頭がもう目の中一ぱいになつた時心臓が高なる事はどうしても／＼餘りいゝ氣持のものではありませんでした。當日宮様が正面にお見得になり敬禮を忘れてはと色々と頭に浮び男子の選手のアガッタ／＼と／＼して居る姿、關東側では長谷川さんのだん／＼と青くなる顔が目に入つて來ます。滑り終つて宮様に御尻向きで敬禮して歸つて來る選手にも自分の番が済む迄

は氣輕に笑へぬあの氣持は、さぞ選手生活を送られた方々は思ひ出される事でしょう。全日本前になり關東關西共に相當激しい練習を續けますがその中でも關西の女子は中々大變な事でフリーのプログラム内容や、レコード等ひそかに伺つて見たり、案外自分の音楽が同じ曲だつたりしてがつかりしたりして居る中にたま／＼歸阪した者より關東の誰々は凄いと聞くとジュニヤー級の選手方の練習にも勢がつき自分は誰々の次にはくい込むぞと意氣盛んな事でした。上京する時、歸阪の時、俱樂部の人の見送り、出迎え等今にして思えば随分派手なもので知らぬ世間の人に興業師の様に思われたのも無理はなかつたと笑ひが浮んで参ります。何しろ今から思えばあの頃は物價も安くて濟んだ様でした。幼少の頃より選手生活に入つた私は眞の選手生活に入らうとして現われた幾多の流星にも接して來たものゝ昔

二つの大會

長野富子

——榛名——
何と言つてもいちばん印象に残るのは、榛名湖で開催さ

れた「第十三回明治神宮大會」です。私としては、こうした晴れの大會への出場は苦小牧、八戸と僅かに二回しか経

験がございませぬ。参加女子選手二十餘名の殆どが斯の道の先輩ばかり併も此の大會の成績によつて、日滿對抗に派遣される四名のメンバーが——詮衡されるのです——。でも小さい時からお世話になつてゐる監督の吉田先生にいつものように、一切を任せきつた氣持から、附隨的な不安や焦躁はいさゝかも感じないでんびりと大會を迎えたのでした。

體も、氷質も、天候も……コンデションは上乘です。どの種目にも私としては最高のタイムばかり記録することができました。残るは三千米——、これは私の最も好きな種目です。

改めて先生にベースについての御注意を受け、お友達に激勵されて、滿洲の堀池さんとスタート・ラインに立ちました。湖畔をめぐる山々にこだまする號砲一發、私にとつて生涯忘れられないレースのスタートが切られました。幸か不幸か中半からは殆ど獨走同様になり経験の浅い私は、たゞラウドスピーカーから聞えてくるラップタイムを頼りにストロークをのばしておりました。鐘が鳴つていよいよ残るは一週四百米だけ、バックストレッチに出てピッチをあげ始めた私はコースをクロスしなかつたことにふと氣がついたのです。はつとして第三コーナーの入口でブレーキをかけ、あわてゝターンしながらチェンジしたのでした。

「宿命の三千米」と言う結果になりましたけれどあの時の先生のお言葉を有難く思うと共に、繩手さん始め滿洲の方々が今頃どうしておられるか御無事を祈らずにはおられません。

盛岡

シーズン當初に不注意から病氣になり「今年一年だけ大會に出るな、一時的なアンビションや、周囲の情實に捕われて、將來をだいなしにしたらどうする」と先生に激しく言われて選手を断念した私は思いがけなく監督の一員に選ばれて今年の盛岡の大會に行かせていただきました。私のようなものをと全く感謝の他ございませぬ。

監督と言つても一切は總監督の吉田先生が當られ、その他に尙二人の監督が居られて、私は殆ど名目ばかり、而しそれでも選手をしていた時には到底氣の付かなかつた苦勞のあつた事が始めてわかり、レースにだけ専念できる選手の皆様をしみ／＼（美ましいな）と思つたことが幾度あつたか知れませぬ。

殊に女子の選手（昨年までは自分もその一人であつたのですが——）をまとめていくと言う事は、なか／＼の事だとか／＼と感じさせられました。今更の様に先生の御苦勞を考えさせられた事でした。来るシーズンを目ざしている私にとつて苦痛でしたがこれはまことによい経験であつ

が——。後の二百米はもう夢中です。ラストスパートなど思いもありません。たゞぼうつとしてまるで意識を喪失した者のようにゴールインいたしました、そのうちに胸が一つはいになり、目がしらが熱くなるのを覚えました。

此の時の記録は六分六秒四で一位の野澤さん、三位の佐々木さんの間にはさまつて神宮記録となりましたが（何と言つて先生にお詫びをしたらよいやら）申譯なさで生來のんき者の私も此の時ばかりは溢れ出る涙と共に消え入りたし思ひでございました。

「此のラップタイムで」あの失敗がなかつたら當然日本記録となつていた。綜合では僅か〇・三五の差で選手権は繩手さんのものとなつたが此の失敗さえなかつたら——。然し過去の経験と努力から言つて繩手さんが選手権を獲た事は祝すべきだと先生は思ふな。君はこれからの人だ。僅か三年目で選手権を占めるなんて蟲がよすぎる。將來の君のために、此度の失敗は單に競技のみならず人生のよい経験だ。

宿舎に歸つてから先生にじゅん／＼とこうささされた時、あたつてゐる炬燵の暖かさと共に、始めて胸中がほのぼのと明るくなるのを覺えたのでした。

明日から來年こそ！と新たな希望で又燃えたつた努力も、戦争の爲に一頓坐して選手権への夢は遂に果されぬ

たと、今ではかえつて喜んでおります。

高松宮様をお迎えしての高松池の大會の雰圍氣は、たとえ名ばかりの監督である私にとつても胸の高鳴る感激でございました。

會場の環境も私には實に氣持よく感じられ、各府縣相競つての多數の参加、殊に長野縣や青森縣の女子選手の方々の活躍——量においても質においても戦前に立ち直ろうとしてゐる氣魄が感じられた事も又、私にとつて大きな喜びと收獲でございました。

それに引きかえて北海道女子選手の低調は重苦しいものでした。盛岡には先輩坂本さんがおられます。いつに變らぬ笑顔で私達を勵まして下さいましたが、此の方々は來る年毎に春以來積まれた血のにじむトレーニングの努力の跡を、或は又先生と共に一里の道を遠しとせす氷を作つては勵まれたシーズンの辛さを今こそ私共は改めて思い出すべきだと考えました。之も又監督と言う立場におかれたからこそ氣付くことの出來得た貴重な反省であつた事と存じます。（北海道スケート連盟）

第一回選手權大會回想

大澤義一

昭和五年一月十一日八戸で開かれた第一回全日本スピード・スケート競技選手權大會には満洲から選手を送らないことになつたので安東から木谷、石原、吉岡の諸君と私の四名は僅かな旅費を無理して満洲體協に無断で参加した。私達は此の大會が全種目セパレート・コースのタイム・レースによる日本で初めての選手權大會であり、世界の檜舞臺に出る爲に、經驗をしたかつたのと、長い間の精進努力にも拘はらず餘りにも隔りのある世界記録への接近を一心に念願したからであつた。鴨緑江の結氷が年末の十二月二十日頃であつたらうか、練習する間もなく明るる正月二日準備もそこへ出發した。申し合はせたとように奉天から河村、小池の兩君が同じ列車に張り切つていたので一行六名となつた。皆んな夫々スケート及ユニフォームを入れたボストン・バッグ一個の輕装、いでたちは背廣にジャンパー、ルパシカも居れば學生服もあり、と云つた形。満洲の

野育ち許り、監督が居る譯でもなく又世話をし呉れるマネージャーも居ない無鐵砲な面白い道中だつた。廣い満洲から朝鮮を一直線に南下し玄海灘も何うやら無事越えて暖い山陽線に入れば青色一色の春景色、スケートの事等忘れて移り變る窓外の繪の様な景色に見とれたものだ。只心配に思つたことはスリが多いから注意する様に散々聞かされていたので車中の人が皆んなスリの様に思はれて少い懷中に不安を感じたものだが今から考へるとおかし。汽車や船の中では澤山喰べれば酔はないと教へられていたので盛んにパクついた。

あこがれのめまぐるしい東京では赤毛布丸出しで随分緊張して歩いたものだが木谷、石原、私の三人は知つたか振りをして市電に乗つた迄は好かつたが、旅の疲れで居眠りしたのと降りるところが解らないので、長時間同じ所をグル／＼廻りして遂に終電車まで頑張り車庫入りまで乗りつ

づける大失敗をした。

八戸の室内の寒いことは充分覺悟していたものの、暖い室内生活に慣れ切つていた吾々にはとても苦しく、スケートのエツヂを研ぐ時等手がかぢけるのには閉口した。又炭火の身體に悪いことを聞いていたのでコタツも火鉢も火の氣なしで頑張つたのだから餘計ひどかつた。それだから室内にいるよりも外の方が暖いので中は殆どリンクに出掛け練習をしたり遊んだりしたものだつた。こんな寒い毎日の生活に練習後の一風呂は何んなにか疲れを休めるに好いもので、今なら吾先にと飛び込むのであらうが、一番寒むがりの石原君と私は風呂に入ると折角鍛へた筋肉が緩む等と云つて寒い風呂場を思ひ浮べては入浴する氣にもならず眞黒な顔をして頑張つた。木谷君一人はユウ／＼と入浴していたがさすがと今でも感心している。

八戸に到着して何日も経たない或る日満洲體協から代表として認めず直ぐ歸れと云ふ様な意味の電報が着いた。あはてた吾々は電報を眞中に額を集めて額を見合はせた。アツ氣にとられた皆んなの顔を思ひ出すと今でも噴き出さずには居られない。構はず出場すべしと云ふ強行意見もあれば出場すれば必ず判ることだし、判れば歸滿して調子が悪いぢやないか、と云ふ者もあつたが大體に於て出場に断念せざるを得ないと云ふ空氣であつた。それでは着いた許り

だが直ぐ引きかへすかそれ共何うせ來たのだから試合に出られないまでも試合を見て歸らうか等話は仲々一氣に纏らなかつた。兎に角仕方がないぢやあないかと云ふことで皆んなカフェーに出かけた。特にカフェーに出かけなければならぬことはなかつたのであるが、リンクしか知らない不案内の吾々には一番目につき易かつたからだ。吾々は多愛もないことに打ち興じていた處へ當時八戸高女の校長でありスケート協會長をして居られた三田先生が飛んで來られて、諸君の氣持はよくわかるが決して自棄を起してはいけない、必ず出場出来る様にすると熱心に説かれたのには、何も自棄を起している譯ではない私達にはくすぐつたくて仕方がなかつた。兎に角出場問題については會長さんに御願ひして練習を續けることにした。

練習は別に定つた方法とてなく、思ひ／＼各々の調子に合はせてやつた。尤も平常鴨緑江の練習も一諸に滑ることは稀だつたのであるが今シーズンには殆んど練習する間がなかつたので、特に長距離に自信がなく、速成法として一日一回は五千米か一萬米を一團になつて滑ることにした。

試合も間近い或る日の早朝、練習歸りの小池、河村の兩君(奉天の兩選手は旅館が別だつた)に大聲で呼び起された。何事ならんと窓から見下せば今朝河村君が五百米を四十八秒で走つたと云ふのであつた。當時の日本記録五〇秒

八に對し餘りにも一足飛びの大記録には全く驚いたものだ。距離が短いのではないか、イヤ氷が滑るから出るよ等々と勇躍歸り行く彼の後姿をながめ乍ら話し合つたものだが、異状な緊張感に打たれた。練習タイムではあるが四十秒臺を出したのは之が日本で最初だつた。

半分あきらめていた試合出場も満洲體協からの許可電報に吾々は更めて出場の緊張をヒシ／＼と身に感ずるのであつた。各地の選手も殆んど集まり大會気分は最高潮に達した。丹念に磨かれたスケート。奇麗にたゞまれたユニフォームが床の間にかざられ試合を迎へる大會前夜の静かな氣持は又となく清々しい。當時のリンクは一周五百米のセパレート・コースで出發線と決勝線は同一であり、第一コーナーより前約二十米位のところだつた。

それで、スタートと直線の走法に重點が置かれていたのでコーナーは直線の情性で走る幼稚なものだつた。競技は油氷と天候に恵まれ各種目共日本新記録の續出だつたが中でも五〇〇米では先づ安東の吉岡君が日本新記録を出してニュース・カメラの一勢包圍を受けるや、この記録は次走者の私が破り、又私の記録は河村、木谷兩君によつて破られカメラマンを大いに狼狽させたのは面白かつた。石原君は第四コーナーで竹箒の干切れを踏んで惜しくも轉倒棄權したが再競技し獨走遂に四十七秒六を出し世界記録への希望をつなぎ得たことは大きな收獲だつた。各選手の建闘ぶりはタイム・レースの關係上、自分のレースを終れば直ちに宿に歸つたので殆んど見る事が出来なかつたのは残念に思つてゐる。此の遠征中特に愉快であつたことは小池君の長男が出生し命名に吾々一同が協力したことであつた。何んな名をつけたら好いか皆んな頭をひねつた末、オ父さんが日本一の一萬米選手であり、小池と云へば一萬、一萬と云へば小池選手を想起するところから一萬と命名することに一決した。後滿洲にちなんで一萬を一滿にしたとか後で聞いたのであるが。又吉岡君が新婚早々で奥さんからの激勵の手紙を讀み上げて羨せがらせたり、くさらせたりしたのも昨日の様に吉岡君の明るい紅顔を懷しく思ひ出す。今も木谷君と共に消息不明であるが無事引揚げて居るとすれば又會つて昔を語り合ひたいものだ。

十年一昔と云へば丁度今から二昔も前になつた。氣分だけは一寸も變つていないが年をとつたものだと思ふ。この遠征を契機として滿洲から毎年全日本選手權大會に参加することとなつたのは嬉しい。あれを思ひこれを思ふと思ひ出はつきない。過ぎ來しスケート生活が懐しく想ひ出されるが。近いオリムピックに日本が参加出来る日と若いスケイターの健闘を祈願して擱筆する。(早大OB青森縣スケート連盟)

選手權想い出話

河村泰男

今から十八年前青森の八戸で舉行された第一回全日本選手權大會のことである。その年度の全滿選手權大會は全日本の後に行はれる關係か滿洲體協は選手を八戸へ派遣しようとはしなかつたので當時奉天の氷上を守つていた小池富治君と私の二人は八戸行を決意して旅に出た。私達の乗る汽車が安東に着いたとき木谷徳雄、石原省三、大澤義一、

吉岡正隆の強豪諸君が盛んな見送りの中に乗込んで來た。安東勢も我々同様オールジャパンを襲うべく出掛けるのだ。安東から吳越同舟の旅が續けられた。我々スケイターには心懸けの悪い者は絶対にいないが、船車の乗降にトレーニングシャツにだぶ／＼のズボンと云つた姿が兎角見張りの刑事諸公の神經を刺戟してか關釜連絡船の乗降の際には選手中の誰かゝ必ず咎めの綱にひつかゝるが、そのときも案の定安東選手の誰だつたかが通路の横に呼び止められ、スケートの遠征で全く關釜の通過程今から思つても不

愉快なものではなかつた。山陽線、東海道、上野驛と愉しい旅を續け夜明の暗い尻内驛に下車、タクシーで八戸へ乗り込んだが、旅館だけは別々にとつて四日後に迫る大會への最後の對策を練ることになつた。

ところが大會三日前の日たつたか突然滿洲體育協會から「センシユケンタイカイサンカミトメヌカヘレ」と云う同文電報が我々滿洲選手に届けられた。詰り統轄團體の滿洲體協に一言の挨拶もせず無斷で内地の大會に参加することがいけないと云うことらしい。しかし開催地元は勿論のこと主催者の大日本スケート競技連盟結成最初のオールジャパンに我々滿洲組の萬一の不參は重大異變を大會に與へるものとして我々以上に驚き大會出場承認方の電報を遠く滿洲へ打つて貰ふことにしてその返事待つた。諏訪、朝鮮も續々と集り八戸の長根リンクは、いやが上にも大會氣分に満ちているが我々滿洲勢はすつかり腐つて了い中には引

揚げようと思う者、断じて出場すると云う者など不安な時間を徒費していたが、幸に出場オーケの返電が舞い込んで来たので不安は解消し勇躍大會に臨むことになった。

大會前日の朝七時頃だつたか小池君と二人切りで長根リンクで五百米のタイムを秘に計測して見ると私は四八秒七の好記録が生れたのですっかり喜んで自信を得た。リンクからの歸途安東勢に出逢い四〇秒臺で滑つたと告げたら眼を丸くしてリンクへ急いで行つた。

我々の過去の選手生活で忘れられないものゝ一つは大會前日の晩の緊張感である。

長根リンクの水は滿洲の氷質と違つて不純物の少い全くの油氷であるから八戸に乘込んで以來一度もスケートのエツジを研ぐ必要はなかつたが、流石に明日の大切なレースにと心行くまで研いだ。そしてその愛用のスケートと紺色のニューホーム、タイツ、靴下、サツポーター、手袋に白鉢巻を部屋の間際にきちんと供へて眠りに就いた。

大會は遂に來た。東北の東の端の一都市、八戸の氷上に權威ある第一回の全日本選手權のレースが展開されたのだ。もう奉天だとか滿洲だとか考へて居れなかつた。そして只今日まで練習し續けて來た自分の力を頼りにベストを盡して好敵手と取組んで滑つた。優勝候補の石原君(安東)が最初のレース五百米第三コーナーで轉倒し長蛇を逸して

了つた瞬時が今日も明瞭と私の眼底に残っている。又鴨綠江のカチ／＼の天然氷を蹴るのと同じスケーティングで軟い油氷を終始滑つた木谷徳雄君のフォーム、それから五百米レースで安東の大澤君か吉岡君だつたかがクロツシングゾーンを兩腕を腰に組んで大きなトレースで滑つたこと、最後の二千米リレーで朝鮮チームが失敗してリンクで聲を出して泣いたことなど數々の想い出が生れてくるが選手權の大勢を決する最後のレース一萬米レース中腰が痛み出し唸り乍らやつとフィニッシュに飛び込んで上體をのばした時の腰の痛かつたことは私の競技生活中この時が一番辛かつた。

會期二日共に天候は晴天に恵まれ、アイスコンディションは油氷に保たれたが、多少會場施設等改害の餘地があつたように記憶に残っているがしかし東北の僻地と云へば八戸には失禮だが、この大會を卜して一躍有名隨一の戶外スケート場として全國にクローズアップしたことは開催地元の大會に對する献身的盡力に外ならず更に大會の成功を裏づけるものとして次の公式日本新記録の樹立されたことを述べて氷上日本が二十年前に示した力を、今日滿洲と朝鮮の優秀な水域を喪失したスピードスケート界に紹介してこの想い出を終る。(日本スケート連盟公認審判員)

樹立された日本新記録(六個)

五百米(タイム・レース)

四八秒〇 木谷徳雄(安東) 四九秒〇 河村泰男(奉天)

千五百米(タイム・レース)

二分三九秒四 石原省三(安東) 二分四二秒八 木谷徳雄

(安東) 二分四三秒七 河村泰男(奉天)

五千米(タイム・レース)

九分四二秒六 石原省三(安東)

(日本スケート連盟スピード公認審判員)

滿洲氷滑會出場記

宮澤留十

昭和三年大日本氷上競技聯盟が設立されて第二回選手權大會が翌年二月二日三日滿洲鴨綠江リンクに開催された。内地からの出場選手は早大スケート部と小池富治、濱一正、閨間留十、閨間正見と決定し早大部員は奉天大連等と競技をするため柳澤、青木兩君引率してさきに出發する。吾々四名は一月二十日に上京飯田洋二氏宅に迎えられ盛大な送別會を開かれ二十一日四名にて出發遠征の途についた。

これよりさきに大正十四年大毎主催で我々を滿洲スケート會に派遣することに決定したが大正天皇がおなくなりになつて中止となり、國外遠征はこれが最初であつた。滿洲選手の實力はこの前年木谷、大澤、佐川、多田の四選手の

諏訪湖遠征でようやく知られてゐた。二十二日夜下關着、玄海の波にもまれて習朝釜山に上陸朝鮮鐵道にて一路安東に向う。車中にて岡部平太氏に会い、滿洲スケート界の近況を知る。途中無事二十四日目的地安東に到着木谷、大澤、石原の諸選手を初め滿洲氷滑會の人々に迎えられて宿舎元寶館に着く。さすがスケート都市として知られる安東にはすべての點において驚くのみ。旅の疲も忘れてスケートをもつて鴨綠江のリンクへ行くと、安東側に造られた五百米シングル・トラックはこの地名物の風強と土ほこりを防ぐために周圍をアンペラでかこんである。コースのラインは木釘を氷にさし込み、氷面に三十センチ程出してある。

早速トレニングをする。第一に氷上に立つて氷質の堅いことに驚く、次に寒さの内地とは比較にならぬ寒さである。リンクを一週して見た最初の感じは、諏訪湖育ちの我々は瀬戸物の上を滑る様に思われれる。それに木釘のポイントが非常に恐しく感じる。

満洲には雪がほとんど無いので強風に乘つて秒ほこりが氷上に舞い込み大切なスケートエッジがなくなつてしまふ。當時使用していたスケートはヨーロッパ製ではあつたがクリスチヤニヤと云つてサイズも二十八番と云う長い物であつて東京の運動具店には大がいが輸入されていた。それにエッジをつけるスタンドなどは無くオイルストーンでむやみとする程度であつた。今一流スケートのハーゲンやマチゼンそれにバラングルードなどを見る時、當時の品は正に二三流品であつたのである。それにスケートを靴に取附けるのにも左右とも中央にのみ置いてゐた。練習四日目間間(正)がリンクのポイントの木釘に足を衝突二ヶ所の骨折により病院に入院する。二月二日の競技會は快晴にめぐまれて開始一日五百米と五千米共に満洲選手の一人舞臺、當時朝鮮選手はスケート技は發達せず参加者も成績は悪かつた。二日目の一萬米で内地の小池君初からトップに出て善戦、最後に破れて等外に落ちたがその實力は一般から稱揚された。レースには破れた内地軍も満洲ス

ケート界に接して得た幾多の経験によつて將來の光明をあたられ大きな希望裡に閉會式に立つた。大會終了後満鐵の好意にて全線のパスを受け同行の宮下美村氏と小池君の三名で奉天に行く。アイス・ホッケーで知られた醫大のリンクで練習をする。市内にノダ運動具店と云うのがあつて當時我々の見た事もなかつた立派な靴附きスケートがあつた。何かと聞くとノールエーのハーゲンだと云う。サイズも自分に合つていたので早速もめリンクへ行つて滑つて見るとどうもうまく滑れない。不思議に思つてブレードやエッジを見ると自分の持つていたスケートよりロツクが非常にカーブしている。その頃の自分等のスケートはロツクは全然なく平面なのであつた。直ちに店へ行つてグラインダーで平面にして滑つた。今から思えば大笑いな話である。翌日大連、旅順のスケート場を見學して安東に歸り一行五名で歸途についた。途中京城に立寄り漢江スケートリンクに朝鮮選手と會する。京城と漢江のスケート熱の盛んなのに驚嘆する、内地に歸つて見るとまだ諏訪湖に氷がはりつめていたので此のハーゲンスケートで約一週間練習した。

昭和六年一月諏訪湖上に開催の全日本選手權大會の五千米と一萬米に日本記録を得て翌七年アメリカのオリンピックに出場の榮を得たのも此のスケートである。思えば満洲

遠征と奉天でもとめたハーゲンスケートは私の生活には一生忘れられぬ思出である。(長野縣スケート連盟、日本ス

ケート連盟スピード公認審判員、前オリンピック選手)

思い出の札幌大會

砂田重民

『誰か二人だけ二等に乘せてやるぞ』

風の冷たいお正月、上野のブラットフォームで、Kマネーデヤがどなつてゐる。一九三八年(昭和十三年)全日本選手權大會々場たる札幌への出發だ。前年度の覇權を握つてゐた我々は、官家の御紋のついた大カップを持つての遠征であつた。當時の常識としてまた驛よりの申出でカップは二人の部員を付添ひとして二等車で輸送することゝなり、赤切符の學生二名大カップの威を借りて得々と二等車に納まることとなつたのである。スケート競技のカップは、ケースに納めると優に四尺以上あり、上野驛でも青森の船への乗り換へにも又函館でもその重量は、既に一通りのホッケー用具をかくえ込んでゐる我々に相當なお荷物でもあつた。この様に苦勞して遠路はる／＼持つて行つたカップ

を、當時の好敵手早稻田大學へ見事に分捕られてしまつたのだから誠に御苦勞様な輸送係りの任務を遂行したわけだ、『東京で先に早稻田へ渡しとけばよかつたな』とは大會後某先輩の言であつた。

オリンピック東京招致成功に冬季大會は北海道と決まり、スケート競技の豫定會場となつた札幌が、豫行演習的行つたのがこの年の全日本選手權であつた。中島公園裏の陸上競技場に水をまいて凍らせ、選手の胸まである高いフェンスをこの上に立て、戸外でのホッケーリンクとしてそれは我々の経験した事のない立派なものであつた。もつとも水が薄かつた爲め準決勝頃から、所々穴があいて下の土が出ると云ふ不都合もあつたが、これはこれでオリンピック開催迄の研究に待つことゝして一應成功した大會で

あつたと思ふ。

當時のホッケー戦は秋の五大リーグ戦を開幕として、年があけてからのインカレ、全日本、神宮、この四大會が我々の目指した目標であり、この年度はリーグ戦に立教、インカレに早稲田と夫々優勝、早立一勝一敗の後を受けてこの大會に臨んだのであつた。いさゝか我田引永的かも知れないが、この大會前後の三、四年が我國のホッケーの最高水準を示した頃と思はれる。インドアリンクによる豊富な練習量を持つた大學チームは勿論、新京商業、苫小牧工業の中學校チームも實に優秀なプレーヤーを持つてゐた。現に此の大會では、大學中の強チーム明大が苫小牧工業に一敗地にまみれると云ふ大番狂はせがあつた。一般的に云つて大學チームは輕快なホッケーを、實業團及學生は強引なホッケーをやつてゐた。あの頃のこの明大の敗退は我々に非常な刺激となり、特に當事者たる明大がこの三四年後に確立した黄金時代のチームプレーは、この苦き良藥が相當にあづかつて力あつた事と思はれる。

鼻がちぎれる様に寒い一月末の札幌で、宿の部屋の中は眞赤に焼けたストーブのおかげで選手連は浴衣一枚でステイックにテーブを巻いたり、エツジを砥いだりしてゐた。階下の廊下でワーワー大騒ぎをしてゐる聲が聞えるので行つて見たら前述のカップの大箱を二三人の惡童達がかこん

で箱のふたを開けやうと一生懸命。

『Oがこの中にあるだよ。』との事にびつくり、カップを出した空箱にOデイフェンスがふざけて入つてふたを閉めた處が偶然にも鍵がかゝつてしまひ、鍵の保管者K君はお茶を飲みに出掛けてゐて不在。

『ほつとくとOが窒息してしまふ』K君を迎へに行くやう大騒ぎ。すぐ近くでK君が発見され急いでふたをあけた時足を折つて箱中にネンネしたO氏の格構は今もつて忘れる事の出来ない合宿ナンセンスではある。が、この縁起でもない珍事の直後、YGK高熱を出して入院、馬力マンTデイフェンス又風邪發熱のため病臥と云ふ誠に縁起でもない事が立教チームに災ひした。

準決勝で苫小牧王子を破つた早大と、日光、苫小牧工業を破つた立教が決勝戦で相見える事となつた。決勝ともなれば、防寒衣に身をかためた地元ファンの觀衆もなか／＼多い。空は今にも泣き出しさうな重苦しい曇天、山の方は降雪でもあるかかすんで見えない。リンクわきでマネーヂャーの練習開始の聲を待つてゐた小生の側で何か氷がカタ／＼と小さな音をたてゐる、何だらうと見ると、病臥不出場のYGKの穴うめ、即席キーパー氏のスケートの邊りからこの音が生れてゐる。即ち満足にキーパーの練習もしてゐない彼氏カン／＼にあがつておりふるふる足のス

3-1で惨敗の憂目を味はつたわけである。

小生の選手生活中これ程むづかしかつた試合は他に無く、自ら文字通り惨敗と云ふ感を持つた。かくして東京へのカップ運搬の大役は早大と云ふ事になつたのである。

スポーツの思ひ出話と云ふものは定石としては勝試合を書くものと思はれるから最後に一筆書いて置きたい事はかくて二對一と優勝成績を早大にリードされた後、東京芝浦での神宮大會決勝に四度目の對早大戦を持つた我々は札幌大會とは逆に完勝の快感を味はつたのであつた。

(立大OB東京都スケート連盟、日本スケート連盟アイスホッケー公認審判員)

一萬米レースの思い出

小池富治

第二回全日本氷上選手權大會、場所滿洲安東縣鴨綠江上、五百米リンク、昭和四年二月二・三日兩日、天候晴、氣溫零下五度前後、風速強、われ戦に敗れたるも悔無し。

私の氷上選手生活の初歩、正確に云へば十九年前の日記

の一片に斯く記して有る。此の大會に内地代表として松原湖の豫選に選拔され潤間兄弟と濱一正君の四人で諏訪の田舎から東京の送別會を経て關釜連絡で海を越へて海外遠征の第一歩を踏み出したのである。そこで大會中自分の得意

とする一萬米レースに於ける想出を主に記して見たいと思ふ。

當時内地、滿洲の水上昇は未だ中央の統制的組織體團も完全でなく選手達は世界の記録を參考として精進をつゞけ漸く躍進の第一歩をふみ出したばかりで全日本大會と銘を打つてスタートしたのではあるが今考へれば競技會の運行等も幼稚だつた、前年即ち昭和三年滿洲より木谷、大澤、多田等の海外選手を初めて諏訪湖に迎へての對抗戦も滑走術に一日の長有る滿洲軍の全勝と云ふことで内地軍は惨めを極めた。然しスピードスケートの滑走にアウトエツヂ使用と云ふ新知識を得た事も此の年からであつたと思ふ。云わば大きい轉換期でもあつた譯だ。此のシーズン自分は入隊中で参加出來ず誠に残念であつた。こんな事情で鴨綠江遠征滿洲軍との對戦は自分にとつては初めてでありまた初の海外遠征でもあつて戰鬪的決意又大いなるものがあつた。

當時内地代表として吾々四人の他に早大の牧、小西、小口、牛山、及フィギュア選手に柳澤(故人)、西川、金子、久保の諸氏の名がプログラムに載つて居り、役員中に岡部平太、木谷辰己、林田學、小口孫六、青木末弘、兩角政人の諸氏いづれも我が國スケート界育成に盡力された人々の記載を見、現在その面影を思ふ時實に感慨無量である。尙我

三着 大澤、十九分五十七秒三

四着 小池、十九分五十八秒二

こんな結果で終了したが自分として最も主力を注ぎ且自信を以て参加したゞけに又選手生活に入つた第一回の試練の大レースであり大熱戦をしたゞけに、實に二七年後の今日尙當當時のレースを想ふと胸おどるものがある。取組んだメンバーも名實共に當時の一流選手であり、戦前の決意は、善戦敗れても悔無き信念を以つてスタートに立つた。

スタート同時に直ちに自分はトップに立つた一回、二回と回を重ねつゝ誰にもゆすらじと懸命に先頭持續に力走した。後にびつたりと石原、木谷、大澤、河村の諸氏が交互に續いて居る。九回十回あたりから後の一團を引離すべく頑張る。希くば二三十米の差を付ける事が大切である。頑ても、離れない、後半に入つても直線路に於て多少引離し得るとも、コーナーを出る時には再び元の態勢に戻つてびつたりと續いて居る。残念乍ら之を繰り返し繰り返し十九回を完全に終つていよいよ最終回に入る。第一コーナーを完全にトップで抑へ得てバックストレート線内に入るや後方の一團猛烈なダッシュを開始して自分を抜きにかゝつた。

抜きつ抜かれつ第三コーナーから第四コーナーを出る時、石原、木谷、大澤の三君に抜かれて相前後してゴールインした。萬事休す。記録は前記した通り前年度記録を約一分

々の遠征に際し現に長野縣連盟の役員として活躍している宮下今朝恵氏が終始監督として實に献身的に協力されて、此遠征の目的を完遂せる事、又大會前僚友潤間正見君が練習中にコーナーで轉倒して足部を負傷し大會参加を斷念せる事も忘れ難い思い出である。

滿洲スピード陣の代表は石原、木谷、大澤、池見、河村、鹽谷、吉岡等後年我國氷上界の第一人者として活躍せる人々であつた。諏訪の比較的氣溫の高い軟質の水に育つた自分にとつて鴨綠江の寒さとガラスの如き感じのする硬い氷はなかく、制し難きものがあり十餘日の練習期間中連日研究に苦心があつた。自分の主力は五千米及一萬米であり特に一萬米の長距離レースにはかなりの自信を有して参加したものだつた。

競技方法は五百、千五百米は二人宛、五千、一萬米は十人程にて組み全部オープンレースであつた。自分は五百米を木谷君と組み、木谷君五四秒、小池五九秒、五千米を石原、長沼、小西、崔外數名と組んで石原十分一秒、小池十分七秒、千五百米石原と組んで石原二分五五秒八、小池二分五九秒、一萬米、木谷、石原、大澤、池見、河村、牧、潤間兄と組み、

一着 石原、十九分五十七秒 二着 木谷、十九分五十七秒二

破つて新記録樹立と云ふ感激のレースであつた。レース半ばより遂に後續列を引離し得なかつた事が残念で、でならなかつた。たゞ最後の回を迎へるまでトップに立つて力走し得たことが自分のスポーツ生命に満足感を與へて呉れた。

後年日光細尾のリンクで早大の李君と組みセパレートコースで一萬を走り、レース半ばより引離しに成功して十九分四秒の當時の日本記録を生んで時及び諏訪湖で千五百米に潤間正見君と組んで二分三十五秒の日本記録を生んだ時も、レース半ばの引離しに成功せる結果である事を想ひ出す。

斯くして滿洲、朝鮮、内地と三つに組んで、二十年前から或る時は征き或る時は迎へて、互に氷上日本を世界的レベルに引揚げるべく懸命なる努力を續け、アメリカに歐洲各地に遠征を實現して遂次目標近きに迫つたまゝ戦時を経過してこゝに滿洲、朝鮮共に失つた現在、いかにして再建氷上日本の目的を完遂するか、多難なりと感じつゝも萬難を排しつゝスポーツ信念を以て敢て邁進せんと各位の御協力を希ひつゝ想出の記を終る。

(日本スケート連盟理事)

レークプラシッドを語る

オリンピック回想

佐藤昌彦

一九三二年の冬季オリンピックはアメリカのレークプラシッドで開かれた。レークプラシッドはニューヨーク州に在つて、ニューヨーク市から北に當時の汽車で五、六時間の所である。此の一文は想い出話で記録ではないから、何を書いても差支えないであらうと思つて、勝手に書き加して貰う事とする。此の大会で私がその後考えて最も大きな想い出とするのは、ルーズベルトと會つた事である。ルーズベルトは勿論大統領であつたルーズベルトであるが、當時はニューヨーク州の知事であり大会の會長であつた。大会にも来て居たが、或夜、各國の代表を招いて晩餐會を催した。私はそんな時のためにとわざ／＼用意したタキシードを着込んでその上タキシードに乗つて會場であるレークプラ

シッド・クラブに乘込んだ。ルーズベルトは息子と共に立つて居り、各國代表の一人一人と握手しをして一人一人に何か言つた。私に對して言つた言葉は何んであつたか私は忘れてしまつたのは残念の次第であるが、とにかく外交的な遠來の客をねぎらう辭禮であつた事は間違いない。之は彼の笑顔からも確かである。之に對して私の言つた言葉は、「サンキユウ、サア」丈けであつたのは、今考へると残念の次第で、大いに辨じておけばよかつたと思うのであるが、今は何とも致し方がない。私はルーズベルトが大統領にならうとは知らず、又戦争が起らうとも考へて居なかつた。夫を知つて居れば何とか辨じて置く所であつた。ともかく彼の態度は大政治家がスポーツマンに對する

ものゝようではなく、親しい友人と言つた感じをあたえたものであつた。彼が魅力のある人間である事には間違いない、之は政治家として彼の成功の一大原因であつた事は確實であると思はれる。

私はガルミッシュの大会を知らないのであるから、ヒットラーが果して出席したか、出席したとしたら選手にどの様な態度をとつたかは知らない。それはともかくレークプラシッドの大会でルーズベルトが主要な役割を果して居た事は、まことに興味のある事であると共に、人間の運命の

まことに知るべからざるものである事を教えるのではなからうか。之は何もスポーツに限つた事ではないが、オリンピックの様な國際的な競技は一種のお祭りであから、純粹なスポーツマン以外の人が之に關係してくる場合が多い。此の様な機會に此の様な人々と接する機會を持つ事は、スポーツマンに許された幸運であると言ふ事が出来る。日本が再びオリンピックに参加出来る日が一日も早く来る事を祈つてやまない。(東大OB、前オリンピック監督)

レークプラシッド

河村泰男

軍閥華かなりし頃の滿洲事變直後、在郷軍人だつた私は十一月中旬に二度目の警備召集を受けたとき今度は何時我が家へ歸れるか分らなかつたので前シーズン北歐遠征に着用した譽れのユニホーム(日の丸胸章)を肌身に着込んで

一人の警備兵となつた。オリムピック出場に獨り氣をもんで警戒任務の危険などは更に眼中になく悶々の日を送つてゐたが、一週間後にやつと解放され我が家に歸つて二日目

にオリムピックに出場せよとの通知に勇躍旅装を備へて急遽上京、昭和六年十二月二十四日横濱解纜のNYKライン永川丸で第三回冬季オリムピック競技大會への壯途についたのだ。

同行のスキーは、オリムピック二回目の顔出しであつたが、我がスケート(スピード・フィギュア)は初陣であり又この時のスピード競技方法が前二回のオリムピック・

ゲームシステムを破り、開催國米國の主張によつてオープンコース・レースが敢行採用されると云ふ點についてスケートのレックブラシッド出陣は色々な期待がかけられてゐた。當時の我々日本選手はオープンコース・レースの時代から國際ルールのセパレートコース・タイムレースに力を注いでゐる最中でありこのアメリカ・システムでゲームをするに云ふことは暑い日に着物を加へるような調子を感じたが一面我々は外國選手に比較して小さなので駒ねずみのように走り廻ればレースのチャンスが與へられるのではないかと考へないでもなかつたが、レースに出場して見ると何うして、世界的番狂せの中に巻き込まれてしまつた。

五百米ではスタートダツシュにリードした石原君も後半戦で彼等に追い抜かれ豫選に落ちたが、同君は非公式乍ら四四秒五の堂々なる好記録を示し世界記録への接近可能を立證した。北歐のスプリンターも米國に金メダルを奪れてオープンコースの苦手を嘆いてゐた。

千五百米レースは短距離であるにもかゝらず金々その走法は見られずお互いに先頭を忌避して譲らずスピードは益々鈍り滑走中腰を伸すものもあれば自分の脚部を手でもみつゝ最後のスパートの機を狙ふ者もありこれが世界の強豪の出陣してゐるゲームなのかと全く異様に感じた。果て

一のバラングルードは豫選第一組九分五一秒六に三着で辛じて入選、第二組は同僚のエヴェンソンが一着となつたがそのタイムは十〇分〇一秒四の悪スピードを示し決勝レースはこれ又米・加兩國選手にレースの終始を牽制されバラングルードは五位に甘んじねばならなかつた。記録九分四〇秒八だつた。

一萬米はレース距離が長いだけに各選手は思ひ思ひに露骨な牽制に終始することは必然となる。豫選レースはA、B二組行はれたが遂にオープンレースとして必然に生ずる醜狀を展開して了つた。役員側ではこれを防ぐ意味で次の二個條の臨時ルールをレース中の選手に賦課することゝしてレースを行つて見たが結果は紛擾を起してしまつた。

一、各出場選手は最少限一回は必ずリードすること

二、一周を四五秒以内のタイムでスケートすること

ところが豫選レース二組行つた結果は果然北歐陣營からハイド(加)ウエツヂ(米)それに我が石原の三名はレース中一回もリードに出なかつたこと、またスタツク(加)はバラングルードに最後の追い込みの際にファウルしたと云ふことでこの四名は決勝レース出場資格を剝奪されてしまつた。問題はこゝに於てアメリカ・システムの不合理性を最高の權威であるべきオリムピツク・ゲーム스에暴露してしまひ再レースが決行されたのであつたがこの事件の中に

るかな千五百米レースに非ず最後の六百米程の競り合いがレースを展開一齊スパートに移りゴールに殺到すると云う始末だつた。豫選第一組の一着タイムは二分四九秒三、第二組一着は二分五八秒〇で兩組共一、二着すべて米國、カナダの選手が占めた。第三組に出場する私はこれではいかん豫選記録を作つてやろうと考へスタートするなり外國選手を尻目にしてぐんぐん先頭に出て頑張ると他の連中もこれはボヤ／＼出来ぬと競つてスピードを出し初めこの第三組は前のレースに較べ堂々とレースが行はれた爲め一着となつた米國のレイ・マレイ選手は二分二九秒九で私は第四着二分三一秒六、五着の木谷君は二分三二秒〇だつた。私は前のシーズンにストックホルムで作つた二分三五秒八(セパレート)の自己の最良記録を凌駕しオープンレースのタイムとは云へ二〇秒臺への進出を獨り考へたことだつた。(當時の日本記録は小池君の二分三三秒五F)千五百の決勝の結果は一着ジャツク・シェー(米國)二分五七秒五と云うその頃の世界記録二分一七秒四に比し誠に恥しいものでありながら二分二十秒前後の力を持つ北歐勢は六位にもなり得ず完敗したことから見てもオープンコース・レースが如何にそのレース自體の情勢に支配左右され眞の實力が發揮し得なくなるかを物語るものである。

五千米も同様に世界記録(八分二一秒四)を持つノルウェ

あつて我が出場者石原、木谷兩君の示した記録は誠に不思議な程の優秀タイムを作りそのタイムはセパレート・コースに於るタイム・レースでは恐らく日本選手は至難である(當時のこと)と考へられたのだ。即ち前途の臨時ルールが賦課された爲め、各選手は相當のスピードで滑つた結果前述の三種目に比して一七分臺と云う立派なタイムを示し石原、木谷兩君は彼等のグループに交つて最後まで喰らいつき石原君は美事に入選したが前記の理由で決勝出場を失格し、再レースとなつた。このときの石原君の非公式ではあつたが計測タイムは一七分四二秒〇と云う大記録で木谷君も一七分五九秒で共に我々の豫想し得ない(當時)一萬米を一七分臺で兎に角滑つたのであつた。一九分臺でフウ云つてゐた兩君が一八分を飛び越して一七分臺で滑り得ることが餘りにも早く分つたので御本人や我々は驚いたことだつたが、次シーズンの昭和七年の一萬米日本記録は小池君の一九分〇四秒から見ても、オープン・コース・レースとは云へ永上日本の歴史的記録として忘れられない事實である。述べ遅れたが、再レースの結果豫選第一組は一七分五六秒四、第二組は一八分〇五秒四で決勝は米國のジャフィーが五千米同様強豪を抑へて優勝、タイムは一九分一三秒六であつた。

以上のようにレックブラシッドに開かれた第三回冬季オ

リムビツク・ゲーム・スピード・レースはアメリカ・ル
ルに完全に蹂躪されてセパレートコース・レースを得意と
する北歐選手は金メタルの一つをも獲得せずぶつ／＼云つ
てかへつていつたのだ。

恐らく今後続けられるオリンピックのスピードゲームが
二度とこのようなオープンコース・レースで舉行されるこ
とは無いだろうとは主催國自體も述懐した程で、スピード
スケーティングの技術的進歩の見地から少くとも今後の國
際的ゲームは各選手の技と力量を十二分に發揮出来るセパ
レートコースに於るタイムレースが尊重され實施されるこ
とによつて世界の記録は躍進して行くであらうことが考へ
られるのだ。將來國際的に進出すべき日本のスピードスケ
ートは最初のオリムビツク出場に際してこのような體驗を
したことも十七年を経過した今日回想して見るときに歴史
は懐しいものであるが日本としてこんな經驗は最初であり
最後であつた。

レーク・ブラシッドとはブラシッド湖であるが、オリム
ビツク・スケートリンクはこの湖上の氷盤を使用せず、街
のハイスchoolの陸上競技トラックに散水の人造氷であつ
たが氷面は美しく快心のスケートが出来たこと、世界のオ
リムビツク競技大會だつたが觀衆の案外僅少だつたことな
どが思い出される。レーク・ブラシッドに雪在中最も愉し

たことなどもレーク・ブラシッド回想のページの中に懐しく
甦つてくるのである。(日本スケート連盟スピード公認審

思ひ出のよゝに

五輪大會がロンドンやサンモリッツで開催された時我々
が参加出来なかつたことは敗戦の結果だとその憂目をしみ
／＼と感ずるのであります。一昔前の記憶をたどりつゝ第
三回冬季大會出場の思ひ出を語つて見ましょう。

一行上陸第一歩私達はバンクーバーの大陸日報及び在留
日本人會のエキジビションに出席し先づ驚いたことはスケ
ート場の完備した事、在留人の質問で内地には屋内スケ
ート場が幾つあるかとの事に自分達は返事に困り、歸るまで
には山王リンクが出来る豫定ですと不景氣な返事をするほ
かありませんでした。この頃バンクーバーには四ヶ所のア
イスリンクがあつたのです。おどろいて聞き返すとアメリ
カ、カナダの人口四、五萬の町には一つ位はあると云われ
私達は美しいことだと思ひました。各所を視察見學したの
ですがすべてが完備しておりこれでこそスポーツ王國だと

せて呉れたことは街の子供達であつた。スケート場が暖氣
で練習出来ない日など私は特に合宿所の近所の子供達と嬉
遊びに興じたことなど忘れられない。又或る日アメリカ選
手の合宿所を私が訪問したら珍客の私を心から歓待し歸る
ときは純白のセーターや純毛のトレーニングシャツをプレ
ゼントして呉れるなどあのときの彼等の交遊は一生忘れら
れない。あの時アメリカ選手から貰つたスパルディングの
トレーニングシャツだけは引揚の折無理して持ちかへつた
ので涼しい秋風が吹きはじめの頃からスケートシーズン
を通し肌身に着込むのがうれしい。着る度に品質の優秀さを
獨り感じて米國選手の好意が思ひ出されるが、このトレ
ーニングシャツに残るアチラの香の失せぬ間に、是非もう一
度彼等と何處かの氷上に相まみえレーク・ブラシッドのオリ
ンピックの思ひ出を語つて見たいものだ。冬服で常夏のロ
スアンゼルスやワイキ、の濱邊を散策したことを思い出す
と今でも汗がにじんでくる。オリムビツクの旅から滿洲へ
歸つて暫くしてレーク・ブラシッドで元氣に滑つた加奈陀の
或る女子選手から彼女が十七才の時獲得した優勝メタルが
遡る／＼と私のもとに送られて來たので其のメタルは當時
の全滿選手權大會の女子五百米優勝者に私の手から授與し
た。私はその返禮として私が全滿大會で獲得した優勝メタ
ルを加奈陀のその選手へ送り届け其後も數回の文通を交し

判員、前オリンピック選手)

☆

星野仁十郎

感を深くしたのでした。ニューヨーク、マデソンスクエアガ
ーデンには前夜はボクシング大會次の日はプロのアイスホ
ッケー試合と云うように一ヶ年の三分の二はアイススケ
ートに使われているのを見て如何にスケートがアメリカ人の
スポーツとして取り入れられているかに驚いたのでした。

だから數多くのリンクがあつてこそ優秀なスケーターが
出来るというわけこれ等屋内スケートリンクの施設につ
いては連盟關係者は勿論一般人も將來のスケーターの爲に大
いに協力して實現を期したいと思ひます。冬季大會中にレ
イク・ブラシッドチームに入つてアイスホッケーのコーチを
受けたのでしたがこの時の監督の話に依れば選手は素質の
ある者に特別な訓練をさせて優秀な代表的選手をつくるの
がよいとのことでした。我が國では素質のある無きにかゝ
わらず皆同じようなホームの選手だけをつくる。

戦争中國民が只精神力のみで戦つたことが敗戦の原因であつたようにスケートに於ても秀れたプレーヤーを創る爲には體力を第一條件として素質ある者に對して存分の指導をして成長させなければ世界の選手に伍して覇を競うことは出来ないでしよう。以前カナダ、サスカートン・チームの來朝の時世界的チームに對する我がチームの差を見て、それとうなづけるものがありました。今年度盛岡の國民體育大會や日光の大會で各チームは得點のみを目的として、眞のアイスホッケーゲームをやつてゐたでしようか。

選手は種であり、この種を作る人々に依つて延ばし、自らも又よりよく成長しようと努力することに依り又大いなる實を結び次の時代の種を作らんとする人にもなるのであります。

平和な國家となる爲に國民の余剩勢力をスポーツに向ける爲に我々體育人はより一層のスポーツに關心を持たなくてはならないのであります。又各地域の施設指導にも全力を盡さなくてはなりません、お互に頑張りましょう。

(栃木縣スケート連盟副會長、前オリンピック・トレーナー)

『レークプラシッドの春』

老 松 一 吉

優勝候補である瑞典のギリスグラーフトロム及伊太利

のカリシエファアがレークプラシッドに到着したといふ事を耳にして私共は彼等の英姿又神技に接する喜びで胸一つばいだつた。此の二人の滑走法を研究する重大なる使命を負わされている手前彼等の一舉手一投足に至る迄双方の眼を忍せにしながらつた。シエファアの滑走はスケールも大きく非常に柔軟で所謂ナチュラルである。ジャシブ・ダンス・ステップ・スピンと巧に織なし少々クロバツトな傾向はあるが年齢の若さも有り誠に潑刺としており、競技プログラムとしては代表的なものである。

之に反しグラーフトロムは膝手足のアクションが非常に強い、彼獨特の強引なスペシャルフィギュアをリンク一つばいタンゴの曲に溶け込み滑走する、其のコンテンツ又パフォーマンスは強烈なる印象を脳裡に焼付けざるを得ない。全く競技を離れた藝術の香り高い句を發散している。スケート生活の長かつた同氏にはシエファアに見られぬ滋味とさびがあり、私共をしてこよなく畏敬の念を生ぜ

しめたものである。

シエファアは確かにうまい、然し彼の滑走には私共の心を打つものがなかつた。當時グラーフトロムは脚部の神経痛に弱つていたが不幸にもフリーの一失敗で遂にシエファアに敗れ、私共の期待は全く裏切られた。其後の世界選手權に出場の豫定だつた彼は心の痛手に堪え兼ねてか豫定を變向して人知れず故國瑞典に向つてレークプラシッドから姿を消したのはオリンピック競技終了後の二日目だつたといふ事である。以來シエファアの流れとグラーフトロムの流れが交流し、我國では兩者の特性を多分に取入れ四年後のガルミッシュ大會に出場したのだが欧州中堅どころと比し臺も遜色なかつた事は過言でない。

其後グラーフトロムはプロに轉向一九三八年四月ベルリンにて獨乙オリンピック選手團ヘッドコーチヤーとして在任中客死したという事がアメリカの「スケートティング」に依つて知つた。二度と相まみえる事の出来ない彼の神技を思ひ浮かべ私の心は何故か淋しかつた。

スクール競技課題中最も至難とされているバックループ・ブチエンジループが日本を出発する間際迄どうしても滑れないのである。こう言へば正確なる圖型にて正しき動作でトレースの重なり良好なるものと想像せられるかも知れないが、左に非らず足をつかへないで最後迄滑り終せない圖型の正確處かヒョコイガンだつて構はないのである。半ばあきらめた圖型とは言へ足をつかへる様では選手の資格も零だ。

私共にとつては此んな悲しい事はない。競技場の各國選手練習時間が割當てられ一流選手入り亂れて猛練習に餘念がない。油で磨いた様なかゝに光つた氷上に此の圖型或は他の圖型がいとも鮮やかなトレースを残して行く。この中で日本選手のは何が描かれたのかさつぱり分らない何づれも前後左右に大きくづれた誠におまつなものである。然し競技が近づくにつれて互ひに火華を散らす如く眞剣な猛練習が展開されるや「第鼠猫を噛む」のたといで私共は其の環境と刺戟に支配され、問題のループ、ブチエンジループもどうやら足をつかへず六回滑れる様になつて來た。トレースの重なりも到着當時から見れば遙かに上達している。茲で特筆すべき事はスクール競技で日本選手揃つてロツカーが他の選手に比し相當優秀な點を稼いだ事である所謂サルコロロツカーと稱し之は當時國際スケート連盟

會長だつたサルコウ氏の獨創に依るもので餘り難かしい爲各國選手も此の滑走法を放棄し他の方法に依つていた。居合型走法の抜け切れなかつた私共には此の圖型の特徴である居合型と偶然マツチして居たものだから此の思はぬ拾ひ物にどれだけ嬉しかつた事か！

日本は初めての参加だから見學的な氣持で出場すればいゝと勝敗を度外視した關係者の溫かい親心に送られレーク・ブラシッドくんたり迄來たものゝ夢だに想像しなかつた新しいジャンプ、スピン等を現實に見て不安と失意のどん底に打ひしがれていて全くのオリンピック呆けのさなかにあつた私共にとつて此の「ロツカー」の一事はどれだけ一沫の清涼濟ともなり心の糧にもなり又慰めであつたか知れない。

スクール競技は一定の限られた圖型とフォームである爲誠に興味の無い地味なものである。素人には其の優劣の段階が判然としないう處でフリースケーティングになると此の差がはつきり分る。觀衆をはつとさせる様な、きはいじやんぷ又眼の廻る様な急速なスピンの連續音楽のリズムに乗つたきらびやかなステップの流れが五分間の時間にうまくアレンジしてリンク狭しと次々と展開される情景はいかなる人間でも其の上手下手が分かるものである。日本選手は朝早くから各國選手の妙技を見んものとリンクに詰めか

ける。各國選手の妙技は土地の人々に依つて屢々絶大なる拍手と稱讃を浴びてゐる。しかし我選手は悲しい事に此の拍手と稱讃の言葉が頂けない。直立スピン、低スピン、ジャンプではサルコウ、ループ、スリー、モホークが關の山、ステップとしてはかび臭いワルツマヅルカの二、三分を最大の武器として五間のプログラムとしては誠に貧弱極まる代物である。猿の人眞似宜ろしく新らしいフィギュアの幾らかを取入れなくちやあとの選手の眼を盗み必死の努力を試みたが少くともバリウのあるフィギュアは個々についても確實に仕上げるには二、三年懸る。之を僅か一、二ヶ月で物に仕様にしようといふのであるから全く無暴に近いかい、各選手は時間一つばい練習しないで大抵は五分前位に引揚げてゐる。従つて觀衆も之に續いて退場して行く、この貴重な最後の五分間を私共はそれこそ一時間に突入したが遂ひに功奏せずして持前の内容でフリー競技に臨んだのである。斯くして彼の有名なアクセル。ポールゼンジャンプを現實に直面しスピリット。フィリップラッツの新ジャンプ及びシェフアートの足換ジャンプ・スピン等があるのを知る事が出來た。

ホツケー競技フィギュア競技の會場であるオリンピックアリーナが愈々完成したので其の落成式を華々しく開き

たいと關係者一同が夫々プログラムの進行を圖り日本選手にも一役買つて貰ふ話が出た。當時フィギュア選手は日本のみで各國の選手は未だ到着して居なかつた。或日突然佐藤監督がレークブラシッド俱樂部のグレースロウ嬢から君にベアースケーティングのパートナをやつて呉れとプロポーズして來たがどうするか！と聞かされ私の心は天地がひっくり返る程びつくりさせられた。それでなくともバンクーバーから當地へ到着する迄方々で今日迄想像した事のないフィギュアの數々を見せ付けられ意氣消沈している矢先、況して若い外國婦人を擁してベアー等は生れて初めての經驗である私は一つも二もなく斷つて仕舞つた。處が先方中々の執着、仕舞ひには婦人からのプロポーズを斷るなんて最大の侮辱である。自分の技術がまづいので日本選手は相手にしないのかと、何とか言つてからみ情勢頗る悪化。監督も間に這入つて随分弱つたらしく、とゞのつまり手を代へ足を代へ無理矢理に説得させられ遂ひに承諾せざるを得なかつたプログラムもワルツ、モホーク、スリージャンプ、スパイラル等組合した二分間の簡單なものを練習し、落成式當日はベアー競技に優勝した佛蘭西のブルネ夫妻ハンガリーのロツター・スズラ、アメリカのパアジヤ・ビートリソクス等の一流ベアー選手が續々と到着しているのので之等の選手の前で汗顔の思ひをさせられるのか

と思へば私の心は極度の憂鬱にとざされ全く死ぬ思ひだつた。ロウ嬢一張羅のコスチュームを着け甚だ嬉しそうだが私の彼女に對するうらみは骨髓に達しているので、正式のユニフォームを着込んだ私は其上にズボンをはいて會場に臨んだ。其時のロウ嬢の顔は實にうらめしそうな面持ちだつたが之に依つて私は内心快哉を叫び溜飲を下ろした。飛んだ處で國際親善茶番劇が演じられたが十數年経過した今日ではこのことが懐かしい思出に變つてゐる。

オリンピック競技、世界選手権競技の重責を終へ肩の重荷を下ろした軽い氣分で愈々アメリカを離れる最後の地ロスアンゼルスで全カルフオルニア選手権競技大會に招聘され、ダンススケーティング競技の審判員を委囑された私共一同大いに面喰つた事がある。一體どうして採點していかの見當がつかない、帯谷、小林兩君と鳩首協議の結果、フィギュアの採點にちなみ、一對の動作一致及び音楽の順應といふ處に歸し夫々權威者らしく審判席にふんぞり返つたものである。愈々ワルツから火蓋を切られ續いてフォックストロットと展開され十數組の男女宜しく一定の間隔を於てリンクの周りをグル／＼廻轉して行く、其間優秀なものを残し漸次一組づつ減して最後に残つた一組が優勝と決定するので選手一同大いに氣分横溢、私共に採點をよくして貰う積りからよい／＼ウインクを送るものもある。

どうやら此の珍場面も事なく終了したのでがフィギュアと言ふものは一人前になる爲には相當の根氣と長年月を必要とする爲一般向きしないが、ダンスの方は比較的短時日でしかも努力を要せずして覺えられるので大衆向に喜ばれ且つエンジョイされている。小林君が幸ひニューヨークのアイス俱樂部でベツクル氏に此の手解きを受け歸國後一般普及に相當盡力された様だが屋内スケート場を失くした今日では實行する機會もなく中途で停頓した事は惜しい事である。

世界選手権出場の爲帯谷及び私は飯田監督に引率されモントリオールへ向つた。各國選手と共にマウントロイヤルホテルに乘込み、練習場として當地の會員組織のリンクであるウインター俱樂部が提供された譯である。俱樂部内ではスポーツに關するいろ／＼の商品が飾られ、リンクサイドには勾配のついた食堂が設けられ會員の滑走狀況が一目で見られる様になつてゐる。俱樂部は全部チット式である。無論優秀なるインストラクターが存在している、老若男女が擧つて一堂に集まり冬のスポーツの醍醐味に浸つてゐる譯けである。何しろ當地では日本人は珍らしい者の部類に這入るらしい、頭の黒い猿の様な東洋人がフィギュアをやるといふ事だけで相當奇異に思ひ感動せしめられたのか會員の各自から晚餐の接待に毎日引張り合ひの狀況であ

る。毎日の御馳走攻めに二人共下痢を起し充分活躍出来なかつた事は私共の招いた身の破滅で仕方のない事である。スクール競技は當俱樂部で非公開に内々済ませ翌日市のフォーラムでフリー・スケーティング、ペアー競技が夜間物凄く盛大に舉行された。入場券はまた／＼間にプレミア付きで買賣され二萬の觀衆ですつかり場内を埋め盡している。フリー競技の音楽の伴奏はオリンピック競技でも同様であるがバンド或はオーケストラの利用が流行していた。當地一流のシンフォニー、モントリオール交響樂團百有餘名の出場で誠に想像も及ばぬ豪華極まるもので、私のフリー競技の時も指揮者は絶えず滑走者に注目してタクトを振るのであるから丸で白鳥が湖上に舞い出た優雅妙境の境地に在り半ば夢うつリンクで何をして來たかそれすら分らず選り手席へ歸つても暫し呆然として爲すところを知らないという状態であつた。錦上華を供へた此のシンフォニーの豪華版に依りじむむさい日本選手のスケーティングも『アバタも笑くば』の如く誠によく見えたらしい。競技も終り其晩は選手役員各關係者の慰勞會で夜通しホテルではダンスパーティーが開かれたが彼等にとつてはこの行事がとても楽しいものとされている。お互に親睦を計り競技成績の批評忠告或は氣の合つた者同志の楽しいダンスのひととき、之が毎年歐州選手権、世界選手権毎に開かれるので役員選手間

の親睦と情愛がいやが上にも増進される。こんな場面に接したことのない我々にとつては全く羨望にたえないものであつた。この粉團氣の中で選手達はお互の技術の検討、研究が行はれ毎年／＼向上して行く。四年毎の出場では日本の進歩はいつも立遅れになる許りである。眞にフィギュアに飛躍したいならば毎年これ等の競技會に出場する必要があると思つた。今は無理なことだが是非實現させたいものがある。(日本スケート連盟フィギュア公認審判員、前オリンピック選手)

全日本選手権競技會記錄

第一回大會（昭和五年）

（八月、日光精銅所リンク）

大日本スケート競技聯盟の記念すべき第一回全日本選手権競技大會は、一月十二、十三日の兩日青森縣八戸市長根リンクに於てスピード競技を、一月十八、十九、二十日の三日間日光製銅所リンクに於てアイス・ホッケー及びフィギュア競技を行つた。

スピード競技を遠く八戸市で開催することになつたのは、この土地の先輩諸氏の要望と、スケートの地方的普及が目的であつて、幸ひ大成功を収めたことは何より喜ばしいことであつた。

この八戸市地方は、雪の多い東北としては珍らしいほど、降雪が少なく、冬のスポーツとしてはスキーよりスケートが盛んである。従つてこの土地をスケート地にしようという地元の見解と大日本スケート競技聯盟の地方的普及

の意志とは當然の合致を見たのである。しかしながら八戸市官民諸氏の大會に對する熱意は豫期以上のもので、この歴史的な第一回大會が大成功を収め得たのは洵に八戸市のおかげであると感じて居る譯である。

この八戸の長根リンクは相當の廣さがあつて四百メートルのトラックが三つも四つもとれ、そのほか多數のアイス・ホッケー・リンクがとれる立派なものである。それに降雪量が少い許りが寒気がきびしいので結氷もよい。ただ海から吹きつける風が強いのでリンクの端を通つて居る道路から砂ほこりが舞ひ上り、これがリンクに碍き散らされる難がある。然し若し快晴無風の日ならば少し堅すぎると思はれる氷質も日光の直射で漸次軟か味を帯び理想的のコンディションとなる。

第一回選手権スピード大會は、滿州の精銳、諏訪の精銳、東北及び北海道の猛者、全日本の第一線を完全に動員したのであつた。

大會は二日間共天候に恵まれて氷のコンディション良

好、記録も一萬米を除いて他の種目悉く立派な日本記録を確立し、同時にこの大會に依つてはじめて公式の日本記録が樹立された。

スピード競技が終つて日光精銅所リンクでアイス・ホッケーとフィギュア競技が行はれた。地方の一般チームと學生チームの参加があつて全日本大會にふさはしいものであつたが、これは全く全國統制に依る結果であつて、スピード競技會の内容充實と思ひ併せて、感慨深いものがあつた。

競技はホッケーでは早慶が決勝に残つて白熱戦を演じた後慶大が第一回選手権を獲得、フィギュアでは常勝金子諭吉選手が明大の久保信選手に敗れて第一回選手権は久保選手の頭上に輝いた。

スピード競技

（一月十二、十三日 於八戸）

五百米（セパレート・コース）

1 木谷徳雄（安東）四八秒〇、2 河村泰男（奉天）四九秒〇（以上日本新記録）、3 大澤義一（安東）、4 吉岡正隆（安東）

千五百米（セパレート・コース）

1 石原省三（安東）二分三九秒五、2 木谷徳雄（安東）二分四二秒八、3 河村泰男（奉天）二分四三秒七（以上日本新記録）

五千米（セパレート・コース）

1 石原省三（安東）九分四二秒六（日本新記録）、2 木谷徳雄（安東）、3 潤間留十（諏訪）

一萬米（セパレート・コース）

1 木谷徳雄（安東）二〇分一一秒五、2 石原省三（安東）3 潤間留十（諏訪）

〔オープン・レース〕

二千米リレー（セパレート・コース）

1 安東（石原、大澤、吉岡、木谷）、三分三〇秒〇（日本新記録）、2 諏訪、3 朝鮮、

〔選手権順位〕

1 木谷徳雄（安東）二二・〇〇二、2 河村泰男（奉天）二二・七八七、3 大澤義一（安東）二二・八五七、4 小池富治（奉天）二二・七六八、5 潤間留十（諏訪）二二・二二二、6 濱（諏訪）二二・四二二五

アイス・ホッケー競技

（一月十八、九、廿日、於日光精銅所リンク）

第一豫選

慶大棄權札
東大AK8—3立
第二豫選
大幌

第二豫選

早大	京大	東大	慶大
13	4	12	6
0	0	4	1
上諏訪	清瀧俱樂部	稻門俱樂部	日光精銅所

準
決
勝

大 8 1	大 5 2
東大 A K	京大 帝大

決勝

慶
大
4
 $\overbrace{2\ 2\ 0}$
| | |
 $\underbrace{1\ 0\ 0}$
1
早
大

	[早大]				[慶大]
影山	{ FW }		{ 平川		
小西			{ 有賀		
田坂			{ 金子		
保坂			{ 齋藤		
左右田	{ DF }		{ 桑島		
桑山			{ 三尾澤		
羽田	GK				

寺下の上諏訪町特設リンクで行つた。

試合の豫想は、スピード短距離で奉天の岩本、安東の大澤、諏訪の瀧間正見、中距離は大澤、瀧間正見、諏訪の濱一正、小池、瀧間留十、行田の諸選手が好成績を擧げるのではないかと呼び聲が高く、また練習中しげしげ好記録を出して居た。

ホツケーは満州醫大斷然強く優勝候補の筆頭にあつたが、インターカレデで敗れた慶大、早大の雪辱戦にも期待がかけられた。この年は満州の強豪木谷徳雄、河村泰男、石原省三の三選手が待望の世界選手権に出場した年であつて、それが爲にこの年の選手権には出場することが出来ず、大會そのものとしてはやや淋しさが感じられたが、内外相呼應しての活躍は、スピード界として歴史的のものであつた。

全日本選手権第一日は十八日スピードは諏訪湖六斗川沖で、ホッケーは上諏訪町蓼の海リンクで舉行された。快晴無風の絶好のコンディションに恵まれて兩競技共熱狂的盛觀を呈し、スピード五千米では日本記録四つが生れ、滿州勢を向ふにまはして諏訪勢の活躍物凄く全日本選手権大會にふさはしい好記録の續出を見た。

大會は第二日も諏訪湖、蓼の海の両リンクで舉行、ホッケーは決勝戦に稻門俱樂部棄權して満州醫大軍が優勝し、

ファイギュア競技

(二月十八、九、廿日、於日光精銅所リンク)

〔選手權成績順位〕

順位	氏名	所屬	スクール	フリー	順位點
1	久保 信	(明大)	四〇・七	四四	六
2	金子諭吉	(慶大)	四九・五	三九〇	九
3	小林 進	(日本ス ケート會)	五三・五	二七〇	一八
4	帶谷龍一	(慶大)	四二・五	三〇七・五	一八
5	老松一吉	(關西)	四七・五	二七〇	二六

第二回大會（昭和六年）

(諏訪湖、蓼の海、五色沼)

この年の大會は、スビード、アイス・ホッケー共に一月十七日から信州上諏訪町蓼の海リンクで舉行の豫定であつが、氷のコンディションが悪かつた爲めに一日延期して十八日からスビードは諏訪湖で、ホッケーは蓼の海で行つた。但し入場式と開場式だけは選手の都合、競技場の都合で考慮に入れてその前日の十七日午前十上諏訪町湯の脇温泉

スピードは千五百米にまたも日本新記録が續出、一萬米では潤間留十選手日本新記録を樹立して内地軍の爲め氣を吐き、優勝の決定に興味をひいたが、滿洲大澤選手に依つて選手權は獲得され、二つの選手權は滿洲の手に歸した。

尙、この大會に奉天から奉天高女四年生の井上浩子さんがわざわざ來征し、千五百米に三分二一秒六の記録を出し、大會を賑ぎはした。

スピード及アイス・ホツケーに引續いてフィギュア全日本選手権は、一週間おくれて一月二十四、五兩日仙臺五色沼リンクで舉行されたが、新進の擡頭目覺ましく、關西のナンバーワン老松選手が選手権を獲得した。

スピード競技

(一月十八、九日 於諏訪湖)

五百米（セパレート・コース）

1 大澤義一(滿洲)四八秒六、2 潤間留十(諏訪)、3 潤間正見(諏訪)

千五百米（セパレート・コース）

1 小池富治(滿洲)二分三五秒〇、2 大澤義一(滿洲)二分三七秒二(以上日本新記錄)、3 潤間留十(諏訪)

五千米（セパレート・コース）

1 瀧間留十(諏訪)九分三秒二、2 行田和(諏訪)九分三四秒二、3 大澤義一(満洲)九分三四秒六、4 小池富治(満洲)九分三六秒〇(以上日本新記録)

一 萬 米(セパレート・コース)

1 瀧間留十(諏訪)一九分五六秒九(日本新記録)、2 小池富治(満洲)、3 行田和(諏訪)、4 大澤義一(満洲)

〔オープン・レース〕

二 千米リレー(セパレート・コース)

1 満洲(岩本、平野、小池、大澤) 三分二六秒四、2 諏訪

〔選手権成績順位〕

1 大澤義一(満洲)二二〇點二三〇、2 瀧間留十(諏訪)二二〇點三六五、3 小池富治(満洲)二二一點一八六、4 行田和(諏訪)二二六點〇七三、5 瀧間正見(諏訪)二二六點四一六、6 矢崎猶重(明大)二三二點七六〇

アイス・ホッケー競技

(一月十八、九日信州諏訪の海リンク)

第一豫選

満洲醫大 3 — 2 日光精銅所
第二豫選

(八戸、下諏訪リンク)

レックブラシッドの第三回冬季オリムピック大会にはじめて日本選手を出場せしめた我がスケート界にとつて記念すべき歴史的な年である。吾等が代表スピード石原、木谷、瀧間、河村、フィギユア帯谷、老松等第一線に活躍する選手のオリムピック遠征は内地に於けるこの年の競技會を相當淋しいものにしたが、それよりも、この年は全國一般に暖氣で、寒さを特色とする諏訪に寒中豪雨が降ると云つた工合で大會をれ自身が既に恵まれなかつた。

選手権大會は、アイス・ホッケーは青森縣八戸市、スピードとフィギユアは諏訪湖で行ふことになり、アイス・ホッケーは第一陣を承つて一日十六、七兩日行はれた。學生大會も暖氣の爲お流れといふ様だつたから學生選手はすつかり氣をくさらせ、全日本にも遂に姿を現はさず、これまた淋しいものであつたが、日光、苦小牧王子と云つた一般チーム中での一流が参加して居り、然もこれ等のチームが學生チームを凌ぐ程の技術の進歩をしてくれたことは、何よりも喜ばしく感じられた。

かくしてアイス・ホッケーは無事終了したがスピード、フィギユアはすつかり御難に會つた。

大會豫定日は一月二十三日であつたが、何しろ毎日春の

上 諏 訪 3 — 3 諏 訪 中 學
稻門俱樂部 13 — 1 白鳥俱樂部
慶 大 棄 權 ペンギン
満洲醫大 棄 權 帝 大

準 決 勝

稲門俱樂部 3 — 1 慶 大
満洲醫大 13 — 0 上 諏 訪

決 勝

満洲醫大 棄 權 稲門俱樂部

フィギユア競技

(一月廿四、五日 於仙臺五色沼リンク)

〔選手権成績順位〕

順位	氏 名	スクール	フリー	總得點
1	老松一吉 (關 西)	六七・五	五〇・六	二四・五
2	帶谷龍一 (慶 大)	七四・四	四六・四	二〇・六〇
3	小林 進 (日本ス ケート會)	六五・〇	五四・六	二〇・六六
4	和田吉藏 (慶 大)	五九・〇	五〇・八	二〇・五五
5	今野東雄 (明 大)	五一・九	三四・二	九六・二〇

第三回大會 (昭和七年)

ような日和だつたので諏訪湖は勿論結氷せず、下諏訪のリンクと上諏訪の湖と決めては居たが、それも危ないので二十二日の晩下諏訪町役場で選手會を開き善後策を講じた結果、フィギユアは二十五日迄に競技を行ふことが出来なければ行ふことを中止し選手権だけを室内リンクで行ひジュニアは中止、尙二十五日迄に氷のコンディションがよくなければ夜電燈をつけてもやつてしむ。またスピードは二十六日迄に出来ない場合は中止し、競技開始後コンディションが悪くなり中止する場合は、その種目はそれで打ち切り、翌日は豫定通りの種目だけを行ひ、最後迄競技を完了し得なかつた時は選手権とせず、記録だけを認めるといふ申合せをしたが、二十三日は夜半から豪雨で豫期の如く延期、幸ひ二十四日は早朝寒が加はつたので無理にも決行しやうといふので午前八時十分から悪コンディションと闘ひつつ何とかかんとか兎に角に角に晩迄かゝつてスクールとフリーを完了することが出来た。

二十四日頃から幾分ずつ寒氣が加わつたので廿五日、夢の海のスピード選手権は豫定の通り午前八時半から舉行した。風もなく快晴に恵まれたものではあつたが雪氷があつた爲めに太陽が昇るに従つて氷面がだん／＼軟かになり五百米を終了して十一時半五千米を行ふ頃に至り競技不可能となり、午後四時迄待つたが依然として凍結を見ずこの日は

これで中止。委員は直ちには下諏訪役場で協議會を開いたが翌二十六日果して可能となるや否や全く見透しがつかないので、スピード競技は遂に中止された。

この大會に滿洲から瀧三七子、井上和歌子、井上浩子の三嬢がはる／＼とやつて來たのだが何せよこの有様で氣の毒に絶へなかつた。

アイス・ホッケー競技

(一月十六、七日 於八戸市長根リンク)

第一豫選

日光NCW 19—0 八戸白山

準決勝

日光 4—1 八戸中學

決勝

苦小牧王子 2—0 八戸NCW

(王 子)					苦小牧王子
	原				
FW	鈴木				
	林				
			4		
			1	0	3
			1	0	0
DF	戸巻				
	朝倉				
			1		
GK	平元				
					日光
					B

ファイギュアは一月二十一、二の二日間、オリムピック選手老松、帯谷老巧ぶりを示すも關學の片山、慶大渡邊等新進の躍進が目覺しく選手權は遂に片山選手の獲得するところとなつた。

スピード及ホッケーは一日二十七日から行はれたが第一日の二十七日は朝から雪が降つて競技の進行をさまたげた爲にスピードは翌日第一日を行ふことにして延期、ホッケーだけを舉行する。

この第一日早くも日光A對慶大、滿洲醫大補仁對小牧王子と優勝候補の顔合せがあつて興味ある試合を展開した結果、遠來の滿洲醫大補仁チーム先づ苦小牧の強力なる攻撃にあつて1—0で惜敗すれば、この年の學生大會の覇者慶大も日光精銅所Aチームの駿足に後陣を亂され、2—1で敗退する。

スピード第一日、ホッケー第二日の二十八日は、朝來晴天、寒氣きびしく従つて氷質堅すぎてコンディションは餘りよい方ではない。スピードは朝鮮の李、高二選手がオリムピック選手河村、潤間留十選手を凌ぐ好成績を挙げ、李は五百米に日本タイ記録を作り、五千米に日本記録に迫る好記録を出した。ホッケーでは豫想を裏切つて日光精銅所Aは早大の巧みな戦法のため2—1で敗れ、早大が決勝で苦小牧と對戦することになつた。

[日光] 子邊津澤田木本
[日] 金渡高黒池澤山

ファイギュア競技

(一月二十四日、於信州下諏訪リンク)

〔選手權成績順位〕

- 1 佐藤金吾(關西) 四〇〇・五〇點
 - 2 片山敏一(關學) 三九五・七〇點
 - 3 和田吉藏(日本社會) 三八九・九〇點
- スピード選手權競技會は一月二十五、六兩日信州上諏訪の海リンクで舉行の筈であつたが暖氣の爲結氷悪く、二十五日男子五百米と女子五百米競技を行つたのみでスピード選手權は遂に中止した。

第四回大會(昭和八年)

(山王リンク、日光細尾)

ファイギュアは山王リンクで、アイス・ホッケーとスピードを日光細尾リンクで行ふ。

最終日の二十九日は氣溫零下四度、快晴、午前中には行はれたホッケー決勝は、早大または豫想をくつがへして強敵苦小牧王子を破つてこの年のホッケー選手權を獲得、スピードでは朝鮮から初出場の李聖德選手が河村、潤間等オリムピック選手を抑へて堂々と優勝、選手權を握つた。

スピード競技

(一月二十七、八、九日 於日光細尾リンク)

五百米(セパレート・コース)

- 1 李聖德(朝鮮)四八秒(日本タイ記録)、2 大澤義一(滿洲)、3 高(朝鮮)

千五百米(セパレート・コース)

- 1 河村泰男(滿洲)二分三三秒六、2 李聖德(朝鮮)二分三四秒九(以上日本新記録)、3 潤間正見(諏訪)

五千米(セパレート・コース)

- 1 李聖德(朝鮮)九分二六秒九、2 小池富治、3 潤間正見(諏訪)

一萬米(セパレート・コース)

- 1 小池富治(諏訪)一九分四秒一、2 行田和(諏訪)一九分七秒、3 李聖德(朝鮮)一九分一四秒七、4 濱三人(諏訪)一九分一五秒二、5 潤間正見(諏訪)一九分二六

〔選手權成績順位〕

アイス・ホッケー―競技

(一月廿七、八、九日 於日光細尾リンク)

第一豫選

決 勝	早 大	2 1	日 光 A	準 決 勝	早 大	4 1	日 光 B	日 光	7 2	慶 大	苦 小 牧 王 子	1 0	滿 洲 醫 大	全 東 京	16 2	八 戶 俱 樂 部
--------	--------	--------	-------------	-------------	--------	--------	-------------	--------	--------	--------	-----------------------	--------	------------------	-------------	---------	-----------------------

早

大 1

0	0	1
0	0	0

0 苦小牧王子

(大阪、芝浦リンク、安東)

ファイギニア一月十三、四日大阪朝日ビル、アイス・ホッケー一月十九日より三日間芝浦リンク、スピード二月三、四兩日鴨綠江安東といふ競技日程のもとに舉行された。

ファイギュアは片山選手の躍進著しく遙か群を抜くの觀を呈して再び選手權を獲得、アイスホッケーは、參加九チーム（慶大、立大、明大、苫小牧王子、滿洲醫大、稻門俱樂部、全日光、全京城、成城OB）早大はインターカレッジ終了と共に滿鮮に遠征して參加を見なかつた。試合は期待された苫小牧王子第二豫選で早くも明大の爲敗退、決勝は滿洲醫大對慶大の顔合せとなり結局慶大が選手權を獲得した。

スピード第一日は二月三日安東鴨緑江のリンクで午前九時から開始された。天候晴、気温零下七度半、西北の風四米、氷厚二尺一寸、氷質は堅すぎて餘りよくない。参加選手は内地から小池富治、潤間留十、同正見、行田明大の金選手遠征、これに滿洲選手を合して四十餘名であつた。

第一日五百米で安東の石原選手四七秒八の日本新記録を現はし、五千米では明大の金正淵選手九分一四秒八の驚異的日本記録を出して一九三一年濶間選手が作つた日本記録九分二三秒九を縮めた。第二日は午前九時二十分から舉行

〔早 大〕		〔苦小牧〕	
中 楯	FW	林	
藤 原		鈴 木	
保 坂		原	
伊 藤		芳 賀	
古 垣		大 和	
左右田	DF	戸 卷	
桑 山		朝 倉	
羽 田		GK 平 元	

フイギユア 競技

(二月廿一、二日 於、山王リンク)

〔選手權成績順位〕

順位	氏 名	スクール	フリー	順位點
1	片山敏一(關 學)	六六・三	五八・四	六
2	老松一吉(大 坂)	六三・二	五四・四	二一
3	長谷川次男(日本ス)	六三・二	四九・〇	二五
4	帶谷龍一(三 田)	六四・八	四五・〇	二五
5	小林 (慶 大)	六四・〇	四五・六	二六
6 渡邊(慶大)、7 小林(明大)、8 佐藤(大坂)、9 長谷川 章(日本ス)、10 和田(三田)				

第五回大會（昭和九年）

された。この日気温は零下十六度、東北風四米前日よりコ
ンディションが悪く、氣づかされたが一萬米で明大金選手
日本記録を樹立し四種目通算の結果この年のスビード選手
權を掌握する。

スピード競技

(二月三、四日 於、鴨綠江リシク)

五百米（セパレート・コース）

1 石原省三(安東)四七秒八(日本新記錄)、2 木谷德雄
(安東)、3 李聖德(早大)

千五百米（セパレート・コース）

1 李聖德(早大)二分三六秒四、 2 河村泰男(滿洲)、 3

金正淵(明大)

五千米（セパレート・コース）

1 金正淵(明大)九分一四秒八(日本新記錄)、2 小池寛治(諏訪)、3 濱(諏訪)

一 萬 米 (セパレート・コース)

1 金正淵(明大)一九分二秒八(日本新記錄)、2 李聖德(早大)、3 小池富治(諏訪)

〔選手權成績順位〕

1 金正淵(明大)二一五・六二點、2 李聖德(早大)二一

七・六一點、3 崔龍振(明大)二三・〇八點、4 河村泰男(滿洲)二三・二四點、5 木谷德雄(安東)二三・點三三

アイス・ホッケー競技

(一月十九、廿、廿一日、於、芝浦リンク)

第一豫選

慶 大 12 — 2 立 大

第二豫選

明 大 2 — 1 苫小牧王子

滿洲醫大 11 — 1 稻門俱樂部

全日光 8 — 0 全京城

慶 大 16 — 0 成城OB

準決勝

滿洲醫大 3 — 2 明 大

慶 大 7 — 2 全日光

決勝

慶 大 5 — 2 滿洲醫大
 1 1 3
 1 1 0
 2 0 0
 2

(日光細尾、伊勢丹、芝浦リンク)

翌年に迫つた第四回冬季オリンピック大會に派遣すべき代表選手を決定する年であつたから各選手共異常の緊張を示した。

大會はスピード日光細尾リンク、フィギュア芝浦と伊勢丹リンク、ホッケー芝浦リンク。

スピード第一日は一月二十二日午前九時から日光細尾リンクに於て、今年第一回の女子選手権競技をも加へて舉行した。快晴氣溫零下四度、氷面滑かで突風性の西北風もさして強からず、天候氷質共に恵まれたコンディションであつた。

この五百米に於て石原選手は四五秒五の日本新記録を出し、李選手も四五秒九の新記録を現はし又中村、木谷、三代、金の各選手何れも日本記録を破つて素晴らしい好成績を示した。五千米でも金選手は、この年のインターカレデで作つたばかりの日本最高記録をまたも一新して八分四九秒九の日本新記録を樹立して満場を驚喜せしめた。

スピード第二日は朝來薄雲りで十時頃から小雪とかはつたが無風で氣溫は零下四度。氣づかはれた雪も晝頃止んで薄陽が射して來た。覇權を目指して選手は最後の奮戦に火花を散らした。千五百米に金選手は二分二八秒フラットの

〔慶 大〕		〔滿洲醫大〕	
正井	藤	兄野	木下
井屋	龜	野弟	平野
田城	古	間堀	木下
部	新	堀	早堀
	阿	浅尾	
2	反則	4	

フィギュア競技

(一月十二、三、四日、於、大阪朝日ビルディング)

〔選手権成績順位〕

順位	氏 名	スクール	フリー	順位點
1	片山敏一(關學)	九六・〇	八八・五	七
2	渡邊善次郎(慶大)	九三・一	七三・〇	七
3	長谷川次男(慶大)	九二・五	七三・五	六
4	小林勝利(慶大)	—	—	—
5	長谷川章夫(日ス會)	—	—	—
6	小林二(明大)	7 老松(大ス俱)	8 倉橋新(大ス俱)	9
倉橋哲(關學)	10 北川(大ス俱)			

第六回大會(昭和十年)

日本新記録を樹立して李、石原を抑へた。然もこの千五百米は五位迄が全部日本新記録を破るものであつた。金選手の活躍は更に目覺しく一萬米に於ても壓倒的で、全種目を合して總得點二〇四點六四の最優秀得點を収めスピードの選手権を二年連續獲得した。

ホッケー選手権第一日は二十五日午前九時半から芝浦リンクで舉行された。早、慶、明、立の關東勢に滿洲、北海道、朝鮮の遠征軍を合して九チームを以て熱戦を展開した。

一般軍と學生軍との對戦に興味をつないだが、學生軍は第一日早くも早明敗退し、滿洲醫大も苫小牧王子に、慶大もまた日光古河に敗れて學生軍總くづれとなり、決勝では苫小牧、日光が顔を合せ、遂に苫小牧王子軍が選手権を握る。王子軍の勝因は滿々たる闘志と強靱なる脚力、加ふるにねばりのあるステイック・ワークに依るものであつた。

フィギュアは二十六日伊勢丹リンクでスクールを二十七日午後一時から芝浦リンクでフリースケーチングを舉行した。男子選手権では片山選手が長谷川選手と接戦の後インターカレチの雪辱をとげつゝ三年連續選手権を獲得し、女子は最年少の稻田嬢がスクール、フリー共に斷然好成績を示して第一回女子選手権を獲得した。

スピード競技

(二月廿二、三日 於、日光細尾リンク)

男子選手権

五百米 (セパレート・コース)

1 石原省三(早大)四五秒五(日本新記録)、2 李聖徳(早大)、3 中村禮吉(苦小牧)

千五百米 (セパレート・コース)

1 金正淵(明大)二分二八秒〇(日本新記録)、2 河村泰男(満洲)、3 李聖徳(早大)

五千米 (セパレート・コース)

1 金正淵(明大)八分四九秒九(日本新記録)、2 李聖徳(早大)、3 張祐植(明大)

一萬米 (セパレート・コース)

1 金正淵(明大)一八分二四秒五(日本新記録)、2 李聖徳(早大)、3 張祐植(明大)

選手権成績順位

1 金正淵(明大)二〇四・六四八點、2 李聖徳(早大)二〇八・一四〇點、3 河村泰男(満洲)二一四・〇四五點、4 張祐植(明大)二二五・二七三點、5 安達和男(満洲)二二五・四六六點、6 石原省三(早大)、7 尹明洙(朝

鮮)、8 潤間留十(諏訪)、9 南洞邦夫(満洲)、10 潤間正見(諏訪)

女子選手権

五百米 (セパレート・コース)

1 瀧三七子(満洲)五四秒四、2 築瀬暢子(満洲)五四秒四、3 岩田みよ子(満洲)五九秒七、3 木谷妙子(満洲)五九秒七、5 石橋幾(東北)、6 畑内ちえ(東北)

千五百米 (セパレート・コース)

1 瀧三七子(満洲)二分五七秒四、2 木谷妙子(満洲)二分五九秒六、3 築瀬暢子(満洲)三分三秒三(以上日本新記録)、4 岩田みよ子(満洲)、5 畑内ちえ(東北)、6 島守もと(東北)

選手権成績順位

1 瀧三七子(満洲)一一三・五三三點、2 築瀬暢子(満洲)一二六・五〇〇點、3 木谷妙子(満洲)一一九・五六六點、4 岩田美代子(満洲)一二三・八〇〇點、5 畑内ちえ(東北)一六五・四六四點

アイス・ホッケー競技

(二月廿五、六、七日、於、芝浦リンク)

第一線選

(選手権成績順位)

順位	氏名	スクール	フリー	順位点
1	片山敏一(關學)	九聖・三〇	七三・八	一四
2	長谷川次男(慶大)	八聖・三〇	六七・五	一五
3	老松一吉(關西)	八聖・七〇	七六・五	二〇
4	渡邊善次郎(慶大)	—	—	二三
5	倉橋 新(關西)	—	—	二五
6	小林勝利(慶大)	7 北川(關西)	8 長谷川章(關東)	—
7	倉橋哲(關西)	—	—	—

第七回大會 (昭和十一年)

(日光細尾、山王、芝浦リンク)

第七回全日本氷上競技選手権大會は、一月二十二日から二日間日光細尾に於てスピード競技大會を、同二十四、五、六の三日間は山王及び芝浦スケート場に於てアイス・ホッケー及びフィギュア競技大會を舉行した。

この年は恰度第四回冬季オリムピック大會が、ドイツのガルミンニュ・パルテンキルヘンに於て開催の年であつたので、日本からも各種目に亘り代表選手を派遣したため、この年の選手権大會は、云はば留守軍とも云ふべき選手の間競争が行はれ、技術的の期待とか興味とかいふものは大

フィギュア競技

(一月廿六、七日 於、伊勢丹、芝浦リンク)

〔日〕	〔野〕	〔光〕	〔苦小牧〕	〔瓶〕	〔北〕	〔原〕	〔井〕	〔福〕	〔安〕	〔戸〕	〔平〕	〔元〕
星	山	野	FW	澤	二	原	保	安	安	平	元	元
神	部	部	DF	本	久	子	GK	平	元	元	元	元
阿	本	本	DF	和	子	子	GK	平	元	元	元	元
澤	和	和	GK	金	金	金	金	金	金	金	金	金
5	反	則	1	光	光	光	光	光	光	光	光	光

6	3	1
2	3	1
0	0	3
3	3	3

決勝

苦小牧王子 5 満洲醫大輔仁
日光 7 慶大

準決勝

日光 7 慶大 立 満 鐵 大

第二線選

大 3 1 全 京 城

いに滅殺されて居た。

スピード競は第一日は二十二日午前九時半から開始された。曇天で従つて気温も昇り氣味で零下一度といふにすぎなく氷質は軟かすぎてコンディションとしてはよくなかつた。参加選手は男子二十三名、女子七名、流石に淋しさを味はせられた。

大會第二日は午前是比较的よい天候であつたが午後は烈風性の強風が吹きまくつてコンディションは、よいとか悪いとかいふ問題でなく、むしろ、この中で敢然とレースを行つた役員、選手の眞摯なる行動に敬意を表すものがあつた。

この中で、女子の江島嬢が千五百米レースに瀧三七子嬢の保持する二分五秒四の日本記録を更新したことは、男子の不振に比べ大いに氣を吐くものであつた。

アイス・ホッケーは二十四、五、六の三日間芝浦リンクで行はれた。出場チームは八つ、遠來の全撫順、滿鐵、延禧専門は第一回戦に於て早くも敗退、戦闘は結局早、立、慶など大學チームの間に闘はされることになつたが日光古河がなか／＼ねばり強く、決勝迄残つたのち五對四の接戦で敗れた。

フィギュニア競技もスピード同様オリムピック大會に第一線を送つて居るので、競技は第二線の人達の間に行はれ男

子では大阪スケート倶楽部の北川選手が、女子は東京の東郷嬢が優勝した。

スピード 競技

(一月廿二、三日 於日光細尾リンク)

男子選手権

五百米 (セパレート・コース)

1	三代正勝 (滿洲)	四六・四 ^秒
2	安達和男 (同)	四七・二
3	安重熙 (明大)	四七・三
4	金永河 (同)	四七・五
5	木谷清 (滿洲)	四七・八
6	李仁源 (朝鮮)	四八・〇
7	張日弘 (明大)	四八・二
8	崔龍振 (同)	四八・三
9	朴潤哲 (滿洲)	四八・五
10	許景日 (明大)	四八・八

(以下略)

千五百米 (セパレート・コース)

1	崔龍振 (明大)	二・二八・四 ^秒
2	李仁源 (朝鮮)	二・三一・八

3	安達和男 (滿洲)	二・三二・八
4	木谷清 (滿流)	二・三四・三
5	張日弘 (明大)	二・三四・三
6	安重熙 (同)	二・三四・五
7	尹世植 (同)	二・三六・三
8	朴潤哲 (滿洲)	二・三六・四
9	金永河 (明大)	二・三六・六
10	朱鳳德 (同)	二・三八・六

(以下略)

五千米 (セパレート・コース)

1	安達和男 (滿洲)	九・〇五・四 ^秒
2	崔龍振 (明大)	九・一二・一
3	李仁源 (朝鮮)	九・二三・六
4	木谷清 (滿洲)	九・三一・四
5	尹世植 (明大)	九・三一・八
6	安重熙 (同)	九・三六・一
7	張日弘 (同)	九・三七・〇
8	朴潤哲 (同)	九・四一・〇
9	許景日 (明大)	九・四四・〇
10	金永河 (同)	九・四七・二

(以下略)

(選手権得点及順位)

1	安達和男 (滿洲)	二一〇點八五八
2	崔龍振 (明大)	二一二點〇五一
3	李仁源 (朝鮮)	二一二點一二五
4	安重熙 (明大)	二二四點三八五
5	木谷清 (滿洲)	二二五點五四八
6	金永河 (明大)	二二八點四三〇
7	張日弘 (同)	二二八點九二三

一萬米 (セパレート・コース)

決勝戦

〔大慶〕		〔日光〕		〔日〕	
丹賀堤	後五十小	山部弟	山部弟	村神阿	澤田永
藤嵐菅	澤葉田	野	野	星	澤本兄
玉稻鹽	大河	子平	子平	金小	金小
FW	DF	GK	GK		
1	反則	2	反則		

〔審判 牧、清水氏〕

〔早大〕		〔立大〕		日光古河	
所田田部	須田堀	谷開柳	橋谷	102	102
別平富	安小西	金新小	砂大熊	001	001
田山本	島	中川	谷	1	慶大
DF	DF	DF	DF		
3	反則	4	反則		

〔審判 金子、難波〕

早大	立大
212	212
110	110
2	立大

〔選手権得点及順位〕

選手権得点	順位
1 江島八重子(満洲)	二二〇點七九三
2 今村俊子(同)	二二一點七二三
3 村山菊子(同)	二二三點一三八
4 村山節子(満洲)	二二四點二四〇
5 和田すま子(朝鮮)	二二四點五六六
6 渡邊光子(同)	二二四點五六六
7 和田すま子(同)	二二三點四五五
8 朴潤哲(満洲)	二二〇點七九三
9 三代正勝(同)	二二一點七二三
10 朱鳳徳(明大)	二二三點一三八
11 潤間留十(諏訪)	二二四點二四〇
12 許景日(明大)	二二四點五六六
13 谷田貝菊一(日光)	二二三點四五五

女子選手権

選手権得点	順位
1 江島八重子(満洲)	五五・四
2 今村俊子(同)	五五・五
3 村山菊子(同)	五七・〇
4 村山節子(満洲)	五七・〇
5 和田すま子(朝鮮)	五七・〇
6 渡邊光子(同)	五七・〇
7 和田すま子(同)	五七・〇

千五百米(セバレット・コース)

選手権得点	順位
1 江島八重子(満洲)	一二二點〇六
2 今村俊子(同)	一二七點二三
3 村山菊子(同)	一二七點六六
4 村山節子(同)	一三〇點九六
5 前田きよ子(朝鮮)	一四〇點三六
6 渡邊光子(同)	一四一點〇三
7 和田すま子(同)	一四六點〇〇

アイス・ホッケー競技

第一回戦

準決勝戦

早大	立大
131	311
031	000
4	日光古河

〔審判 金子、難波氏〕

〔早大〕		〔日光〕	
所田田部	須田堀	井山部	弟山
別平富	安小西	村阿永	澤神
田山本	島	野	澤本兄
DF	DF	DF	DF
3	反則	4	反則

フィギュア競技

〔男子選手権順位〕

順位	氏名	順位	氏名
1	北川静二(大阪)	7	山本嘉成(明大)
2	小林勝利(慶大)	8	山本嘉成(明大)
3	倉橋新(神戸)	9	山本嘉成(明大)
4	東郷俊二(關東)	10	山本嘉成(明大)
5	倉橋哲夫(關西)	11	山本嘉成(明大)
6	星野正三(慶大)	12	山本嘉成(明大)

一一四七・四七、8 長谷川章夫(關東)一六三・七八、9
黒田長義(早大)一〇八一・六五

女子選手権成績順位

順位	氏名	所属	順位	スケール	フリー	總得點
1	東郷球子	(關東)	6	七〇・九	五五・五	一二五・三八三
2	月岡芳子	(大阪)	11	六九・六	五七・八	一二七・四
3	手塚満子	(關東)	16	六六・〇	五七・五	一二三・五
4	中村衣子	(神戸)	18	六三・七	五九・三	一二三・〇
5	佐藤節子	(大阪)	24	六六・四	四八・二	一一四・六

第八回大會(昭和十二年)

(諏訪湖、山王、芝浦リンク)

第八回全日本氷上競技選手権大會は一月二十四、五日の
兩日長野縣諏訪湖南岸石舟渡でスピード競技大會を、同じ
く一月二十九日から三日間アイス・ホッケー、フィギュア
を山王、芝浦兩スケート場で舉行した。

スピード大會は豫定では一月二十二日から上諏訪から約
一里半山の中へ入った蓼の海スケートリンクで開催するこ
とになつて居たが、期日前日になつてから氣温が俄かに上
昇し、雨まじりのばた雪が降ると云つた調子で、折角作つ
た四百米のスピード、トラックには水が四、五寸も溜つて

しまひ大會は延期の止むなきに至つた。

これが爲に大會準備に二、三日早く出かけた倉町スピー
ド部長は、中部聯盟の三輪、藤森、潤間、小池、有賀(賢)
伊東、河西、有賀(賢)、君達と協力探してたのが諏訪湖
南岸石舟渡であつた。そして中部聯盟の各位上諏訪町が總
力をあげて、微夜の難事業を敢行雪の積つた凸凹のはげし
い氷を手入れして四百米のトラックが出来上つた時は選手
は勿論役員は歡喜に溢れた。スケート聯盟としてはこの上
もなく貴い體驗をした譯であるが、上諏訪町及中部聯盟役
員の御好意御努力に對しては深甚の謝意を表したい。

この大會には早大スケート部が、學聯の申合せでニシ
ズン學聯競技大會へ出場しないことになつて居たので、早
大は滿洲遠征をしてこの全日本大會にはスピード、フィギ
ュア、アイス・ホッケーとも出場せずや淋しい感があつ
た。

スピード大會第一日は二十四日この石舟渡で舉行、晴天
無風の絶好、八ヶ岳が晴れ上つた空にくつきり浮び出て、
遠來の滿洲選手などかういふ風景に接しないだけに喜びは
一人であつた。但しこの好天にかかはらず氷は氷面がざら
／＼として居て滑り悪く、それに降雨雪のため選手は練習
が思ふやうに出来なかつた爲め記録的にはこれと思ふも
のはなかつた。只女子競技に北海道苦小牧からの参加があ

つて滿洲女子軍と對峙したことは特筆すべきことである。

スピード選手権は、男子では金正淵、崔龍振兩選手の間
に猛烈な接戦が展開され、最後の一萬米で勝敗が決し、崔
選手が選手権を獲得した。女子の方は、この年から新たに
三千米、五千米レースが加えられ滿洲の江島八重子嬢が四
種目全部に優勝二年連續霸權を握つた。三千米、五千米は、
女子にはどうかと思はれたがラストに入るも、尙十分に餘
裕があり、女子スピードの進歩を物語つた。

アイス・ホッケーは、参加七チーム、例に依り、屋内リ
ンクを手近かに持つ東京の學生チームは何んと云つても條
件に恵まれ、各地方チームを總なめにして決勝は立大對明
大となつた。明大の精悍が何處まで喰ひ下るか興味をひい
たが結局及ばず、立大の初優勝となつてしまつた。明大は
體力的には立大に優るとも劣るものではなかつたが、FW、
DFの技術の差が勝敗を決するものとなつた。立大は近來
の好チームであつた。

フィギュアに於ける興味はオリムピック選手の活躍にあ
つた。男子では片山が素晴らしい確實味を加え、渡邊と共に
他に飛び抜けて居た。この兩者のスタイルは一寸他からは
手が出せなかつたやうである。女子では稲田嬢の飛躍と共
に、月岡嬢の今後に大きな期待がかけられることを感じ
た。

スピード競技

(一月廿四、五日 於、諏訪湖リンク)

男子選手権

五百米(セパレート・コース)

1	崔龍振(明大)	四六・八
2	三代正勝(滿洲)	四七・〇
3	金正淵(明大)	四七・九
4	泉山貞義(同)	四八・四
5	木谷清(滿洲)	四八・六
6	石塚省三(同)	四八・六
7	朴潤哲(同)	四八・七
8	安達和男(同)	四八・八
9	許景日(明大)	四九・〇
10	金基滿(朝鮮)	四九・三

(以下略)

千五百米(セパレート・コース)

1	崔龍振(明大)	一二・九・七
2	金正淵(同)	一二・九・八
3	朴潤哲(滿洲)	一二・三四・九
4	金基滿(朝鮮)	一二・三五・七

- 5 泉山貞義(明大)
- 6 安達和男(滿洲)
- 7 金莊煜(明大)
- 8 花岡光夫(諏訪)
- 9 三代正勝(滿洲)
- 10 尹世植(明大)

- 二、三五・八
- 二、三六・二
- 二、三七・一
- 二、三八・六
- 二、三八・九
- 二、三九・七

五千米(セパレット・コース)

- 1 金正淵(明大)
- 2 崔龍振(同)
- 3 張祐植(明大)
- 4 泉山貞義(同)
- 5 金基滿(朝鮮)
- 6 朴潤哲(滿洲)
- 7 尹世植(明大)
- 8 安重熙(同)
- 9 木谷清(滿洲)
- 10 三代正勝(同)

- 九、一〇・四
- 九、二一・四
- 九、二六・五
- 九、四六・五
- 九、五〇・二
- 九、五六・六
- 九、五八・二
- 一〇、〇〇・〇
- 一〇、〇八・〇
- 一〇、三八・〇

一萬米(セパレット・コース)

- 1 崔龍振(明大)
- 2 金正淵(同)

- 一九、二六・〇
- 一九、二九・〇

〔選手權得點及順位〕

- 3 張祐植(同)
- 4 金基滿(朝鮮)
- 5 泉山貞義(明大)
- 6 尹世植(同)
- 7 安達和男(滿洲)
- 8 花岡光夫(諏訪)
- 9 濱三正(滿洲)
- 10 朴潤哲(同)

- 二〇、〇二・一
- 二〇、二一・一
- 二〇、二二・二
- 二〇、二八・八
- 二〇、三四・九
- 二〇、三六・二
- 二〇、四〇・二
- 二〇、四八・八

- 1 崔龍振(明大)
- 2 金正淵(同)
- 3 張祐植(同)
- 4 泉山貞義(同)
- 5 金基滿(朝鮮)
- 6 朴潤哲(滿洲)
- 7 安達和男(同)
- 8 三代正勝(同)
- 9 尹世植(明大)
- 10 花岡光夫(諏訪)

- 二二、一四・〇
- 二二、一三・三
- 二二、〇〇・二
- 二二、〇〇・九
- 二二、一六・九
- 二二、二四・三
- 二二、三一・九
- 二二、三七・六
- 二二、四一・九
- 二二、五八・七

女子選手權

(以下略)

五百米(セパレット・コース)

- 1 江島八重子(滿洲)
- 2 壹岐イサ子(同)
- 3 今村俊子(同)
- 4 村山菊子(同)
- 5 壹岐修(同)
- 6 中川キヨ(北海道)
- 7 坂本キヨ(同)
- 8 汾陽泰子(滿洲)
- 9 大高タエ(北海道)
- 10 村山節子(滿洲)

- 五四・八
- 五六・〇
- 五六・六
- 五七・五
- 五七・七
- 五八・一
- 五八・二
- 五九・〇
- 五九・六
- 五九・八

一千米(セパレット・コース)

- 1 江島八重子(滿洲)
- 2 壹岐イサ子(同)
- 3 木谷妙子(同)
- 4 今村俊子(同)
- 5 村山菊子(滿洲)
- 6 汾陽泰子(同)
- 7 坂本キヨ(北海道)
- 8 村山節子(滿洲)
- 6 中川キヨ(北海道)

- 一、五二・二
- 一、五三・一
- 一、五三・二
- 一、五六・七
- 一、五七・七
- 一、五八・八
- 二、〇一・六
- 二、〇三・三
- 二、〇三・三
- 二、〇三・九

三百米(セパレット・コース)

- 1 江島八重子(滿洲)
- 2 木谷好子(同)
- 3 壹岐イサ子(滿洲)
- 4 村山節子(同)
- 5 坂本キヨ(北海道)
- 6 村山菊子(滿洲)
- 7 汾陽泰子(同)
- 8 今村俊子(同)
- 9 中川キヨ(北海道)
- 10 北澤ハナ(同)

- 六、二九・八
- 六、二九・八
- 六、三四・一
- 六、四四・一
- 六、四六・三
- 六、四八・四
- 六、四九・三
- 六、五一・二
- 六、五四・六
- 七、〇二・〇

五千米(セパレット・コース)

- 1 江島八重子(滿洲)
- 2 木谷妙子(同)
- 3 壹岐イサ子(同)
- 4 村山節子(同)
- 5 汾陽泰子(同)
- 6 今村俊子(同)
- 7 村山菊子(同)

- 一〇、三九・一
- 一〇、四二・六
- 一一、一八・二
- 一一、二四・三
- 一一、二八・〇
- 一一、五三・六
- 一一、五五・一

8	坂本キヨ (北海道)	一一、五七・一
9	中川キヨ (同)	一一、〇八・七
10	北澤ハナ (同)	一一、〇八・九

(以下略)

〔選手權得點及順位〕

1	江島八重子 (滿洲)	二三九・七七六
2	木谷妙子 (同)	二四五・六二六
3	壹岐イサ子 (同)	二四六・〇五三
4	今村俊子 (同)	二五四・八四三
5	汾陽泰子 (同)	二四八・〇二六
6	村山菊子 (同)	二五六・〇二六
7	村山節子 (同)	二五七・二三〇
8	坂本キヨ (北海道)	二五八・四二六
9	中川キヨ (同)	二六二・〇二〇
10	北澤ハナ (北海道)	二七〇・一二三

アイス・ホッケー競技

(一月廿九、卅、卅一日 於、芝浦リンク)

第一回戰

明	大	5	121	101	2	延禧專門
---	---	---	-----	-----	---	------

〔立大〕	〔日光〕	〔日〕	〔準決勝戰〕
中村田谷柳開	田木砂金小新	澤永神山井納岡	澤永神山井納岡
FW	FW	DF	DF
橋谷	山本宅	金子	金子
GK	GK	GK	GK
3	反則	2	反則

明	大	3	10002	00200	2	慶
---	---	---	-------	-------	---	---

〔立大〕	〔慶大〕	〔明大〕	〔立大〕
加賀谷	田菅殿岡	口村野本邊刈	田田柳村谷開
FW	FW	DF	DF
澤葉	澤葉	畑林	畑林
GK	GK	GK	GK
大野	大野	崔	崔
0	反則	4	反則

〔延禧〕	〔明大〕	〔慶大〕	〔立大〕
李東昇	口本村邊野刈	堤菅井谷田岡	田田柳村谷開
FW	FW	FW	FW
崔完福	崔完福	崔完福	崔完福
GK	GK	GK	GK
2	反則	2	反則

慶	大	3	2100	1001	2	苦小牧王子
---	---	---	------	------	---	-------

〔苦小牧〕	〔慶大〕	〔立大〕	〔全京城〕
二瓶村	堤菅井谷田岡	島中置澤植本平	柳田中開谷村
FW	FW	FW	FW
芳賀	芳賀	芳賀	芳賀
DF	DF	DF	DF
平	平	平	平
0	反則	0	反則

立	大	5	122	002	2	日光古河
---	---	---	-----	-----	---	------

〔立大〕	〔全京城〕	〔立大〕	〔立大〕
島中置澤植本平	柳田中開谷村	田田柳村谷開	田田柳村谷開
FW	FW	FW	FW
橋谷	橋谷	橋谷	橋谷
GK	GK	GK	GK
0	反則	2	反則

立	大	7	043	100	1	明
---	---	---	-----	-----	---	---

〔立大〕	〔明大〕	〔立大〕	〔立大〕
田田柳村谷開	田田柳村谷開	田田柳村谷開	田田柳村谷開
FW	FW	FW	FW
崔	崔	崔	崔
3	反則	3	反則

フイギユア競技

(一月廿九、廿、卅一、於、芝浦、山王リンク)

「男子選手権成績順位」

順位氏	名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	片山敏一	(關學)	5	一八・七	一四・七	三三・九三
2	渡邊善次郎	(慶大)	12	一八・五	二九・〇	二九・五三
3	長谷川次男	(同)	13	一七・五	二四・三	二七・八五
4	倉橋新	(關西)	21	一五・四	二六・四	二一・二四
5	神田博	(同)	24	一四・六	二六・六	二七・四六
6	東郷駿二	(關東)	30	二七・四	二三・元	二四・七八

「女子選手権成績順位」

順位氏	名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悦子	(關西)	5	二〇・四	二五・六	二五・〇八
2	月岡芳子	(關西)	10	一七・三	二四・一	二二・三三
3	中村衣子	(同)	15	一三・八	二六・二	二二・四六
4	手塚満子	(關東)	22	二六・四	二七・四	二四・四六
5	依岡禮子	(關西)	23	二三・七	二〇・一	二二・八四

第九回大會 (昭和十三年)

(札幌、芝浦、山王リンク)

第九回全日本氷上競技選手大會アイス・ホッケー及びスピード大會は一月十四、五、六の三日間北海道札幌市中島公園特設スケート場で舉行、フィギュア競技會のみ東京芝浦スケート場、山王スケート場で行はれた。

選手権大會が北海道で行われたのは、この年がはじめてのことであつた。一九四〇年に札幌で行はれることに決つた第五回冬季オリンピック大會の準備として行つたものである。先づ第一に競技場である。それから競技の運行であつたが、競技場は北海道氷連久保、安田理事の研究、努力で地面に撒水して作り、なか／＼優秀に出来上つた。尚オリムピック大會迄には餘裕あることだから一段と良好のものが期待される。運行も札幌と苫小牧で熱心に努力されたので、スキー大會に負けない盛況を呈した。

大會、第一日は十四日午前九時の開會であつた。天候に恵まれて快晴、滿洲、朝鮮、關西中部、關東、北海道地區の順で、二百五十名の選手が、西田北氷連聯理事の先導で四百米のトラックを札幌商業プラスバンドの吹奏する愛國行進曲で行進、國旗掲揚、國歌奉唱、前年度スピード優勝者崔龍振選手、選手を代表して宣誓をなし、次いで北海道學務部長北海道スケート聯盟高辻會長の開會宣言あつて直ちに競技に入つた。この目氣溫零下四度、氷はや／＼軟かであつたが、北の風が少しあつたので氷面をたへず締めて居た。

スピード競技は、男子では北海道苫小牧工業の内藤晋選

手が急激に擡頭してきたのが目立ち、女子は北海道苫小牧の躍進が著しく、最早この状態では、スケート王國滿洲も安閑としては居られないものを感じた。男子選手権は崔龍振が二年連覇、女子は滿洲江島嬢が三年連續續權を獲得した。

アイス・ホッケーは、參加チームは奉天滿鐵の棄權はあつたが、北大、明大、早大、立大、慶大、全札幌師、日光古河、苫小牧工業、苫小牧王子の九チームで非常に盛んであつた。

この大會での興味は、いつも東京の屋内リンクを試合場として居る各大學チームが、屋外のリンクで果してどんな試合ぶりを見せるか、そこに多分の興味を持つて居た。試合は結局練習に恵まれて居る早大の覇權獲得となつたが、明大、慶大は豫選で早くも敗退してしまつた。屋外の自然氷のリンクで鍛へ上げこゝで試合をすることがスケート本來の使命と思はれるから全日本選手権大會も事情の許す限りに於て屋外を利用すべきであらう。

大會第一日、第二日と好天に恵まれ、第三日の最終日も午前には小雪を交へて荒模様の天候であつたが、午後一時一萬米レースを行ふ頃には晴れ上り良コンディションとなり、大會三日間先ず恵まれたと云へる、全競技は午後四時豫定通り終了、選手、役員全員整列、札幌商業プラスバン

ドの吹奏裡に國歌奉唱、國旗降下の式が終り、引續き丸井デパートの階上ホールで閉會式が行はれた。尙この大會の成績によつて第五回冬季大會の日本代表第一次候補選手が銓衡發表された。

フィギュア競技は、一月二十二、三兩日山王及芝浦兩スケート場で舉行された。關東の長谷川、渡邊などオリムピック選手、星野・黒田の諸選手の不出場は量的にも内容的にも淋しいものであつたがフィギュア界革新の爲めにはこれ等選手の不出場も止むを得ぬものであつた。

從つて片山選手は好敵手を失つて易々たる優勝を遂げたが、何んと云つても好敵手の居ないといふことは精神的弛緩を來すものとなり、知らず知らずの中にそれが現はれて居る。た神田小豆島選手の進止は目立つて居た。女子は稻田嬢が一頭地を抜き、二位の月岡嬢を百點近く引離して優勝した。稻田嬢は期待行り素晴らしいスケートティングを見せ、ジャムプ、スピン、ステップの洗練された妙味は際立つて居た。

スピード競技

(一月十四、五、六日、於 札幌リンク)

男子選手権

五百米 (セ・パレイトコース)

1	崔龍振(明大)	四五・九 ^秒
2	李聖德(朝鮮)	四六・七
3	南洞邦夫(早大)	四六・九
4	三代正勝(滿洲)	四七・三
5	許景日(明大)	四七・三
6	金正淵(明大)	四七・七
7	潤(明大)	四七・七
8	安重熙(同)	四七・八
9	內藤晋(苦工)	四七・八
10	中村禮吉(早大)	四八・一

(以下略)

千五百米

1	朴潤哲(滿洲)	二・三二・五 ^分
2	安重熙(明大)	二・三三・八
3	崔龍振(同)	二・三三・八
4	南洞邦夫(早大)	二・三三・九
5	李仁源(朝鮮)	二・三四・九
6	內藤晋(苦工)	二・三六・〇
7	金正淵(明大)	二・三六・一
8	張祐植(同)	二・三七・〇
9	崔晃洙(同)	二・三七・六
10	三代正勝(滿洲)	二・三八・四

五千米(セパレイト・コース)

1	張祐植(明大)	九・一三・八 ^分
2	崔龍振(同)	九・一六・四
3	泉山貞義(明大)	九・一九・九
4	金正淵(同)	九・二二・二
5	南洞邦夫(早大)	九・二四・一
6	朴潤哲(滿洲)	九・二七・四
7	安重熙(明大)	九・二八・七
8	高林三郎(同)	九・二八・八
9	尹世植(同)	九・三一・〇
10	李仁源(朝鮮)	九・三五・三

(以下略)

一萬米(セパレイト・コース)

1	張祐植(明大)	一八・四四・九 ^分
2	崔龍振(同)	一八・五二・三
3	朴潤哲(滿洲)	一八・五六・五
4	南洞邦夫(早大)	一九・〇八・二
5	安重熙(明大)	一九・一四・八
6	金正淵(同)	一九・一八・九
7	泉山貞義(同)	一九・一九・四
8	高林三郎(同)	一九・三一・九

「選手權得點及順位」

1	崔龍振(明大)	二〇九・四二二
2	南洞邦夫(早大)	二二三・〇二〇
3	朴潤哲(滿洲)	二二一・〇九八
4	張祐植(明大)	二二三・四五八
5	安重熙(同)	二二三・六七七
6	金正淵(同)	二二三・八九八
7	泉山貞義(同)	二二五・四六〇
8	高林三郎(同)	二二八・九〇八
9	芝岡光夫(諏訪)	二二九・三一〇
10	尹世植(明大)	二二九・三五五

(以下略)

三千米(セパレイト・コース)

1	江島八重子(滿洲)	一・五三・三 ^分
2	中川キヨ(北海道)	一・五三・六
3	今村俊子(滿洲)	一・五五・三
4	汾陽泰子(同)	一・五九・四
5	村山菊子(滿洲)	二・〇一・〇
6	大高タエ(北海道)	二・〇二・四
7	平井冴子(同)	二・〇三・五
8	村山節子(滿洲)	二・〇四・六
9	坂本キヨ(北海道)	二・〇五・三
10	野澤光子(同)	(以下略)

三千米(セパレイト・コース)

1	江島八重子(滿洲)	六・一二・四 ^分
2	汾陽泰子(同)	六・一八・七
3	中川キヨ(北海道)	六・二二・一

女子選手權
五百米(セパレイト・コース)

1	江島八重子(滿洲)	五三・九 ^秒
2	中川キヨ(北海道)	五四・〇
3	今村俊子(滿洲)	五五・一
4	坂本キヨ(北海道)	五五・一
5	汾陽泰子(滿洲)	五五・一

〔早 大〕			早			立			早			立			早			苦小牧王子		
FW			大			大			大			大			大			3		
DF			0 1 2 0 0 1			5 0 4 2 0 2			2 2 1 0 0 1 0 2			4 0 4 1 0 0			7 0 2 0 0 1			1 0 2 0 0 1		
GK			1			4			3			1			1			1		
反則			立			大			苦小牧工業			日光古河			北			慶		
5			大			大			大			大			大			大		

〔早 大〕			早			立			早			立			早			苦小牧王子		
FW			大			大			大			大			大			3		
DF			0 1 2 0 0 1			5 0 4 2 0 2			2 2 1 0 0 1 0 2			4 0 4 1 0 0			7 0 2 0 0 1			1 0 2 0 0 1		
GK			1			4			3			1			1			1		
反則			立			大			苦小牧工業			日光古河			北			慶		
5			大			大			大			大			大			大		

〔選手権得点及び順位〕
1 江島八重子(満洲)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	五千米(セパレート・コース)		10	9	8	7	6	5	4
村山菊子(同)	村山節子(同)	今村俊子(満洲)	中川キヨ(同)	坂本キヨ(同)	野澤光子(同)	大高タエ(同)	平井牙子(北海道)	汾陽泰子(満洲)	江島八重子(満洲)			村山菊子(満洲)	今村俊子(同)	平井牙子(同)	坂本キヨ(北海道)	村山節子(満洲)	大高タエ(同)	野澤光子(同)
()	()	()	()	()	()	()	()	()	()			()	()	()	()	()	()	()
一一、四三・四	一一、四二・九	一一、二九・五	一一、二九・五	一一、一三・二	一一、〇七・一	一一、〇五・一	一一、〇〇・二	一〇、三六・三	一〇、三六・〇			六、四七・一	六、四三・二	六、四〇・四	六、三九・四	六、三六・二	六、三七・四	六、三六・二
(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)			(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)	(以下略)

二二六・二〇〇

第二回戦

苦小牧工業	4	11 12 11 10	2	明	大
日光古河	5	1 0 2 2 0 0 0 1 3 0	4	全札幌師	

第一回戦

立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局
立	大	棄	權	奉天鐵道總局

フィギュア競技

(一月廿二、三日 於、芝浦、山王リンク)

〔男子選手権成績順位〕

順位氏	名所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	片山敏一(關西)	5	一六・四〇	一三・三	三九・七
2	神田 博(同)	12	一七・〇四	二四・三	四一・三
3	小豆島藤丸(同)	16	一五・二六	二三・四	三八・六
4	有坂隆祐(關東)	17	一四・六	二三・四	三八・〇
5	島川 浩(同)	25	一四・六	一〇・八	二五・四
6	山本嘉我(同)	30	二二・六	九四・八	二六・六

〔女子選手権成績順位〕

順位氏	名所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悦子(關西)	5	一五・四	一五・四	三〇・八
2	月岡芳子(同)	10	一四・四	一三・五	二七・九
3	中村衣子(同)	15	一三・五	一〇・八	二四・三
4	鱈 美佐子(關東)	22	一三・四	九・〇	二二・四

5 依岡禮子(關西) 23 二〇・三 二〇・三 二三・七〇
6 矢野美知子(關東) 30 二〇・六 二〇・六 二〇・八〇

オリムピック札幌大會

第一次候補選手

スピード

(監督) 木谷辰己

(トレーナー) 河村泰男

「男子選手」 張祐植(明大)、崔龍振(明大)、南洞邦夫(早大)、安重熙(明大)、朴潤哲(滿洲)、泉山貞義(明大)、金正淵(明大)、李聖德(朝鮮)、三代正勝(滿洲) 内藤晋(苦工)、芝岡光夫(諏訪)、高林三郎(諏訪)、尹世植(明大)、崔景洙(明大)、以上十四名

「女子選手」 江島八重子(滿洲)、中川キヨ(苦高女)、汾陽泰子(滿洲)、今村俊子(滿洲)、大高妙子(苦高女) 坂本キヨ(苦高女)、以上六名

アイス・ホッケー

(監督) 牧定夫

「選手」 市川辰雄(早大)、安田敬美(早大)、小須田孝(早大)、鬼塚弘起(早大)、左右田忠男(早大)、七田

同三日間赤坂山王スケート場でフィギュア競技を舉行した。その結果男子スピード選手権は明大泉山貞義君に女子スピード選手権は北海道苫小牧高女の中川キヨ嬢に、男子フィギュア選手権は、神戸甲南高校の神田博君女子フィギュア選手権は大阪梅花高女の稲田悦子嬢、アイス・ホッケー選手権は、立教大學チームがそれ〴〵獲得した。スピード大會第一日の一月十七日は快晴に加ふるに氣温も午前八時には零下十度を示し、これが太陽の昇ると共に氷質を最上のコンディションにした。

夜行で到着した喜多會長は、布半ホテルで一風呂浴びたのち、既に數日前から來諏大會準備に萬全を期した各理事、技術委員諸君と共に自動車をかつて、一里半の山道を藁の海リンクに向つた。空は日本晴れである。南の方に甲斐駒連峰がよく見へる。北方の谷間の上には北アルプスの盟主穂高岳が嚴然として、けふの大會を祝福して居る。上諏訪町の警防團の人々が藁の海を會場とし行はれる。毎回この藁の海を會場とし行はれる競技會には警防團には御介をかける。有難いことである。

午前十時、喜多會長の開會の言葉があつて第十回スピード選手權大會の幕は切つて下された。空はあく迄も晴れ渡つて居る。紺碧の空である。風はそよともしない。この玲瓏とした聊かの獨りもない大空の下で行はれるスケート競技

武(早大)、中澤肇(早大)、中川哲(早大)、砂田重民(立大)、小柳誠司(立大)、田中文雄(立大)、大村耕一郎(立大)、谷仙吉(立大)、後藤博(立大)、山本正雄(立大)、大橋次郎(立大)、田村試一(明大)、中村弘(明大)、平林爲雄(明大)、堤正夫(慶大)、小菅利雄(慶大)、大野寛(慶大)、澤本七五郎(日光)、二瓶宗二(苦)、原信男(苦)、林一郎(苦)、畠山博吉(苦)、西浦清輝(苦工)、戸島光男(苦工)、田原良平(苦工)、千葉(苦工) 以上三十一名

フィギュア

「男子選手」 片山敏一(關學)、神田博(甲南高校)、小豆島藤丸(大阪ス俱)、有坂隆祐(明大) 以上四名
「女子選手」 稲田悦子(大阪ス俱)、月岡芳子(大阪ス俱)、中村衣子(大阪ス俱) 以上三名

第十回大會(昭和十四年)

(藁の海、山王、芝浦リンク)

第十回全日本氷上競技選手權大會は、一月十七、八の兩日長野縣上諏訪藁の海リンクでスピード競技を、同二十日から三日間、芝浦スケート場でアイス・ホッケー競技を、

技會こそ幸福である。

大會第二日は午前九時半から行はれた。女子千米、男子千五百米の途中迄は、東北風二米位氣温も零下三度でコンディションは良好であつたが、競技の進行に連れて風は次第につり、遂に粉雪をまじへる強風となつてしまつた。殊に最後の一萬米レースは風速十米の猛吹雪と化して最悪のコンディションとなつた。然しレースは敢然として續けられ、選手権は明大泉山貞義君の獲得するところとなつた。泉山君の優勝は不斷の努力がむくいられたのである。午後三時半閉會式、同時に日滿抗戰のスピード男女代表が決定發表された。

アイス・ホッケー選手權競技會は、一月二十日より三日間、芝浦スケート場で行はれた。今大會の參加チームは早、慶、明、立の學生四チームと苫小牧王子製紙、日光古河精銅所滿鐵、關東實業團ビツクアツプチームの一般四チームで、組合せの上では學生對一般の對抗戰の如き觀を呈したのであつたが、一般軍は學生軍の進歩に置かれた形で、前年程度の波瀾も捲き起し得ず、何れも一回戰で姿を消してしまつた。

従つて準決勝からは、早、慶、明、立の學生軍が今シーズン三度目の覇權争いを演ずることになつたのであるが、學生大會では早立に對し相當な實力的差違を見せた慶明も

今大會に於ては、それ〴〵、補強して早立の牙城に迫り、これ等四チームの間には、全く優劣がつけ難いまでになつて來た。即ち、慶大は定期戦制勝の餘勢を驅つて二對零と早大に迫り、明大も前半一點を許したので執拗に立大を追ひ、共に敗れて悔なき善戦を見せ、決勝に於ける早立の對戦も一度は早大がリードすると云つた正に文字通りの激戦であつた。

フィギュア競技會は、スクール・フィギュアを赤坂山王で、フリースケーティングを芝浦スケート場で、一月二十日から三日間行はれた。

茲二、三年來、片山、長谷川、渡邊の鼎立と女子稻田嬢の一頭地を抜く進境に順調の發達を辿つて來たフィギュア界も、今年片山、渡邊が隠退し長谷川も病氣で出場せず、一ぺんに頭を持つて行かれた形となつた上、女子も月岡嬢の病氣棄權などがあつて出場者三人等といふことになつた爲め質量共に低下を來し、稻田嬢の洗練された技倆に僅かに前年以上のものを見出したにすぎなかつたのは止むを得ぬことであつたと云へ全く淋しい限りであつた。

男子選手權は神田、有坂、小豆島の三人に依り最終日のフリースケーティングを勝敗の今峯點として興味深い爭覇戦を展開したがフリーに優れた有坂、小豆島も、スクールの點差を追い切れず順當に神田の優勝に終つた。

今年の選手大會は、二月行はれる日滿抗戦に送る代表選手の選衡競技會ともなり、二三の側外はあるとしても大部分は、この大會の成績に依つて代表選手は決定したのである。

スビー技競技

(一月十七、八日 於 夢の海リンク)

五百米(セパレート・コース)

1	高林三郎(明大)	四四・〇
2	山下勝久(早大)	四四・八
3	中村禮吉(同)	四五・一
4	南洞邦夫(同)	四五・一
5	張日弘(明大)	四五・三
6	泉山貞義(同)	四五・六
7	崔眞洙(同)	四六・一
8	李仁源(同)	四六・一
9	金莊煜(同)	四六・二
10	任秉圭(新義州東中)	四六・二
11	崔龍振(朝鮮)	四六・四
12	安重熙(明大)	四六・四
13	金健會(朝鮮)	四六・五

13	古厩泰治(岡工)	四六・六
14	杉浦正一(早大)	四六・九

(以下略)

千五百米(セパレート・コース)

1	南洞邦夫(早大)	一二・二七・三
2	金莊煜(明大)	一二・三〇・一
3	中村禮吉(早大)	一二・三〇・七
4	泉山貞義(明大)	一二・三一・三
5	崔龍振(朝鮮)	一二・三一・五
6	崔眞洙(明大)	一二・三一・二
7	安重熙(同)	一二・三三・五
8	張日弘(同)	一二・三四・一
9	金健會(朝鮮)	一二・三四・一
10	張祐植(明大)	一二・三四・四
11	李仁源(同)	一二・三五・一
12	金漢集(朝鮮)	一二・三五・三
13	金永俊(明大)	一二・三五・六
14	金泰官(同)	一二・三六・三
15	鄭庚彦(同)	一二・三六・四

(以下略)

五千米(セパレート・コース)

1	張祐植(明大)(日本新記録)	八四・七・〇
---	----------------	--------

一萬米(セパレート・コース)

1	泉山貞義(明大)	二〇・一〇・六
2	張祐植(同)	二〇・三七・三
3	金健會(朝鮮)	二〇・五八・六
4	尹世植(明大)	二〇・五八・七
5	高林三郎(同)	二一・一〇・九
6	金莊煜(同)	二一・一九・二
7	南洞邦夫(早大)	九、〇九・四
8	金健會(朝鮮)	九、〇九・八
9	朴性甲(明大)	九、一三・五
10	金永俊(同)	九、一五・〇
11	金漢集(朝鮮)	九、一五・二
12	金莊煜(明大)	九、一六・一
13	金河吉(朝鮮)	九、一六・七
14	李仁源(明大)	九、一七・〇
15	高林三郎(同)	九、一九・二
16	中楠藤(早大)	九、二三・九

(以下略)

7	古厩泰治(岡工)	一一・二・一
8	安重熙(明大)	一一・二・五・四
9	南洞邦夫(早大)	一一・三・四・六
10	李仁源(明大)	一一・四・九・〇
11	山下勝久(早大)	一一・五・八・六
12	中禮村吉(同)	一一・二・三・五
13	崔龍振(朝鮮)	一一・二・四・五
14	張日弘(明大)	一一・二・五・八
1	泉山貞義(明大)	一一・一・〇・七・三
2	南洞邦夫(早大)	一一・三・八・七・〇
3	張祐植(明大)	一一・四・二・三・二
4	金健會(朝鮮)	一一・五・七・七・七
5	金莊煜(明大)	一一・五・八・〇・三
6	高林三郎(同)	一一・五・八・四・八
7	尹世植(同)	一一・五・九・八・五
8	安重熙(岡工)	一一・七・九・一・八
9	李仁源(明大)	一一・八・九・一・七

(以下略)

女子選手權

五百米(セバレット・コース)

1	中川キヨ(北海道)	五一・九
---	-----------	------

千米(セバレット・コース)

1	中川キヨ(北海道)(日本新記録)	一、四八・四
2	大高タエ(同)	一、五五・五
3	坂本キヨ(同)	一、五六・五
4	野澤光子(同)	一、五八・八
5	北澤キクエ(同)	二、〇〇・〇

三千米(セバレット・コース)

1	中山キヨ(北海道)(日本新記録)	五、五五・六
2	坂本キヨ(同)	六、〇九・三
3	大高タエ(同)	六、〇九・九
4	野澤光子(同)	六、一一・五
5	北澤キクエ(同)	六、二〇・三

五千米(セバレット・コース)

1	大高タエ(北海道)	一〇、五八・一
2	野澤光子(同)	一〇、五九・〇
3	中川キヨ(同)	一〇、五九・七

●日本記録五分五秒一、一九三八・江島八重子(満洲)

準決勝

早	大	2	002	000	0	慶	大
---	---	---	-----	-----	---	---	---

(審判 難波、小森氏)

4	北澤キクエ(同)	一一・二・〇・九
5	坂本キヨ(同)	一一・三・〇・二
1	中川キヨ(北海道)	一一・四・七・八・六
2	大高タエ(同)	一一・三・九・六・七・七
3	坂本キヨ(同)	一一・四・一・八・二・〇
4	野澤光子(同)	一一・四・六・一・一・七
5	北澤キクエ(同)	一一・四・六・三・七・二

アイス・ホッケー競技

(一月廿、廿一、廿二日 於、芝浦リンク)

第一回戦

立	明	慶	早
大	大	大	大
7	7	3	8
$\begin{array}{ c c c } \hline 1 & 3 & 3 \\ \hline & & \\ \hline 1 & 1 & 0 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{ c c c } \hline 2 & 3 & 2 \\ \hline & & \\ \hline 0 & 1 & 0 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{ c c c } \hline 2 & & 1 \\ \hline & & \\ \hline 1 & 0 & 0 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{ c c c } \hline 5 & 2 & 1 \\ \hline & & \\ \hline 1 & 0 & 0 \\ \hline \end{array}$
2	0	1	1
關東實	滿	苦	日光古河
	鐵	王子	

決勝戦

〔立〕	大	〔明〕	大	〔早〕	大	〔慶〕	大
田砂鬼大後高内谷山	中田鞍村藤橋藤谷本	江副江田荻中滑平結	兄本弟口野村川林家	吉思中島森七川市鈴小野田	島鞍川津本田西川木	稻堤銘小木成	葉刈菅村瀬加賀谷岡野
	FW	DF			FW	DF	

(審判 牧、辻氏)

立	大	1	001	000	0	明	大
早	大	3				反則	1

立	大	4	1	2	1	3	早	大
			1	1	1			

(審判 辻、難波氏)

大)	川 鞍 島 津 田 西 川 木	1
早)	中 鬼 吉 島 七 川	反 則
大)	中 田 鞍 村 藤 橋	DF
立)	田 砂 鬼 大 後 高 内 谷 山	3

フィギュア競技

(一月廿、廿一、廿二日、於 芝浦及山王リンク)

〔男子選手権成績順位〕

(審判 五十嵐、杉本、帶谷、小林、倉橋五氏)

順位氏	名所	屬	順位	点	スケール	フリー	總得点
1	神田 博甲	南校	6	一七・九	二五・七	二九・七	七〇・三
2	有坂隆祐	明	大	九	一六・三	二三・七	二九・〇
3	小豆島藤丸	大阪	ス	5	一四・三	二八・四	二七・七
4	伊賀頼勇	同	大	22	一七・三	二八・三	二六・六
5	小林達雄	明	大	23	一一・五	二八・六	三三・一

五年に第一回の全日本スピード選手権大会を舉行し、更に昭和七年には第三回全日本アイス・ホッケー選手権大会を開き、今回を合すれば全日本選手権大会は三度びの開催となるのであつて、この間昭和十三年には全國學生スピード選手権大会が行はれて居るのであるから、全國的大會場として東北地方に誇り得る日本の代表的スケート場と云へるのである。

スピード大會第一日は、午前十時から全國の精鋭六十名に依つて開始された。喜多會長代理兩角事務理事の開會挨拶、鈴木青森縣知事、神田八戸市長の祝辭があり、レースは女子五百米から開かれた。この日快晴、氣温零下四度、風速西南三米氷質良、レースの進むにつれて風が強くなり、女子五百米の終る頃には、五米から六米の強風が吹きつけて選手の力走を阻んだが、各選手ともひるむところなく最善をつくして奮闘したのは涙ぐましかつた。風が強かつた爲めに記録の上らなかつたことは止むを得ないものであつた。

大會第二日は、前夜の降雪も止んで朝來快晴、氣温も零下八度に下り、風も前日の強風に引きかへて二度前後で、選手は申分ないコンディションの下で存分の活躍をした。大會第三日も快晴、氣温零下三度、風速二米、大會の最後を飾るには絶好のコンディションであつた。かくて三日間

6	島 川	浩(早大OB)	30	二〇・〇	二六・六	三三・二
---	-----	---------	----	------	------	------

〔女子選手権成績順位〕

(審判 五十嵐、杉本、帶谷、小林、倉橋五氏)

順位氏	名所	屬	順位	点	スケール	フリー	總得点
1	稲田悦子	大阪	ス	5	二〇・六	二五・九	三三・六
2	中村衣子	同	大	10	二七・六	二四・八	三三・六
3	矢野美和子	東	京	15	二六・六	二八・四	三三・四

第十一回大會(昭和十五年)

(八戸、山王及芝浦リンク)

第十回全日本スケート競技選手権大會は、スピード競技を一月十九日から三日間青森縣八戸市長根リンクで、フィギュアとアイス・ホッケーを同二十六日から三日間東京芝浦リンク及山王スケート場(山王リンクは例年通りスケールフィギュアのみ)で行つた。そして選手権は、男子スピード朴潤哲君(滿洲)、女子スピード冷陽泰子嬢(滿洲)、アイス・ホッケー明大チーム、男子フィギュア有坂隆祐君(明大)、女子フィギュア稲田悦子嬢(關西梅花高女)、がそれぞれ獲得した。

スピード競技の行はれた青森八戸市長根リンクは、昭和

に亘るスピード競技選手権大會は終了午後四時國旗降納、天皇陛下の萬歲奉唱、大會及八戸市の萬歲を三唱して幕を閉じた。

今年のスピード選手権大會に参加した選手は、關東の學生軍を中心に、朝鮮、滿洲、北海道、東北、中部など、ほとんど全國的に強豪を網羅したのではあつたが、質的低下といふか力の出し不足といふか記録は思つたより悪く、選手諸君に對し一段の努力奮闘を希望するものがあつた。然し記録とは別に競技、大會の運行は好天に恵まれたことに依るが満點と云つてよい程成績がよかつた。これは八戸市全市が總力を擧げてこの大會の成功を期した結果に外ならないのであつて、この事實は單にスケート大會の成功といふことばかりでなく、日本運動競技界への大いなる寄與と云ひ度いのである。殊に高齢でしかも足の不自由の神田市長が連日寒い大會場に見へて眞剣な選手の努力を熱心に觀戰されたことは、聯盟本部の役員として大いに散意を表さなくてはならないものであつた。また八戸中學の生徒が大會運行に奉仕的努力を惜しまなかつたことは、この地方の體育運動に對する熱意の程がうかがはれて喜ばしいことであつた。も一つ弘前聯隊に入營中の前年度の選手権保持者泉山貞義君が特に賜暇休暇を得て開會式の優勝杯返還式に列席したことは、これまた軍隊がスポーツマンシップを

十分認識している一面の現われとも見られて喜びに絶へぬものがあつた。泉山君の歸隊に當つては役員、選手は勿論一萬の觀衆が泉山君の武運長久を祈つたのは洵に感激の一瞬であつた。

フィギュア及アイス・ホッケー競技は、地方チームの活躍に早慶立ばたくと崩れる大波瀾を長せ、辛くも踏みとゞまつた明大が初制覇を遂げて、東京インドアチームの面目を保ち、フィギュア男子は有坂(明大)が神田を抑へて十年ぶりに覇權を關東に還して初優勝を飾り、女子は稻田嬢の四連勝となつて、それも波瀾を極めた大會の幕を閉じられたが、この大會程動きの激しかつた大會は稀であり、それだけに教へられるところも多く、誠に意義深い大會であつたといふことが出来る。

アイス・ホッケーは學生軍の早慶明立が準決勝まで残るものと豫想されたのであつたが、早大は全滿に、慶大は日光に、優勝候補筆頭と見られた立大も一日二試合のハンデイキヤツプを負つた苦小牧王子に敗退するなど豫想は完全に裏切られてしまつた。

然らば全滿、苦小牧王子、日光等は確かに學生軍を凌ぐ技術を持つて居るかといふに必ずしもさうではなく、全滿には伊藤の快足、苦小牧王子には西浦、二瓶、佐藤の力、日光は安納、神山の好技が他に優れて居たといふものゝ

を見せて、全く期待を裏切つたことは、一層心淋しい思ひをさせるものであつた。

スピード競技

(一月十九、廿、廿一日 於、八戸リンク)

男子選手権

五百米(セパレート・コース)

〔成績順位〕 1 山下勝久(早大)、2 阿部剛(明大)、3 高林三郎(明大)、4 南洞邦夫(早大)、5 金莊煌(明大)、6 任秉奎(朝鮮)、7 蔡昌烈(明大)、8 李仁源(明大)、9 金健會(朝鮮)、10 林哲夫(明大) (以下略)

〔競技組合せ順位及成績〕

選手名	所	屬	記録	得点	順位
1 李仁源	明	大	四八・六	四八・六	二二
坂下圭介	同	大	五〇・八	五〇・八	二二
2 金潤	明	大	五一・四	五一・四	二六
任秉奎	朝	鮮	四八・三	四八・三	二六
3 高林忠三郎	中	部	五〇・五	五〇・五	二〇
山下定男	早	大	五〇・三	五〇・三	二〇
4 南洞邦夫	早	大	四八・二	四八・二	三八
森茂慶	慶	大	五五・四	五五・四	三八
5 金健會	朝	鮮	四八・六	四八・六	三九
當舍康生	明	大	五五・九	五五・九	三九

他のチーム・メートは漸く水準に達したにすぎなく、チーム・プレーには見るべきものはなかつた。従つて今大會の準決勝以後には味のある試合も巧味のある試合もなく、唯個人と荒いプレーが全體を支配したにすぎず技術が五、六年前に還つたかのやうな印象を與へたのは遺憾のことであつた。然して學生軍の不振は、結局餘りにも小利巧になりすぎた爲めと斷定することが出来る。

フィギュア選手権競技は男女共に現在の國內第一線選手を集めて行はれたのであつたが、その結果は必ずしも満足すべき状態にあるとは云ひ難く、僅かに多數行進の力強い躍進に慰められるやうな有様であつたことは誠に心淋しい限りであつた。

男子選手権では有坂君(明大)が豫定通りスタイル、フリ1共に前年の選手権保持者神田君(關西甲南高校)を僅かながらリードして優勝したが、有坂君自身も固くなりすぎて日頃の技術を全面的に發揮出来なかつた憾みがあり、神田君は腰の浮いたスケーティングに練習不足を明瞭に現はし、低調を免れなかつたのは期待が大きかつただけに残念この上もないことであつた。

一方女選手権も稻田嬢が豫想通り四連覇を遂げたが、その二位月岡嬢との差は、月岡嬢に進歩があつたにせよ、從來より甚だ小さなものであり、實質的にも技術低下の傾向

6 李天	明	大	四九・三	四九・三	一四
韓翊	同	大	五三・九	五三・九	三四
7 林哲夫	同	大	四八・七	四八・七	一〇
山下勝久	早	大	四八・二	四八・二	三四
8 金莊煌	明	大	四七・四	四七・四	三四
高林三郎	同	大	五〇・九	五〇・九	二四
9 金世潤	明	大	五〇・九	五〇・九	二四
朴龍	明	大	五三・六	五三・六	三四
10 阿部剛	同	大	四九・五	四九・五	一六
築瀨泰男	同	大	五三・六	五三・六	三四
11 村上文藏	慶	大	五九・〇	五九・〇	四一
古厩泰治	中	部	五三・〇	五三・〇	四一
12 柳得	明	大	五〇・八	五〇・八	二二
張植	早	大	五〇・五	五〇・五	二二
13 金永	同	大	五〇・五	五〇・五	二二
14 蔡昌	同	大	五〇・五	五〇・五	二二
15 渡邊	同	大	五〇・五	五〇・五	二二
16 先川原吉	東	大	五〇・五	五〇・五	二二
17 藤原哲夫	早	大	五〇・五	五〇・五	二二
18 小松章展	北海	大	五〇・五	五〇・五	二二

19	林正熙	朝鮮	六二・三	四九・五	六二・三	四九・五	一九四
20	鄭坂口勇三郎	大	四九・一〇	五二・〇	四九・一〇	五二・〇	一三〇
21	牛島義男	大洲	四九・四	五一・六	四九・四	五一・六	一五八
22	金在泰	大洲	五一・六	五三・五	五一・六	五三・五	二三三

(以上)

千五百米 (セパレート・コース)

〔成績順位〕 1 朴潤哲(滿洲)、2 南洞邦夫(早大)、3 李仁源(明大)、4 牛島義男(滿洲)、5 金健會(朝鮮) 6 高林三郎(明大)、7 任秉奎(朝鮮)、8 金永俊(明大)、9 金莊燾(明大)、10 李明天(明大) (以下略)

〔競技組合せ順及成績〕

記録	得點	順位
1 金在鶴	二四・九	五
2 山下勝久	二四・五	六
3 高林三郎	二五・一	七
4 南洞邦夫	二五・六	八
5 金健會	二五・六	九
6 任秉奎	二五・六	一〇
7 金莊燾	二五・六	一一
8 李明天	二五・六	一二

五千米 (セパレート・コース)

〔成績順位〕 1 朴潤哲(滿洲)、2 南洞邦夫(早大)、3 片昌男(滿洲)、4 中楠勝(早大)、5 張祐植(明大)、6 牛島義男(滿洲)、7 深井恒雄(慶大)、8 李仁源(明大)、9 藤原哲夫(早大)、10 高林三郎(明大) (以下略)

〔競技組合せ順及成績〕

1 金莊燾	九・五〇	五
2 李仁源	九・三三	六
3 任秉奎	九・三〇	七
4 牛島義男	九・四九	八
5 高林三郎	九・五〇	九
6 張祐植	九・五〇	一〇
7 深井恒雄	九・五〇	一一
8 李仁源	九・五〇	一二
9 藤原哲夫	九・五〇	一三
10 高林三郎	九・五〇	一四

17 金韓	二四・六	五
16 坂口勇三郎	二四・六	六
15 金角	二四・六	七
14 張祐植	二四・六	八
13 中楠勝	二四・六	九
12 金小松	二四・六	一〇
11 藤原哲夫	二四・六	一一
10 李仁源	二四・六	一二
9 金莊燾	二四・六	一三
8 朴安	二四・六	一四
7 古牛島	二四・六	一五
6 坂口勇三郎	二四・六	一六
5 片昌男	二四・六	一七

6 藤原哲夫	九・三三	五
7 張祐植	九・三三	六
8 市川健一	九・三三	七
9 坂口勇三郎	九・三三	八
10 金阿	九・三三	九
11 高林三郎	九・三三	一〇
12 李仁源	九・三三	一一
13 金在鶴	九・三三	一二
14 金莊燾	九・三三	一三
15 山下勝久	九・三三	一四
16 牛島義男	九・三三	一五
17 金南洞	九・三三	一六
8 鄭柳	九・三三	一七

19	金	林	哲夫	(同)	一〇、元六	六、九〇	三
20	片	昌男	(滿)	一〇、元七	五、九〇	一	三
21	中	楠	正	(早)	一〇、元七	五、九〇	四
22	森	茂	(慶)	一〇、元七	五、九〇	三	四
23	村	上	文藏	(同)	九、四七	五、七〇	三
24	金	山下	勝久	(早)	九、四七	五、七〇	三
25	金	在	鶴	(同)	一〇、元三	六、三〇	三

4	朴	潤	那夫	(滿)	一八、三三	五、七五	四
5	張	楠	植	(早)	一八、三三	五、七五	四
6	金	莊	煜	(明)	一八、三三	五、七五	四
7	任	乘	奎	(朝)	一八、三三	五、七五	四
8	牛	島	義男	(明)	一八、三三	五、七五	四

一 萬米 (セパレット・コース)
 〔成績順位〕 1 朴潤哲(滿洲)、2 張祐植(明大)、3 牛島義男(滿洲)、4 南洞那夫(早大)、5 中楠勝(早大)、6 金永俊(明大)、7 李仁源(明大)、8 金健會(明大)、9 高林三郎(明大)、10 山下勝久(早大)、11 金莊煜(明大)、12 蔡昌烈(明大)、13 李明天(明大)、14 任乘奎(朝鮮)、

選手權順位、タイム及總得點
 五百米 五千米 一萬米 總得點
 1 朴潤哲(滿洲) 五〇・〇六七 三・三一八 一八、三三 五、七五
 2 南洞那夫(早大) 四九・二九 一八、三三 五、七五
 3 牛島義男(滿洲) 四九・四九 一八、三三 五、七五
 4 山下勝久(早大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 5 張祐植(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 6 李仁源(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 7 高林三郎(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 8 中楠勝(早大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 9 金健會(朝鮮) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 10 金莊煜(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 11 金永俊(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 12 任乘奎(朝鮮) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 13 蔡昌烈(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五
 14 李明天(明大) 四八・九三 一八、三三 五、七五

女子選手權	3	金	健	會	朝	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大</
-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

〔競技組合せ順及成績〕
 1 木村芳子(滿洲)、2 汾陽泰子(滿洲)、3 坂本キヨ(北海道)、4 北澤キクエ(北海道)、5 渡部清子(北海道)、6 平井牙子(北海道)、7 關下智恵(北海道)、8 品川京子(北海道)、9 野澤光子(北海道)
 以上

1	渡部	清子	(北海道)	一〇、元六	六、九〇	三
2	關下	智恵	(同)	一〇、元七	五、九〇	四
3	品川	京子	(同)	一〇、元七	五、九〇	三
4	坂本	芳子	(同)	一〇、元七	五、九〇	三
5	北澤	キクエ	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三
6	汾陽	泰子	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三
7	野澤	光子	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三

1	木村	芳子	(滿洲)	一八、三三	五、七五	四
2	汾陽	泰子	(同)	一八、三三	五、七五	四
3	坂本	芳子	(同)	一八、三三	五、七五	四
4	北澤	キクエ	(同)	一八、三三	五、七五	四
5	渡部	清子	(北海道)	一八、三三	五、七五	四
6	平井	牙子	(同)	一八、三三	五、七五	四
7	關下	智恵	(同)	一八、三三	五、七五	四
8	品川	京子	(同)	一八、三三	五、七五	四
9	野澤	光子	(同)	一八、三三	五、七五	四

1	渡部	清子	(北海道)	一〇、元六	六、九〇	三
2	關下	智恵	(同)	一〇、元七	五、九〇	四
3	品川	京子	(同)	一〇、元七	五、九〇	三
4	坂本	芳子	(同)	一〇、元七	五、九〇	三
5	北澤	キクエ	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三
6	汾陽	泰子	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三
7	野澤	光子	(北海道)	一〇、元七	五、九〇	三

1	品川	京子	(北海道)	一八、三三	五、七五	四
2	坂本	芳子	(同)	一八、三三	五、七五	四
3	關下	智恵	(同)	一八、三三	五、七五	四
4	渡部	清子	(同)	一八、三三	五、七五	四
5	品川	京子	(同)	一八、三三	五、七五	四
6	坂本	芳子	(同)	一八、三三	五、七五	四
7	北澤	キクエ	(北海道)	一八、三三	五、七五	四
8	汾陽	泰子	(北海道)	一八、三三	五、七五	四
9	野澤	光子	(北海道)	一八、三三	五、七五	四

千 米 (セパレット・コース)
 〔成績順位〕 1 坂本キヨ(北海道)、2 汾陽泰子(滿洲)、3 木村芳子(滿洲)、4 品川京子(北海道)、5 北澤キクエ(北海道)、6 野澤光子(北海道)、7 平井牙子(北海道)、8 品川京子(北海道)、9 野澤光子(北海道)
 以上

〔競技組合せ順及成績〕
 1 品川京子(北海道)、2 坂本キヨ(北海道)、3 關下智恵(同)、4 渡部清子(同)、5 品川京子(同)、6 坂本芳子(同)、7 北澤キクエ(北海道)、8 汾陽泰子(北海道)、9 野澤光子(北海道)
 以上

全

全
滿
洲
4
 $\overbrace{0 \ 4 \ 0}^{\quad}$
 $\begin{array}{c} | \quad | \quad | \\ 0 \ 3 \ 0 \end{array}$
 $\underbrace{\quad}_3$
早
大

(審判 難波、須藤氏)

〔全滿洲〕

〔早 大〕

明

(審判 安部、大野氏)

〔明 大〕

〔全延禧〕

康(儀)	}	FW	江副弟
韓(誠)			福元
尹			江副兄
崔(永)			田口
孫			草刈
李(興)	}	DF	酒井
李(容)			滑川
鄭			山之内
崔(基)			
崔(道)			

2	反則	2
---	----	---

大
11
 $\overbrace{2 \ 7 \ 2}^{11}$
0 0 0
 $\underbrace{\hspace{1.5cm}}_0$
全延禧(朝鮮)

中	川	FW	井	手	
鬼	鞍		栗	矢	
七	田		松	浦	
川	西		大	西	
高	島	DF	松	本	
北	堀			申	
市	川		GK	伊	藤
杉	本			吉	武
		百		足	
				池	
小	野		女		
田					

2	反則	1
---	----	---

日光古河 6

$\overbrace{3 \ 3 \ 0 \ 0}^{\text{上}} \\
\begin{array}{cccc}
| & | & | & | \\
2 & 2 & 1 & 0 \\
\hline
\end{array} \\
\underbrace{\hspace{4cm}}_{\text{下}} \\
5$

(審判 小森、須藤氏)

〔慶大〕

〔目 光〕

苦小牧王子 2

(審判 鹽田、大野氏)

〔立 大〕

〔王子〕

二	瓶		田	中
西	浦		砂	田
野	村	FW	鬼	鞍
阿	野		大	村
山	本		多	賀
伊	藤		高	橋
				藤
小	山	DF	{	藤
舟	口			内
佐	藤		後	藤
				宅
皇	山		三	
1		反則		1

$$\begin{array}{ccc} 1 & 0 & 1 \\ | & | & | \\ 1 & 0 & 0 \end{array}$$

大

以上

五千米(セパレート・コース)

3	木村芳子 (滿洲)	六三・三	齒・六三
	野澤光子 (北海道)	六一・八	空・二三
4	平井牙子 (同)	六三・三	空・五〇
	汾陽泰子 (滿洲)	六一・九・七	空・六三
5	北澤キクエ (北海道)	六・四九・一	六・八三
	(獨走)		以上
五	千米 (セパレート・コース)		八

〔成績順位〕 1 汾陽泰子 (滿洲)、2 坂本キヨ (北海道)
 3 平井牙子 (北海道)、4 野澤光子 (北海道)、5 品川京子 (北海道)、6 木村芳子 (滿洲)、7 北澤キクエ (北海道)、8 渡邊清子 (北海道)、9 關下智恵 (北海道)

アイス・ホッケー―競技

(二月廿六、七、八日 於、芝浦リンク)

第一回戰

苦小牧王子

$$\begin{array}{ccc} 2 & 2 & 0 \\ | & | & | \\ 0 & 0 & 1 \end{array}$$
 1
 全
 大
 連

(審判 小森、安部氏)

〔全大連〕

〔王子〕

崎田島松木田	玉富戶植野光	瓶浦村部本藤
山木關	桑下小	田口藤山
反則	3	0

大

準決勝戦

全	滿	洲	4	1	2	1	1	1	0	2	苦小牧王子
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-------

(審判 難波、辻氏)

〔王子〕	村瓶口(文)本藤	野二舟阿山伊	小山田藤知(山)	阿部	昌	2.
〔全滿洲〕	西本申	大松井栗松	吉伊百	池	1	反則
明	大	4	3	0	1	日光古河

(審判 小森、安部氏)

(日光)	[明大]					
江副弟	澤本弟					
川本	安納					
江副兄	川田					
田口	寺山	FW				
草刈	星野					
香井	澤本兄					
内藤	星野仁					
滑川						
山之内	齋藤	DF				
	神山					
結家	GK	増田				
2	反則	2				

決勝戦

明	大	3	0	1	3	0	0	2	2	全滿洲
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

(審判 辻、小森氏)

〔明 大〕	〔全滿洲〕				
江副弟	FW	大松申 栗矢 百束 松浦 井手	西本		
福本					
江副兄					
田口					
草刈					
内藤					
滑川	DF	{伊藤 吉武			
山之内					
結家	GK	女	池		
2	反則	2			

ファイギュア競技

(二月廿六、七、八日 於、芝浦、山王リンク)

〔男子選手権成績順位〕

1	有坂 隆祐(明)	大	6	1	2	0	1	0	7	6	4	2	6	7	5
2	神田 博(甲南高校)	9	1	5	3	1	5	3	6	4	2	6	7	5	
3	小豆島藤丸(大阪ス俱)	15	1	7	0	8	1	3	4	0	0	2	5	4	0
4	酒井 克巳(日)	大	21	1	4	0	9	1	0	4	0	2	1	1	8

會を兼ねて行つた。

アイス・ホッケー競技

第一回戦

慶	大	9	5	1	3	0	0	1	1	同	大
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(審判 山下、小森)

〔大明〕	田田川尾塚	藤澤	2	反則
〔同大〕	淺本荒松飲	齋小	0	反則
〔慶大〕	刈澤瀬崎堀中	菅谷羽水	0	反則
銘深成山北山	小助丹清	加藤	0	反則

第二回戦

滿	洲	14	4	4	6	2	1	0	3	日光古河
---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	------

(審判 安部、大野)

第十二回大會 (昭和十六年)

(芝浦リンク、苦小牧リンク)

第十二回全日本選手権競技大會アイス・ホッケー、ファイギュア兩種目は、一月廿五、六日の兩日芝浦スケート場で舉行した。アイス・ホッケーは明大、立大、慶大、早大、同大の五大學の滿洲、日光古河、苦小牧王子東京實業團を合せて九チームが出場、ファイギュアも前回の優者有阪隆祐君以下九名、稻田悦子嬢以下六名が參加して盛況を呈した。

なおスピード種目は北海道苫小牧で舉行して明治神宮大

決勝

〔明大〕〔王子〕

田村	阿部文	(審判 辻、大野)
内藤	二瓶村	
中村	野部知	
江副	山本	
江副	伊藤正	
渡瀬	林	
滑川	伊藤	
山之内	平元	
中川	GK	
2	反則	2

明

〔慶大〕

大〔満立〕

銘深	刈澤	渚	(審判 安部、難波)
成勝	瀨村	アイツチ	
北山	堀中	韓	
加賀	谷菅	井松	
小丹	羽	富田	
清加	水藤	伊藤	
3	DF	ユシコ	
苦小牧王子	GK	富田	
1	反則	2	

明

〔王子〕〔立大〕

阿部文	賀藤	(審判 難波、鹽田)
二瓶村	鞍本	
野村	本村	
阿部知	橋	
山本	藤村	
伊藤正	宅	
林	DF	
伊藤	GK	
平元	三	
0	反則	1

苦小牧王子

〔満洲〕〔河古光日〕

渚	滑	澤
アント	安	納
ツイ	神	山
韓	寺	山
井松	星	本
富田	手	野
伊ユ	藤	木
シコ	正	藤
結中	家	田
0	GK	林
反則	柳	
0	若	

男子選手権成績順位

ファイギュア競技

順位	選手名	順位	スコール	フリー	總得点
1	有阪 隆祐(北海道)	7	一六・四	八五・三	一八九・七
2	酒井 克己(關東)	17	九〇・七	八九・〇	一七三・七
3	小豆島 藤丸(關西)	18	九二・八	七〇・五	一七三・三
4	高山 方明(慶大)	28	九八・七	七三・八	一六四・五
5	鹽田 直重(立大)	35	九三・八	七三・二	一六六・〇
6	中上川 金一郎(慶大)	44	七五・一	五三・〇	一二四・一
7	佐藤 榮一(大阪)	47	六八・八	五八・二	一二六・九

〔明大〕〔慶大〕

田村	刈澤	銘深	渚	(審判 安部、須藤)
内藤	瀨村	成勝	アイツチ	
中村	堀中	北山	韓	
江副	谷菅	加賀	井松	
江副	羽	小丹	富田	
渡瀬	水藤	清加	伊藤	
滑川	DF	ユシコ	伊藤	
山之内	GK	富田	平元	
中川	反則	1		

明

大

6	2	3
0	3	0

3

慶

大

準決勝

慶

大

1	1	1
0	1	0

1

満

洲

〔慶大〕〔東京實業〕

銘深	刈澤	龜小	井柳	(審判 羽田、金谷)
成勝	瀨村	松清	島水	
北山	堀中	草秋	刈山	
加賀	谷菅	島須	崎藤	
小丹	羽	中	村	
清加	水藤	長匹	津野	
0	GK	反則	0	

慶〔明大〕〔早大〕

田村	中川	川島	(審判 辻、小森)
内藤	吉川	西津	
江副	窪牧	津永	
江副	野	本	
渡瀬	松島	津田	
滑川	DF	前	
山之内	GK	小野	
中川	反則	5	

女子選手権成績順位

順位	選手名	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田 悦子(關西)	7	二三・三	九三・一	二五・四
2	月岡 芳子(關西)	15	二〇三・八	八四・六	一九〇・四
3	生田 艶子(關西)	23	九三・三	七六・一	一七〇・四
4	矢野 美智子(關東)	25	二〇三・八	八四・六	一九〇・四
5	加藤 禮子(大阪)	36	八五・二	六三・二	一四八・四
6	佐藤 登美子(關東)	42	八九・一	五五・五	一四四・六

スピード競技

二月四日から六日間北海道苫小牧で行われた第十一回明治神宮大會スピード記録参照のこと。

第十三回大會(昭和十七年)

青森縣八戸市で明治神宮大會のみ行い選手権大會は中止した。

第十四回大會(昭和十八年)

群馬縣榛名湖で明治神宮 と兼ねて行い、記録は神宮

大會の項参照のこと。

第十五會大會(昭和廿二年)

第一回國民體育大會冬季大會スケート競技大會を第十五回全日本選手権大會と兼ねて行い。記録は第一回國民體育大會の記録を三種目とも参照のこと。

第十六回大會(昭和廿三年)

(盛岡市高松池)

スピード競技

男子競技

五百米(セパレート・コース)

1	内藤 晋(北海道)	四六・五
2	青木 正則(同)	四八・三
3	高林忠三郎(長野)	四八・四
4	佐藤 忠司(日大)	四八・五
5	菅原 和彦(福島)	四八・六
5	高林 清高(明治)	四八・六

12	花岡 光夫(同)	二、四六・八
----	----------	--------

五千米(セパレート・コース)

1	菅原 和彦(日大)	九、二九・二
2	小泉 芳介(長野)	九、四四・二
3	佐藤 恒夫(日大)	九、五〇・二
4	安田 富男(明大)	九、五六・一
5	花岡 光夫(長野)	九、五八・四
6	小口 廣(日大)	一〇、〇二・四
7	谷藤 慶悦(岩手)	一〇、〇三・四
8	長尾 英男(大阪)	一〇、〇五・四
9	工藤 祐信(岩手)	一〇、〇七・三
10	青木 正則(北海道)	一〇、一二・七
11	浅坂 武和(青森)	一〇、一三・四
12	長岡 正郎(北海道)	一〇、一四・四

一万米(セパレート・コース)

1	菅原 和彦(日大)	一九、二一・四
2	小泉 芳介(長野)	二〇、一二・〇
3	佐藤 恒夫(日大)	二〇、一二・二
4	安田 富男(明大)	二〇、四八・〇
5	花岡 光夫(長野)	二〇、五九・四
6	寺島 俊(明大)	二二、〇六・六

選手權順位

7	工藤 祐信 (岩手)	二一、〇七・六
8	山本阿久里 (栃木)	二一、一六・八
9	中楠 勝 (岩手)	二一、二七・四
10	青木 正則 (北海道)	二一、二八・八
11	長岡 正郎 (同)	二一、二九・七
12	中村 實 (同)	二一、三一・九
13	古厩 泰治 (長野)	二一、五一・一
14	高林忠三郎 (同)	二一、〇七・三
總合得點		
1	菅原 和彦 (日大)	二一九・七五七
2	佐藤 恒夫 (日大)	二二一・二九七
3	安田 富男 (明大)	二二六・二四三
4	工藤 祐信 (岩手)	二二七・六七七
5	小泉 芳介 (長野)	二二七・八八七
6	花岡 光夫 (同)	二二八・二一〇
7	寺島 俊 (明大)	二三一・〇一〇
8	青木 正則 (北海道)	二三一・五四三
9	高林忠三郎 (長野)	二三一・六九八
10	古厩 泰治 (長野)	二三一・九二三
11	中楠 勝 (岩手)	二三二・〇七〇
12	長岡 正郎 (北海道)	二三二・一五七

13	中村 實 (同)	二三三・一六二
14	山本阿久里 (栃木)	二三三・二五〇

女子競技

五百米 (セパレート・コース)

1	牧野 嘉子 (神奈川)	五八・六
2	佐藤千榮子 (北海道)	五九・二
3	杉山チエ子 (長野)	五九・八
4	伊藤 英子 (青森)	六〇・〇
5	堀 文子 (北海道)	六〇・一
6	前田 悦子 (同)	六〇・五
7	池田チエ子 (同)	六〇・九
8	渡邊 公子 (同)	六一・〇
9	阿部 セツ (同)	六一・〇
10	兵藤 澄子 (同)	六一・二
11	田名部節子 (青森)	六一・五
12	金原 都子 (長野)	六三・二
13	小口 郁子 (同)	六三・八
14	新井喜知子 (長野)	六四・五
15	村岡 律子 (北海道)	六六・三
16	花岡 眸 (長野)	六九・四
17	花岡みのる (同)	七〇・八

一 千米 (セパレート・コース)

1	牧野 嘉子 (神奈川)	二〇七・一
2	佐藤千榮子 (北海道)	二〇七・二
3	伊藤 英子 (青森)	二〇八・四
4	花岡みのる (長野)	二〇九・五
5	前田 悦子 (北海道)	二〇九・七
6	渡邊 公子 (北海道)	二一〇・〇
7	堀 文子 (同)	二一三・四
8	田名部節子 (青森)	二一三・六
9	杉山チエ子 (長野)	二一三・七
10	阿部 セツ子 (北海道)	二一四・一
11	花岡 眸 (長野)	二一五・〇
12	池田チエ子 (北海道)	二一六・六
13	新井喜智子 (長野)	二二〇・七
14	村岡 律子 (北海道)	二二二・三

選手權得點順位

5	牧野 嘉子 (神奈川)	一一、四八・三
6	花岡みのる (長野)	一一、一二・八
7	前田 悦子 (北海道)	一一、二五・四
8	杉山チエ子 (長野)	一一、二六・四
9	堀 文子 (北海道)	一一、二九・二
10	阿部 セツ (同)	一一、三三・一
11	池田チエ子 (北海道)	一一、四二・九
12	新井喜智子 (長野)	一一、五六・三

五 千米 (セパレート・コース)

1	佐藤千榮子 (北海道)	一一、三六・九
2	伊藤 榮子 (青森)	一一、三八・七
3	田名部節子 (同)	一一、四二・九
4	渡邊 公子 (北海道)	一一、四八・〇

1	佐藤千榮子 (北海道)	一九二・四九
2	牧野 嘉子 (神奈川)	一九二・九八
3	伊藤 英子 (青森)	一九四・〇七
4	渡邊 公子 (北海道)	一九七・三〇
5	田名部節子 (青森)	一九九・五九
6	前田 悦子 (北海道)	一九九・八九
7	杉山チエ子 (長野)	二〇一・二九
8	堀 文子 (北海道)	二〇一・七二
9	阿部 セツ (同)	二〇三・三六
10	池田 チエ (同)	二〇五・四九
11	花岡みのる (長野)	二〇八・八三
12	新井喜智子 (同)	二一二・四八

フイギユア競技

選手権

男子		女子	
順位	選手	順位	選手
1	有坂隆祐 (北海道)	1	丹羽芳子 (東京)
2	鹽田直重 (東京)	2	生田艶子 (大阪)
3	原口鈴夫 (東京)	3	加藤子 (大阪)
スクールフリー 総得点		スクールフリー 総得点	
1	八六〇・三六六・二二三・六	1	七〇〇・八三〇・七二〇・九五
2	七七三・二六四・九八四・七	2	七九四・二九六・一〇一・五
3	四九六・六四四・七六〇	3	五二一・三〇・七八三・八

ホツケー競技

一回戦

北海道	岩倉組	明	盛岡	八戸	二回戦
7	4	10	2	2	
3 2 2	3 1 0	5 3 2	1 1 0	1 0 1	
1 0 1	1 1 0	1 0 2	0 0 0	0 0 1	
2	2	3	0	1	
青森	日本化学	全法大	苫小牧王子	盛岡鐵道	

準決勝戦

日光	5	2 2 1	1 1 2	4	明大
----	---	-------	-------	---	----

大	原澤堀村原	澤橋山	田木	0	反則
明	栗田北西松馬	入石中	三鈴	0	反則

日光	山澤野木下田	伊原山	野星	0	反則
日光	寺湯矢鈴瀬	伊押	星	0	反則

八戸	7	3 0 4	0 1 4	5	北海道
----	---	-------	-------	---	-----

倉	川藤邊淵本	村川野	小林	0	反則
戸	小伊渡河松	川小藤	小	0	反則

八戸	7	1 5 1	1 1 1	3	日光
----	---	-------	-------	---	----

選手権年次優勝者

男子の部

年次	選手	年次	選手
第一回	昭和五年 木谷(安東)	第一回	昭和五年 木谷(安東)
第二回	六年 大澤(同)	第二回	六年 大澤(同)
第三回	七年 中止	第三回	七年 中止
第四回	八年 李聖徳(朝鮮)	第四回	八年 李聖徳(朝鮮)
第五回	九年 金正淵(明大)	第五回	九年 金正淵(明大)
第六回	十年 金正淵(明)	第六回	十年 金正淵(明)
第七回	十一年 安達(滿洲)	第七回	十一年 安達(滿洲)
第八回	十二年 崔龍振(明大)	第八回	十二年 崔龍振(明大)
第九回	十三年 崔龍振(同)	第九回	十三年 崔龍振(同)
第十回	十四年 泉山(同)	第十回	十四年 泉山(同)
第十一回	十五年 朴潤哲(滿洲)	第十一回	十五年 朴潤哲(滿洲)

第十七回	六年	片倉(滿洲)	有坂(北海)	明大
第十三回	七年	中止		
第十四回	八年	廣川(朝鮮)	中止	全滿洲
	九年	中止		
	十年	中止		
第十五回	十一年	種目別選手権のみ行う	有坂(北海)	王子(北海)
第十六回	十二年	種目別選手権のみ行う	有坂(北海)	王子(北海)
	十三年	菅原(日大)	有坂(北海)	八戸ホワイトベア(青森)

女子の部

昭和十一年の第六回大會からスピード、フィギュア共舉行す。

第六回	昭和十年	瀧(滿洲)	稻田(關西)
第七回	十一年	江島(滿洲)	東郷(關東)
第八回	十二年	江島(滿洲)	稻田(關西)
第九回	十三年	江島(滿洲)	稻田(關西)
第十回	十四年	中川(北海道)	稻田(關西)
第十一回	十五年	汾陽(滿洲)	稻田(關西)
第十二回	十六年	坂本(北海道)	稻田(關西)
第十三回	十七年	中止	

第十四回	十八年	中止
	十九年	中止
	二十年	中止
	二十一年	中止
第十五回	二十二年	種目別選手権のみ行う
第十六回	二十三年	佐藤(北海道)

國民體育大會スケート競技記録

第一回大會 (昭和廿二年)

兼第十五回全日本選手権競技

(二月廿五六日、八戸長根リンク)

國民體育大會冬季大會スケート競技會(正確な呼び名)の第一回大會は昭和廿二年一月廿五、六の兩日青森縣八戸市の長根スケート場で開かれた。

スピード競技

男子競技

五百米(セパレート・コース)

順位	記録	選手
1	1,000.0	板橋敏夫(青森)
2	1,008.0	伊藤忠則(茨城)
3	1,016.0	山本阿久里(栃木)
4	1,024.0	青木正則(北海道)
5	1,032.0	石橋良一(青森)
6	1,040.0	谷藤慶一(岩手)

4	1,000.0	藤原哲夫(岩手)
5	1,008.0	高瀬武信(栃木)
6	1,016.0	高瀬恒夫(北海道)
7	1,024.0	小泉恒夫(北海道)
8	1,032.0	佐藤賢一(東京)
9	1,040.0	大田富男(大阪)
10	1,048.0	久保田真次(東京)
11	1,056.0	寺平島清俊(長野)
12	1,064.0	高林清司(東京)
13	1,072.0	佐藤忠司(北海道)
14	1,080.0	中島楠(長野)
15	1,088.0	寺島清俊(長野)
16	1,096.0	高林清司(東京)
17	1,104.0	佐藤忠司(北海道)
18	1,112.0	中島楠(長野)
19	1,120.0	寺島清俊(長野)
20	1,128.0	高林清司(東京)
21	1,136.0	佐藤忠司(北海道)
22	1,144.0	中島楠(長野)
23	1,152.0	寺島清俊(長野)
24	1,160.0	高林清司(東京)
25	1,168.0	佐藤忠司(北海道)
26	1,176.0	中島楠(長野)
27	1,184.0	寺島清俊(長野)
28	1,192.0	高林清司(東京)
29	1,200.0	佐藤忠司(北海道)
30	1,208.0	中島楠(長野)
31	1,216.0	寺島清俊(長野)
32	1,224.0	高林清司(東京)
33	1,232.0	佐藤忠司(北海道)
34	1,240.0	中島楠(長野)
35	1,248.0	寺島清俊(長野)
36	1,256.0	高林清司(東京)
37	1,264.0	佐藤忠司(北海道)
38	1,272.0	中島楠(長野)
39	1,280.0	寺島清俊(長野)
40	1,288.0	高林清司(東京)
41	1,296.0	佐藤忠司(北海道)
42	1,304.0	中島楠(長野)
43	1,312.0	寺島清俊(長野)
44	1,320.0	高林清司(東京)
45	1,328.0	佐藤忠司(北海道)
46	1,336.0	中島楠(長野)
47	1,344.0	寺島清俊(長野)
48	1,352.0	高林清司(東京)
49	1,360.0	佐藤忠司(北海道)
50	1,368.0	中島楠(長野)
51	1,376.0	寺島清俊(長野)
52	1,384.0	高林清司(東京)
53	1,392.0	佐藤忠司(北海道)
54	1,400.0	中島楠(長野)
55	1,408.0	寺島清俊(長野)
56	1,416.0	高林清司(東京)
57	1,424.0	佐藤忠司(北海道)
58	1,432.0	中島楠(長野)
59	1,440.0	寺島清俊(長野)
60	1,448.0	高林清司(東京)
61	1,456.0	佐藤忠司(北海道)
62	1,464.0	中島楠(長野)
63	1,472.0	寺島清俊(長野)
64	1,480.0	高林清司(東京)
65	1,488.0	佐藤忠司(北海道)
66	1,496.0	中島楠(長野)
67	1,504.0	寺島清俊(長野)
68	1,512.0	高林清司(東京)
69	1,520.0	佐藤忠司(北海道)
70	1,528.0	中島楠(長野)
71	1,536.0	寺島清俊(長野)
72	1,544.0	高林清司(東京)
73	1,552.0	佐藤忠司(北海道)
74	1,560.0	中島楠(長野)
75	1,568.0	寺島清俊(長野)
76	1,576.0	高林清司(東京)
77	1,584.0	佐藤忠司(北海道)
78	1,592.0	中島楠(長野)
79	1,600.0	寺島清俊(長野)
80	1,608.0	高林清司(東京)
81	1,616.0	佐藤忠司(北海道)
82	1,624.0	中島楠(長野)
83	1,632.0	寺島清俊(長野)
84	1,640.0	高林清司(東京)
85	1,648.0	佐藤忠司(北海道)
86	1,656.0	中島楠(長野)
87	1,664.0	寺島清俊(長野)
88	1,672.0	高林清司(東京)
89	1,680.0	佐藤忠司(北海道)
90	1,688.0	中島楠(長野)
91	1,696.0	寺島清俊(長野)
92	1,704.0	高林清司(東京)
93	1,712.0	佐藤忠司(北海道)
94	1,720.0	中島楠(長野)
95	1,728.0	寺島清俊(長野)
96	1,736.0	高林清司(東京)
97	1,744.0	佐藤忠司(北海道)
98	1,752.0	中島楠(長野)
99	1,760.0	寺島清俊(長野)
100	1,768.0	高林清司(東京)
101	1,776.0	佐藤忠司(北海道)
102	1,784.0	中島楠(長野)
103	1,792.0	寺島清俊(長野)
104	1,800.0	高林清司(東京)
105	1,808.0	佐藤忠司(北海道)
106	1,816.0	中島楠(長野)
107	1,824.0	寺島清俊(長野)
108	1,832.0	高林清司(東京)
109	1,840.0	佐藤忠司(北海道)
110	1,848.0	中島楠(長野)
111	1,856.0	寺島清俊(長野)
112	1,864.0	高林清司(東京)
113	1,872.0	佐藤忠司(北海道)
114	1,880.0	中島楠(長野)
115	1,888.0	寺島清俊(長野)
116	1,896.0	高林清司(東京)
117	1,904.0	佐藤忠司(北海道)
118	1,912.0	中島楠(長野)
119	1,920.0	寺島清俊(長野)
120	1,928.0	高林清司(東京)
121	1,936.0	佐藤忠司(北海道)
122	1,944.0	中島楠(長野)
123	1,952.0	寺島清俊(長野)
124	1,960.0	高林清司(東京)
125	1,968.0	佐藤忠司(北海道)
126	1,976.0	中島楠(長野)
127	1,984.0	寺島清俊(長野)
128	1,992.0	高林清司(東京)
129	2,000.0	佐藤忠司(北海道)
130	2,008.0	中島楠(長野)
131	2,016.0	寺島清俊(長野)
132	2,024.0	高林清司(東京)
133	2,032.0	佐藤忠司(北海道)
134	2,040.0	中島楠(長野)
135	2,048.0	寺島清俊(長野)
136	2,056.0	高林清司(東京)
137	2,064.0	佐藤忠司(北海道)
138	2,072.0	中島楠(長野)
139	2,080.0	寺島清俊(長野)
140	2,088.0	高林清司(東京)
141	2,096.0	佐藤忠司(北海道)
142	2,104.0	中島楠(長野)
143	2,112.0	寺島清俊(長野)
144	2,120.0	高林清司(東京)
145	2,128.0	佐藤忠司(北海道)
146	2,136.0	中島楠(長野)
147	2,144.0	寺島清俊(長野)
148	2,152.0	高林清司(東京)
149	2,160.0	佐藤忠司(北海道)
150	2,168.0	中島楠(長野)
151	2,176.0	寺島清俊(長野)
152	2,184.0	高林清司(東京)
153	2,192.0	佐藤忠司(北海道)
154	2,200.0	中島楠(長野)
155	2,208.0	寺島清俊(長野)
156	2,216.0	高林清司(東京)
157	2,224.0	佐藤忠司(北海道)
158	2,232.0	中島楠(長野)
159	2,240.0	寺島清俊(長野)
160	2,248.0	高林清司(東京)
161	2,256.0	佐藤忠司(北海道)
162	2,264.0	中島楠(長野)
163	2,272.0	寺島清俊(長野)
164	2,280.0	高林清司(東京)
165	2,288.0	佐藤忠司(北海道)
166	2,296.0	中島楠(長野)
167	2,304.0	寺島清俊(長野)
168	2,312.0	高林清司(東京)
169	2,320.0	佐藤忠司(北海道)
170	2,328.0	中島楠(長野)
171	2,336.0	寺島清俊(長野)
172	2,344.0	高林清司(東京)
173	2,352.0	佐藤忠司(北海道)
174	2,360.0	中島楠(長野)
175	2,368.0	寺島清俊(長野)
176	2,376.0	高林清司(東京)
177	2,384.0	佐藤忠司(北海道)
178	2,392.0	中島楠(長野)
179	2,400.0	寺島清俊(長野)
180	2,408.0	高林清司(東京)
181	2,416.0	佐藤忠司(北海道)
182	2,424.0	中島楠(長野)
183	2,432.0	寺島清俊(長野)
184	2,440.0	高林清司(東京)
185	2,448.0	佐藤忠司(北海道)
186	2,456.0	中島楠(長野)
187	2,464.0	寺島清俊(長野)
188	2,472.0	高林清司(東京)
189	2,480.0	佐藤忠司(北海道)
190	2,488.0	中島楠(長野)
191	2,496.0	寺島清俊(長野)
192	2,504.0	高林清司(東京)
193	2,512.0	佐藤忠司(北海道)
194	2,520.0	中島楠(長野)
195	2,528.0	寺島清俊(長野)
196	2,536.0	高林清司(東京)
197	2,544.0	佐藤忠司(北海道)
198	2,552.0	中島楠(長野)
199	2,560.0	寺島清俊(長野)
200	2,568.0	高林清司(東京)
201	2,576.0	佐藤忠司(北海道)
202	2,584.0	中島楠(長野)
203	2,592.0	寺島清俊(長野)
204	2,600.0	高林清司(東京)
205	2,608.0	佐藤忠司(北海道)
206	2,616.0	中島楠(長野)
207	2,624.0	寺島清俊(長野)
208	2,632.0	高林清司(東京)
209	2,640.0	佐藤忠司(北海道)
210	2,648.0	中島楠(長野)
211	2,656.0	寺島清俊(長野)
212	2,664.0	高林清司(東京)
213	2,672.0	佐藤忠司(北海道)
214	2,680.0	中島楠(長野)
215	2,688.0	寺島清俊(長野)
216	2,696.0	高林清司(東京)
217	2,704.0	佐藤忠司(北海道)
218	2,712.0	中島楠(長野)
219	2,720.0	寺島清俊(長野)
220	2,728.0	高林清司(東京)
221	2,736.0	佐藤忠司(北海道)
222	2,744.0	中島楠(長野)
223	2,752.0	寺島清俊(長野)
224	2,760.0	高林清司(東京)
225	2,768.0	佐藤忠司(北海道)
226	2,776.0	中島楠(長野)
227	2,784.0	寺島清俊(長野)
228	2,792.0	高林清司(東京)
229	2,800.0	佐藤忠司(北海道)
230	2,808.0	中島楠(長野)
231	2,816.0	寺島清俊(長野)
232	2,824.0	高林清司(東京)
233	2,832.0	佐藤忠司(北海道)
234	2,840.0	中島楠(長野)
235	2,848.0	寺島清俊(長野)
236	2,856.0	高林清司(東京)
237	2,864.0	佐藤忠司(北海道)
238	2,872.0	中島楠(長野)
239	2,880.0	寺島清俊(長野)
240	2,888.0	高林清司(東京)
241	2,896.0	佐藤忠司(北海道)
242	2,904.0	中島楠(長野)
243	2,912.0	寺島清俊(長野)
244	2,920.0	高林清司(東京)
245	2,928.0	佐藤忠司(北海道)
246	2,936.0	中島楠(長野)
247	2,944.0	寺島清俊(長野)
248	2,952.0	高林清司(東京)
249	2,960.0	佐藤忠司(北海道)
250	2,968.0	中島楠(長野)
251	2,976.0	寺島清俊(長野)
252	2,984.0	高林清司(東京)
253	2,992.0	佐藤忠司(北海道)
254	3,000.0	中島楠(長野)
255	3,008.0	寺島清俊(長野)
256	3,016.0	高林清司(東京)
257	3,024.0	佐藤忠司(北海道)
258	3,032.0	中島楠(長野)
259	3,040.0	寺島清俊(長野)
260	3,048.0	高林清司(東京)
261	3,056.0	佐藤忠司(北海道)
262	3,064.0	中島楠(長野)
263	3,072.0	寺島清俊(長野)
264	3,080.0	高林清司(東京)
265	3,088.0	佐藤忠司(北海道)
266	3,096.0	中島楠(長野)
267	3,104.0	寺島清俊(長野)
268	3,112.0	高林清司(東京)
269	3,120.0	佐藤忠司(北海道)
270	3,128.0	中島楠(長野)
271	3,136.0	寺島清俊(長野)
272	3,144.0	高林清司(東京)
273	3,152.0	佐藤忠司(北海道)
274	3,160.0	中島楠(長野)
275	3,168.0	寺島清俊(長野)
276	3,176.0	高林清司(東京)
277	3,184.0	佐藤忠司(北海道)
278	3,192.0	中島楠(長野)
279	3,200.0	寺島清俊(長野)
280	3,208.0	高林清司(東京)
281	3,216.0	佐藤忠司(北海道)
282	3,224.0	中島楠(長野)
283	3,232.0	寺島清俊(長野)
284	3,240.0	高林清司(東京)
285	3,248.0	佐藤忠司(北海道)
286	3,256.0	中島楠(長野)
287	3,264.0	寺島清俊(長野)
288	3,272.0	高林清司(東京)
289	3,280.0	佐藤忠司(北海道)
290	3,288.0	中島楠(長野)
291	3,296.0	寺島清俊(長野)
292	3,304.0	高林清司(東京)
293	3,312.0	佐藤忠司(北海道)
294	3,320.0	中島楠(長野)
295	3,328.0	寺島清俊(長野)
296	3,336.0	高林清司(東京)
297	3,344.0	佐

千五百米(セバレート・コース)

15	金子村禮次(北海道)	二、五、四
16	佐藤公彦(青森)	一、〇、八
17	原田定博(茨城)	一、〇、七
1	石橋良一(青森)	二、五、三
2	行田和(茨城)	三、六、二
3	金子光次(東京)	二、五、四
4	寺岡正郎(北海道)	三、〇、二
5	工藤真次郎(東京)	二、五、三
6	藤田賢一(東京)	二、五、七
7	寺平武清(青森)	三、〇、九
8	長尾幸雄(長野)	三、一、九
9	高田清高(東京)	三、〇、九

記録

順位

九 一四 三 二 一 二 一五

五千米(オープン・コース)

10	河村泰男(岩手)	二、五、九
11	阿部剛(長野)	二、五、〇
12	菅岡光彦(北海道)	二、五、八
13	内藤晋介(北海道)	二、四、九
14	小林忠三郎(東京)	二、四、七
15	鈴木正則(北海道)	二、五、二
16	板橋敏夫(茨城)	二、五、八
17	藤原哲夫(岩手)	二、五、六
1	花岡光夫(長野)	二、五、三
2	高林三郎(長野)	二、五、九
3	浅坂武次(青森)	二、五、一
4	山本阿久里(青森)	二、五、四
5	久慈辰男(青森)	二、五、七
6	井上正義(岩手)	二、五、八

一〇 七五 四一 二七 三 二六

二組

1	佐藤恒夫(北海道)	九、五、〇
2	高林忠三郎(東京)	九、五、五
3	長尾英男(大阪)	九、五、五
4	小泉芳介(長野)	九、五、〇
5	藤原哲夫(岩手)	九、五、二
6	油井俊治(東京)	九、五、二

三組

1	菅原和彦(北海道)	九、四、一
2	中島敬(同)	一〇、〇、〇
3	安田富男(大阪)	一〇、〇、五
4	寺島俊(長野)	一〇、〇、四
5	土橋慶一(同)	一〇、五、五
6	岩井經一(東京)	一一、〇、八

四組

1	長岡正郎(北海道)	一〇、二、〇
2	工藤祐信(岩手)	一〇、二、二
3	中楠睦(岩手)	一〇、二、〇
4	中村實(北海道)	一〇、二、五
5	石橋良一(青森)	一〇、二、七
6	金子光次(東京)	一〇、三、四

順位

1	菅原、(九、四、二)
2	花岡、(九、五、二)
3	佐藤、(九、五、六)
4	高林、(九、五、五)
5	長尾、(九、五、五)
6	小泉、(九、五、〇)
7	藤原、(九、五、二)
8	油井、(九、五、二)
9	中島、(一〇、〇、一)
10	安田、(一〇、二、五)

一萬米(オープン・コース)

一組

1	中楠睦(岩手)	二〇、五、〇
2	菅原道男(北海道)	二〇、五、二
3	土橋慶一(長野)	二〇、五、一
4	飯島忠彦(同)	二〇、五、五

二組

1	長岡正郎(北海道)	二〇、一、七
2	花岡光夫(長野)	二〇、二、三
3	工藤祐信(岩手)	二〇、二、二
4	池田松男(北海道)	二〇、三、三
5	久慈辰男(青森)	二〇、〇、六
6	藤田賢一(東京)	二〇、四、八
7	岩井經一(東京)	二〇、五、七

三組

1	菅原和彦(北海道)	一九、三、〇
2	高林忠三郎(東京)	二〇、二、一

- 四組
- 1 藤原哲夫(岩手) 二〇、一三六
 - 2 安田富男(大阪) 二〇、一九四
 - 3 金子光次(東京) 二〇、三六六
 - 4 畑中克夫(青森) 二二、三六六

- 1 小泉芳介(長野) 一九、三六八
- 2 長尾英男(大阪) 一九、四〇一
- 3 中島 敬(北海道) 一九、五三二
- 3 浅坂武次(青森) 一九、五三二
- 5 寺島 俊(長野) 一九、五三二
- 6 行田 和(栃木) 二二、四〇二

順位

- 1 菅原和彦(九、三三〇)、2 小泉(九、三六八)、3 長尾(九、四〇一)、4 中島(九、五三二)、5 浅坂(九、五三二)、6 寺島(九、五三二)、7 高林忠(二〇、一三六)、8 藤原(二〇、三六六)、9 長岡(二〇、七四四)、10 安田(二〇、一九四)

二千米繼走(オープン・コース)

- 1 北海道(佐藤恒、佐藤忠、青木、内藤) 三分二五秒二
- 2 長野(寺島碩、寺島俊、花岡、高林三) 三分三秒〇
- 3 東京(林、久保田、高林清、高林忠) 三分三秒二
- 4 岩手(阿部、藤原、工藤、中楠) 三分三七秒六
- 5 青森(板橋、久慈、浅坂、大南) 三分四三秒五

三千米(オープン・コース)

- 1 長野 富子(北海道) 六、三六〇
- 2 田名部 ユリ(青森) 六、五八八
- 3 佐藤千榮子(北海道) 六、五八二
- 4 稲葉年子(北海道)、5 田名部節子(青森)、6 前田悦子(北海道)、7 牧野嘉子(神奈川)、8 橋本ユリ(青森)

一千六百米繼走(オープン・コース)

- 1 北海道(佐藤千、佐々木フ、稲葉、長野) 三分八秒二
- 2 青森(杉浦、田名部、菊地、田名部ユリ) 三分二四秒三

アイス・ホッケー競技

一回戦

全	日	盛
早		
大	光	岡
7	8	8
$\overbrace{3\ 3\ 1}^{\quad}$	$\overbrace{3\ 2\ 3}^{\quad}$	$\overbrace{1\ 3\ 4}^{\quad}$
$\underbrace{0\ 1\ 0}_1$	$\underbrace{1\ 1\ 3}_5$	$\underbrace{0\ 0\ 2}_2$
全	全	全
明	法	立
大	大	大

女子競技

五百米(セパレート・コース)

記録

- 1 菊地トシ子(青森) 一、〇七九
- 2 長野 富子(同) 一、〇七六
- 3 田名部 節子(同) 一、〇七六
- 3 佐藤千恵子(青森) 一、〇三六
- 4 杉村進子(北海道) 一、〇三七
- 4 渡邊キミ子(同) 一、〇三八
- 5 牧野 嘉子(神奈川) 一、〇八八
- 5 佐々木フサ子(北海道) 一、〇四七
- 6 橋本 ユリ(青森) 一、〇二一
- 6 三浦和子(同) 一、〇一八

千 米(セパレート・コース)

- 1 稲葉年子(北海道) 二、二七四
- 2 田名部セツ子(青森) 二、二二三
- 3 牧野 嘉子(神奈川) 二、二四三
- 3 佐藤千榮子(北海道) 二、二四三
- 4 杉村進子(青森) 二、二八八
- 4 長野 富子(北海道) 二、二八八
- 5 佐々木フサ子(同) 二、〇八五
- 5 田名部 ユリ(青森) 二、〇五一

四二 一六 三 九七 八五

順位

二〇 四九 六二 三 四一 七八

準決勝戦

王	子	7	3	2	2	4	戸
			2	2	0		

王	子	製	紙	7	4	1	2	3	日
					1	2	0		

全	早	大	6	1	0	0	5	5	盛	岡
				0	2	2	1			

決勝戦

王	子	製	紙	4	1	3	0	1	全	早	大
					0	0	1				

〔全早大〕 島添鞍西村永 本野 本
吉山鬼川西野 松 矢 宮
FW DF GK

〔王子〕 部橋部部澤瓶 藤川地 山
安高阿阿西二佐小菊 畠

ファイギュア競技

1 順位 有坂隆祐 一〇四・八 スクール フリー 總得點 一七九・三六

2	川島	七三・四	四八・九	一三・三
3	岩崎	六九・八	四七・四	二七・二五
4	淺沼	六六・九	四三・五〇	一一・四〇
女子				
順位		スクール	フリー	總得點
1	岡芳子	七〇・七	七五・四	一七・二
2	生田艷子	六九・五	七〇・八	一六・三
3	徳江	六九・一	六〇・五	一二・七九

註 秋季大會との關係上本大會を第三回大會として數える

冬季大會をその年の最初の國民大會とするため本來ならば第二回であるべき本大會を第三回として數えることになつた。即ち秋季大會と同じ回数で呼ぶことになつたのである。秋季大會の第一回は昭和廿二年の秋、關西で開かれ、第二回は金澤で行われ、第三回は廿三年福岡で舉行されたが福岡の第三回大會と同じ回数を冬季大會から用いることになつた譯である。

スピード競技

五百米準決勝（オープン・コース）

一組	林正良(東京)	內藤晉(北海道)	高林忠三郎(長野)	中村實(北海道)	花岡光夫(長野)	阿部剛(岩手)	二組	寺島碩(東京)	高林清高(東京)	佐藤忠司(東京)	板橋敏夫(青森)	青木正則(北海道)	古厩泰治(長野)
記録	四八秒三	四八秒三	四八秒六			四九秒〇		五一秒〇	五一秒三	五一秒三	五一秒一		
順位	一	一	二			三		一	二	三	二		

1	青木 正則 (北海道)	四八秒六
2	内藤 晋 (同)	四八秒六
3	高林忠三郎 (長野)	四八秒七
4	佐藤 忠司 (東京)	
5	阿部 剛 (岩手)	
6	高林 清高 (東京)	

千五百米決勝 (オープン・コース)

2	1
佐藤	菅原
恒夫(同)	和彦(福島)
九分四七秒九	九分四六秒二

一萬米決勝（オープン・コース）

	菅原和彦(福島)	一九分二一秒八
1	小泉芳介(長野)	一九分三八秒四
2	山本阿久里(栃木)	一九分三十八秒五
3	谷藤慶悦(岩手)	
4	飯島忠夫(東京)	
5	中島敬(北海道)	
6		

二千米繼走(オープン・コース) 分
秒

	北海道(青木、中村禮、中村實、内藤)	三、一七・一
1	東京(佐藤、寺島、青木、高林)	三、一九・二
2	長野(古厩、山田、花岡、高林)	三、二〇・二
3		

五百米決勝（オープン・コース）

6	5	4	3	2	1
前田悦子(同)	堀公子(同)	池田チサ(北海道)	牧野嘉子(神奈川)	伊藤英子(青森)	佐藤千榮子(北海道)
			六一秒六	六一秒四	六〇秒八

1 渡邊 公子（北海道） 二分〇一秒五

- 2 田名部節子(青森) 二分〇二秒一
3 牧野嘉子(神奈川) 二分〇二秒二
4 佐藤千榮子(北海道)
5 杉山千恵子(長野)
6 伊藤英子(青森)

三千米決勝(オープン・コース)

- 1 田名部節子(青森) 六分四四秒六
2 佐藤千榮子(北海道) 六分四五秒六
3 牧野嘉子(神奈川) 六分四五秒七
4 杉山千恵子(長野)
5 伊藤英子(青森)
6 池田チサ(北海道)

千六百米競走(オープン・コース)

- 1 北海道(池田、堀、前田、佐藤) 三分一四秒三
2 長野(杉山、金原、小口、花岡) 三分一七秒八
3 青森(伊藤、杉村、上村、田名部) 三分二一秒三

フィギュア競技

男子成績

順位
1 有坂隆祐(北海道) スクール フリー 総得点
二〇六 七四七 一八五・三

準決勝

北海道 5
1 1 3
1 1 1
0 1 1
2 青森

決勝

北海道 3
1 2 0
0 0 0
0 東京

三回戦

苦工 4
3 0 1
0 1 2
3 今市中

決勝

八戸中 3
1 0 1 0 1
0 0 1 1 0
2 苦工

(審判) 辻、林氏

〔東京〕
刈山澤崎島司賀川高村井本
銘中深黒吉門多市大中平保
FW DF GK
〔北海道〕
部橋部瓶浦部藤口地木山藤
安高阿二西阿佐養菊鈴畠佐
2 反則 1

中等學校の部 一回戦

八戸中 7
0 4 3
0 0 1
1 盛岡中

今市中 4
1 1 2
0 1 0
1 八戸商

女子成績

- 2 鹽田直重(東京) 一〇三・四
3 原口鈴夫(東京) 八九・四
4 瀧澤甲子彦(東京) 七五・三
5 池田健三(北海道) 七〇・二
6 村岡廣三(岩手) 六六・六
7 浅沼孝吉(岩手) 五八・八
一〇三・一

順位

スクール フリー 総得点

- 1 丹羽芳子(東京) 二六・六
2 生田艶子(大阪) 二二・六
3 加藤禮子(大阪) 九八・八
4 饗場奈々(東京) 七〇・二
5 野村沙紀子(東京) 五三・四
四〇・四 九八・八

アイス・ホッケー競技

第一回戦

青森 3
1 1 1
0 1 0
1 栃木
東京 5
0 2 3
1 0 0
1 岩手

全國學生選手權競技記錄

第一回大會 (大正十四年)

一月六、七日 松本市外六助リンク

アイス・ホッケー競技

第一回戦

松本高校 (棄權) 日本齒科
早大 6 — 2 慶大

準決勝戦

早大 6 — 2 東京帝大
松本高校 (不戦勝)

決勝戦

早大 8 — 1 松本高校

フイギユア競技

1 村津(東大)五點、2 佐藤(東大)七點、3 平川(東大)

フイギユア競技

團體成績

1 北海道帝大、2 東京帝大、3 明大

個人成績

1 村津(東大)、2 久保(明大)、3 赤羽(北大)

スピード競技

二百米 (オープン・コース)

1 西田(早大)二二秒四、2 平林(慶大)、林(明大)、中澤(松高)

五百米 (オープン・コース)

1 窪田(早大)一分五秒四、2 平林(慶大)、3 後藤(北大)

千米 (オープン・コース)

1 窪田(早大)三分二六秒八、2 小里(早大)、3 平川(慶大)

五千米 (オープン・コース)

1 窪田(早大)一三分三三秒二、2 新城(慶大)、3 小里(早大)

二千米リレー (オープン・コース)

十一點、4 小口(早大)十一點、5 新村(松本高校)十四點、6 平林(慶大)二十點、7 榎(慶大)二十四點、

第二回大會 (大正十五年)

一月五、六、七日 松原湖

アイス・ホッケー競技

第一回戦

東京帝大 7 — 0 二高
慶大 3 — 1 早大
北海道帝大 4 — 2 松高

第二回戦

北海道帝大 8 — 0 明大
東京帝大 2 — 1 慶大

決勝

東京帝大 4 — 1 北海道帝大

第三回大會 (昭和二年)

(諒闇中にて中止)

第四回大會 (昭和三年)

(一月六日—九日 松原湖)

アイス・ホッケー競技

第一回戦

早大 9 — 0 明大

第二回戦

北大 16 — 0 松本高校
滿洲醫大 16 — 0 東北帝大
早大 3 — 2 東京帝大
慶大 (棄) 法大

準決勝

滿洲醫大 12 — 0 早大
慶大 6 — 2 北大

決 勝

満洲醫大	7	5	1	1
		0	0	3
				3
				大

フィギュア競技

團體成績

1 慶大(金子、新城、平林)六八七點七五二北大、3 明大、4 東大

個人成績

1 金子(慶大)二六六點四七五、2 久保(明大)二九五點三八、3 大宮(法大)、4 赤羽(北大)5 新城(慶大)

スピード競技

千五百米(セパレート・コース)

1 河村(法大)三分三秒、2 窪田(早大)3 金子(明大)

五千米(オープン・コース)

1 金子(明大)一〇分四〇秒二、2 影山(早大)、3 河村(法大)

五百米(セパレート・コース)

1 小西(早大)五八秒〇(大會新記録)、2 伴野(明大)、3 平田(早大)

慶	大	15	4	4
		7	4	1
		0	1	2
				3
				東
				大

フィギュア競技

團體成績

1 慶大(金子、西川、和田)、2 明大、3 東大

個人成績

1 金子(慶大)、2 久保(明大)、3 西川(慶大)、4 西村(關大)

スピード競技

五千米(オープン・コース)

1 牧(早大)二二分二八秒八、2 影山(早大)、3 小西(早大)

千米(セパレート・コース)

1 伴野(明大)一分五九秒、2 牛山(早大)一分五九秒(以上大會新記録)、3 小西(早大)

千五百米(セパレート・コース)

1 牧(早大)二分五七秒六(大會新記録)、2 影山(早大)3 伴野(明大)

五百米(セパレート・コース)

千米(セパレート・コース)

1 平野(満洲)二分〇八、2 影山(早大)、3 伴野(明大)一萬米(オープン・コース)

1 金子(明大)二二分一秒、2 窪田(早大)、3 金子(慶大)

二千米リレー(セパレート・コース)

1 満洲チーム(林、北川、庄司、平野)、2 早大、3 慶大

第五回大會(昭和四年)

(一月七日—十日 松原湖)

アイス・ホッケー競技

第一回戦

慶	大	2	1	早	大
東	大	4	2	明	大
東北帝大	6	2	二	高	

準決勝戦

慶	大	10	0	松本高校
東	大	3	1	東大帝大

決勝

1 倉町(明大)五三秒八、2 伴野(明大)五四秒二、3 小西(早大)五四秒四、4 牛山(早大)五四秒八(以上大會新記録)

二千米リレー(セパレート・コース)

1 早大(三分四八秒八)、2 明大(三分五六秒八)、3 慶大(四分一〇秒八)(以上大會新記録)

一萬米(オープン・コース)

1 牧(早大)二二分四四秒八、2 影山(早大)、3 金子(慶大)

各校總得點

早大五九點、明大二六點、慶大四點、

第六回大會(昭和五年)

(一月五日—八日 松原湖)

アイス・ホッケー競技

第一回戦

慶	大	9	0	明	大
東北帝大	26	0	0	東洋大學	
松本高校	5	2	二	高	

北海道帝大 27 — 0 立大
早大 14 — 3 東京帝大

準決勝

松本高校、東北帝大共に棄権

慶大 5 — 1 早大

決勝

慶大 5 — 3 北海道帝大

フィギュア競技

團體成績

1 慶大八點、2 明大一三點、(減點法)

個人成績

1 金子(慶大)七點、2 久保(明大)、3 帶谷(慶大)一六點、4 和田(慶大)二二點、5 小林(明大)二六點、6 今野(明大)二九點、

スピード競技

五百米(セパレート・コース)

1 倉町(明大)五二秒八(大會新記録)、2 牛山(早大)、3 保坂(早大)

北海道帝大 26 — 0 岩手醫專
東北帝大 3 — 1 東京帝大
早大 (不戦勝)

第二回戦

慶大 23 — 0 立大
京城帝大 1 — 0 明大
北海道帝大 6 — 1 東北帝大
早大 棄権 東洋大學

準決勝

慶大 3 — 2 北海道帝大
早大 4 — 1 京城帝大

決勝

早大 3 — 2 慶大

フィギュア競技

團體成績

1 慶大九點、2 明大一四點、3 北海道帝大二四點、4 東北帝大三一點

個人成績

千五百米(セパレート・コース)

1 矢崎(明大)二分五九秒〇、2 倉町(明大)三分五秒四、3 小口(早大)

五千米(オープン・コース)

1 影山(早大)一〇分四〇秒八、2 羽田(早大)3 寺尾(明大)

一萬米(オープン・コース)

1 影山(早大)二分九秒四、2 羽田(早大)、3 寺尾(明大)

二千米リレー(セパレート・コース)

1 明大(矢崎、寺尾、金子、倉町)三分四〇秒四(大會新記録)

各校總得點

1 早大五一點、2 明大三二點、3 立大三點半、4 慶大三點、5 東北帝大二點、6 東洋大學一點半、

第七回大會(昭和六年)

(一月六日——十日 高松池)

アイス・ホッケー競技

第一回戦

1 帶谷(慶大)五點、2 和田(慶大)二二點、3 小林(明大)一六點、4 今野(明大)一八點、5 是安(北大)三一點、6 林(慶大)三一點

スピード競技

五百米(セパレート・コース)

1 牛山(早大)五四秒四、2 保坂(早大)、3 倉町(明大)

千五百米(セパレート・コース)

1 小西(早大)二分五六秒九(大會新記録)、2 矢崎(明大)、3 保坂(早大)

五千米(オープン・コース)

1 牧(早大)一〇分二秒八、2 羽田(早大)二〇分三秒二、3 寺尾(明大)一〇分三秒三(以上三名大會新記録)

一萬米(オープン・コース)

1 牧(早大)二分三秒五、2 矢崎(明大)、3 寺尾(明大)

二千米リレー(セパレート・コース)

1 明大(矢崎、寺尾、高山、倉町)三分四〇秒三(大會新記録)

各校總得點

1 早大五四點、2 明大三五點、3 慶大五點、4 立大三點、5 京城帝大二點

第八回大會 (昭和七年)

(一月三日 高松池)

稀有の暖氣の爲結氷惡く遂に本年度大會は中止となる。

第九回大會 (昭和八年)

(一月三日——八日 高松池)

アイス・ホッケー競技

第一回戰

慶	大	5	—	0	北	大
早	大	6	—	0	岩手醫專	
明	大	8	—	0	東	大
京城帝大	8	—	0	立	太	
準決勝						
慶	大	8	—	2	京城帝大	
明	大	2	—	1	早	大

決勝

慶	大	2	—	0	明	大
		1	1	0		
		0	0	0		
		0	0	0		

ファイギユア競技

團體成績

1 慶大、2 明大、3 北大豫科

個人成績

1 片山(關學)、2 小林勝(慶大)、3 小林庄(明大)、4 小林次(明大)、5 渡邊(慶大)、6 五十嵐(慶大)、7 山本(明大)、8 上谷(東大)

スピード競技

五百米 (セパレート・コース)

1 濱英(明大)四九秒、2 三浦(早大)四九秒四、3 柴山(早大)五〇秒八、4 倉町(明大)(以上大會新記録)、
千五百米 (セパレート・コース)
1 崔(明大)二分四六秒二、2 濱英(明大)二分四七秒四、3 三浦(早大)二分五五秒二、4 濱三(明大)、5 藤野正(慶大)(以上大會新記録)

五千米 (オープン・コース)

1 崔(明大)九分五一秒二、2 金(明大)九分五七秒二、3 矢崎(明大)九分五七秒六(以上大會新記録)
一萬米 (オープン・コース)
1 金(明大)二分二秒六、2 矢崎(明大)、3 羽田(早大)

二千米リレー (セパレート・コース)

1 明大矢崎、崔、濱英、倉町(三分二六秒)、2 早大三分三四秒六、3 慶大三分三八秒(以上大會新記録)

各校總得點

1 明大五七點、2 早大二六點、3 慶大九點、4 立大一

第十回大會 (昭和九年)

(二月二日——六日 日光細尾)

アイス・ホッケー競技

第一回戰

明	大	3	—	0	早	大
北	大	4	—	2	東北帝大	

決勝

慶	大	2	—	0	明	大
		1	1	0		
		0	0	0		
		0	0	0		

ファイギユア競技

團體成績

1 慶大、2 關學、3 明大、4 早大

個人成績

1 片山(關學)、2 長谷川(慶大)、3 渡邊(慶大) 4 小林二(明大)、5 小林勝(慶大)、6 倉橋(關學)

スピード競技

五百米 (セパレート・コース)

1 崔(明大)四七秒(大會及日本新記録)、2 濱英(明大)四九秒(日本タイ記録)、3 大澤(早大)

準決勝

慶	大	6	—	1	立	大
盛岡醫大	5	—	1	東	大	
北	大	5	—	3	盛岡醫大	
慶	大	2	—	1	明	大
決勝						

決勝

慶	大	6	—	1	北	大
		2	3	1		
		0	0	0		
		0	0	0		

ファイギユア競技

團體成績

1 慶大、2 關學、3 明大、4 早大

個人成績

1 片山(關學)、2 長谷川(慶大)、3 渡邊(慶大) 4 小林二(明大)、5 小林勝(慶大)、6 倉橋(關學)

スピード競技

五百米 (セパレート・コース)

1 崔(明大)四七秒(大會及日本新記録)、2 濱英(明大)四九秒(日本タイ記録)、3 大澤(早大)

千五百米(セパレット・コース)

1 崔(明大)二分三七秒五(大會新記録)、2 濱三(明大)
3 大澤(早大)

五千米(オープン・コース)

1 金(明大)九分三一秒一、2 矢崎(明大)九分四〇秒八
3 寺尾(明大)九分四三秒八(三位迄大會新記録)

一萬米(オープン・コース)

1 金(明大)一九分五〇秒四、2 矢崎(明大)二〇分九秒
五、3 安(明大)

二千米リレー(セパレット・コース)

1 明大(矢崎、金、崔、濱)、三分一八秒二(大會及日
本新記録)

第十一回大會(昭和十年)

(一月三日——九日 日光、芝浦)

アイス・ホッケー競技

第一回戰

東京帝大 3 — 0 東北帝大
京城帝大 12 — 0 北海道帝大

立 大 15 — 1 京都帝大

第二回戰

京城帝大 11 — 2 東京帝大
立 大 5 — 0 早大
同志社大學 12 — 3 岩手醫專
慶 大 8 — 5 明大

準決勝

立 大 12 — 0 京城帝大
慶 大 26 — 1 同志社大學

決勝

慶 大 10 — 3 立 大
4 4 2
0 2 1
3 立 大

フィギュア競技(芝浦リンク)

團體成績

1 慶大八點、2 明大一九點、3 關西學院二四點、4 同
志社三二點、5 早大三七點

個人成績

1 長谷川次(慶大)八點、2 渡邊(慶大)一〇點、3 片山
(關學)一二點、4 小林二(明大)二〇點、5 小林勝(慶
大)二六點、6 倉橋(關學)三一點

第十二回大會(昭和十一年)

(一月二日——十二日 日光細尾、芝浦リンク)

スピード競技(日光)

五百米(セパレット・コース)

1 石原(早大)四五秒(日本新記録)、2 崔龍振(明大)四
七秒一(日本新記録)、3 張祐植(明大)

千五百米(セパレット・コース)

1 張祐植(明大)二分三一秒九、2 濱(明大)、3 崔龍振
(明大)

五千米(オープン・コース)

1 李聖德(早大)九分一三秒八(參考日本記録)、2 金正
淵(明大)九分一四秒二(參考日本記録)、3 穂口(早大)

一萬米(オープン・コース)

1 金正淵(明大)一八分四六秒三(參考日本記録)、2 李
聖德(早大)、3 穂口(早大)

二千米リレー(セパレット・コース)

1 明大(矢崎、張、崔、金)三分一六秒(大會新記録)、

各校總得點

1 明大五一點、2 早大四〇點、3 立大五點、4 慶大三
點

第一回戰

立教大學 9 — 0 慶應大學
早稻田大學 15 — 0 關西學院
京都帝大 3 — 1 北海道帝大

第三回戰

東京帝大 5 — 3 東北帝大
早稻田大學 4 — 3 立教大學
明治大學 2 — 1 京都帝大
滿洲醫大 8 — 3 同志社大學

準決勝戰

早 大 20 — 0 東京帝大
8 5 7
0 0 0
滿洲醫大 2 — 1 明 大
0 2 0
0 1 0

決勝戦

早大 2 0 2 0 1 満洲醫大

〔満醫〕 田矢植黒原順緑 堀 尾
西栗拓石中 小島 堀 浅

FW 田堀田部所田 山本田 島澤
DF 小島 堀 浅
GK 反則 1

〔早大〕 須田堀田部所田 山本田 島澤
小西富安別平 柴松安 中中 1

ファイギユア (於、芝浦リンク)

團體成績

1 慶大(星野、小林、和田)二五點、2 明大(山本、有坂、羽田)二三點、3 早大(黒田、島川、吉川)二五點、4 關學九點、5 同志社大學五點、6 大阪商大一點

個人成績

1 星野(慶大)七〇七點、2 小林(慶大)六九〇點八一、3 山本(明大)六八九點五三、4 倉橋(關學)六四三點七三、5 黒田(早大)六三七點一四、6 有坂(明大)六三二點五二

スピード競技 (日光細尾リンク)

五百米(セパレート・コース)

1 崔龍振(明大)四六秒九、2 安(明大)四七六、3 渡秒邊(早大)

千五百米(セパレート・コース)

1 崔龍振(明大)二分三二秒八、2 杉浦(早大)二分四四秒八、3 張日弘(明大)

五千米(オープン・コース)

1 尹(明大)九分一七秒八、2 金永河(明大)九分一八秒、3 杉浦(早大)同タイム

一萬米(オープン・コース)

1 金(明大)二〇分五八秒二、2 尹(明大)二〇分五八秒二、3 穂口(早大)

二千米リレー(セパレート・コース)

1 早大(柴山、黒田、酒井、渡邊)三分一五秒二(日本記録)、2 明大(許、金、安、崔)三分二一秒、3 慶大

各校總得點

1 明大五六點、2 早大三二點、3 慶大一一點、4 立大零點

第十三回大會 (昭和十二年)

(一月五日 日光、芝浦)

アイスホッケー競技 (芝浦スケート場)

等一回戦

明治大學 6 0 東京帝大
東北帝大 1 0 京城帝大
慶應大學 4 0 北海道帝大
京都帝大 6 2 同志社大學

準々決勝

明治大學 11 0 東北帝大
慶應大學 7 2 京都帝大
早稻田大學 棄權 岩手醫專
立教大學 棄權 關西學院

準決勝

立教大學 4 2 明治大學
早稻田大學 1 0 慶應大學

決勝

立教大學 2 0 0 0 0 早稻田大學

ファイギユア競技 (芝浦リンク)

明治大學 2 1 慶應大學

三・四位決定戦

〔早大〕 田部 鞍田 堀川 澤
安 安鬼 小富 西 市 平 中 1

〔立大〕 中村 田谷 柳 開 橋
田 大砂 金 小 新 大 谷 本 1

FW 田部 鞍田 堀川 澤
DF 大 谷 本
GK 反則

個人成績

1 慶大二五點、2 早大一五點、3 明大一四點、4 大阪商大一點

團體成績

1 渡邊(慶大)一二八二點八、2 長谷川(慶大)一二五五點六、3 黒田(早大)一〇六五點八、4 山本(明大)一〇四五點四、5 星野(慶大)一〇四三點、6 島川(早大)九四三點

スピード競技 (日光細尾)

五百米(セパレート・コース)

1 石原(早大)四五秒八、1 李聖德(早大)四五秒八、3

崔龍振(明大)四六秒〇
千五百米(セパレット・コース)

1 金正淵(明大)二分二七秒一、2 崔龍振(明大)二分二八秒二、3 張祐植(明大)二分二八秒四
五千米(オープン・コース)

1 崔龍振(明大)九分一六秒〇、2 張祐植(明大)九分一六秒二、3 金正淵(明大)九分一六秒四
一萬米(オープン・コース)

1 李聖德(早大)一分九分三七秒〇、2 張祐植(明大)一分九分三七秒二、3 南洞(早大)一分九分三八秒九
二千米リレー(セパレット・コース)

1 早大(中村、南洞、石原、李)三分三秒八(日本新記録)、2 明大(泉山、許、金、崔)三分六秒五(日本新記録)

各校總得點

1 明大五〇點、2 早大四一點、3 慶大八點

第十四回大會 (昭和十三年)

(一月五日) 九日 於八戸市長根リンク、芝浦リンク)

〔立大〕 柳田中田藤村 橋谷村
小砂田前後大 大谷木

〔早大〕 川鞍田島田川田澤
中鬼小吉左右市安中

フィギユア競技 (芝浦リンク)

團體成績

1 慶大二八點、2 明大一六點、3 關學一〇點、4 早大九點、5 同大三點

個人成績

1 長谷川次男(慶大)一三三六點七五、2 片山敏一(關學)一二九六點一〇、3 渡邊善次郎(慶大)一二四八點八〇、4 星野(慶大)一〇五九點五八、5 有坂(明大)一〇四五點八〇、6 島川(早大)一〇〇三點四六、7 小林(明大)、8 木村(明大)、9 河村(同大)、10 小島(早大)

スビード競技

(一月、五、六、七日於、青森縣八戸市長根リンク)

五百米(セパレット・コース)

アイス・ホッケー競技 (芝浦リンク)

第一回戰

慶應大學 2 | 1 京城帝大
滿洲醫大 9 | 0 東北帝大
明治大學 10 | 1 同志社大
東京帝大 棄權 北海道帝大

準々決勝

立教大學 棄權 京都帝大
早稻田大學 15 | 0 關西學院
滿洲醫大 3 | 1 慶應大學
明治大學 9 | 1 東京帝大

準決勝

立教大學 8 | 1 滿洲醫大
早稻田大學 1 | 0 明治大學

決勝

早稻田大學 3 | 2 立教大學
210
011

千五百米(セパレット・コース)
1 崔龍振(明大)四分四秒九、2 中村禮吉(早大)四六秒四
3 許景日(明大)四六秒五

五千米(セパレット・コース)
1 崔龍振(明大)二分三三秒二、2 南洞邦夫(早大)二分三六秒九、3 金莊煌(明大)二分三八秒二

一萬米(セパレット・コース)
1 張祐植(明大)九分一四秒五、2 尹世植(明大)一九分二五秒四、3 安重瀨(明大)一九分二七秒二

二千米リレー(セパレット・コース)
1 明大(泉山、崔、許、崔龍)三分一七秒七、2 早大(中村、幡田、南洞、穂口)三分二二秒一、3 慶大(三野、木村、三島、大川)三分二四秒九

各校總得點
1 明大五九點、2 早大三一點、3 慶大九點、4 立大〇點

第十五回大會 (昭和十四年)

(一月六日) 五日間 於、信州蓼の海リンク、芝浦リンク)

アイスホッケー競技(芝浦リンク)

第一回戦

慶應大學	3	2	滿洲醫大
同志社大學	7	1	北海道帝大
京城帝大	4	1	法政大學
早稻田大學	14	0	中央大學
明治大學	16	0	京都帝大

第二回戦

慶應大學	11	1	東北帝大
立教大學	15	4	同志社大學
早稻田大學	11	0	東京帝大
明治大學	棄權		京城帝大

準決勝

立教大學	9	1	慶應大學
早稻田大學	6	1	明治大學

決勝

立教大學	3	10	2
		1	1
		0	1
			2
			早稻田大學

(立大)	中田村藤橋鞍	谷藤本
	田砂大後高鬼	DF
		GK
		反則
		0

[早大]	島鞍川津田西川木	小野田
	吉鬼中島七川市鈴	0

フィギュア競技(於芝浦リンク)

團體成績

1 明大二二點、2 慶大二二點、3 早大八點、4 立大四點

個人成績

1 長谷川次男(慶大)一三八六點九、2 有坂隆祐(明大)一三六八點七、3 小林(明大)一一一九點二、4 木村(明大)一〇五〇點一、5 富里(早大)八四五點六、6 鹽田(立大)、7 最賀(慶大)、8 小島(早大)、9 今野(早大)
--

スピード競技(夢の海リンク)

五百米(セパレイト・コース)

1 山下勝久(早大)四四秒九(大會新記録)、2 崔賢洙(明大)四五秒一、3 高林三郎(明大)四五秒二
千五百米(セパレイト・コース)

アイス・ホッケー競技(芝浦リンク)

第一回戦

1 安重熙(明大)二分三秒九、2 崔賢洙(明大)二分三秒九、3 李仁源(明大)二分三秒七
五千米(セパレイト・コース)
1 張祐植(明大)九分二秒〇、2 尹世植(明大)九分二秒九、3 泉山貞義(明大)九分三〇秒三
一萬米(セパレイト・コース)
1 張祐植(明大)八分五八秒〇、2 尹世植(明大)一九分一六秒四、3 金永俊(明大)一九分二一秒九

二千米リレー(セパレイト・コース)

1 早大(中村、穂口、山下、南洞)三分三秒五(學生新記録)、2 明大(李仁、張日、高林、崔賢)三分三秒八(學生タイ記録)、3 慶大(深井、佐々木、田中、三野)三分三一秒八

各校總得點

1 明大六〇點、2 早大三二點、3 慶大七點、立大零點
法大零點

第十六回大會(昭和十五年)

(一月七日—五日間 於、日光
細尾リンク、芝浦リンク)

第二回戦

立	早	明
大 14	大 7	大 7
6 5 3	2 3 2	2 4 1
0 0 0	0 0 0	0 0 0
0	0	0
京	中	同
大	大	大

慶	同	中	明
大 16	大 3	大 5	大 20
10 3 3	1 1 1	2 1 2	6 8 6
0 1 0	1 1 0	0 1 0	0 0 0
1	2	1	0
東北帝大	法	關	北
大	大	學	大

慶	大	8
4	2	2
0	0	0
0	0	0
東	大	

明	大	7
3	2	2
0	2	2
4	早	大

立	大	5
2	2	1
1	0	1
2	慶	大

決勝戦

立	大	3
2	1	0
1	1	0
2	明	大

(審判 安部、辻氏)

〔立大〕	中田 鞍村 賀橋 藤 藤 宅
田 砂 鬼 大 多 高	内 佐 三
FW	DF
江 副 弟	滑 川
江 福 江 副 兄 口 刈 藤	山 之 内
田 草 内	結 家
0	反則 0

〔明大〕	江 副 弟
江 福 江 副 兄 口 刈 藤	滑 川
田 草 内	山 之 内
結 家	0

スピード競技 (日光細尾リンク)

五百米 (セパレート・コース)

1 山下 勝久 (早大)	四五秒五
2 阿 部 剛 (明大)	四六・二
3 高林 三郎 (同)	四六・四
4 市川 健一 (早大)	四七・三
5 林 哲 夫 (明大)	四七・三
6 三 野 勉 (慶大)	四九・一

千五百米 (セパレート・コース)

1 南 洞 那 夫 (早大)	二・三・三
2 李 仁 源 (明大)	二・三・一
3 山下 勝久 (早大)	二・三・一
4 李 明 天 (明大)	二・三・九
5 高林 三郎 (明大)	二・四・九
6 市川 健一 (早大)	二・六・七

五千米 (セパレート・コース)

1 深井 恒雄 (慶大)	九・〇・七
2 南 洞 邦 夫 (早大)	九・一・〇

(以上大會新記録)

3 李 仁 源 (明大)	九・二・七
4 尹 世 植 (同)	九・六・三
5 中 楠 藤 (早大)	九・三・〇
6 村上 文藏 (慶大)	九・三・〇

一萬米 (オープン・コース)

1 中 楠 藤 (早大)	一八・三・六
2 深井 恒雄 (慶大)	一八・三・六
3 尹 世 植 (明大)	一八・三・三
4 金 永 俊 (同)	
5 金 潤 昊 (同)	
6 村上 文藏 (慶大)	

二千米リレー (セパレート・コース)

1 明大 (李仁源、高林、金莊煌、阿部) 三分〇六秒〇
2 早大 (中楠、市川、南洞、山下) 三分一〇秒五、3 慶大 (佐々木、森、田中、三野) 三分二六秒二、4 立大、5 法大

各校總得點

1 明大 四四點、2 早大 三七點、3 慶大 一七點 (法大〇點、立大〇點)
--

フィギヤ競技 (芝浦リンク)

個人成績順位

順位	スクール	フク	總得點
1	有坂隆祐 (明大)	五・八〇・八〇	六八・二・一四九・九
2	小林達雄 (明大)	二・六四・八〇	五八・九・二八・七三
3	高山方明 (慶大)	一四・五二・一〇	五〇・七・七三・一〇九・四七

各校對抗順位

1 明大 四五點、2 慶大 三六點、3 早大 二三點、4 關學
一七點、5 立大 一四點、6 同大 一二點、7 北大 六點

第十七回大會 (昭和十六年)

(二月、六、七、八日青森縣八戸、芝浦)

スピード競技 (八戸)

五百米 (セパレート・コース)

1 山下勝久 (早大) 四七秒一、2 高林三郎 (明大) 四七秒〇
九、3 林 (明大) 四八秒〇四、4 阿部剛 (明大) 四九秒〇
5 山下定夫 (早大) 四九秒三、6 三野勉 (慶大) 四九秒五

五千米 (セパレート・コース)

二十九日於松原湖、早慶戦)にはおよばなかつたが八分五七秒の大会新記録を出して氣を吐いた。

スピード最終日は九日千五百米、一萬米、二千米繼走の三種目を舉行前日早大と七點の差をつけた明大は此の日千五百米に大量得點あげ繼走を待たず優勝を決し明大は覇權を奪回した。結局全競技を通じて明大が覇權を獲得した。

アイス・ホッケー競技 (芝浦スケート場)

第一回戦

法	大	11	4 3 4	1 1 1	3	立	大
中	大	3	1 1 1	0 0 2	2	慶	大
關	學	棄	權	北	大	大	
東	大	13	4 6 3	0 0 1	1	慈	大

第二回戦

早	大	19	5 8 6	0 0 0	0	京	大
法	大	22	10 6 6	0 0 1	1	東	大

フィギュア競技 (芝浦リンク)

個人成績

順位	姓名	スクール	フリー	總得點
1	高山方明 (慶大)	三八・五	三〇・七	六八・九
2	神田博 (京大)	三八・二	二九・四	六七・五
3	鹽田直重 (立大)	三六・三	二八・一	六四・四
4	伊藤八郎 (早大)	二九・〇	二五・三	五四・三
5	中上川 (慶大)	二九・〇	二八・二	五七・二
6	神谷 (早大)	二九・〇	一九・四	四八・四
7	白石 (關學)	三三・三	二〇・五	四三・八
8	伊藤慶 (四三・八)	9 宇野 (早)	四〇・三	一
10	大曾根明 (三二・五・四)	11 高橋 (同大)	二八・〇	一

スピード競技 (日光細尾リンク)

五百米 (セパレート・コース)	
1 山下勝久 (早大) 四五秒七、	2 高林 (明大) 四六秒五、
3 阿部 (明大) 四六秒八、	4 安保 (明大)、
5 山下定 (早大)、	上野 (立大)
五千米 (セパレート・コース)	
1 深井恒雄 (慶大) 八分五七秒〇 (大会新記録)、	2 中村
(早大) 九分二七秒八、	3 坂本 (明大) 九分三七秒八、
4	

中	大	11	2 6 3	0 0 0	0	關	學
明	大	14	6 6 2	0 0 0	0	同	大

法	大	5	3 2 0	0 1 2	3	早	大
明	大	4	1 1 2	0 1 0	1	中	大

決勝

明	大	6	1 3 2	0 1 0	1	法	大
---	---	---	-------	-------	---	---	---

(審判 須藤、大野氏)

(法大)	西崎津口吉田	大	島船	山武	友田
(明大)	村中村川滑山之内	FW	DF	GK	友則
1					1

土橋 (明大)、5 佐々木正 (慶大)、6 藤田 (明大)
千五百米 (セパレート・コース)

1 山下勝久 (早大)	二、二八・五
2 高林三郎 (明大)	二、三一・二
3 阿部剛 (明大)	二、三三・四
4 安保 (明大)、5 佐々木正 (慶大)、6 中尾 (早大)	
一萬米 (セパレート・コース)	
1 深井恒雄 (慶大)	一八、一五・〇
2 中村 (早大)	一九、二〇・七
3 土橋 (明大)	一九、三三・五
4 長尾 (立大)、5 高橋 (立大)、6 坂本 (明大)	
二千米繼走 (セパレート・コース)	
1 明大 (安部、坂本、安保、高林)、三分〇六秒八、	2
早大三分一三秒七、3 慶大、4 立大	

總得點

1 明大 四四點、	2 早大 三〇點、	3 慶大 一九點、	4 立大 六點
-----------	-----------	-----------	---------

第十八回大會 (夢の海)

戦争が苛烈になると共に全日本學生氷上競技選手權大會も學生連盟の單獨主催では運営が出来ないことになり、學

連は大日本學徒體育振興會に吸収されて、この年の大會は文部省、大日本學徒體育振興會共催で一月九日から三日間長野縣諏訪市蓼の海リンクで行われた。

名稱も全國學徒氷上競技大會というので、大學、高專、中等學校の三つの階級が集つて一時に行われたのである。

三つの階級が集つたのだから人員も千名に近くまことに盛觀を極めたが、殊に盛觀だと思われたのは、諏訪市から蓼の海までの約一里半の行程を乗ものなしで、朝七時に上諏訪駅前廣場をスタートし隊列を整えて市内を行進し、歸りも同様蓼の海から宿舍まで疲れた足をひきずりながらも行進してやれやれと人心地にかえつたなどのことで、これが三日間續き、誰も文句をいわなかつたのだから、人の氣持も時の移りかわりと共にすいぶんかわるものである。

これ等のことは思い切つた競争訓練といえよう、今後こんな馬鹿氣たことは二度とはあるまい。然しこゝに思い起すことは、どんな苦しみでもやればやれるということである。これをよい方面の努力、困難の克服に用いたいものである。選手として第一線に立つ人はいゝ加減の努力では成績はあげられない。普通人以上の努力と耐乏の生活が必要である。

三日間の最終日は雪が降つた。スピード・トラックもホッケー・リンクも忽ち眞白におおわれてしまふ。この除雪

作業に諏訪中學と諏訪商業の生徒諸君が出てくれたので競技は豫定通り進行した。この除雪奉仕に對し兩校の先生並に生徒諸君に改めてお禮を申上げておく。

スピード競技

五百米(セパレート・コース)

〔大學の部〕1 内藤晋(日大)四秒五秒六、2 阿部剛(明大)四秒二、3 山下勝久(早大)四秒六秒六、4 川口(法大)、5 安保(明大)、6 高林(明大)

〔高專の部〕1 林維新(北大豫)五秒一、2 金相(普成)五秒九、3 巢山(北大豫)五秒二秒三、4 金城(普成)、5 藤田(青學)、6 佐藤(北大豫)

〔中等の部〕1 佐藤忠司(苦工)四秒六秒三、2 角田(新京商)四秒二、3 廣川(松都中)四秒八秒四、4 中村(苦工)、5 紺野(苦中)金谷(松都中)

千五百米(セパレート・コース)

〔大學の部〕1 片倉昌男(日大)二分二秒九秒九、2 阿部剛(明大)二分三秒〇秒五、3 深井(慶大)二分三秒二秒一、4 川口(法大)、5 内藤晋(日大)6 山下勝久(早大)

〔高專の部〕1 金相鴻(普成)二分四秒九秒〇、2 金海(岩手醫)二分五秒一、3 巢山(北大豫)二分五秒四秒〇、4 林(北大豫)、5 金城(普成)、6 星(北大豫)

4 織田(學習院)、5 星(北大豫)、6 西尾(學習院)

〔中等の部〕1 廣川孝昌(松都中)二分三秒〇、2 佐藤忠司(苦工)二分三秒六秒二、3 中村(苦工)二分三秒七秒八、4 紺野(苦中)、5 眞久田(新京商)、6 徳山(松都中)

五千米

〔大學の部〕(セパレート・コース) 1 深井恒雄(慶大)九分九秒〇、2 橋本清(日大)九分一四秒五、3 片倉昌男(日大)九分一六秒二、4 服部(明大)、5 境(日大)、6 長尾(立大)

〔高專の部〕(オープン・コース) 1 巢山俊吉(北大豫)一分二五秒七、2 金海(岩手醫)一分三三秒三、3 金相(普成)一分三三秒八、4 金城(普成)、5 金河(普成)、6 星(北大豫)

〔中等の部〕(オープン・コース) 1 紺野誠治(苦中)九分四二秒六、2 廣川孝昌(松都中)九分四三秒二、3 眞久田(新京商)九分四三秒六、4 佐藤(苦工)、5 菅原(苦工)、6 金谷(松都中)

一萬米(オープン・コース)

〔大學の部〕1 深井恒雄(慶大)一九分五四秒五、2 橋本清(日大)一九分五五秒九、3 長尾(立大)一九分五六秒五、4 築瀬(明大)、5 服部(明大)、6 境(日大)

〔高專の部〕1 金相鴻(普成)二分五秒七秒一、2 巢山俊吉(北大豫)二分五秒七秒一、3 金海(岩手醫)二分四秒二

〔大學の部〕

一回戰

明	大	13	1	東
中	大	14	2	慶
京	大	(棄)		京
早	大	(棄)		東北

アイス・ホッケー競技

〔高專の部〕1 北大豫(林、星、佐藤、巢山)二分五秒九秒二、2 岩手醫專三分六秒八、3 普成専門三分一七秒二、4 松本高校5 學習院

〔中等の部〕1 苦小牧工業(中村、長岡、菅原、佐藤)二分三五秒一、2 松都中二分三七秒九、3 新京商二分三八秒七、4 苦小牧中、5 岡谷工

同法立 大 大 大 (棄) 慈惠大
24 33 3 0 日 關 學

京準々決勝 大 7 7 北 大

明立明 (延長三回抽籤) 大 7 1 早 大
法 大 4 19 5 1 中 同 大
準決勝 大 4 1 中 大

明法 大 2 5 0 0 京 大
決勝 大 2 0 立 大

明 大 2 1 0 1 0 0 1 1 法 大

〔高専の部〕
一回戦

岩手醫專 11 1 二 高
青山學院 11 0 松本高校
東京高校 (棄) 盛岡高農
北大豫 (棄) 普成専門

5 東京高校、6 松本高校、7 二高、8 學習院
〔中學の部〕 1 苫小牧工業六〇點 (ホッケー三〇、スピード三〇)、2 新京高業五八點、3 苫小牧中學四四點五、4 松都中學三九點五、5 岡谷工業

第十九回大會 (昭和廿二年)

(一月四、五、六日 於長野縣松原湖)

アイス・ホッケー競技

第一回戦

立 大 4 2 1 1 1 0 1 2 早 大

法 大 7 2 2 3 1 2 1 4 東 大

第二回戦

中 大 6 2 0 4 0 0 2 2 明 大

青山學院 不戰勝 北大豫科

準決勝

岩手醫專 10 2 東京高校
青山學院 5 1 北大豫

青山學院 1 0 1 0 1 0 0 1 1 岩手醫專

(延長四回引分)

〔中等の部〕

準決勝

新京商業 5 1 苫小牧工業
決勝 勝

新京商業 5 2 0 0 0 3 1 0 0 1 2 4 苫小牧中

學徒氷上競技總合成績

〔大學の部〕 1 明大六八點 (ホッケー四〇、スピード二八)
2 日大三八點、3 法大三八點、4 立大、5 京大、6 早大
7 慶大、8 中大、北大、同大
〔高専の部〕 1 北大豫六二點 (ホッケー二〇、スピード四二) 2 岩手醫專五四點、3 青學三七點、普成専門三七點

準決勝戦

立 大 11 7 3 1 1 1 2 法 大
慶 大 9 4 2 3 1 1 1 3 日 大

決勝戦

立 大 7 2 3 2 2 0 2 4 慶 大
中 大 12 3 3 6 2 0 0 2 青山學院

立 大 5 2 2 1 2 1 0 3 中 大

(審判 吉川、川邊兩氏)

〔中大〕 本 瀨 田 文 澤 井 和
橋 市 梅 櫛 中 笹 葛

〔立大〕 五十嵐 村高市安高 川中 若
FW 村高市安高 川中 若
DF 村高市安高 川中 若
GK 村高市安高 川中 若

三位池定戦

慶	大	6	
			3 2 1
			1 1 1
		3	青山學院

フイギユア競技

個人總合得點

順位	選手	スクール	フクリ	總得點
1	原口鈴夫 (京大)	三〇	三〇	五七
2	川島 (早大)	三九	三〇	五七
3	渡邊 (早大)	三八	三〇	五七
4	岩崎 (早大)	三七	三〇	五七
5	吉川重喜 (東大)	一九	三〇	五七

各校得點

1 早大一二點、2 京大六點、3 東大二點

スビード競技

五百米 (セパレート・コース)

〔第一豫選〕

1	高林忠三郎 (明大)	四九・二
2	高林清高 (同)	四九・六
3	久保田眞次良 (日大)	五二・四
4	藤田賢一 (同)	五三・七

〔第二次豫選〕

5	森 壽 (東大)	五四・七
6	細川 雷太 (慶大)	五五・五
1	高野 (立大)	五六・一
2	川北 義男 (立大)	五八・六
3	中村 睦 (同)	五九・五
4	須田 (法大)	六五・〇

〔決勝〕

1	高林忠三郎 (明大)	四九・二
2	高林清高 (同)	四九・六
3	久保田眞次良 (日大)	五二・四
4	藤田賢一 (同)	五三・七
5	森 壽 (東大)	五四・七
6	細川 雷太 (慶大)	五五・五

千五百米 (セパレート・コース)

1	高林忠三郎 (明大)	二・三三・九
2	高林清高 (同)	二・四三・六
3	井原 和夫 (慶大)	二・四五・三
4	久保田眞次良 (日大)	二・五一・九
5	藤田賢一 (日大)	二・五三・六
6	石川 良平 (慶大)	二・五五・一

五千米 (オープン・コース)

1	高林忠三郎 (明大)	九、五〇・七
2	久保田眞次良 (日大)	九、五九・五
3	井原 和夫 (慶大)	一〇、〇〇・〇

一萬米 (オープン・コース)

1	高林忠三郎 (明大)	二二、五三・八
2	高林清高 (同)	二二、〇〇・〇
3	井原 和夫 (慶大)	二二、〇〇・九
4	久保田眞次良 (日大)	二二、〇八・三
5	細川 雷太 (慶大)	二二、〇八・五
6	藤田賢一 (日大)	二二、〇九・〇

二千米リレー (オープン・コース)

1	慶大 (青木、石川、井原、細川)	三、四六・八
2	日大 (久保田、中馬、栗山、藤田)	三、五四・三
3	明大 (中山、吉田、高林清、高林忠)	三、五四・五
4	法大、5 東大	

スビード總得點

1 明大四四點、2 日大二七點、3 慶大二〇點、4 東大二點

第二十回大會 (昭和二十三年)

(一月三、四、五、六日 長野縣松原湖)

スビード競技

五百米 (セパレート・コース)

1	中野 森高 (慶大)	五五・一	順位
2	大本 吉彦 (早大)	五七・三	一
3	片倉 眞平 (立大)	八三・五	四
4	武内 成 (北大)	五七・五	
5	白島 磧 (明大)	六〇・三	三
6	佐藤 忠司 (日大)	六四・四	二
7	平井 俊一 (慶大)	五七・〇	
8	大城 巽 (立大)	五九・二	七
9	内山 政治 (早大)	八七・三	
10	上野 秀彦 (北大)	七二・五	

11	米田	(關學)	五四・九	五八
12	久保田眞治良	(日大)	五三・二	六
	森壽	(東大)	五三・〇	

〔得點〕 1 明大一九點、2 日大一四點、3 慶大二點、4 關學一點

千五百米 (セパレット・コース)

1	宮阪和夫	(立大)	三、五・五	三
2	細川雷太	(慶大)	二、五・九	
3	佐藤忠司	(關學)	二、五・四	三
4	上野富男	(北大)	二、五・九	二
5	古谷富男	(關學)	二、五・二	六
6	寺島成	(慶大)	二、四・六	一
7	佐藤恒雄	(日大)	二、三・六	
8	熊野章一	(北大)	三、一・〇・三	七
9	鈴木淳充	(早大)	二、五・一	

10	石川良平	(早大)	三、〇・〇	四
11	藤田清高	(日大)	三、五・五	六
	高林	(明大)	二、四・五	八

五千米 (セパレット・コース)

1	鈴木恒雄	(法大)	九、五・七	二
2	淺野章二	(慶大)	一四、〇・九	
3	宮坂和夫	(立大)	一四、四・五	三
4	白長穂積	(關學)	一三、四・六	二
5	菅原和彦	(慶大)	一三、二・六	一
6	細川雷太	(日大)	一三、一・五	八
7	飯島忠夫	(明大)	一〇、八・五	五
8	伊藤博良	(早大)	一〇、二・六	六
9	小田中博	(北大)	九、五・〇	四

學生選手權成績表

スピード・フィギュア・ホッケ―總合優勝

10	金子光次	(明大)	一〇、五・〇	三七
	寺島俊	(明大)	九、五・五	

一萬米 (セパレット・コース)

1	久保田眞治良	(日大)	三、七・五	六五
2	菅原和彦	(早大)	三、四・五	
3	伊藤	(日大)	三、二・二	七一
4	安田富男	(明大)	三、一・九	四二
5	山口	(日大)	三、〇・二	

〔得點〕 日大一七點、明大一六點、早大二點

二千米 (セパレット・コース)

1	日大	(佐藤恒、藤田、菅原、佐藤忠)	三、一・五・〇	
2	立大	(城倉、片倉、宮坂、山口)	四、〇・〇	
3	早大	(内山、伊藤、大森、島田)	三、五・六	
4	慶大	(中野、細川)	三、四・四	

3	明大	(寺島弟、同兄、安田、高林)	戰後最高三、三・一	
4	關學	(古谷、白坂、米田)	三、七・三	
5	北大	(竹内、上野、西村、先田)	四、七・七	

〔得點〕 1 明大八點、2 日大六點、3 慶大四點
得點總計 ①日大七五點、②明大七〇點、③早大一〇點

④慶大五點、⑤關學一點

第一回	同	大正十四年	ナシ	東北帝大	早大	
第二回	同	同	十五年	早大	北大	
第三回	同	昭和二年	中止 (諒閣)	大	滿洲醫大	
第四回	同	三年	早大	慶大	大	
第五回	同	四年	早大	慶大	大	
第六回	同	五年	早大	〃	大	
第七回	同	六年	早大	〃	大	
第八回	同	七年	(全國的暖氣のため)	早大	大	
第九回	同	八年	明大	慶大	大	
第十回	同	九年	明大	慶大	大	
第十一回	同	十年	明大	慶大	大	
第十二回	同	十一年	明大	〃	大	
第十三回	同	十二年	明大	〃	大	
第十四回	同	十三年	明大	立大	大	
第十五回	同	十四年	明大	立大	大	
第十六回	同	十五年	明大	立大	大	
第十七回	同	十六年	早大	明大	大	
第十八回	同	十七年	明大	東大	大	

スピード競技

五百米 (セパレート・コース)

- 1 李聖徳 (一般) 四七秒二 (日本新記録)、2 潤間正見 (一般) 四七秒八 (日本新記録)、3 崔龍振 (學生) 四七秒九 (日本新記録)、4 金 (學生)

千五百米 (セパレート・コース)

- 1 李聖徳 (一般) 二分三五秒一、2 崔龍振 (學生)、泉山 (一般)、4 濱三人 (學生)

三千米 (セパレート・コース)

- 1 潤間正見 (一般) 五分四一秒三 (日本新記録)、2 矢崎 (學生)、3 堀 (一般)、4 由井 (一般)

五千米 (セパレート・コース)

- 1 金正淵 (學生) 九分二秒五、2 濱三正 (一般)、3 行田 (一般)、4 小池 (一般)

二千米リレー (セパレート・コース)

- 1 學生軍 (矢崎、金、崔、濱) 三分二一秒四、2 一般軍 (潤間正、小池、潤間留、李)

オーブン競技

千米 (セパレート・コース) 1 李聖徳 (一般) 一分四三秒 (日本新記録)、2 泉山 (一般)、3 濱三 (學生)

フィギュア競技

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	片山 敏一	(關學)	七	四四・〇	三八・六	八二・六
2	長谷川 次男	(慶大)	一五	三八・二	三三・八	六六・〇
3	長谷川 章夫	(日ス)	二五	四九・〇	二〇・六	六九・六
4	小林 二郎	(明大)	二六	三三・八	三三・八	六六・六
5	北川 (大阪)	五七・二・八點、6 倉橋新 (大阪)	五七・二・八點、7 倉橋哲 (關學)	五四・六・二點、8 東郷 (日ス)	五二・八・八點、9 山本 (明大)	五一・三・四點、10 星野 (慶應)

第八回大會 (昭和十一年)

第八回明治神宮體育大會スケート競技會は、昭和十一年一月三十一日光尾リンクに於てスピード競技二月一、二日の兩日東京芝浦スケート場に於て、フィギュア及びアイスホッケー競技を行つた。

スピード競技の行はれた一月三十一日は、數日來の暖氣の爲め大會開催不能といふような説が選手間に傳はり、遠隔の各地方選手は、その大部分が歸郷して、參加選手は僅

一萬米 (セパレート・コース) 1 行田和 (一般) 一九分二一秒五、2 潤間留十 (一般)

(一般、學生得點表)

一般	學生	合計
五百千五百三千	五千リレー	二九
八七	八六	〇
三四	三五	三八

アイス・ホッケー競技

準決勝

全日光	4	3	慶大
満洲醫大	2	0	明大

決勝

満洲醫大	5	2	3	0	1	1	1	3	全日光
------	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

〔日光〕	仁山	菊部	久本	藤藤
〔満〕	星野	神阿	和澤	星野
木下弟	FW			
木下兄				
早間	DF			
堀				
浅尾	GK			
1	反則	7		

かに早明兩校と地元日光チームだけで、その數は實に十八名といふ淋しさであつた。

懸念されたリンクも急激な寒氣の爲結氷は見たが、レース前夜降雪があり、然もレース中にも小雪が舞ふ状態であつて、記録に對する期待は全然望めなかつた。だが何んと云つても淋しかつたことは、丁度この年ガルミツシュの第四回冬季オリンピック大會に七名のスピード代表選手を送つて居たことで、これは、スピードのみに限らずアイス・ホッケー、フィギュア共に感ずることであつた。

スピード・レースの結果は、五百米と千五百米の短距離レースに崔君 (明大) 三千米及び五千米に尹世植君がそれぞれ優勝した。

アイス・ホッケーの出場チームは、前回同様全日選手權の準決勝に残つた四チームで、本大會には、早大、立大、日光、それから慶大の棄權に依つて推薦された満鐵の四チームが、神宮大會の覇權を巡つて對峙し、第一日の準決勝で早大と立大が勝ち残り決勝では早大が覇權を獲得した。またフィギュアは、數日前終つた全日本選手權大會のあとであるだけに、捲土重來の意氣物凄く白熱せる競技が見られた。

スピード競技

男子競技

五百米 (セパレイト・コース)

- 1 崔龍振 (明大) 四七秒二、2 許景日 (明大) 四八秒八、3 福田一正 (日光) 五二秒三、4 手塚勇 (日光)、5 寺内榮次 (日光)

千五百米 (セパレイト・コース)

- 1 崔龍振 (明大) 二分三三秒五、2 張日弘 (明大) 二分四二秒九、3 朱鳳德 (明大) 二分四八秒三、4 谷田貝菊一 (日光)、5 許景日 (明大)

三千米 (セパレイト・コース)

- 1 尹世植 (明大) 五分四四秒九、2 張日弘 (明大) 五分五三秒八、3 朱鳳德 (明大) 六分〇三秒一、4 谷田貝菊一 (日光)、5 小平清 (日光)

五千米 (セパレイト・コース)

- 1 尹世植 (明大) 一〇分〇六秒四、2 杉浦正 (早大) 一〇分二八秒〇、3 齋藤繁 (日光) 一〇分五二秒七、4 穂口重雄 (早大) 一分二二秒

女子競技

五百米 (オープン・コース)

- 1 星野トミ子 (日光) 一分〇九秒〇、2 福田トシ子 (日

- 光) 一分一〇秒二、3 小田富士子 (日光) 一分一六秒四、4 小平清子 (日光)

千五百米 (オープン・コース)

- 1 星野トミ子 (日光) 三分四八秒九、2 小平清子 (日光) 三分五五秒一、3 小田富士子 (日光) 四分〇八秒八、4 福田トシ子 (日光)

アイス・ホッケー競技

準決勝

立教大學 10 6 1 3 2 日光古河

(開始午後五時五分 審判 牧、小西氏)

〔日光〕山井弟部山上野平兄子
〔日光〕永田野澤阿神村星小澤金

〔立大〕田開柳谷谷 中川 反則
〔立大〕砂新小金熊 谷 田西村 GK 千

早稲田大學 12 5 4 3 2 全満鐵

(開始午後八時 審判 金子、難波氏)

- 1 倉橋新 (神戸ス) 七 二七・五 一七五・七
- 2 有坂隆祐 (明大) 一四 三三・六 一八三・六
- 3 黒田長義 (早大) 七 三〇・五 一五三・三
- 4 山本嘉成 (明大) 一八 三〇・一 一八・五
- 5 東郷駿二 (銀櫻會) 一六 二〇・九 一八七・六
- 6 小林達雄 (關東フ) 三 一七・五 一三・七
- 7 野崎勝豊 (早大) 三 一七・七 一四・〇
- 8 吉川豊 (同) 三 一五・〇 二九・五

女子競技

- 1 東郷球子 (銀櫻會) 七 三三・三 一六・六
- 2 手塚満子 (横濱女) 八 二四・三 三八・八

第九回大會 (昭和十三年)

フィギュア及びアイス・ホッケー競技は、一月二十六、七兩日東京芝浦スケート場で、スピード競技は、同二十九日、三十日長野縣上諏訪の海リンクで舉行された。

先づ二十六日芝浦スケート場でフィギュア及びアイス・ホッケーの選手入場の開會式を舉行、賀陽總裁官殿下の令旨を奉戴のち、會長の式辭、片山選手の宣誓その他祝辭があつて競技に入つた。

フィギュア競技

(審判 帶谷、今野、三輪、徳川、長谷川 (章) 氏)

男子競技

順位 氏名 所屬 順位點 スクール フリー 總得點

〔早大〕	所堀田部	FW	2	反則	2
〔早大〕	別西富安小須田	DF	2	反則	2
〔立大〕	砂新小金熊	GK	2	反則	2
〔開始午後三時半〕	田開柳谷谷	DF	2	反則	2
〔開始午後三時半〕	審判 金子、難波氏	GK	2	反則	2
〔早大〕	所田田部	FW	2	反則	2
〔早大〕	別平富安小須田	DF	2	反則	2
〔決勝戦 (二月二日)〕	早稲田大學	FW	2	反則	2
〔決勝戦 (二月二日)〕	立教大學	DF	2	反則	2
〔満鐵〕	植阿千拓松有	GK	2	反則	2
〔満鐵〕	松部田植浦吉田垣野	GK	2	反則	2

競技は二日間行はれ、その結果フィギニアでは男子片山、女子稻田嬢が優勝、呼物アイス・ホツケーは立大が覇権を握るに至つた。早大と立大はこのシーズン顔を合はすこと四度び、勝敗はこれで二勝二敗となつた。

スピード・スケート競技は、一月二十九日、三十日の二日間長野縣諏訪湖の海リンクで行はれたが、聖恩旗がはじめてこの地に翻つたことゝて、地元は大いに感激、全町を擧げて大會の成功に協力した。

二十九日開會式、總裁官殿下の令旨奉讀、會長の式辭、選手代表崔龍振の宣誓があり、厚生、文部大臣の祝辭の後長野縣知事の祝辭があつて競技に入つた。

この日は珍しい程よく晴れた大會日和で、参加五十餘名の選手は、聖恩旗の下に意氣衝天、白熱的レースを展開した。

第二日の三十日は午前九時から續行、曇天雪模様、氣温零下五度、氷厚四十センチ、東微風、午前のコンデイションはよかつたが午後になるや猛烈な吹雪となり、レース毎に除雪する状態であつた。然しこれはむしろ選手の志氣を愈々昂揚せしむるものとなり、好記録はその中から生れた。かくて閉會式は吹きつる雪の中に行はれたが、嚴寒然も白雪と闘ふ意氣こそ明治神宮スケート大會にふさはしいものであると感じた。

スピード競技

男子競技

五百米 (セパレート・コース)

組合順 選手名

タイム

成績順位

1	寺島碩 (中部)	五五・二	一五
2	坂口勇三郎 (同大)	五九・二	一七
3	渡邊秀綱 (中部)	五五・七	一七
4	張日弘 (満洲)	四六・三	一〇
5	三代正勝 (満洲)	四四・四	五五
6	崔龍振 (早大)	四四・五	五五
7	許景日 (早大)	四四・三	四三
8	崔龍振 (朝鮮)	四四・一	一二
9	林益弘 (中部)	五一・一	一三

千五百米 (セパレート・コース)

組合順 氏名

タイム

成績順位

1	後藤慎 (中部)	二五〇・八	一八
2	濱田種一 (關西)	二四七・三	二五
3	林益弘 (同大)	二四四・五	一六
4	岩本壽美 (中部)	二四八・六	一九
5	小松章展 (中部)	二五〇・五	二三
6	金泰官 (同大)	二五〇・二	一五
7	寺島碩 (同大)	二五三・一	二三
8	張日弘 (満洲)	二四四・四	一〇
9	崔龍振 (満洲)	二四七・九	一六
10	花岡光夫 (中部)	二四三・五	九五
11	内藤晋 (北海道)	二三三・九	八七
12	李安重 (朝鮮)	二二八・一	三二

組合順 氏名

タイム

成績順位

13	崔龍振 (早大)	二二六・六	四一
1	後藤慎 (中部)	五五・四	一三
2	野澤善雄 (中部)	六〇・九	一七
3	坂口勇三郎 (中部)	六〇・九	一七
4	金中楠 (満洲)	五二・八	九二
5	高林三郎 (満洲)	五二・七	〇七
6	花岡光夫 (中部)	五二・八	五八
7	李仁源 (朝鮮)	五二・八	六三
8	尹世植 (同大)	五一・七	四一
9	崔龍振 (關西)	五〇・七	二六
10	金泰官 (明大)	六二・一	一九

五千米 (セパレート・コース)

組合順 氏名

タイム

成績順位

1	小松 章展 (中部)	九、三六・九	一〇
2	安達 和男 (満洲)	九、三四・九	九八
3	金 莊 煌 (満洲)	九、五一・五	一
4	尹 世 植 (中部)	九、二二・九	六
5	高林 三郎 (中部)	九、二二・〇	七
6	張 祐 植 (満洲)	九、〇〇・七	二一

五百米 (セパレート・コース)

組合順 氏名

タイム

成績順位

1	江島 八重子 (満洲)	五、二・三	五
2	今村 俊子 (同)	六、三・四	三
3	村山 節子 (同)	五、六・九	四

千五百米 (セパレート・コース)

アイス・ホッケー競技

準決勝

早大	4	2	1	1
		0	1	1
		2		

日光古河

(審判 小森、鈴木氏)

〔日光〕		
{	神	山
	川	田
	澤	本七
	安	納
{	吉	島
{	齊藤	清
	齊藤	留
{	田	中
2		

〔早大〕	川島鞍田田須田本川左右田小野田澤
中吉鬼安七小森市	左野中

1

立大	8	2	2	4
		1	2	0
		3		

明大

(審判 牧、辻氏)

決勝

立大	3	1	2	0
		0	0	0
		0		

早大

(審判 難波、辻氏)

[早大]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											</
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

フィギュア競技

男子 競技	順位 氏名	順位点	スクール	フリー	總得点
1	片山 敏一 (關學)	三	七四・三	六三・二	一三七・五

第十回大會 (昭和十五年)

明治神宮大會もこの第十回大會から、厚生省が主催することになり、その名も明治神宮國民體育大會と改つた。

その記念すべき政府主催最初のスケート競技會は、昭和十五年二月二日から四日まで、長野縣上諏訪町蓼の海スケートリンクに於て華々しく舉行された。

今大會よりは、大會を一層意義あらしめるべく、從來東京の屋内スケート場などに分散されて居たフィギュア、アイス・ホッケー、スピードの各競技を一ヶ所に集めて行ふことになり、遠く満洲、關東州、朝鮮より一流選手を網羅

し、中部スケート聯盟、地元町民の熱意ある支援に依つて大會は盛況をきわめた。大會第一日の二月二日は、午前九時半より聖恩の旗をお迎へして開會式を舉行、油氷の鏡のやうなリンクに役員を先頭に北海道、東北、東京、中部、關西、朝鮮、關東洲、滿洲の九地區代表三百餘名が入場、友末厚生省體育課長の開會の辭、會長吉田厚生大臣の式辭を佐々木體力局長代讀、スケート部役員長大日本スケート競技聯盟會長喜多壯一郎氏の挨拶を氷聯事務理事兩角政人氏代讀、富田長野縣知事祝辭、演技代表明大有坂隆祐君の宣誓、上諏訪高等女學校生徒二百名に依る明治神宮國民體育大會歌の齊唱あつて式を閉じ十時四十五分男子五百米レース及びアイス・ホッケー一回戰並に男子スクール・フイグアの三部に亘り戦ひの火蓋を切つた。午後天候急變して吹雪を交へたが、各選手の意氣は愈々高潮した。

第二日の二月三日は、前夜の降雪三十糎に及び競技の運行に多少の支障を來したが、地元有志、諏訪中學二百名の早朝からの除雪作業で大會は恙なく進行した。

總裁秩父宮殿下には、三日夜上諏訪町御着大會最終日には午前八時十五分御宿舎片倉館を御出發、諏訪神社に御參拜の後、同九時十五分飯村厚生參與官、友末體育課長以下役員、演技者の奉迎裡に夢の海リンクに御着、貴賓室で御小憩更にリンクに立たせられて大日本スケート競技聯盟理事

金子諭吉氏の御説明を聽かせられながら終日御熱心に總覽遊ばされ午後二時五十分諸員奉送の裡に御機嫌麗はしく御歸還、午後四時三十一分上諏訪驛御發御歸京遊ばされた。かくて演技は女子千六百米繼走を最後に全演技を完了、午後三時二十分嚴肅なる閉會の式典があげられ、三日間に亘る第十回大會スケート部演技は幕を閉じた。

スピード競技

男子 競技

五百米(セパレート・コース)

成績順位

- 1 阿部剛(東京) 四四秒二、2 内藤晋(滿洲) 四四秒三、3 山下勝久(東京) 四四秒四、4 高林三郎(東京) 四四秒八、5 三代正勝(滿洲) 四五秒五、6 山本宏之(滿洲) 四六秒一、6 安重熙(朝鮮) 四六秒一

組合順 氏名

タイム

- 1 高林忠三郎(中部) 五六・六秒
- 2 洪鐘萬(朝鮮) 四八・五
- 3 寺健俊(中部) 五一・七
- 4 金健會(朝鮮) 四六・八
- 5 岩波章(關東) 五〇・九
- 6 安重熙(朝鮮) 四六・一

千五百米(セパレート・コース)

成績順位

- 1 南洞邦夫(東京) 二分二八秒、2 金健會(朝鮮) 二分二八秒九、3 牛島義男(滿洲) 二分二九秒四、4 高林三郎(東京) 二分二九秒五、5 山下勝久(東京) 二分二九秒六、6 古厩泰治(中部) 二分三〇秒四

組合順 氏名

分秒

- 4 金莊芳樹(東京) 四六・三
- 5 李仁源(東京) 四六・三
- 6 山本宏之(滿洲) 四六・一
- 7 高林三郎(東京) 四四・八
- 8 富田勝久(滿洲) 五六・五
- 9 阿部剛(東京) 四四・二
- 10 山下勝久(東京) 四四・四
- 11 内藤晋(滿洲) 四四・三
- 12 金聖奎(朝鮮) 四六・三
- 13 濱田種一(關西) 五一・五
- 14 後藤勇(關東) 五一・六
- 15 尾形滿(北海道) 四九・二
- 16 渡邊秀綱(關東) 四九・〇
- 17 小口大八(中部) 五三・五
- 18 寺島磧(中部) 四八・四
- 19 安保章(北海道) 六六・八
- 20 助光宏(關西) 五一・九
- 21 木村勝三郎(東北) 六四・六
- 22 小川榮(同) 五四・三
- 23 先川原桂吉(東北) 五〇・七
- 24 津田朝照(北海道) 五一・〇
- 25 伊藤行雄(北海道) 四七・五

- 1 古厩泰治(中部) 二分三〇・四
- 2 金健會(朝鮮) 二分二八・九
- 3 張祐植(關東) 二分三三・五
- 4 小松章展(北海道) 二分三三・二
- 5 李潤天(東京) 二分四二・二
- 6 朴哲(滿洲) 二分三〇・九
- 7 山下勝久(關東) 二分二九・九
- 8 牛島義男(滿洲) 二分二九・四
- 9 高林三郎(東京) 二分二九・五
- 10 内藤晋(北海道) 二分三一・二
- 11 李仁源(東京) 二分三〇・九
- 12 三代正勝(滿洲) 二分三二・九
- 13 南洞邦夫(東京) 二分二八・四
- 14 片昌男(滿洲) 二分三三・二
- 15 渡邊秀綱(關東) 二分四九・一
- 16 濱田種一(關西) 二分五二・二
- 17 小川榮(北海道) 二分三八・八
- 18 洪鐘萬(朝鮮) 二分四三・四

10	高林忠三郎 (中部)	棄
11	栗田榮 (關西)	棄
12	佐々木宗七郎 (東北)	棄
13	岩波章 (關東)	棄
14	相馬軍治 (北海道)	二、四九・五
15	朴雲峰 (朝鮮)	二、四一・四
16	黑濱耕治 (關西)	棄
17	小口大八 (中部)	棄
18	伊藤行雄 (北海道)	二、四八・九
19	寺島俊 (同)	二、三九・二
20	後藤光宏 (關西)	二、四五・〇
21	後藤勇 (關東)	二、四四・二
22	先川原桂吉 (東北)	二、四〇・一
23	安重瀨 (北海道)	二、三三・六
24	安保章 (朝鮮)	二、五三・六
25	後藤慎昌 (朝鮮)	二、三三・七
26	高林忠三郎 (中部)	二、五一・六
27	岩波章 (關東)	二、四八・九
28	小口大八 (同)	二、四八・九

三千米 (オープン・コース)

豫選 (三等迄入選)

第一組

第一組

1	南洞 邦夫 (東京)	八、五三・二
2	朴 潤 哲 (滿洲)	八、五三・五
3	李 孝 昌 (朝鮮)	八、五三・八

第二組

1	張 祐 植 (關東)	八、五四・二
2	牛島 義男 (滿洲)	八、五八・六
3	朴 雲 峰 (朝鮮)	九、〇七・八

第三組

1	中 楠 勝 (東京)	九、〇九・九
2	橋 本 清 (滿洲)	九、一〇・〇
3	片 昌 男 (同)	九、一〇・二

決勝 (六位迄入賞)

1	朴 潤 哲 (滿洲)	八、四九・七
2	中 楠 勝 (東京)	八、四九・九
3	李 孝 昌 (朝鮮)	八、五〇・六

二千米 繼走 (セパレート・コース)
成績順位

1	朴 潤 哲 (滿洲)	五、〇一・七
2	李 孝 昌 (朝鮮)	五、〇二・〇
3	古厩 泰治 (中部)	五、〇二・九
4	山下 勝久 (東京)	五、〇五・四
5	安 重 瀨 (朝鮮)	五、〇六・三
6	張 祐 植 (關東)	五、〇六・三
7	南洞 邦夫 (東京)	五、〇六・一
8	片 昌 男 (滿洲)	五、〇六・六
9	金 聖 奎 (朝鮮)	五、〇六・七
10	決勝 (六等迄入賞)	五、〇二・〇
11	朴 潤 哲 (滿洲)	五、〇三・三
12	南洞 邦夫 (東京)	五、〇三・五
13	金 聖 奎 (朝鮮)	五、〇三・五
14	張 祐 植 (關東)	五、〇三・五
15	李 孝 昌 (朝鮮)	五、〇三・五
16	山下 勝久 (東京)	五、〇三・五

五千米 (オープン・コース)

豫選 (三等迄入賞)

1	東京 (阿部剛、南洞邦夫、高林三郎、山下勝久)	三
2	滿洲 (三代正勝、川口芝樹、山本宏之、内藤晋)	三
3	朝鮮 (金聖奎、金健會、洪鐘萬、安重瀨)	三
4	北海道 (安保章、尾形章、小川榮、伊藤行雄)	三
5	關東 (張祐植、岩波章、後藤慎、渡邊秀綱)	三
6	中部 (寺島碩、宮崎健、高林忠三郎、古厩泰治)	三

1	繩手滿喜子 (滿洲)	五、〇秒六 (日本新記録)
2	坂本キヨ (北海道)	五、一秒二 (日本新記録)
3	江島八重子 (滿洲)	五、二秒三 (神宮タイ記録)
4	汾陽泰子 (滿洲)	五、三秒三、五平井サエ (北海道)
5	北澤キクエ (北海道)	五、四秒二

五百米 (セパレート・コース)

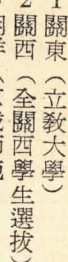
成績順位

組合順氏名

1	繩手滿喜子 (滿洲)	五、〇・六
2	坂本キヨ (北海道)	五、四・一
3	江島八重子 (滿洲)	五、四・一
4	汾陽泰子 (滿洲)	五、四・一
5	北澤キクエ (北海道)	五、四・一

一八〇・三

女子



1

關東州
22
3 10 6
0 0 0
0
東北

(審判 安部、大橋氏)

DF	{	木	下山
		桑	松
GK	{	植	關
		小小	野
反則		0	

關東州
4
2 2 0
| | |
0 0 1
1
東京

(審判 大橋、安部氏)

DF	{ 佐藤 小山田 山崎
GK	福森
反則	0

反則 0

決勝

0
關
東

(審判 古屋、安部氏)

反則	0
----	---

反則

〔關東州〕		崎島田田松崎下田山關	0
〔滿洲〕		玉戸前光植山木富桑小	
西本	申	FW	
		矢束浦	
大松	栗百松	DF	反則
伊吉	女	GK	1

第十一回大會（昭和十六年）

第十一回明治神宮國民體育大會冬季大會は二月四日午前十時から札幌に於てスキー、スケート兩競技合同で開會式を挙げ六日間に亘り札幌、小樽、苫小牧三地に豪華な體育祭典の幕を切つて落した。

この日早朝より快晴代表選手及び役員合計三千餘の大部隊は午前九時二十分札幌郊外綜合運動場内野球場に集結し、同四十五分より大會役員を先頭に地元北海道代表をトップにスキー、スケート代表が各府縣別に觀衆五萬の拍手に迎えられて入場、札幌吹奏樂聯盟の奏する行進曲に合せて南側入口より場内を半周して整列、同十時森厚生省體育官開會を宣し、君が代吹奏裡に國旗掲揚、續いて聖恩旗は旗手菅野俊一選手（スキー小樽高商）及び増田（スキー新潟）、若尾（スキー明大）、江副（スケート明大）、坂本

（同苫小牧）、木元（スキー小樽）五選手に護られて入場、正面に安置、次で全員國歌奉唱、會長代理友末厚生省體育局長の秩父總裁官殿下の令旨奉讀、會長式辭の後選手代表後藤博君（立大スケート）宣誓文を奉讀、終れば札幌市各小、中學校男女兒童生徒大合唱隊の明治神宮國民體育歌が響き渡る。かくて北海道長官祝辭あつて、こゝに冬季大會の開會式を閉ぢ、札幌、小樽、苫小牧の三會場に分れて熱戦を展開した。

札幌の綜合開會式に參列した水上全選手役員は四日午後三時十八分苫小牧に歸着、定刻より三十分遅れて同四時からスケートのみの開會式を舉行した。

この日苫小牧は快晴微風、春めいた陽ざしに街路の雪解けが目立ちリンクの結氷もやゝゆるんだが、競技場は塵一つ止めぬまでに手入が行届いて試合の開幕を待つてゐる。

定刻リンク入口に集結した全選手三百五十名は役員團を先頭に地元北海道から各々標識を掲げて入場中央貴賓席前に整列二瓶（王子）品川（苫高女）兩選手によつて國旗が掲揚され、全員君が代齊唱後前年度全日本選手權者朴潤哲（代理）から優勝盃の返還あり、大日本スケート聯盟田所副會長、高木王子製紙工場長の挨拶、兩角審判長の訓辭あつて式を閉ぢた。

大會第一日を飾る繪巻物は開會式後午後五時半から繰展

げられた水上野試合と老若男女千五百人がリンク狹しと亂舞滑走である。

苦中、苦工兩校の生徒百四十名の掛聲も勇しい野試合に續いて町長さんから先生、職員、女學生、一般町民に至るまで今日こそはの意氣を見せんとする風變りな集團滑走に移る頃には、全リンク照明が一時にパツと輝き渡り全員千五百名の大集團は三列に整列して團長の合圖も鮮かに音楽のリズムに乗つて右廻り左廻りと選手も顔負の名スケーター振りを發揮して水の町苫小牧の風景を展開した。

水上競技の第二日は絶好の天氣に蓋を開けたが次第に溫度が昇つたので氷面が軟化し午後の競技は一時間延期されたため期待された好記録はついに生れなかつた。しかし地區の名譽を賭け覇權奪取に勇む選手たちの眞摯敢闘は大會に相應しい熱戦に終始した。

この日午前中選手權の五百米に首位を飾つた金聖奎は一萬米豫選にも喰い込んで有望さを示し、牛島、南洞の滿洲軍も順調に進んだ。第二組で期待された金健會は優勝せず關東軍全滅の苦杯をなめ中部の古厩泰治は遂に落選したが地元北海道軍の奮闘ぶりが目立つた。

一般男子アイス・ホッケーでは豫想の如く滿洲が勝ち残り中等リーグでは關東州代表新京商業がまず一勝した。新京商業は全體としてまとまりがよく東北に較べて技術的に

一日の長があつたが大陸の中等學校チームに似合わず線の細いのは案外であつた。東北チームはパスや投射が粗雑のため機會を失したのは惜しかつた。

大會第三日の六日は降雨のため競技は中止となつた。前日來太平洋からの南の風に加えて夜中から雨が降り出し明方は一層激しくリンクには雨が一杯溜り競技遂行困難のため大會委員協議の結果中止に決した。従つてこの日行われる豫定であつた一般男子スクール・フィギュア、女子三千米、男子三千米スピード、中等アイス・ホッケー、一般アイス・ホッケーは七日・八日の日程中に組込まれた。

この日の氣溫（午前九時）はプラス二度半、東南風五米半スケート大會中の降雨は昭和五年全國學生大會以來の事である。

大會四日目の七日は終日荒天で氣溫は前日の暖氣を蹴飛ばして零下十度、北西風七米から十米の突風が吹きまくつた。

ホッケー、スピード、フィギュアの三種目に出場の各選手はこの荒天を敢然克服して元氣なところを見せた。この日スピードでは男子三千米に朝鮮軍意外の活躍を示して大量得點をあげた。男子千五百米開始の午後一時半頃から風やゝ少くなつたがバックストレッチはまた向い風を受けて好記録を阻まれた。

大會五日目の八日は絶好のコンディション、天候快晴、西北微風、零下一度の気温と滑らかな氷質は大会開始以来の良好なものであつた。

スケート競技最終日は九日午前九時四十五分から女子フィギュア、フリースケーティングが開始された。この日も前日に引續いて快晴、気温零下六度、西北の風あるも氷質良好で申分のないコンディションであつた。観衆は神宮大會の最後を飾る各競技を見ようと八時の開門を待ち兼ねて入場、スタンドは競技開始の頃には立錐の餘地なく場内を埋盡すという盛況であつた。

かくて六日に亘る氷上の熱戦は終幕を告げ午後一時から同リンクにおいて嚴肅な閉會式が舉行された。

スピード競技 (兼全日本選手権)

男子 競技

五百米 (セパレート・コース) (兼選手権)

- | | |
|--------------|------|
| 1 金 聖 奎 (朝鮮) | 四七・一 |
| 2 内 藤 晋 (満洲) | 四七・三 |
| 3 高林 三郎 (關東) | 四七・八 |
| 4 牛島 義男 (満洲) | 四八・三 |

千五百米 (セパレート・コース) (兼選手権)

- | | |
|----------------|--------|
| 1 李 明 天 (關東) | 二、三七・五 |
| 2 牛島 義男 (満洲) | 二、三八・〇 |
| 3 片倉 昌男 (同) | 二、三八・三 |
| 4 李 孝 昌 (朝鮮) | 二、三九・一 |
| 5 金 河 吉 (同) | 二、四〇・六 |
| 6 南洞 邦夫 (満洲) | 二、四一・一 |
| 7 橋 本 清 (同) | 二、四二・二 |
| 7 古厩 泰治 (中部) | 二、四二・二 |
| 9 金 聖 奎 (朝鮮) | 二、四二・九 |
| 10 小松 章展 (北海道) | 二、四四・六 |

- | | |
|---------------|--------|
| 11 高林忠三郎 (中部) | 二、四五・二 |
| 11 安保 章 (北海道) | 二、四五・二 |
| 13 高林 三郎 (關東) | 二、四五・三 |
| 14 内 藤 晋 (満洲) | 二、四五・四 |

三千米 (セパレート・コース) (兼選手権)

分 秒

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 李 孝 昌 (朝鮮) | 五、四〇・二 |
| 2 片倉 昌男 (満洲) | 五、四一・〇 |
| 3 金 翼 駿 (朝鮮) | 五、四八・九 |
| 4 橋 本 清 (満洲) | 五、四九・〇 |
| 5 李 明 天 (關東) | 五、四九・五 |
| 6 金 聖 奎 (朝鮮) | 五、五〇・二 |
| 7 張祐植 (朝鮮) | 8 古厩泰治 (中部) |
| 9 南洞邦夫 (満洲) | 10 牛島義男 (同) |
| 11 小松章典 (北海道) | 12 蔡昌烈 (關東) |
| 13 宮崎健 (北海道) | 14 金河吉 (朝鮮) |

五千米 (セパレート・コース) (兼選手権)

分 秒

- | | |
|--------------|--------|
| 1 片倉 昌男 (満洲) | 九、〇三・一 |
| 2 李 孝 昌 (朝鮮) | 九、〇七・一 |
| 3 金 河 吉 (同) | 九、一二・一 |
| 4 李 明 天 (關東) | 九、二三・九 |
| 5 牛島 義男 (満洲) | 九、二九・七 |
| 6 朴 雲 峰 (朝鮮) | 九、三二・八 |

全日本男子スピード選手権順位

- | | |
|---------------|--------|
| 7 小松 章展 (北海道) | 九、三四・八 |
| 8 橋 本 清 (満洲) | 九、三六・一 |
| 9 張 祐 植 (朝鮮) | 九、三六・七 |
| 10 野口 洋一 (満洲) | 九、四〇・三 |
| 11 高林 三郎 (關東) | 九、四〇・八 |
| 12 金子 光次 (中部) | 九、四一・二 |
| 13 金 聖 奎 (朝鮮) | 九、四一・九 |
| 14 古厩 泰治 (中部) | 九、四三・一 |

一萬米 (オープン・コース)

分 秒

- | | |
|--------------|------------|
| 1 李 孝 昌 (朝鮮) | 一八、三六・四 |
| 2 片倉 昌男 (満洲) | 一八、三六・九 |
| 3 金 聖 奎 (朝鮮) | 一八、三六・九 |
| 4 南洞邦夫 (満洲) | 5 朴雲峰 (朝鮮) |
| 6 橋本清 (満洲) | |

- | | |
|--------------|---------|
| 1 片倉 昌男 (満洲) | 二二五・一〇九 |
| 2 李 明 天 (關東) | 二二五・七四〇 |
| 3 牛島 義男 (満洲) | 二二七・四一九 |
| 4 金 聖 奎 (朝鮮) | 二二七・九五六 |
| 5 橋 本 清 (満洲) | 二二九・二四二 |
| 6 高林 三郎 (關東) | 二二一・七八〇 |

- 7 古厩 泰治 (中部) 二二二・一四二
- 8 李 孝 昌 (朝鮮) 二二三・六四二
- 9 高林忠三郎 (中部) 二二四・〇五九
- 10 張 祐 植 (朝鮮) 二二四・三六九
- 11 金 健 會 (關東) 二二五・四一二
- 12 尾 形 滿 (北海道) 二二八・三三九

二千米繼走 (セパレート・コース)

- 1 關東 (蔡、阿部剛、李明天、高林三郎) 三分九秒二
- 2 朝鮮 (金聖奎、洪、沈、安重熙) 三分九秒九
- 3 滿洲 (三代、橋本、牛島、内藤) 三分一〇秒五
- 4 北海道 (安保、尾形、加藤、富山) 三分一五秒五
- 5 中部 (寺島、宮坂、古厩、高林忠) 三分一六秒四

東北失格

女子 競 技

五百米 (セパレート・コース) (兼選手權)

- 1 繩手滿喜子 (滿洲) 五三・〇
- 2 坂本 キヨ (北海道) 五四・三
- 3 木村 芳子 (滿洲) 五四・三
- 4 江島八重子 (同) 五四・六
- 5 大倉惠美子 (同) 五五・九
- 6 長野 富子 (北海道) 五六・八

- 7 汾陽 泰子 (滿洲) 五七・一
- 8 野澤 光子 (北海道) 五七・七
- 9 藤 川 (朝鮮) 五八・八
- 10 鶴 谷 (同) 六〇・五

千米 (セパレート・コース) (兼選手權)

- 1 坂本 きよ (北海道) 一・五二・〇
- 2 繩手滿喜子 (滿洲) 一・五六・〇
- 3 長野 富子 (北海道) 一・五六・二
- 4 江島八重子 (滿洲) 一・五六・四
- 5 木村 芳子 (同) 一・五七・一
- 6 汾陽 泰子 (同) 一・五九・二
- 7 野澤 光子 (北海道) 一・五九・四
- 8 大倉惠美子 (滿洲) 一・五九・六
- 9 李 仁 九 (朝鮮) 二・〇三・五
- 10 田代千枝子 (同) 二・〇四・九

三千米 (セパレート・コース) (兼選手權)

- 1 坂本 キヨ (北海道) 六・二二・五
- 2 江島八重子 (滿洲) 六・三七・六
- 3 野澤 光子 (北海道) 六・三八・〇
- 4 長野 富子 (同) 六・四一・四
- 5 大倉惠美子 (滿洲) 六・四五・二

- 6 品川 京子 (北海道) 六・四八・〇
- 7 佐々木 (北海道) 六・四八・七
- 7 木村 芳子 (滿洲) 六・四八・七
- 9 繩手滿喜子 (同) 六・五〇・七
- 10 汾陽 泰子 (同) 六・五三・三

五千米 (オープン・コース)

- 1 大倉惠美子 (滿洲) 一〇・一八・二
- 2 木村 芳子 (同) 一〇・一八・五
- 3 江島八重子 (同) 一〇・一八・五
- 4 野澤 光子 (北海道) 一〇・一九・七
- 5 長野富子 (同)、6 坂本キヨ (北海道)、8 品川京子 (北海道)、8 繩手滿喜子 (滿洲)、9 汾陽泰子 (滿洲)、10 佐々木 (北海道)

千六百米繼走 (セパレート・コース)

- 1 滿洲 (木村、大倉、江島、繩手) 二分五三秒〇 (神宮新記録)
- 2 北海道 (長野、關下、品川、坂本) 二分五六秒九 (神宮新記録)
- 3 朝鮮 (李、田代、藤川、鶴谷) 三分一六秒六

女子選手權總得點及順位

- 1 坂本 キヨ (北海道) 一七四・〇五〇

男子地域別得點表

合計	繼走	一萬米	五千米	三千米	千五百米	五百米
52	5	13	10	12	5	7
50	4	9	9	8	10	10
23.5	7	0	0	2	7	4.5
3	3	0	0	0	0	0
2.5	2	0	0	0	0	0.5
0	0	0	0	0	0	0

女子地域別得點表

合計	繼走	五千米	三千米	千米	五百米
57.5	7	16	7	11	16.5
42.5	5	6	15	11	5.5
4	4	0	0	0	0

朝鮮 滿洲 關東 北海道 中部 東北

滿洲 北海道 朝鮮

一般アイス・ホッケー

準々決勝

満	洲	7
4	2	1
0	0	0
0		
東	京	

(審判 大野、安部氏)

〔東京〕	柳井	刈島	山谷	戸
小龜	草松	秋金	池	
須島	中			

藤崎村
DF 須島 中
GK 長野
0 反則 1

〔満洲〕	渚	本	松	アセイ	ウチ	富井	伊藤	ユシ	コ	アセ	ツ	弟
松	アセイ	ウチ	富井	伊藤	ユシ	コ	アセ	ツ	弟			

結家 GK 長野
0 反則 1

關東	8	
3	2	3
1	0	1
2		
朝鮮		

(審判 小森、大橋氏)

〔關東〕	田村	吉村	兄弟	賀	洋	川
田村	吉村	兄弟	賀	洋	川	

DF 多賀洋 川
GK 中 川
0 反則 0

〔朝鮮〕	江上	置	韓	島	李	中	基	平	道
江上	置	韓	島	李	中	基	平	道	

FW 田村 吉村 兄弟 賀 洋 川
DF 多賀洋 川
GK 中 川
0 反則 0

準決勝

北海道	6
2 0 2 1 1	
1 0 1 2 1	5
滿洲	

(審判 安部、大野氏)

〔北海道〕	阿部	文	和	本	藤
阿部	文	和	本	藤	

林 保 藤
DF 安 佐
GK 平 元
3 反則 3

〔満洲〕	渚	アセイ	ウチ	富井	松	富	伊藤	ユシ	コ	アセ	ツ	弟
渚	アセイ	ウチ	富井	松	富	伊藤	ユシ	コ	アセ	ツ	弟	

結家 GK 平 元
3 反則 3

關	東	25
		$\overbrace{5 \ 9}$
		$\begin{array}{ c } \hline 1 \ 0 \\ \hline \end{array}$
		$\underbrace{\hspace{1.5cm}}_1$
東	北	

(審判 西田、小森氏)

〔東北〕	田村	徳友	内	穠	藤
田村	徳友	内	穠	藤	

草 藤 藤
DF 齋 谷 福
GK 中 川
0 反則 1

〔關東〕	田村	吉村	兄弟	賀	洋	川
田村	吉村	兄弟	賀	洋	川	

FW 田村 吉村 兄弟 賀 洋 川
DF 多賀洋 川
GK 中 川
0 反則 1

決勝

北海道	2			
	1	1	0	
	1	0	0	
	1			
關東				

(審判 西田、小森氏)

〔北海道〕	阿部	文	村	和	本	藤
阿部	文	村	和	本	藤	

林 保 藤
DF 安 佐
GK 平 元
0 反則 0

〔關東〕	田村	吉村	副	副	瀬	賀	川	洋	中	濱
田村	吉村	副	副	瀬	賀	川	洋	中	濱	

中等アイス・ホッケーリーグ戦

關東州	3
$\begin{array}{ccc} 0 & 3 & 0 \\ \hline 2 & 0 & 0 \end{array}$	2
東北	

北海道	8
5	1
0	0
2	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0

關東州			
6			
3	2	1	
1	1	1	
}			
3			
北海道			

(審判 小森、大橋氏)

男子成績及順位

〔北海道〕	澤島	田部	邊	本	崎	村	澤
澤島	田部	邊	本	崎	村	澤	

FW 田部 邊 本 崎 村 澤
DF 小宮 北 柳
GK 柳 田

順位 スクール フリー

1 有坂 隆祐 (北海道)	5	三九・九	三九・九	六六・四	總得點
2 高山 方明 (關東)	10	三九・〇	三九・〇	五五・四	
3 金子 泰三 (同)	16	三九・〇	三九・〇	四六・三	
4 鹽田 直重 (同)	19	三九・〇	三九・〇	四六・三	
5 中村 公正 (滿洲)	28	三九・二	三九・二	四四・〇	
6 佐藤 進 (關東)	32	三九・三	三九・三	四八・六	
7 安田 成夫 (關西)	37	三九・一	三九・一	三九・七	
8 白林 清一 (關西)	39	三九・二	三九・二	三九・八	
9 辻村 眞吾 (北海道)	39	三九・二	三九・二	三九・八	
10 川村 檜雄 (關西)	50	三九・二	三九・二	三九・八	
11 橋本 英春 (北海道)	55	三九・二	三九・二	三九・八	

順位 關東一三、北海道七、滿洲二
女子成績及順位

順位	選手	順位	選手	順位	選手
1	稻田 悦子 (關西)	5	三〇・九	三三・三	六三・六
2	月岡 芳子 (同)	10	四四・八	五七・六	五九・六
3	永島 泰子 (滿洲)	15	三三・四	一六〇・六	三三・六
順位	關東二二、滿洲四				

第十二回大會 (昭和十七年)

第十二回明治神宮國民體育大會冬季大會スケート競技は二十四日午前八時半八戸市長根リソクに火蓋を切つて落した。この北邊に總裁高松宮殿下をお迎へ申上げ、選手、役員四百名と開催地八戸の感激は多大であつた。

午前八時三十分聖恩旗の下に開會式を舉行高林三郎君選手を代表してスポーツマンシップの昂揚を宣誓、同九時四十五分一般女子五百米決勝及び關西對北海道のアイス・ホッケー豫選から競技に入つた。

この日氷のコンディション悪く、氷面軟弱で至る所水溜りができ各選手は非常な苦戦をつづけた。

一般女子五百米決勝では體力のすぐれた細手嬢 (滿) が獨走の不利にも拘らず坂本嬢 (北海道) の追撃を却け三年

連覇の偉業をとげれば午後の一般女子五千米決勝では前年轉倒のため惜しくも覇權を逸した品川嬢 (北海道) がゴール寸前で細手、木村の滿洲の強豪をわずかに抜いて制覇する偉勳を樹て滿洲、北海道の白熱戦を演じた。

第二日の二十五日は總裁高松宮殿下御來場、午前九時男子五千米決勝から開始された。

この朝總裁官殿下には午前八時五十分尻内驛御着、直ちに自動車で九時十五分大會役員選手一同奉迎裡に御來場各種競技を御覽の後午後三時四十分からの閉會式に臨ませられ總裁官として熱心に大會を統裁されことは感激の極みであつた。

スピード競技では男子五千米に關東深井首位を占め、朝鮮は廣川の轉倒、金聖奎の失格で番狂わせを生じ最終種目繼走に優勝しながら遂に〇・五の僅差で關東に榮冠を奪はれた。女子は滿洲軍この日も一千米で力戦し好敵手北海道を退けた。

アイス・ホッケーは一般男子で滿洲は決勝に於て關東學生軍明大に敗れ、中等では北海道が堂々たる優勝振りを見せた。

今年はフィギュア競技は行われなかつた。

スピード競技

一萬米 (オープン・コース)

1 廣川 孝昌 (朝鮮)	一九・三九・七
2 深井 恒男 (關東)	一九・四〇・八
3 中村 榮治 (關東)	一九・四四・六
4 中楠際 (滿洲)、5 菅原和彦 (北海道)、6 片倉昌男 (滿洲)	

二千米繼走 (セパレート・コース)

1 朝鮮 (西村、吳、文、金聖奎)	三分九秒九
2 關東 (茂利、川口、高林、山下)	三分二秒〇
3 北海道三分一三秒九、4 滿洲、5 中部、6 東北	

計	34.5	34	30.5	8	2	1
---	------	----	------	---	---	---

一般男子スピード得點表

二千米繼走	5	7	3	4	2	1
一萬米	9	7	4	2	0	0
五千米	9	5	8	0	0	0
千五百米	4.5	7	8.5	2	0	0
五百米	7	8	7	0	0	0

朝鮮	滿洲	北海道	中部	東北
關朝	滿北	海北	中東	

女子競技

男子競技
五百米 (セパレート・コース)

1 金 聖 奎 (朝鮮)	四七・二
2 三代 正勝 (滿洲)	四七・八
3 高林 三郎 (關東)	四七・九
4 山下 勝久 (關東)	四八・一
5 片倉 昌男 (滿洲)	四八・四
6 文 東 成 (朝鮮)	四九・〇
7 紺野、7 高林忠三郎、9 森、10 寺島、10 官坂	

千五百米 (オープン・コース)

1 廣川 孝昌 (朝鮮)	二二・三・一
2 片倉 昌男 (滿洲)	二二・三・六
3 深井 恒男 (關東)	二二・三・七・六
4 松村 (滿洲)、5 古厩 (長野)、6 三代正勝 (滿洲)、同	
6 高林三郎 (關東)	

五千米 (オープン・コース)

1 深井 恒男 (關東)	九・一八・一
2 片倉 昌男 (滿洲)	九・一八・四
3 渡 邊 (朝鮮)	九・二七・五
4 境 (滿洲)、5 中村 (關東)、6 金光 (朝鮮)	

五百米 (セパレット・コース)

1 縄手満喜子 (満洲)	五三・八
2 坂本 キヨ (北海道)	五四・九
3 木村 芳子 (満洲)	五五・五
4 堀池アイ子 (同)	五八・三
5 長野 富子 (北海道)	五八・四
6 渡邊 清子 (同)	五八・八
千米 (オープン・コース)	
1 木村 芳子 (満洲)	一、五二・五
2 坂本 キヨ (北海道)	一、五三・二
3 縄手満喜子 (満洲)	一、五六・二
4 品川京子 (北海道)、5 野澤光子 (北海道)、6 堀池アイ子 (満洲)	

五千米 (オープン・コース)

1 品川 京子 (北海道)	一一・二四・一
2 木村 芳子 (満洲)	一一・二四・六
3 野澤 光子 (北海道)	一一・二五・二
3 縄手満喜子 (満洲)、5 長野富子 (北海道)、6 堀池アイ子 (満洲)	

千六百米 縄走 (セパレット・コース)

1 満洲 (木村、下根、堀池、縄手) 二分五五秒八

2 北海道 (坂本、渡邊、長野、品川) 二分五七秒八
3 朝鮮 (青山、田代、牧野、鶴谷) 三分一一秒八

女子總得點表

	五千	五千	千六百米	千六百米	計
滿洲	14	12	9.5	7	42.5
北海道	8	10	12.5	5	35.5
朝鮮	0	0	0	4	4

アイス・ホッケー競技

一回戦 一般の部

北海道 12	6 0 6	0 0 0	0	關西
朝鮮 4	2 0 0 2	1 1 0 1	3	東北

準決勝

北海道 (苫小牧) 11	4 3 4	0 0 0	0	朝鮮 (徴文中)
--------------	-------	-------	---	----------

決勝

北海道 (苫小牧) 17	6 5 6	0 1 0	1	東北 (盛岡中)
--------------	-------	-------	---	----------

決勝

關東 27	13 7 7	1 0 0	1	朝鮮
滿洲 8	1 2 5	1 0 0	1	北海道

關東 8	5 1 2	0 0 0	0	滿洲
------	-------	-------	---	----

〔滿洲〕	北川裕本	田頭博	本崎藤家
〔關東〕	村中村田竹澤川之内川橋	木田中岩大金滑山中石	

FW 反則 0
DF GK 3

一回戦

中等學校の部

東北 (盛岡中) 8	2 3 3	2 3 1	6	關東州 (大連二中)
------------	-------	-------	---	------------

準決勝

東北 (盛岡中) 3	1 2 0	0 0 0	0	在滿教務部
------------	-------	-------	---	-------

第十三回大會 (昭和十八年一月)

この年の神宮大會は、群馬縣榛名湖で開かれた。ここで競技會を開くのは、スケート連盟の競技會に關する限りはじめてのことである。

その榛名湖に聖恩の旗が迎えられたのである。周圍一里餘の榛名湖は白雪に飾られてその中に整備されたいくつものリンクがくつきりと浮び上つてゐる。昭和十八年一月廿二日午前九時大會第一日、りゆうりようたるらつばの音を

合圖に大會役員を先頭に北海道、東北、關東、中部、關西、朝鮮、關東州など八地區代表選手役員五百名入場壯嚴の開會式を行つた。

選手役員はみな競技場から一里ばかりはなれてゐる伊香保温泉に合宿、毎朝未明に起きてケイブルカーと乗合（貸切）を利用して競技に臨んだのだがこれ等のすべてをあつせんした伊香保の人達の努力は想像以上のものであつたろうと感謝してゐる。殊に大會第二日は明方までこの地方としても珍らしいほどの降雪があつてこの様子では第二日は延期のほかないかも知れないと思つたのであるが、伊香保温泉の隣組、室田町の隣組、澁川中學の生徒が總動員されて一里近くあるこの榛名湖までかけ上り、兎に角第二日の競技日程を差支えなく終了させて貰えたことはただただ頭のさがる思いがした。スケート大會に降雪は禁物ではあるがこうした地もとの熱意があるからには降雪も大して苦にならないものとなつた。

競技は豫定通り進行した。前回中止された男女日本選手権が復活して行われることになり、一方地域對抗戦のために、選手権、地域對抗の兩競技へ出場が出来るというので、二年ぶりに全日本の王座を狙う激戦と地域對抗の優勝を獲得しようとする熱戦で興味あるレースが展開した。

この大會で特に興味的に行われた競技は、廣い榛名湖を

競技的に生かすため一周五千米のコースをとり一地域五名を一團とした選手が一定の重量を背負つて三周するものであつた。稱して耐久競技というのだがリユツクサツクを背負つて滑るなど從來なかつた競技方式でありかつまたこういう團體的レースも廣大なスケート場を生かす一つの方法として興味あるものである。

大會最終日總裁高松宮殿下が台臨遊ばされスケート大會は一段と光榮に輝いた。

なおフィギュア競技は本年も行わなかつた。

スピード競技

男子選手権

五百米（セパレット・コース）

1 山下勝久（早大）四五秒三、2 三代正勝（満洲）四五秒六、3 阿部剛（明大）四六秒三、4 廣川孝昌（朝鮮）五片倉昌男（日大）6 橋本清（日大）

千五百米（セパレット・コース）

1 廣川孝昌（朝鮮）二分二四秒〇（日本新記録）2 山下勝久（早大）二分三一秒五、3 阿部剛（明大）二分三九秒四、4 渡邊（朝鮮）5 片倉（日大）6 橋本（日大）

五千米（セパレット・コース）

（男子）廣川孝昌（朝鮮）二〇九點四六五、2 山下勝久（關東）二一四點一八五、3 阿部剛（關東）二一七點六六八、4 片倉昌男（關東）二一八點五四五、5 橋本清（關東）二二〇點〇七〇、6 渡邊鐵石（朝鮮）二二一點〇六五、7 深井恒雄（關東）二二二點九七五、8 金光翼駿（満洲）二二四點六六八、9 大森政人（朝鮮）二二五點二九八、10 長岡正郎（北海道）二二五點七七三、11 三代正勝（満洲）二二六點九〇三、12 山岡健良（中部）二二六點九二八、13 徳山智義（朝鮮）二二九點三二〇、14 宮坂武和（中部）二二九點六六三

（女子）1 繩手満喜子（満洲）一七〇點五六七、2 長野富士（北海道）一七〇點九一七、3 野澤光子（北海道）一七一點二〇〇、4 木村芳子（満洲）一七四點〇五〇、5 戸島登志子（北海道）一七五點二八三、6 佐々木フサ子（北海道）一七六點八五〇、7 堀池愛子（満洲）一八〇點六三〇、8 牧野嘉子（朝鮮）一八二點二〇〇、9 青山仁九（朝鮮）一八六點三五〇、10 三ヶ尻照子（満洲）一八七點四八三、11 田代千枝子（朝鮮）一八八點六一七、12 安東淑江（朝鮮）一九〇點二八三、13 伊藤満子（中部）一九三點六三三、14 鶴谷美江（朝鮮）二〇〇點八三三、15 降幡茂子（中部）二四〇點六五〇

五百米（セパレット・コース）

1 繩手満喜子（満洲）五一秒八、2 戸島（北海道）長野（北海道）五三秒〇、4 木村（満洲）5 佐々木（北海道）6 堀池（満洲）

女子選手権

千米（セパレット・コース）

1 繩手満喜子（満洲）一分五〇秒九、2 野澤光子（北海道）一分五一秒二、3 長野富士（北海道）一分五三秒七、4 木村芳子（満洲）5 戸島（北海道）6 堀池

三千米（セパレット・コース）

1 野澤光子（北海道）六分二秒四、2 長野富士（北海道）六分六秒四、3 佐々木（北海道）六分一一秒七、4 木村（満洲）5 戸島（北海道）6 牧野（朝鮮）

選手権競技成績

地域對抗

男子 競技

五百米 (セパレート・コース)

1 内藤晋 (關東) 四四秒四、2 三代正勝 (滿洲) 四五秒六、3 川口 (關東) 四六秒一、4 牧山 (朝鮮)、5 安保 (關東)、6 廣川 (朝鮮)

千五百米 (セパレート・コース)

1 廣川孝昌 (朝鮮) 二分二四秒〇 (日本新記録) 2 紺野誠治 (北海道) 二分四一秒六、3 安保 (關東) 二分四二秒六、4 川口 (關東)、5 松村 (滿洲)、6 先河原 (東北)

五千米 (セパレート・コース)

1 廣川孝昌 (朝鮮) 八分四四秒〇 (日本新記録) 2 服部 (關東) 九分八秒四、3 渡邊 (朝鮮) 九分一三秒三、4 金光 (滿洲)、5 長尾 (關東)、6 大倉 (朝鮮)

一萬米 (オープン・コース)

1 菅原和彦 (北海道) 一九分二一秒二、2 大倉 (朝鮮) 一九分二六秒一、3 長尾 (關東) 一九分二六秒三、4 服部 (關東)、5 金子 (中部)、6 築瀬 (關東)

三千米 (オープン・コース)

1 菅原和彦 (北海道) 五分四五秒二、2 大倉 (朝鮮)

四、4 品川 (北海道)、5 鶴谷 (朝鮮)、6 伊藤 (中部)

三千米 (セパレート・コース)

1 野澤光子 (北海道) 六分二秒四、2 長野富子 (北海道) 六分六秒四、3 牧野 (朝鮮) 六分一七秒七 (以上大會新記録) 4 安東 (朝鮮)、5 堀池 (滿洲)、6 三ヶ尻 (滿洲)

五千米 (オープン・コース)

1 品川京子 (北海道) 一分一五秒六、2 木村芳子 (滿洲) 一分一五秒六、3 長野富子 (北海道) 一分一六秒一、4 牧野 (朝鮮)、5 三ヶ尻 (滿洲)、6 安東 (朝鮮)

千六百米リレー (セパレート・コース)

1 滿洲 (堀池、三ヶ尻、木村、繩手) 三分三秒六、2 北海道三分二一秒一、3 朝鮮三分二三秒〇、4 中部、5 東北

地域對抗スピード競技總得點

(男子) 1 關東五五點五、5 朝鮮五〇點、3 北海道三二點、4 滿洲二二點五、5 中部一〇點五、6 東北三點五

(女子) 1 北海道四五點、2 滿洲三八點、3 朝鮮一九點、4 中部五點、5 東北二點

五分四五秒七、3 廣川 (朝鮮) 五分四六秒七、4 境 (關東)、5 三代 (滿洲)、6 宮坂 (中部)

耐久一萬五千米 (オープン・コース)

(團體成績) 1 關東 (服部、深井、長尾、橋本、片倉) 一〇〇點、2 朝鮮九一點、3 北海道六七點、4 中部、5 滿洲

(個人成績) 1 服部元 (關東) 四〇分五三秒八、2 廣川孝昌 (朝鮮) 四〇分五七秒九、3 菅原和彦 (北海道) 四一分一秒七、4 深井恒雄 (關東)、5 渡邊 (朝鮮)、6 大倉 (朝鮮)

二千米リレー (セパレート・コース)

1 滿洲 (坂本、角本、河端、三代) 三分一一秒一、2 北海道三分一三秒四、3 關東三分一三秒八、4 朝鮮、5 東北

女子 競技

五百米 (セパレート・コース)

1 繩手滿喜子 (滿洲) 五一秒八、2 長野富子 (北海道) 五三秒〇、3 坂本 (北海道) 五三秒六、4 木村 (滿洲) 5 青山 (朝鮮)、6 伊藤 (中部)

千米 (セパレート・コース)

1 繩手滿喜子 (滿洲) 一分五〇秒九、2 長野富子 (北海道) 一分五三秒七、3 木村芳子 (滿洲) 一分五六秒

アイス・ホッケー

中等學校の部

準決勝

關東州 6 1 朝鮮

北海道 10 1 東北

決勝

北海道 (苦中) 4 4 0 0 1 1 關東州

〔關東州〕 鳥原 原原 西田 村國 川嶺 田田
白藤 上水 川池 西三 谷長 山濱
〔北海道〕 澤口 淵勢 木野 日野 井川 村藤
小菟河 伊大 廣朝 小石 小川 佐

一般の部

一回戦

明大 6 2 北大

二回戦

關東州 14 4 全東北
全滿洲 21 1 京大

6	1935	瀧 三七子(満洲)	113.533	日 光
7	1936	江島 八重子(満洲)	112.060	同 湖
8	1937	同	239.776	諏 訪
9	1938	同	236.200	札 幌
10	1939	中 川 キ ヨ(北海道)	234.786	蓼 の 海
11	1940	汾 陽 泰 子(満洲)	238.783	八 戸
12	1941	坂 本 キ ヨ(北海道)	174.050	苦 小 牧
13	1942	中 止		
14	1943	縄手 満喜子(満洲)	170.567	榛 名 湖
15	1947	総合選手権行わす(種目別のみ)		八 戸
16	1948	佐藤 千栄子(北海道)	192.49	盛 岡

明治神宮大會記録

〔男子の部〕

種目	記録	選手名	場所	年度
500米	43.6	崔 龍 振(明大)	蓼の海	第九回
1000米	1.43.0	李 聖 徳(一般)	日 光	第七回
1500米	2.24.0	廣 川 孝 昌(朝鮮)	榛名湖	第十三回
3000米	5.15.7	張 祐 植(明大)	蓼の海	第九回
5000米	8.44.0	廣 川 孝 昌(朝鮮)	榛名湖	第十三回
2000米 リレー	3.00.5	阿部 剛, 南洞邦夫(東京) 高林三郎, 山下勝久	蓼の海	第十回

〔女子の部〕

種目	記録	選手名	場所	年度
500米	50.6	縄手 満喜子(満洲)	蓼の海	第十回
1000米	1.48.8	江島 八重子(満洲)	同	第十回
1500米	2.45.5	同	同	第九回
3000米	6.02.4	野 澤 光 子(北海道)	苦小牧	第十一回
1600米 リレー	2.53.0	木 村, 大 倉(満洲) 江 島, 縄手	苦小牧	第十一回

學生選手権記録 (1949年現在)

種目	記録	選手名	場所	年度
500米	44.9	山 下 勝 久(早大)	蓼の海	1939

〔全満洲〕		〔明大〕	全満洲	決 勝	明 大	全満洲	準 決 勝	明 大	北海道王子
富 田	FW	木 村	5	勝	10	6	大	大	王子
井 手		中 山	2 1 2		5 3 2	1 2 3			
島 崎		岩 田	2 1 0		0 1 0	2 1 1			
北 川		大 竹	2 1 0						
岩 間	DF	坂 領	3	明 大	1	2	朝 鮮	大	王子
伊 藤		馬 越			全大連	北海道王子			
渡 邊		眞 野							
市 川		森 山							
二 木	GK	石 橋		4 反 則 5					
甲 斐		中 川							
		永 田							

スピード・スケート記録

日 本 記 録 (1949年現在)

〔男子の部〕

種目	記録	選手名	大會名	場所	年度
500米	43.5	石原 省三(日本)	歐洲選手権	オスロー	1936
1000米	1.43.0	李 聖 徳(一般)	神宮大會	日 光	1934
1500米	2.24.0	廣 川 孝 昌(朝鮮)	神宮大會	榛名湖	1943
3000米	5.04.9	金 正 淵(日本)	歐洲選手権	オスロー	1936
5000米	8.44.0	廣 川 孝 昌(朝鮮)	神宮大會	榛名湖	1943
10000米	18.00.6	深井 恒雄(慶大)	早慶對抗	松原湖	1941
2000米 リレー	3.00.5	阿部 剛, 南洞邦夫, 高林三郎(東京)	神宮大會	蓼の海	1940

1500米	2.27.1	金 正 淵(明 大)	日 光	1937
5000米	8.57.0	深 井 恒 雄(慶 大)	同	1941
10000米	18.15.0	深 井 恒 雄(慶 大)	同	1941

世界記録 (1949年現在)

〔界子の部〕

種目	記録	選手名	大会名	場所	年度
500米	41.8秒	エングネス・タンゲン (ノルウエー)	世界選手権	ダボス	1938
1000米	1.28.4	ツンベルグ (フィンランド)	国際競技	同	1930
1500米	2.13.8	エングネス・タンゲン (ノルウエー)	同	同	1939
3000米	4.49.6	バラングルード (ノルウエー)	三國競技	同	1935
5000米	8.13.5	パヨール (ハンガリー)	歐洲選手権	同	1949
10000米	16.57.4	アンデルゼン (ノルウエー)	同	同	1949

〔女子の部〕

種目	記録	選手名	大会名	場所	年度
500米	46.4秒	ニールセン (ノルウエー)	世界選手権	ダボス	1937
1000米	1.38.4	同	同	同	1937
1500米	2.38.1	同	諸威選手権	オスロー	1937
3000米	5.29.6	同	世界選手権	ダボス	1937
5000米	9.26.8	レツシエ (フィンランド)	同	コングスベルグ	1949

オリンピック記録 (1948年現在)

種目	記録	選手名	場所	年度
500米	43.1秒	フィン・ヘルゲツセ (ノルウエー)	サンモリッツ	1948
1500米	2.19.2	マチーゼン (ノルウエー)	ガルミツシュ	1936
5000米	8.19.6	バラングルード (ノルウエー)	同	1936
10000米	17.24.3	同	同	1936

〔女子の部〕

種目	記録	選手名	大会名	場所	年度
500米	50.6	繩子満喜子 (満洲)	神宮大会	蓼の海	1940
1000米	1.48.3	江島八重子 (満洲)	日満對抗	奉天	1939
1500米	2.45.5	江島八重子 (奉天)	神宮大会	同	1940
3000米	5.55.6	中川 キヨ (北海道)	全日本	同	1939
5000米	10.07.4	汾陽 泰子 (奉天)	奉天選手権	奉天	1938
1600米	2.46.4	坂本, 北澤 (日本)	日満對抗	同	1939
リレー		大高, 中川			

全日本選手権保持者

〔男子の部〕

回数	年度	選手名	得点	場所
1	1930	木谷 徳雄 (満洲)	220.002	八戸
2	1931	大澤 義一 (同)	220.230	諏訪湖
3	1932	暖氣ノタメ中止		
(第三回オリンピック大会年度)				
4	1933	李 聖 徳 (早大)	214.038	日光
5	1934	金 正 淵 (明大)	215.620	同
6	1935	同	204.648	同
7	1936	安達 和男 (満洲)	210.858	同
(第四回オリンピック大会年度)				
8	1937	崔 龍 振 (明大)	210.140	諏訪湖
9	1938	同	209.422	札幌
10	1939	泉山 貞義 (明大)	211.073	蓼の海
11	1940	朴 潤 哲 (満洲)	211.145	八戸
12	1941	片倉 昌男 (満洲)	215.109	苫小牧
13	1942	神宮大会のみ行い選手権は中止		八戸
14	1943	廣川 孝昌 (朝鮮)	209.465	榛名湖
15	1947	総合選手権行わず (種目別のみ)		八戸
16	1948	菅原 和彦 (日大)	219.757	盛岡

〔女子の部〕

女子選手権は第六回大会より行わる

回数	年度	選手名	得点	場所
----	----	-----	----	----

日本スケート連盟

本部所在地 東京都千代田區神田駿河臺四ノ六岸記念體育會館内

創立年月日 昭和四年十一月廿三日

役員

會長 竹田恒徳 東京都港區芝高輪南町十七

副會長 林 信 雄 (電大崎49一五)

副會長 林 信 雄 神奈川縣鎌倉市名越二二三八

副會長 增澤龜之助 (電鎌倉四二七大野呼)

副會長 增澤龜之助 臺東區上車坂町廿九增澤工業株式會社内(淺草84三三八二)

理事長 兩角政人 杉並區大宮前四ノ五四二有岡方

理事

榎本容二 武藏野市境四六一

金子諭吉 世田谷區玉川奥澤二ノ一八一

(電世田谷四四三三三)

矢崎猶重 新宿區番衆町三六

小池富治 文京區本郷迫分町一八

西川眞吉 澁谷區松濤町二五(電澁谷49二〇二五)

辻 準 神奈川縣藤澤市鶴沼五八二六

倉町太郎 埼玉縣浦和市上木崎一六難波方

中澤周平 杉並區神明町二日産寮内

朝 長 實 神奈川縣茅ヶ崎東海岸一〇六一

小西健一 神奈川縣鎌倉市大町二八(電鎌倉四九九)

小森正朝 世田谷區世田谷四ノ三九八

專門委員

(スピード部)

(部長) 矢崎猶重

(委員) 倉町太郎(本部)、小池富治(本部)、南洞邦夫(本部)、三野勉(本部)、吉田正男(北海道)、潤間正見(北海道)、有岡勇(北海道)、石原省三(青森)、大澤義一(青森)、先川原慶三(青森)、若林繁(青森)、下斗米豐次郎(青森)、伊藤清八郎(青森)、星憲道(岩手)、大澤武夫(岩手)、藤原哲夫(岩手)、木村勝三郎(宮城)、行田和(栃木)、鈴木鏘一(栃木)、山本阿久里(栃木)、小林一郎(山梨)、山田正彦(長野)、宮澤留十(長野)、高林

三郎(長野)、河村泰男(大阪)、濱田種一(大阪)、長尾英男(大阪)、高林清高(學生連盟)、林一男(東京)、前田安雄(東京)、三野勉(兼)(東京都)

(アイス・ホッケー部)

(部長) 金子諭吉

(委員) 小須田孝吉、草刈敬直、辻準造、小森正朝、林寛、秒田重民、平林爲雄、市川辰雄(以上連盟本部)、小林六郎、小柳誠司、小野貢、西田信一、久保信(以上北海道)、田村誠一、中村弘、下斗米德太郎、立花末治(以上青森)、川端源太郎、齋藤權次郎、山館鑛一、鎌田四郎、佐々木剛(以上岩手) 伊澤平勝(宮城)、星野仁十郎、永山清之、澤本富次郎、杉江庄吉(以上栃木)、深澤照多賀久登、鬼鞍弘起、市川辰雄(兼)、草刈敬直(兼)、大宰正道、望月信雄(以上東京都)、島田忠次(山梨)、伊東忠藏、有賀賢郎、山本昇三、山崎一雄(以上長野)、上遠野達三郎、丹羽彰(愛知)、飯田英三、平田稔、別所敏三郎、田中祥皓(大阪)、黒崎秀彦(學連)

(フイギニア部)

(部長) 西川眞吉

(委員) 片山敏一、小林勝利、和田吉藏、長谷川正男(本

公認審判員

(スピード部)

倉町太郎(本部)、吉田正男、潤間正見、有岡勇(北海道)、石原省三、大澤義一、先川原慶三、下斗米豐次郎、伊藤清八郎(青森)、星憲道、大澤武夫、藤原哲夫(岩手)、行田和(栃木)、林一男、前田安雄(東京)、山田正彦、宮澤留十、高林三郎(長野)、河村泰男、濱田種一(兵庫)、

(アイス・ホッケー部)

金子諭吉、小須田孝吉、草刈敬直、辻準造、小森正朝、林寛、秒田重民、平林爲雄、市川辰雄(本部)、小野貢、西田信一、久保信(北海道)、立花末治、下斗米德太郎(青森)

山館鑛一、佐々木剛、(岩手)、伊澤平勝(宮城)
星野仁十郎、澤本富次郎(栃木)、鬼鞍弘起、太
宰正道、望月信雄(東京)、平田稔、別所敏三郎、
田中祥皓(大阪)

(フイギニア部) 西川眞吉、長谷川正男、片山敏一、小
林勝利、和田吉藏(本部)、久保信(北海道)、久
保榮(青森)、今野東男、川村新一(岩手)、五十
嵐信四郎(害城)、小林庄太郎、小林二郎、小瀧
全三郎(栃木)、高山方明、鹽田直重(東京)、石
丸午郎(山梨)、小澤重武、三輪充武、三輪良三、
濱榮祐(長野)、山本嘉成、伊藤八郎(愛知)、澤
田健次郎、五十嵐信一、帶谷龍一、本田修次郎
杉本清春、老松一吉、北川靜二、靜瀬豐一、神
谷近、小豆島藤丸、中村衣子、稻田悦子、神田
博(大阪)

日本体育協会役員

(理事) 兩角政人
(評議員及女子體育委員) 榎本容二
(報導委員) 金子諭吉
(アマチュア審査委員) 中澤周平
(天皇杯委員) 倉町太郎
(用具委員) 小池富治

顧問

交野政邁 東京都港區芝白金三光町四五〇
久保田敬一 神奈川縣鎌倉市長谷稻瀬川一六七
喜多壯一郎 東京都新宿區戸塚町一ノ三五〇
田所哲太郎 北海道札幌北七條西十二丁目
五代正友 東京都品川區大井鹿島町三一〇六
河久保子朗 東京都豐島區池袋二ノ一〇六六
園 乾 治 東京都大森區雪ヶ谷五五六足立方
平沼亮三 神奈川縣橫濱市西區輕井澤五五
評議員
小口孫六 長野縣松本市田町三二八
高島直定 宮城縣仙臺市河北新報社內
北村洋二 世田谷區松原町二ノ五六七
青木末弘 千代田區神田岩本町八
太田幸兵衛
東 克 己 中野區宮園通一ノ一四
三島一夫 甲府市鹽部町
手塚俊一
村 津 要 澁谷區代々木山谷二一〇
小野木敏夫
小里賴忠 長野縣松本市市役所內

羽田達二 澁谷區代々木西原九五八

廣瀬藤四郎 中央區銀座一ノ五神崎製紙內

佐藤昌彦 北海道札幌市北一條東七丁目

村井久太郎

五十嵐悌二郎

佐々木耕郎 栃木縣日光町山內

西村啓造 千代田區丸ノ内三ノ八古河電氣工業會社內

増澤弘文 東京都神田區淡路町一ノ二

日本スケ
ルト連盟 加 盟 團 體

(昭和二十四年四月現在)

北海道氷上競技連盟

所在地 北海道廳學務課內

役 員
會 長 佐藤 貢
顧 問 田所哲太郎 札幌市北七條西十二丁目
顧 問 木下三四彦 札幌市北三條西一丁目
同 戸津高知 札幌市豐平六條五丁目
同 柳 莊 一 札幌市
同 林 常 夫 札幌市

顧問 佐藤昌彦 札幌市北一條東七丁目

同 內藤芳雄 札幌市大通東六丁目

同 有坂織之助 札幌市白石二條一丁目

同 大和盛一 札幌市北一條西十三丁目

同 小玉作左衛門 札幌市

同 橫路節雄 札幌市

同 八卷耕三 苫小牧市

同 西田信一 苫小牧市

同 工藤政治 苫小牧市

同 江田信二郎 苫小牧市

同 川 添 翁 苫小牧市

同 石村行司 室蘭市

同 山田勝人 室蘭市

理事 久保 信 札幌市山鼻伏見一七八七

理事 原田信夫 札幌市北海道廳體育課內

潤間正見

同 小林六郎 札幌市北上條西十丁目

同 東 正 和

同 有 岡 勇 札幌市南十四條西十一丁目

同 伊東健二 苫小牧市高等女學校

同 吉田正男 苫小牧市幸町

同 西堀久藏

理事 藤原博彌 苦小牧市王子町

技術委員
フイギユア
スピード

久保信
吉田正男
潤間正見
有岡勇

苦小牧工業
苦小牧中學
函館俱樂部
旭川俱樂部

三原節
小野貢
西堀久義
伏見義雄

青森縣スケート連盟

所在地 青森縣八戸市市役所内

役員

加盟團體

札幌スケート協會

(幹事長) 久保信

苦小牧スケート協會

(會長) 西田信一

室蘭氷上競技連盟

(會長) 石村行司

函館體協スケート部

(會長) 西堀久義

旭川スケート俱樂部

(會長) 伏見義雄

北大アイス・ホッケー部

八田正己

北大OB

八田正己

札幌俱樂部

小林六郎

北海中學

齋藤堅

札幌一中

井上藤二

苦小牧製紙

二瓶富雄

岩倉組

小野貢

會長 松本京吉 八戸市徒士町
副會長 下斗米豐次郎 八戸市
理事長 大澤義一 八戸市八幡町十四
常務理事 久保榮 八戸市柏崎新町
同 山谷喜一郎 八戸市類家字幅子屋敷二
同 先川原慶三 八戸市十三日町二十
理事 石原省三 八戸市湊町字下條通
同 中村弘 八戸市番町
同 田村誠一 八戸市八幡町
同 石橋富士保 八戸市二十三日町
同 福勢喜一 八戸市二十八日町
同 山田福次郎 八戸市
同 下斗米德太郎 八戸市賣市字杉山

理事 立花末治 八戸市番町

同 川口徑二郎 八戸市上組町

同 小笠原喜一 八戸市山伏小路

同 南部直久 八戸市八幡町

加盟アイス・ホッケーチーム

日東化學八戸工場アイス・ホッケー部 八戸市小中野町

下斗米徹三郎

ホワイ・ペア 八戸市晋町昭和館内 中村弘

八戸中學校アイス・ホッケー部 八戸市大杉平 長山豐

春

八戸商業學校アイス・ホッケー部 八戸市堀端町 和田

長八郎

岩手縣スケート連盟

所在地 岩手縣盛岡市上田中堤七五ノ五
スケーターハウス内

役員

會長 南部利英 盛岡市下小路

副會長 太田清臣 盛岡市菜園

同 大澤武夫 盛岡市本町

理事長 藤原哲夫 柴波郡不動村

加盟團體

岩手醫科大學

盛岡農林專門學校

盛岡工業專門學校

盛岡中學校

岩手中學校

盛岡鐵道俱樂部

盛岡中學校OB

常任理事 星憲道 岩手郡西山村
同 池野健三郎 盛岡市新穀町
同 齋藤權次郎 盛岡市大澤川原
同 川村信一 盛岡市上田
同 山館鑛一 盛岡市加賀野久保田
同 佐々木剛 盛岡市上田住宅營團
同 名久井事次郎 盛岡市上田高松
同 太田代博信 盛岡市日影門外小路
同 佐藤清八 盛岡市内丸
同 大坪和吉 盛岡市新田町
同 名久井新一 盛岡市上田高松
代表委員 星憲道、大澤武夫、藤原哲夫
トラック測定員 星憲道、大澤武夫、藤原哲夫

宮城縣スケート連盟

役	所在地
顧問	佐藤幸三 仙臺市北四番丁
顧問	黒澤英俊 仙臺市北六番丁
顧問	岩本正樹 仙臺市元寺小路
顧問	岡崎榮松 仙臺市北六番丁
會長	伊澤平勝 仙臺市上杉山通
副會長	岡部 衛 仙臺市東二番丁
理事	五十嵐悌二 仙臺市原町向小田原庚申前
理事	五十嵐信四郎 仙臺市北仙臺驛前
理事	阿久津 均 仙臺市岩切
理事	金崎三郎 仙臺市鍛冶丁
理事	刀根宏一 仙臺市北七番丁
理事	山田直行 仙臺市宮城縣體育課
理事	木村勝三郎 仙臺市大町頭
理事	中村 敏 仙臺市名掛丁六一
理事	土方文生 仙臺市北四番丁
理事	加藤泰次 仙臺市富澤明善寮

加盟團體

仙臺スケート協會 (會長)	伊澤平勝 仙臺市
東北大學	
東北藥科大學	
宮城縣高體連 (會長)	五十嵐信四郎 仙臺市
第二高等學校 (會長)	扇畑教授 仙臺市

福島縣スケート連盟

役	所在地
會長	宗像保三郎 郡山市愛宕町
副會長	羽島岩雄 福島縣體育課
副會長	橋本甲四郎 日大工科
理事	橋本甲四郎 日大工科
理事	下田尙方 安積女子高校
理事	岩淵成一 安積高校
理事	佐藤一郎 郡山工業學校
理事	山口良吉 郡山市堂前九
理事	菊地一男 白河高校
理事	坂 彰 猪苗代町役場
理事	佐藤議廣 若松市
理事	大堀三男 福島縣體育協會

役	所在地
會長	菅原和彦 日大工科
副會長	佐藤恒夫 日大工科
顧問	橋本萬三門 郡山市
顧問	今泉貞雄 郡山市今泉産業
顧問	鈴木清美 白河町
顧問	林平 藏 若松市老町
顧問	橋 登 福島市置賜町
顧問	和氣嘉平治 福島縣石川町

栃木縣スケート連盟

役	所在地
會長	南間 榮 栃木縣日光町
副會長	星野仁十郎 同
顧問	山田健司 同
顧問	小林庄太郎 同
理事	藤田三郎 同
理事	杉江庄吉 同
理事	橋義一 同
理事	内藤正一 同
理事	小瀧庄三郎 同
委員長	同

加盟團體

古河工業日光電氣精銅所スケート部	部長 橋義一
ツバメクラブ	部長 山本阿久里
工和會クラブ	同 吉岡六三
今市クラブ	同 伴勝太郎
研友會クラブ	同 神山瀧夫
セセラギクラブ	部長 福田茂
今市OBクラブ	同 松井八郎
AS Tクラブ	同 小林芳雄
晃安クラブ	同 手塚好男
銀狐クラブ	同 杉江庄吉
今市中學校	同 松井秀男

下實 同 福田孝司
 宇都宮工業學校 同 田代實
 鹿沼農商學校 同 福田龜太郎
 日光中學校 同 星野聰郎
 日光高等女學校 部長 內藤正一
 古河電氣工業日光電氣精銅所ホツケー部(日光町)

同OB (日光町)
 部長 橋義一
 ツバメホツケー部 部長 山本阿久里
 工和會ホツケー部 部長 吉岡六三
 今市ホツケー部 部長 伴勝太郎
 研友會ホツケー部 部長 神山瀧夫
 セ、ラギホツケー部 部長 福田茂
 今中OBホツケー部 部長 松井八郎
 ASTホツケー部 部長 小林芳雄
 晃安ホツケー部 部長 手塚好男
 銀狐ホツケー部 部長 杉江庄吉
 縣立今市中學校ホツケー部 部長 松井秀男
 下實ホツケー部 部長 福田孝司
 縣立宇都宮工業學校ホツケー部
 宇都宮市 部長 田代實
 縣立鹿沼農商學校ホツケー部

東京都スケート連盟

日光中學校ホツケー部 鹿沼町 部長 福田龜太郎
 役員
 所在地 千代田區神田駿河臺四ノ六岸記念會館内
 理事長 小森正朝 世田谷區世田谷四ノ三九八
 理事 小須田孝吉
 同 林寬 芝區二本榎二ノ二三
 同 平林爲雄 川崎市東渡田三丁目一ノ一
 同 太宰正道 昭和電線電覽會社内
 同(兼) スピード部長 南洞邦夫 新宿區肴町二七
 同(兼) ホツケー部部長 (兼) アイス・砂田重氏 日本橋富澤町荒庄ビル内
 同(兼) ユア部長 片山敏一 新宿區矢來町八一
 同 ユア部長 望月信雄 杉並區馬橋二ノ二三八
 加盟團體
 青山學院大學
 專修大學

慈惠醫科大學
 都立高等學校
 成城高等學校
 日本大學
 東京大學
 中央大學
 法政大學
 立教大學
 明治大學
 慶應大學
 早稻田大學
 東京アマチュア、スピード俱樂部
 赤門俱樂部
 白門俱樂部
 セントポール俱樂部
 駿臺俱樂部
 三田俱樂部
 稻門俱樂部

山梨縣スケート連盟

所在地 甲府市山田町 島田忠次方

顧問 野口二郎 甲府市横澤町
 同 山岡伊作 西山梨郡千代田村
 同 田口政義 甲府市白木町
 同 三島一夫 甲府市鹽部町
 同 杉原靜雄 甲府市日向町
 同 堀内一雄 南都留郡上吉田町
 會長 石丸午郎 中巨摩郡田之岡村
 副會長 島田武 甲府市上石田町
 同 清水孝行 北巨摩郡津金村
 理事長 島田忠次 甲府市山田町
 理事 三枝忠一 甲府市朝日町
 同 小林一郎 北巨摩郡小淵澤村
 同 板山武士 同
 同 霜田英憲 同
 同 三枝林 中巨摩郡田之岡村
 同 宮下正三 南都留郡船津村
 同 松澤孝 甲府市和田町
 同 山岡勇 西山梨郡千代田村
 專門委員
 スピード(兼) 小林一郎
 フイギユア(兼) 石丸午郎

代表委員

石丸午郎、島田忠次、三枝忠一

加盟団体

甲府スケートクラブ（代表者）島田忠次 甲府市
和田スケートクラブ（代表者）松澤孝 甲府市
小淵澤スケートクラブ（代表者）小林一郎 北巨摩郡
韮崎スケートクラブ（代表者）小尾鳩三 北巨摩郡
平野スケートクラブ（代表者）羽田吾六 南都留郡
千代田スケートクラブ（代表者）山岡勇 西山梨郡
船津スケートクラブ（代表者）宮下正三 南都留郡
關配甲府支店（代表者）齋藤 甲府市
山梨工専スケート部（部長）木下芳英 甲府市
長坂高校スケート部（部長）淺川保 北巨摩郡
山梨縣廳スケート部（會長）春日 甲府市
峽北農高校スケート部（部長）久保田増穂 北巨摩郡
甲府一校スケート部（部長）島田武 甲府市

長野縣スケート連盟

所在地 岡谷市下濱區五一八八海洋道場内

役員

會長 長林浩正 岡谷市田中通リ

副會長

小松直治 諏訪市角間町
笠原英一 岡谷市小口區
宇野勝房 長野縣廳教員委員會事務局體育
常任理事 加藤博行 課内
常任理事 宮澤留十 岡谷市岡谷區
理事 小林公明 岡谷市岡谷區
宮下今朝惠 岡谷市下濱區増澤製糸工場
笠原慎太 岡谷市小口區中央通り
高林三郎 下諏訪御田町
三輪充武 諏訪市本町
進士豐吉 諏訪郡長地村
小澤重武 諏訪市末廣町一丁目
伊東忠藏 諏訪市中濱町諏訪觀光ホテル
河合秋實 諏訪市湖柳町
山田良忠 諏訪郡長地村
山本昇三 諏訪市大手町一丁目
山口金一郎 諏訪市役所觀光課
山崎一雄 岡谷市上小井川
松田正太郎 北安曇郡大町土木出張所内
長屋正太郎 北安曇郡大町土木出張所内北安
小野彰 曇スケート協會氣付
田中實 北安曇郡大町西町
岡谷市工業高等学校

理事 羽生功 松本市縣ヶ丘高等學校

同 鷹野高次 南佐久郡北牧村字松原

同 鷹野榮次郎 同

同 小口國雄 岡谷市下濱區

同 兩角俊一 下諏訪町立町

同 山田正彦 諏訪市清水町三協精機製作所

同 轟六三郎 長野縣廳委員會事務局體育課内

同 德永長壽 同

同 鷹野芳春 南佐久郡北牧村字松原

同 濱淡正 松本市役所内體育協會氣付

同 増澤龜之助 岡谷市小井川増澤工業株式會社

同 増澤弘文 岡谷市小井川區

専門委員

スピード部 宮澤留十、山田正彦、高林三郎

フイギニア部 三輪充武、小澤重武、松田正太郎

濱榮祐

ホッケー部 伊東忠藏、小野彰、山本昇三、

山崎一雄

代表委員

林浩正、宮下今朝惠、小口國雄

加盟団体

松原湖スケート・クラブ（會長）中山英一 南佐久郡

北牧村字松原

北安曇郡スケート協會（會長）松田正太郎 北安曇郡

松本體育協會（會長）筒井直久 松本市役所内

下諏訪町體育協會（部長）高林三郎 下諏訪町役場内

諏訪市體育協會（部長）山田正彦 諏訪市役所内

岡谷市體育協會（部長）笠原英一 岡谷市役所内

長野縣學校體育連盟（會長）西村文夫 長野縣廳教育

委員會事務局内

長地村スケート・クラブ（會長）進士豐吉 諏訪郡長

地村役場内

宮川體育協會（部長）濱恒治 諏訪郡宮川村役場内

七久保イーグルス（主將）鈴木國雄 上伊那郡七久保

村八七七

松原スケート・クラブホッケー部 南佐久郡北牧村字松

原 鷹野榮次郎

諏訪アイス・ホッケークラブ 諏訪市體育協會 山本昇

三

岡谷市體育協會ホッケーチーム 岡谷市役所内 笠原英

一

北安曇郡スケート協會ホッケー部 北安曇郡大町土木出

張所内 小野彰

愛知縣スケート連盟

所在地 名古屋市中區布池町三二
役員

會長 關戸有彦 名古屋市西區堀詰町一ノ二〇
顧問 若田輝久
同 松尾宗吾
理事長 上遠野悌二郎
理事 山本嘉成
同 酒井克己
同 伊藤武男
同 伊藤八郎
同 大曹根 明
同 鈴木壽八
同 上遠野達三郎 名古屋市中區大池町二ノ二二矢崎
同 沖本定雄 電線工業株式會社名古屋出張所
同 西山昌 名古屋市中區布池町三二

大阪府スケート連盟

所在地 大阪府北區永樂町六稻田光次郎方

役員

會長 大石雄一郎 大阪府北區西堀川町二〇番地
理事長 田山秀士 大阪府東區高麗橋二丁目三野美術店內
理事 北川靜二 大阪府南區鹽町通二丁目三五日本
理事 木村源之助 大阪府北區中之島三丁目大阪日日新聞社内
理事 澤田健次郎 尼崎市塚口永樂園二二
理事 老松一吉 大阪府南區鹽町通二丁目三五日本
專門委員 アンゴラ株式會社內

〔フイギニア〕 北川靜二、老松一吉、澤田健次郎

〔ホツケー〕 小豆島藤丸、茨木悦子

別所敏三郎

大阪スケート協會 大阪府北區永樂町六稻田光次郎方
會長 田山秀士
スケータースグループ 會長 森 縫子

兵庫縣スケート連盟

所在地 西宮市甲風園二號地丸野信男氣付

役員

會長 倉橋秀太郎

同 田中祥皓

同 長尾英雄

加盟団体

神戸スケート會
關西スピード・クラブ
關西學院大學スケート部
六甲クラブ
三菱クラブ
神戸女學院スケート部
新月會
上ヶ原スケートクラブ

副會長 津田靖平
理事 河本雅二
同 濱田種一
同 岩井清
同 本庄貞雄
同 民部雄太郎
同 甲田司朗
同 的場壽
同 丸野信男
技術部
理事 神田博
同 的場壽
同 白石清一
同 河村楯雄
同 植田理
同 濱田種一
同 宮川澄子
顧問 神田有
同 五十嵐信一
同 本多修治郎
同 杉本清春
理事 帶谷龍一

規約

日本スケート連盟規約

第一章 名稱及本部

第一條 本連盟は日本スケート連盟(The national Skating Union of Japan-N. S. U. J.)と稱し事務所を東京都千代田區神田駿河臺四丁目六番地岸記念體育會館内に置く。

第二章 目的及組織

第二條 本連盟は日本に於けるスケートの代表團體にして相互の融和連絡並にアマチュア・スケート競技及スケートに關する一切の事象の健全なる發達普及を期し併せて體育文化の昂揚、國際親善に寄與するを以て目的とす。

第三條 本連盟は都道府縣を管轄代表する各スケート團體並に全國學生氷上競技連盟を以て組織す。但し各府縣に於て未だ代表團體の成立せざる時は當分の間その各府縣内に於て最も有力と認めたる團體を以てその各府縣を代表せしむ。

第三章 加盟及脱退

第四條 前條の各組織團體(以下加盟團體と稱す)は代表委員會の決議を経て加盟するものとす。

第五條 各加盟團體が當該都道府縣を代表する資格を失つた時または本連盟の加盟團體として不適當と認めた時は代表委員會の決議を経て脱退せしむ。

第六條 加盟團體は別に定めたる加盟團體に關する規程を遵守すべし。

第四章 事業

第七條 本連盟は左の事業を行う。

一、日本に於けるスケート競技のアマチュア精神の確立
二、日本に於けるスケート競技の統轄
三、スケートに關し政府の諮問に對する應答又は政府其他公私機關に對する意見の提出

四、國際スケート連盟(International Skating Union)國際アイスホッケー連盟

日本體育協會に對する代表加盟

五、全日本スケート競技選手權大會並に代表的競技會開催
六、國際スケート競技會に日本を代表すべき役員競技者の選定及派遣並に國際競技會の開催

七、日本スケート競技會及日本記録の公認並に世界記録の申請

八、日本に於けるスケート競技に必要な施設の整備並に施設及用具の檢定公認

九、スケートに關する調査研究指導並に表彰

十、スケートに關する年鑑、其の他刊行物の發行

十一、其の他本連盟の目的達成に必要な事業

第五章 代表委員

第八條

代表委員は本連盟を構成する各加盟團體に於て各三名以内を選出し所屬團體の代表機關とす。

第六章 役員

第九條 本連盟に左の役員を置く。

會長	一名
副會長	二名
顧問	若干名
評議員	若干名
理事長	一名
理事	若干名
專門部長	若干名
專門部員	若干名

右の外會長は代表委員會の推薦に依り名譽會長を推戴することを得。

一、會長は代表委員會之を推挙す。

會長は本連盟を代表しこれを統轄總理す。

二、副會長は代表委員會之を推薦會長を補佐、會長事故あるときは其の職務を代理す。

副會長二名の中一名は全國學生氷上競技連盟會長を以てす。

三、顧問は代表委員會之を推薦し本連盟の最高諮問機關とす。

第七章 機關

第十條 本連盟に左の機關を設く。

一、代表委員會

二、理事會

三、專門委員會

四、評議員會

第十一條 代表委員會

一、代表委員會は會長、副會長、理事、代表委員、專門部長を以て組織す。

二、代表委員會は本連盟の最高決議機關にして本連盟運営に關する重要事項を審議決定す。

三、代表委員會は會長之を招集す。

四、代表委員會の議事は會長之を統裁す。

五、名譽會長、顧問、評議員は代表委員會に出席し、意見を述べざる事を得。

六、代表委員會は毎年四月、十一月の二期、東京及他の場所に開催す。

但し會長に於て必要と認めたる時並に加盟團體の半数以上の要求ありたる場合は臨時代表委員會を開催することを得。

七、代表委員會に於ける議決權數は加盟團體各一票とす。

代表委員會の議決權數の過半数を以て之を決し、可否同數なる時は議長の決する所に依る。

代表委員會は加盟團體の過半数が出席しなければ開

四、評議員は理事の任期完了したるもの又は本連盟の加盟團體及スケート會功勞者中より代表委員會之を推薦し本連盟の重要事項につき其の諮問に應ず。

五、理事長は理事の互選に依りて之を選任し會長の命を受け連盟の事務を執行す。

六、理事は代表委員會の推薦に依り會長之を委嘱し本連盟の常務を掌る。

七、專門部長は理事たるを要し、理事會の推薦に依り代表委員會の承認を得て會長之を委嘱し、所屬專門委員會に屬する一切の事務を總管し之を代表す。

八、專門委員は加盟團體及理事會の承認を得て會長之を委嘱し、所屬專門委員會の事務を處理し且專門的事項に關する事務を掌る。

九、役員は任期は二年とし改選期は四月とす、但し重任を妨げず補缺に依る役員は任期は前任者の殘任期間とす役員任期満了の場合に於ては其の後任者の就任するまで前任者に於て其の職務を行ふ。

十、本連盟の役員及代表委員は加盟團體に所屬するものにして報酬を受くることを得ず。

但し特に囑託せられたる專門の委員及書記はこの限りに非ず。

本連盟の役員及代表委員にして本人が所屬團體との關係を失いたる時は役員又は代表委員たるの資格を喪失するものとす。

會するを得ず。

八、代表委員會に附議すべき事項左の如し。

(イ) 收支豫算の制定及決算の認定

(ロ) 事業計畫

(ハ) 役員の決定

(ニ) 加盟團體に關する事項

(ホ) 全日本選手權大會開催地並に期日の決定

(ヘ) 本連盟を代表し参加すべき競技會に於ける代表選手及役員の承認

(ト) 本規約改正に關する事項

(チ) 報告事項、會計報告、前年度事業報告、大日本體育會、國際スケート連盟、國際アイスホッケー連盟報告事項、その他重要事項

九、(1) 代表委員會に代理人を出席せしむる場合に於ては加盟團體は其住所、氏名を開會前に本連盟宛に通知することを要し且つ代表委員並に該加盟團體の委員狀を提示するに非ざれば其の議決權なきものとす。

(2) 代表委員會開催の日時、場所は一ヶ月前各加盟團體宛通告することを要す、又議案は二週間前に通告すべし、但し緊急を要する場合はこの限りに非ず、加盟團體にて提案すべき事項ありたるときは代表委員會開催前、豫め理事會に通告すべし。

第十二條 理事會

一、理事會は理事を以て構成し理事長之を召集す、會長、

副會長、專門部長は理事會に出席し意見を述べることを得。

- 二、本連盟事務の執行は理事會の決議に依る、但し緊急の必要ある時は理事長は會長の許可を得、自己の責任に於て之を専決處理すことを得、此の場合には最近の理事會に報告し其の承認を得ることを要す。
- 三、理事會は必要に應じ其の決議に依り各種の委員會を設けることを得。

第十三條 本連盟に左の專門委員會を置く。

フィギュア專門委員會
スピード專門委員會
アイス・ホッケー專門委員會
普及專門委員會

- 一、フィギュア專門委員會はフィギュア競技に關し技術指導、競技者資格の審査、審判、日本代表選手の詮衡、本連盟主催競技會の企畫並準備、競技記録の整理、競技規則の研究及制定、日本競技記録順位の作製、其の他競技技術に關する事務を掌る。

- 二、スピード專門委員會はスピード競技に關し技術指導、競技者資格の審査、審判、日本代表選手の詮衡、本連盟主催競技會の企畫並準備、競技記録の整理、競技規則の研究及制定、日本記録及日本國際記録の公認、世界記録の申請、日本競技記録順位の作製、其他競技技術に關する事務を掌る。

- 三、アイス・ホッケー專門委員會はアイス・ホッケーに關し技術指導、競技者資格の審査、審判、日本代表選手の詮衡、本連盟主催競技會の企畫並準備、競技記録の整理、競技規則の研究及制定其他競技技術に關する事務を掌る。

- 四、普及專門委員會はスケート競技並スケート技術及スケート一切に關する國內的普及發達を期するため研究、宣傳をなし必要に應じ各專門委員會と連絡をとり實地指導を行い其の他普及發達に關する事務を掌る。

- 五、各專門委員會は所屬部長より召集せられ開催の都度理事長に通告することを要す、會長、副會長は各專門委員會に出席のし意見を述べることを得。

第八章 會計（資産及經費）

第十四條

本連盟の經費は加盟團體の負擔金、政府又は公共團體よりの補助金、本連盟の目的を翼賛する者よりの寄附金、事務收入其他の收入を以て支辨す。

第十五條

本連盟の加盟團體は代表委員會に於て規定したる加盟資金を毎年三月末日迄に本連盟に納入することを要す。

加盟團體にして加盟負擔金の帶納一ヶ年以上に及ぶ時は當該團體代表委員は代表委員會に於て議決權を失ひ、二ヶ年以上に及ぶものは本連盟主催の競技會に對する選手派遣權を失ふものとす。

第十六條

本連盟の會計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る、會計年度の終りに於て剩餘金ある時は之を

翌年度に繰越す

第十七條

本連盟臨時事業に關し寄附を募り或は特別費用の收支ある場合は該事業終了後會計理事より收支決算を理事會に提出し其の直後の代表委員會に報告し承認を受けることを要す。

第十八條

本連盟の基本財産は代表委員會に於て基本財産に編入することを適當と認めたものを以て之を設定す、基本財産は現金、有價證券及不動産の三種とし之を消費することを得ず。

基本財産より生ずる收入の處分に關しては代表委員會の承認を要するものとす。

第十九條

本連盟の豫算は理事會之を作成し四月の定時代表委員會の決議を経ることを要し、決算は會計理事に於て會長の審査を経たる上定時代表委員會に報告し承認を受けることを要す。

第九章 附 則

第二十條

本規約は昭和二十一年七月六日之を實施す。
本規約は昭和二十二年十月十七日之を改正實施す。
本規約は昭和二十三年五月八日之を改正實施す。
本規約は昭和二十四年五月八日之を改正實施す。

競技一般規程

日本スケート連盟

第一章 總 則

第一條 我が國に於ける一切のアマチュア・スケート競技者による競技會は本競技規則に基いて開催するを要する。

第二條 本連盟はアマチュア精神に基いてアマチュア・スケート競技者による競技會及公開演技の嚴正を期し且つ之を保護監督する責に任ずる。

第二章 アマチュア競技者の資格

第三條 アマチュア競技者の資格は日本スケート連盟アマチュア規程に依る。

第三章 競技参加に關する規程

第四條 本連盟の主催する競技會に参加し得るものは本連盟に加盟する團體に所屬するものに限る。本連盟又は之に所屬する地方連盟の主催する國際競技會に出場し得るものは本連盟の所屬團體員に限る。

第五條 全日本選手權競技會に出場しようとする競技者所定の期間内に自己の所屬する日本スケート連盟加盟團體宛参加希望の届出をしなければならない。

この場合その競技者は自己の所屬する團體又は日本學生

連盟の推薦によつて選手權競技に参加することが出来る

(イ)出場種目

(ロ)参加届出をなす所屬團體の名稱

(ハ)競技者の氏名

(ニ)参加届出をなす競技者のアマチュア資格の證明

本連盟で定めた締切期日以後の参加届出は認めない。

第六條 本連盟の會長は理事會に諮つて前二條の例外を許容することが出来る。

第七條 本連盟に屬する團體又は日本學生氷上競技連盟の競技者は日本スケート連盟の會員の主催する競技會のみ参加することが出来る。

アマチュア競技者が本連盟會員の主催しない競技會に事情を知らながら参加する場合には本連盟會員の主催する一切の競技會に参加すること、この競技會の公の職務を引き受けることを禁止することが出来る。

第八條 冬季オリンピック競技會のスケート競技會及その他の國際スケート競技會に對する競技者の参加は國際スケート連盟及國際アイス・ホッケー連盟の競技規定に従う。

本連盟に加盟する團體の競技者は國際スケート競技會派遣選手詮衡委員會の推薦を得たものに限り國際スケート競技會に日本代表派遣選手として参加することが出来る。

第九條

國際スケート競技派遣選手詮衡委員會は本連盟代表委員會で決定した所屬會員で組織し、スピード、フィギュア、アイス・ホッケーの三部門に分けて審議する。詮衡委員會には委員長をおき本連盟會長がこの任に當るを原則とする。また副會長は會長を補佐する。委員長は詮衡委員會を代表し各部門を統轄し諸般打合せを決定する。

國際スケート競技派遣選手詮衡委員會の設置は競技の開催期日より少なくとも二ヶ月以前に作る必要がある。

第四章 競技細目規程

第十條 全日本選手權競技會の細則規程は少くも競技會當日の一ヶ月前にこれを公表すること。

競技會を擔當する本連盟加盟の團體は競技會に關する一切の計畫、細目を公表と同時に少くも五通を本連盟本部に、また少くも二通を本連盟加盟の各團體に送附すること。

細目の主なるものは

(イ)競技場計畫豫定圖

(ロ)輸送計畫(宿舍競技場間)

(ハ)參集者の宿泊計畫

(ニ)競技會に附隨する施設計畫

第十一條

本連盟は全日本選手權競技會その他連盟の主催する競技會のため「メダル」を作製することあるも本連盟加盟の各團體は自己の主催する競技會のため全日本選手權「メダル」に類似の「メダル」を作製授與することは出来ない。

全日本選手權競技會では、名譽賞杯、名譽賞、名譽賞品以外の授與は許さない。

第十二條

本連盟は全日本選手權大會のための總審判長、各部門審判長外役員を少くも一ヶ月前に決定する。この場合フィギュア競技審判に審判長一名、三名以上奇數の審判員

(審判長は審判員を兼ねることが出来る)を決定すること本連盟の加盟團體は春季代表委員會前に部門別専門委員を連盟本部宛通告すること。連盟本部はこれを代表委員會に計り承認を得る必要がある。同時に本部理事會は前記各加盟團體専門委員會より公認審判員及國際審判員を詮衡して代表委員會の承認を得る必要がある。

第十四條

本連盟加盟團體専門委員は、該連盟の技術方面の使命を果すと共に連盟本部との間の連絡をとるを目的とする。公認審判員は加盟各連盟中からも詮衡して本連盟の最高審判部とする。

第十五條

總審判長は本連盟會長がこの任に當る。會長事故ある時

第十九條

スピード、フイギユア、アイス・ホッケーとも競技開始に先立つて更衣所或は選手控所に對して出場準備を打鐘その他の手段で豫め通告すること。
通告にもかゝらず競技時間までに競技場に出場しない競技者或はチームは参加抛棄と認める。

は、本部理事の中一名を指名代行させることが出来る。
總審判長は競技上發生した一切の異議を裁決する。

總審判長の裁決は一切の最後の決定をなすもので異議の申立を許さない。

總審判長は天候及氷の状態が競技の舉行に可能なりや否やを決定する。

總審判は本連盟のすべての規則に抵觸しない限り「プログラム」の變更をなし且事態不良となつた場合には競技場の形及大きさを變更し、また全然新たな競技場を任意の場所に設立する機能を有する。

第十六條

スピード審判長が競技者による妨害が行はれたことを確認した場合にはその競技者はその競技を失格するものとする。右妨害が故意になされた時はその競技者は引き續いて競技に出られないばかりでなく、それが總合選手権種目であるならば、以前に滑走した種目も失格となる。
轉倒は競技一切の部門において勝利に對する障害とはならないのだから競技者の責任で生じたる個人的事故は審判長がこれを顧慮する事を得ない。但し競技者が自分の責任にあらずして妨害を受けた場合にはスピード審判長は更に一回のスタートをさせ、またフイギユア・スケーティングではフイギユア審判長が妨害を受けた競技者に再度の滑走を與へることが出来る。

第十八條

競技者に對して生じた損害については主催者は何等の責任を負ふ必要はない。

日本體育協會アマチュア規程

(昭和 二二・四・二日)

の行爲をなすことは出来ない。

(一)、商店又は製造業者若しくはその代表人から報酬を受けてその商品を使用すること。

(二)、商店又は製造業者の廣告或は推奨の手段として自分の氏名を使用すること。

(三)、自分自身執筆せぬ新聞雜誌の掲載文に氏名を附して金銭を收受すること。

(四)、演劇に出場したり映画の製作に出場したりすること。

六、事情を知りて職業競技者となつた者は再びアマチュアとして承認せられることはない。

七、職業競技者の判定を受けた者がアマチュアに復歸しようとする場合には左記の各條件が具備され且競技者の所屬する競技團體及び本會アマチュア資格審査委員會の承認を経なければならぬ。

一、職業競技者としての判定を受けてから滿二ヶ年を経過すること。

二、懸念の情顯著にして再び職業競技者としての判定を受けるよりな行爲をなさぬことを誓約した場合。

一、アマチュアとは單に運動競技愛好のために競技する者を云う。

二、如何なる運動競技を問はず金銭又は金銭に等しき報酬を得ようとする目的のために競技をする者は當該競技に於て職業競技者と判定される。

三、凡ゆる競技に於て事情を知り職業競技者と公に競技をする者は職業競技者と判定される。

四、金銭又は金銭に等しい報酬を受けて他人に運動競技を教授し又は之を訓練し若しくは練習を指導することを業とするものは職業競技者と見做される。

但し國家、學校又は其の他の教育團體の雇傭者又は代表者で其の主たる職業又は雇傭關係に附隨して前段の行爲をなす者は職業競技者と見做されない。

五、競技者がアマチュアであるか否かわ左記の各節規定によつて判定される。

一、アマチュアは本會及本會所屬各競技團體若しくは同加盟地方團體が運動競技會開催に依つて得る收入及其收入の一部を社會事業又は慈善事業の基金に供せんとする目的のため開催せられる運動競技會に出場することは出来ない。

二、アマチュアは運動競技に於て獲得したる名聲を資本化し次

八、アマチュア競技に参加し又は其の準備のために缺勤し俸給料の支拂を受けることが出来なかつたとの理由で其の填補のために直接又は間接に金銭を受領したり、又は請求することは出来ない。

九、アマチュアが競技に参加するに際し如何なる名儀でも別に定めたる金銭上の利得を受領することは出来ない。

一〇、経費支辨に要する金銭は全て競技者に直接交附せず該競技者の所属する團體に支拂われるものである。

一一、一つの競技團體に於て職業競技者と認められた者は他の競技團體に於ても職業競技者と認められる。

一二、本規程は本會所屬各競技團體の屬する競技者全部に適用される。

附 則

一、本會所屬各競技團體アマチュア規則は本規程を基準として定められる。競技者は所屬競技團體アマチュア規則に従うかアマチュア規則のない場合は本規程に従うものとする。

二、本會所屬各競技團體が新たにアマチュア規則を制定する際に本會アマチュア資格審査委員會の承認を得なければならない。

三、本會所屬各競技團體が直接加盟する國際競技團體が定めるアマチュア規程及本會所屬各競技團體アマチュア規則に先行する。

四、アマチュアに關する問題を審議するため本會内にアマチュア資格審査委員會を設置する。

五、其の他本規程以外の事件が新に發生した場合は本會アマチュア資格審査委員會がこれを處理する。

スピードスケーティング競技規則

「附」國際規則

註

日本スケート競技連盟制定の「スピードスケーティング競技規則」は國際統一團體たる「國際スケート連盟制定」の國際競技規則を參照し吾國情に適したる規則に改正したるものなり。従つて國際競技規則と多少異なる條項あり。之を對照する爲に相違せる箇條の次に「附」として國際規則との差異を説明せり。

第一條 距離

日本選手權並に正式競技は次の距離についてのみ行うことを得。

（例外第二條）

五百米、千米、千五百米（以上短距離）

三千米、五千米、一萬米（以上長距離）

但し該距離の個々について賞品を與えるか又は數個の距離について賞品を與えるかは豫め主催者に於て決定し置くべし。

第二條 例外的距離

一、第一條に規定せる距離の外に一萬米以上の距離についてもこれを舉行する事を得。

二、但し此の競技は第三條規定標準競技場に於て行ひ事を要せず。

三、多數同時に出發する競技は單一滑走路競技場に於て行ひべし。

一、旅 費

アマチュア旅費規程
汽車二等賃金以下、汽船一等賃金以下
往復の場合は右の二倍急行料寢臺料及び自動車を用いる場合は其の實費

二、宿泊料

六大都市一般旅館の公定料金以下（但し八疊間一人泊り）（浴衣料、入浴料等を含む）

三、食 事

實費（但し宿泊料に含まれぬ場合）

四、雜 費

一日金參百圓以下

アマチュア資格審査委員會規程

一、所屬競技團體より各一名の委員を選出し委員會を構成する。委員長副委員長は委員中より互選するものとする。

二、本委員三分の一以上の要求あつた場合又は委員長が必要と認めたる場合若しくは所屬競技團體よりの要求あつた場合に開催される。

三、委員長議長となつてアマチュア資格審査に關する議事は委員定数の三分の二以上出席しその三分の二以上の同意を得なければ決定しない。假決議した日より二週間以内に異議の申立なきときはその効力を發生する。

四、委員會には委員長の許可を得て議事審議に必要な關係者の出席を求め意見を聴くことが出来る。

し。

四、該競技に於て出發線に並列不可能の場合は之を數組に分割して豫選競技を行ひ事を得。

「附」國際規則に於ては豫選競技は行ひ事を得ず。

第三條 競技場

一、標準スピードスケート競技場は一周四百米又は三百三十三米

三三の二重滑走路にして内側の半徑二十六米以下、二十四米

以上にして半圓徑を二個有するものなり。

二、滑走路の測定は内側より半米離れて行ひものなり。

三、交叉線は少くとも七十米たるべし。

四、各滑走路の巾は最少三米、可能ならば五米のものたるべし。

五、各滑走路の境界は直線、彎曲部共に固定せる雪線又は動かし得べき木片を以て定むべし。

六、滑走路の目標等には固定せる木片等を使用すべからず。

七、出發線及決勝線は水面を切込みたる線又は色線を以て滑走路の直線に垂直、曲線の切線に直角に示すべし。

八、標準的ならざる競技場と雖も二重滑走路を準備する際には内側の半徑十八米以上交叉線最少四十米、走路の巾各二米以上を有し、一周三百米以上の競技場たるべし。

九、同時に多數出發するスピードスケート用單一滑走路は最小内側半徑二十四米、巾十米、一周三百米以上の競技場たるべし。

十、日本選手權並に國際競技は以上のスピードスケート用競技場に於てのみ行はる。

(例外、第二條第一項及第二項)。

第四條 滑走路の測定

滑走路は連盟制定の測定委員に依りて測定せられ、同委員の署名に依りてのみ保證せらる。

第五條 競技者の組合せ及出發順序

一、二重滑走路競技場に於ける凡ての國際競技は二人宛同時に出發せしめらるべし。

(例外第二條)

二、競技者は抽籤に依りて二人宛組合せられ出發番號の順序に従つて出發せしめらるべし。

三、出發に際し内側より出走するか外側より外走するかは抽籤に依りて決せらる。

四、競技者數が奇數なるか又は抽籤決定後相手の棄權に依りて獨走になりたる場合には該競技者は最後に出走せしめらる。

五、獨走者多數生じたる場合には再び抽籤に依りて組合せ及出走の順序を決定せらる。

第六條 綜合選手權競技に於ける組合せ及出發順序

一、二個以上の距離について一個の賞品が與えられる場合に於て

は最初に行わる距離についてのみ二人宛の組合せ及順序が抽籤に依りて決定せらる。

二、四個の距離について一個の賞品が與えられる場合に於ては最初の短距離及長距離に對してのみ二人宛の組合せ及順序が決定せらる。

三、最初に個々の走者の出發番號が抽籤せらる。

四、二人宛の組合せは出發番號の一番と二番三番と四番以下同様に組合せらる。

五、一番と二番の走者が最初に出走し三番四番が二回目に出走すべき組なり、以下同様なり。

六、何れが内側又は外側の滑走路より出發すべきや又は抽籤に依りて決せらる。

七、二個及三個の距離に於ける競技會に於ては走者の得たる時間に從つて次の距離に出場する組を最良の者より順次二人宛組合せらる。

八、四個の距離について行わる競技會に於ては各前の短距離に得たる時間に従つて最良の者より順次二人宛組合せられ、次の短距離及長距離の組合せが決定せらる。

九、其他の距離に於ける組合せ及順序は別に抽籤せらる。但し一萬米は例外なり。(第十項)

十、一萬米に於てはこれまでに終了せる長距離の第十四位迄即ち七組が先に出走せしめらる。(附國際競技に於ては第十位迄即ち五組なり)。此の組の出走順序は抽籤せらる。

十一、次いで残りの組の出走順序が抽籤せらる。

り外側滑走路に出んとする走者の責任なり。

五、衝突に依りて競技者が其責任を課せられたる場合に第十一條に従いて處罰せらる。

第十一條 資格剝奪

一、審判長が一競技者の妨害を確認せる場合には當該競技成績より除外せらる。

二、妨害が故意に行われたる場合には該競技者は次後行はる競技に参加する資格を剝奪せらる。

三、該競走者は其競技會が數個の距離について賞品が與えられる場合には以前に行われたる距離についても資格を剝奪せらる。

四、走者への誘導或は伴走を許さず。

第十二條 走者間の間距

一、單一滑走路に於て多數滑走する場合前走者との間距五米以上ある時のみ其背後を滑走する事を得。

二、監察員の注意にも不拘らず此の規定に違背したる場合には入賞より除外せらる。

第十三條 出發線

走者は出發に際しスケートを以て出發線を横切つて立つべからず。即ちスケートの先端を以てこの線まで達することを得るのみとす。

第十四條 決勝線

一、走者のスケートが決勝線に觸れ又は到達せる時を以て全距離を完走したるものとす。

十二、一個の距離に於て二名又はそれ以上多數の者が同時間を得

たる場合に於ては抽籤に依りて順位を決定せらる。

十三、競技者數が奇數なるか又は抽籤決定後相手の棄權に依りて獨走となりたる場合には該競技者は最後に出走せしめらる。

十四、獨走者多數生じたる場合には該競技者の得たる時間に依りて二人宛組合せられ出走の順序は抽籤に依りて決定せられる。

十五、審判長は前の距離を滑走せる一人の競技者少くも三十分間の休憩を與える爲にその組を遅らして出走せしむる事を得。

第七條 滑走違反

各走者は滑走路内側線を横切りて滑走すべからず。

第八條 左廻滑走

滑走に際しては左廻り即ち滑技場を左に見て滑走すべし。

第九條 單一走路に於ける競技者の位置

單一走路に於て同時に出走する場合各走者は少くとも二米以上離れて滑走せざるべからず。

第十條 衝突の責任

一、單一滑走路に於ては各走者に出發後に滑走路の内側を占むることを得、但し之が爲他の走者に衝突せる場合にはその責任を自ら負ふものなり。

二、滑走路の内側を占めたるものはその位置を持續せざるべからず。

三、自己の前方の走者を抜く場合は左右何れよりするも此危険は自己の危険に於て行ふべきなり。

四、二重滑走路競技場の交叉線に於ける衝突の危険は常に内側上

二、走者が決勝線の僅か手前にて轉倒せる場合に於いてはその走者のスケートが決勝線に觸れ又は到達したる時を以て計時せらる。

役員

第十五條 出發合圖員

- 一、出發員は出發に際し生じたる總ての紛争を自ら解決すべし。
- 二、出發合圖員は走者の背後に位置を占めざるべからず。
- 三、出發合圖員は走者に「位置ニツイテ」と號令をかけて出發の位置につかしめる。
- 四、次に「用意」なる號令の後一發の發砲を以て出發せしむべし。

〔註〕「用意」より發砲迄は約一秒間を原則とす。

- 五、不正出發の場合は續いて二發目の發砲を以て走者を戻し再出發せしむべし。
- 六、不正出發三回繰返し行いたるものは失格せしむことあり。

〔附〕國際規則なし。

第十六條 監察員

監察員は競技規定に對する總ての違反につき注意し、これを發見したるときは直ちにこれを審判長に報告すべし。

第十七條 回數算定員

回數算定員は走者の今後滑走すべき回數を明瞭に示すべし。最終回の初めには打鐘を以てこれを知らしむべし。

第十八條 決勝審判員

決勝審判員はいずれの走者が最初に又は第二位に決勝線を通過し

告する事を要す。

第二十一條 時計

時計測測に使用せらるる時計は一時間以内に一秒以上の誤差なき事を時計商により證明せられたものたる事を要す。

第二十二條 綜合競技成績

- 一、數個の距離に對して一個の賞品が與えらるる場合に於いては全距離を完走し、且滑走したる各距離の過半數以上に就きて最良の時間を示したる者を以て勝者とす。
- 二、多くの走者が一個の距離について最良の時間を得たる場合にはこれ等の走者は凡てこの距離についての勝者と認めらる。
- 三、いずれの競技者も第一項の要求を満たされたる場合には全距離を完走し最小總得點を得たる者を以て勝者とす。
- 四、五百米に於ては所要時間の秒數、千米に於ては秒にて表示せる時間の二分の一、千五百米に於ては同様にして三分の一、五千米に於ては十分の一、一萬米に於ては二十分の一を得點とす。
- 五、二位以下の順位も同様の計算に依り、總得點に依りて決定される。
- 六、或る距離に除外せられたる競技者は、總得點計算より除外せらる。

第二十三條 公認記録

一、國際競技會、國內競技會又は地方的競技會に於て得られたる記録にして次記の條件を具備せる場合には日本スケート連盟

たるやを確定す。その宣言に對して取消すべからず。

第十九條 計時員

- 一、復計時計の得らるる場合には各走者に對して三人の計時員が任命せられ、各計時員は夫々走者の所要時間を計測すべし。
- 二、復計時計不十分なる時は單針時計を使用することを許さる。
- 三、各計時員は只一個の時計のみを使用すべし。
- 四、二名の計時員の時計が同時間を示したる場合にこの時間が採用せらる。
- 五、一名の計時員が何等かの理由に依り計時せざりし場合には殘る二名の時計の中間の時間が採用せらる。

- 六、この中間時計が十分の一秒以下なる場合には多き方の十分の一秒が結果として採用せらる。
- 七、各計時員は各自記録帳に時間を記録すべし。

- 八、各走者に對する計時は計時員長に提示すべし。
- 九、計時員長は所要の時間を確定しその正しき決定を記録に留むべし。

十、記録は主催者に依りて日本スケート連盟へ送附せらるべし。

- 十一、確定せる時間はこれを取消すことを得ず。
- 十二、計時員は出發合圖員の背後に背を向けて位置すべし。

第二十條 周圍計時

- 一、二周以上の競技に於ては各回の時間を計測し各周毎にこれを記録すべし。

二、通告員

走者並びに觀衆の爲に周圍計時員より得たる時間を場内に通

により、日本記録として公認せらる。

イ、滑走路は標準滑走路なること。

ロ、第四條及び第二十一條が遵守せられたること。

- 二、國內競技會に於て得られたる記録は主催地方連盟に依りて證明せらるべきこと。

- 三、男子及び女子の日本記録は日本スケート連盟規則第一條に規定せるものの外男子二〇〇〇米繼走及び女子一六〇〇米繼走のみ公認さる。(繼走は國際記録なし。)

- 四、記録及び證明は遅くも三月末日迄に日本スケート連盟宛加盟團體會長の名の下に提出せらるる事を要す。

- 五、記録の認定は日本スケート連盟技術員會の審議を経たる上全國代表委員會の賛同を得る事を要す。

- 六、日本記録を樹立せるものに對して日本スケート連盟は賞狀を交附す。

〔附〕第二十三條 世界公認記録

- 一、國際競技會、國內競技會又は地方的競技會に於て得られたるものにして次記の條件を具備せる場合には國際スケート連盟により世界記録として公認せらる。

イ、滑走路は標準滑走路なること。

- ロ、第四條及び第二十一條が遵守せられたること。

- 二、國內競技會に於て得られたる記録は開催國內連盟に依りて證明せらるべきこと。

- 三、男子及び女子の世界記録は國內スケート連盟に於ては第一條に規定せる距離についてののみ公認さる。

- 四、記録及び證明は遅くも毎年五月一日迄に國際スケート連盟の理事に提示せらるる事を要す。
- 五、樹立せられたる記録者に對して國際スケート連盟は賞狀を交附す。

フイギューアー競技規則

總 則

第一條

第一項 國際フイギューアー競技に於ては次の如く區別さる。

a、個人競技

b、ペアー競技

c、團體競技（グループ）

b、ダンス競技

第二項 個人競技に於て男子と女子とは別個に行わるものとす。

第三項 ペアー競技に於ては同様に構成せられたる組（女子と男子、女子二人もしくは男子二人）に於て行われ團體競技に於ては參加者が同數にして同様の構成をもつ團體の間に於て行わる。

第二條 スクール及びフリー競技

第一項 個人フイギューアー競技は

イ、課題の規定せられたる競技（スクール競技）
ロ、公表により規定せられたる一定時間を自由選擇により滑走する競技（フリー、スケートイング）に分たる。

第二項 一方もしくは他方の部門のみに申込みことは、これを許さず。

第三項 スクール競技はフリー競技以前に行い出來得れば一日中

の異なる時又は前日にこれを舉行すべきものとす。

賞 の 決 定

第四項 賞の決定は兩部門に於て獲られたる結果の綜合によりこれを行う。

特 別 賞

第五項 一方もしくは他方の部門に於て獲られたる成績に對して更に特別賞を與うることは主催する連盟もしくは協會の隨意なり。

第三條 ペアー及び團體競技

第一項 ペアー及び團體競技はフリー・スケートイングのみ包括す。

第二項 ペアー競技は二人のフリー、スケートイングによつて行われ兩競技者の統一的活動に徹したるフイギューアー・スケートイングが示さるべきものとす。

第三項 パートナーはそれらの異つた多くの滑走をなすことを得るもこれは一時的であつて全體として一致と協同の印象を失はざるものなることを要す。

第四項 競技者の一方が他方の力により氷面から比較的長い時間離るるスケートイングはこれを示す。スウィングに續きパートナーを上げ下げする飛躍は許可せらる。

ダンス競技

第五項 ダンス競技はフリー競技のみを含みこれが滑走は舞踊の性質を有するものなることを要す。前進運動のなされるジャンプ交互の滑走、及びフィギュアは前進、後進の滑走と同様に禁ぜらるる故に滑走は停止の位置から開始すべきものとす。

第四條 スカールの課題

第一項 スカールの課題は別表に就いて行われ世界選手権大會競技規約六つ、國際競技には五つの圖型が滑走せらるる。

第二項 右(a)及び左(b)より始められるものはa b兩方を滑走することを要す。

第五條 スカールの課題に於ける競技者の順序

第一項 圖型の公表及び點呼の行われたる後各競技者は同一の圖型を抽籤せられたるスタート番號の順序によつて競技す。

第二項 競技者の滑走順序は各圖型毎に變更せらるるものとす。即ち先の圖型の滑つた最初の競技者は次の圖型を最後に滑走す。

第三項 出場競技者二名のみにして二名が合意した場合は例外とす。

第四項 各競技者は遅くとも點呼の行われたる二分後に課題を開始せざるべからず。然らざれば該課題は「滑走せざるもの」として採點せらるる。

第六條 スカール競技の姿勢及び開始

第一項 競技者がスカール・フィギュアをはじめるに際してはスケートのカーブのところ而立つことを要す。

1 不良の滑走

2 缺點ある滑走

3 可なりの滑走

4 良き滑走

5 非常に良き滑走

6 完全なる滑走

第二項 詳細な點數を示すために十分の一迄の中間數字が採用せらるる。(例1・2點、3・8點、5・5點)。

第三項 點數の認定に於ては第一に氷上の正確なる圖型、第二に姿勢及び動作第三に三回の滑走に於ける軌跡が凡そ重り合つて居るかどうか。第四に圖型の大きさが考慮せらるるものとす。

正確なる競走

第四項 競技者及び採點審判員は、

第一に第八條に依る正確なる圖型

第二に第九條による姿勢及び動作

第三に合致及び第四に初めて大きさに重點を置かざるべからず。

第五項 重なり合ひは第八條に依る正確なる圖型の基準が遵守せらるる場合にのみ考慮に入る者とす。

第六項 第九條に従い正確なる姿勢及び動作が出来た後難しい正しい圖型の重なりへの向上が期せられる。

第七項 第八條に據る正確なる圖型及び第九條による満足の姿勢及び動作の價值が獲られたならば次は圖型の適當な大きさにつき考慮せらるる。

第二項 スケートの先で立つことは禁ぜられる。

第三項 圖型は假想せる軸の交叉點に於て開始すべし。

唯一回の蹴り

第四項 スカールの課題は静止の位置より始められ他方の足(浮足)で唯一回の蹴りに依つて前進もしくは目立つて身體を捻轉することなく開始せらるるべし。

圖型の再度の開始

第五項 圖型が前進もしくは身體を著しく捻轉して開始された場合審判長は競技者にその圖型を再走せしむべく滑走を停止せしむるを要す。

無 停 止

第六項 一方の足から他方の足の移行は浮足(次い 滑走)を且つ從來の滑走(次いで浮足)を以て一回蹴ることに依つて停止することなく行ふものとす。

三回の實施

第七項 各圖型は右足並びに左足で三回宛實施されることを要す。

第八項 繰返しは前記の如く停止なく行ふこと。

第九項 審判長は自分自身もしくは代理人に依りて競技者に對し行われたる圖型の三回の實施を通告せざるべからず。

第七條 點數

第一項 各スカールの課題は次の如きり——6の點數に依つて判定せらるる。

0 滑走せず

第八項 圖型の表現が少なくとも良き滑走と見られない時に於ては姿勢及び動作は圖型の重なり及び大きさと同様余り考慮せられず。

第九項 競技者が一つの圖型を滑走する際に部分的に失敗し、または轉倒した場合に於て採點審判員は圖型を滑走されずとして採點を決定することを得ず。

第十項 これに反して圖型のなし遂げられたる部分に對し相應に點數を與ふことは差支えなし。左右三回行われた圖型が失敗された場合に於ては(轉倒又は他の方法で)次の方法に依つて採點せらるる。成功した部分に對し、點數は六分の五、二度失敗したならば六分の四を乘ず。これに反して六回の滑走に就いて三回失敗したならばその圖型に就いては零點を與ふ。

轉 倒

第十一項 轉倒は凡ての部門に於いて優勝への障礙とならず。

一回もしくは數度の轉倒はフリー、ペアー及びグループ競技に於てはこの轉倒がなかつた場合與えられるパフォーマンスの點數に於てのみ價值判斷せらるる。

第十二項 採點審判員は競技者の責任に歸すべき個人的轉倒については少しも顧慮せず。

第八條 正確なる圖型の標準

第一項 正確なる圖型の基準は次の如し。

イ、三回の滑走に於ける縱軸及び横軸の正確なる保持(圖型の縱軸はエイトの中央を通り縦に進みエイトを左右等分に分かつ線なると。横軸は縱軸に直角エイトの中央を通ること

と)。

ロ、(横軸によつて分かれたる)圖型の第一及び第二の半分は大
約同じ大きさとなること。

ハ、縦軸及び横軸に關する圖型の夫々の部分の均整的配置。

ニ、弧は凸凹なく即ち出發點近くに還り終り迄完全に滑る事。

ホ、スリー、ターンに於ては尖端が縦軸上にあり第二の弧は最
初の弧と殆ど等しき大きさとなること。

ヘ、ダブルスリーはその中間の弧を以て縦軸を直角に截り三つ
の弧は殆ど等しき大きさなること。

ト、ループは幅よりも縦長く尖りたる角なくその縦の方向はエ
イトの軸に當り第二の弧は殆ど第一の弧と同じ大きさなる
こと。

チ、チェンジは穩かに進行して軸に於いて双を轉換す。エイト
を完全に滑走する場合は次いで最初の弧の出發點の附近に

於て双を轉換し、第二の弧は丁度その場所に戻り最初の弧
と殆ど同じ大きさとなること。

リ、ロッカー及びカウンタは双の轉換なく、反轉は軸の附近
に於いて行うこと。

ヌ、ブラケットは反轉の前後に双の轉換なくその尖端は縦軸
上にあること。最初及び第二の弧は殆ど同じ大きさなるこ
と。

第九條 正確なる姿勢及び基準

第二項 スクール課題滑走の際の正確なる姿勢及び運動の基準い
ずれの基準の内にも競技者の個性に對して自由なる活動領域と

ループとしてフリー競技に於いては出發する。

イ、殘餘は更に二つのグループに分けられその中スクール競技
にてよりよき總得點を得たるものが最初に、一番低い總得
點を得たるものはフリー競技の最後のグループとして出發
する。

第二項 フリー競技の順序はこれらすべて三つのグループ内に於
いては抽籤により決定する。同様に二人の競技者が得點を同じ
くするときはいずれのグループに歸屬するかは抽籤により決定
する。

ペアー及びグループ競技に於ける競技者の順序

第三項 ペアー及びグループ競技又は舞踊競技に於いても競技者
は抽籤に依りて決定せられたる開始番號の順序に従う。

フリー競技續行の時間

第四項 競技者の處理に委せられた時間はそのプログラムの開始
から起算して充分に利用せらるべし。

第五項 時間の開始及び終結は笛もしくは打鐘に依り示され審判
長の監督を受くべし。

殘餘時間のアナウンス

第六項 未だ利用せられない時間は競技者に對し適當なる揭示板
を示す事により又希望によつてはアナウンスにより通告せら
る。

第七項 他の方法による通告指示、主として役員又は他の人によ
るフイギュアー・プログラムの助言は許されず。

フリー競技場の大きさ

採點審判員の側からの出来る限りの考慮が許さるゝとして次の如
きものがある。

a、餘りに遅き滑走でなく元氣よく平均のとれた動作。

b、眞直ぐに腰を曲げざる姿勢にて硬直せざること。

c、膝若しくは胴を適當に曲げ頭は出来る丈眞直ぐに。

d、浮足は僅かに氷面から離れ曳摺ることなくスケートの尖端
は下方に外側へ向け膝は軽く曲げ、一般に滑足の後に保ち
然らざれば自由に振りで運動を助け而も滑足を遠く離れて
擧げざることを。

e、腕は自然に垂れ浮足と同じく腕の運動によつて滑走を補助
することを得。而も肘もしくは手を遠く身體から離すこと
なく手も出来る限り帶の高さ以上に出でず。指は擴げず、
又拳は握らざることを。

第二項 一般に激しく角の立ち、或いは硬直せる運動並びに著し
く特色がある補助運動はこれを避くべし。

第三項 圓滑なる競走の印象を心掛くべし。

第十條 個人競技のフリー競技に於ける競技者の順序

第一項 フリー競技に於て個人競技者の出場順位はスクール競技
の終了及び計算の後直ちに採點審判員出席のもとに決勝審判員
により文書により確められ而も次の規則に従う。

a、競技者はスクール競技に於いて得たる總得點に従い三つの
グループにけられる。

b、競技者三分の一のスクール競技に於いて最高點を得たる競
者達のグループは前記によりまとめられて第二番目のグル

第八項 競技場は大約方形に區切られ、出來得れば一方向少くと
も五〇米これに垂直な方向に少くとも二五米あることを要し、
而も五〇米七〇米より大なるを得ず。

第九項 天候の條件の悪い場合に於ける競技場の大きさの判決に
關しその競技場を承認すべき否かは審判長これを決す。

第十一條 フリー競技の採點

第一項 フリー競技及びグループ競技の採點は次の如く行ひ。

イ、滑走せるプログラムの内容(難易及び多様性調和せる講成
圖型の分布)。

ロ、滑走の方法に對して(安定度、姿勢、動作、韻律に適える
なだらかな運動)常にスクール・フイギュアー競技に於け
ると同じ意味を有する0—6の點を附してこれをなすもの
とす。

調和的演技

第二項 ペアー及びグループ競技並びに舞踊競技に於いては、特
に(ロ)の後に競技者の正確なる動作の合致が考慮せらるべ
し。

第三項 フリー競技、ペアー及びグループ競技に於いてプログラ
ムの内容を採點するには多様性となだらかさとは殊に注意せら
る。

唯單に難かしく優美を缺き相互に調和的構成を形成せしむる様
何等まとまつていない運動の連續はこれと反對なり。

第四項 個人の責任により引起されたる轉倒は採點に際し考慮せ
らるべし。

第十二條 公開の採點

第一項 第五條による國際試合に於いては公開の採點がなされるべし。即ち夫々の採點審判員に依つて與えられたる點數は審判長及び觀察に示さるるものとす。

第二項 この目的のために各採點審判員は二種類のカードの小箱を持つ。この内一種類は黒で0—6迄の全點を、他方は赤で1—9迄の十分の一の點が刻印せられている。各カードは當該點を附した小さな見出しを備えている。その結果採點審判員はそれを容易に取出し且つ容易に再び正當な場所へ挿入することを得。

第三項 各圖型が終つたならば審判長の笛の信號によつて全採點審判員は同時に當該點數のカードを高く掲ぐるものとす。

第四項 採點審判員によつて示されたる點は二人の記録員によつて讀上げられ他方によつて二枚の採點表に記入せらる。

第五項 各競技者につき二通の採點表が作成せらるべし

第六項 全點數が採點表に記入せられたる後採點審判員は再び笛の信號によりカード箱へ入る。

第七項 一人の競技者による一圖型が終つた後兩記録は直に相互に比較し點數は難易係數に乘ぜられる。

第八項 同様なる方法により各圖型は行はる。

第九項 採點審判員は自己の記録をなすことは許さる。

第十項 フリー競技の採點は採點審判員によつて先ず内容に對する點數が示され、後直ちに種類及び方法の點數が示さる。

第十三條 個人競技に於ける結果の確定

及び(ハ)に於いて得たる點數を合計す。

結果の算出

第八項 競技者ベアーもしくはグループは採點審判員の採點表は表われたる總點によつて點數の順序に並べらる。この際競技者ベアーもしくはグループは最高の總點數を以て席次第一位次點者を席次二位等々が與えられる。

席次

第九項 採點表に於いて二もしくは若干數の競技者ベアーもしくはグループが總得點數に於いて等位を占むる場合はそれらの間の席次に關し個人競技に於いてはスクールの點數ベアー、及びグループに於いては競技の方法の點數のより高きものがこれを決す。

第十項 スクール競技の點數もベアー及びグループに於ける競技方法の點數も等しければ記録係は採點表に競技者ベアーもしくはグループを當該の席次の中間を以て記入す。

第十四條 多數決による優勝者

第一項 優勝者は採點審判員の絶對多數により第一位に置かれたるもの、第二位は第二位者もしくはより上順位の絶對多數を獲たるものとす。

第二項 この時一、一・五、及び二の順位點を二位として數え、一、一・五、二、二・五、三の順位點を三位として數り。以下これに従ふ。

第三項 同一順位につき多數を得たる競技者數名ある時はこの順位につき絶對多數を得たるものを以てその順位に於ける優勝とす。

第一項 スクール及びフリーの採點は同一の採點表になさる。

第二項 個人競技に於いては各スクールの採點表につき與えられたる點數の難易係數を乘ず。この難易係數は當該課題の難易の程度により決るものにしてスクール・フィギュア一覽表中よりこれを採用すべきものとす。

點數

第三項 採點表に各競技者毎に別個に記載せられたこの結果の總合計は各個々の競技者にとり個々の採點審判員より得たるスクール競技の總點數となる。

第四項 フリー競技に於いては前記(イ)及び(ロ)各項に付與せられたる兩方の點數はこれを合計しこの和に對し競技細目規定により公表したる係數を乘ず。この結果をフリー競技の點數となす。

係數

第五項 係數はフリー競技に於いて到達し得べき最高得點數がスクール・フィギュアに於いて到達し得れば三分の二、然らざるも三分の二を超えざるものとなるようにこれを選定すべきものにしてその際小數一桁迄を許すものとす。

總得點

第六項 フリー競技の點數とスクール競技の點數の合計は各競技者が個々の採點審判員より與えられたる總點數なり。

ベアー・グループ競技及び舞踊競技に於ける

結果の確定

第七項 ベアー及びグループ競技に於いてはフリー競技の(イ)

す。

第四項 多數決に依り同數なる場合は多數決を構成する採點審判員の順位點合計の低きものを以て決定す。

第五項 第四項に依り順位點數同じ時は全採點審判員の順位點總合計を以て決定す。この場合も亦同點なる時は總得點の多きものを以て決定し、これも亦同じ時は個人競技の場合はスクールの得點を以てしベアー及びグループ競技の場合は種類及び方法の得失を以て決す。

多數決を缺きたる場合の勝者

第六項 順位の決定に對する結果の取極めは全採點審判員によりて與えられたる順位點の合計による。

第七項 全採點審判員の順位總計に於いて多數の競技者が同數なる時は總得點數の多きものによりて決す。これ亦等しければ第五項に依る順位の決定をなす。

第八項 各順位の決定は先ず多數決の原則に従い第一項—第四項の規定が適用せられ然らざる場合は第五項—第七項の規定に依り常に前述の順序に依るものとす。

舞踊競技に於ける結果

第九項 結果の採點及び決定に對する規定は舞踊競技に對しても適用さる。

第十五條 スクール競技の結果の發表

第一項 スクール競技の結果はそれが行わるや直ちに計算せられ發表せられねばならぬ。

採點板の公示

第二項 更に望まじきは採點板を十分に表示し、もしくは滑走後直ちに勢くとも少時一般の人に見得るよう公示しなくてはならぬ。

結果の公表

第三項 結果については勢くとも各個の採點板によるスクール及びフリーの得點とそしてそれに依りたる總得點とを公表せねばならぬ。

第四項 綜合得點數の寫しは競技に参加したる總ての連盟に對して競技後十四日以内に送達せられねばならぬ。

原採點表の提出

第五項 國際競技の原採點表の提出はI・S・Uの理事により要求せらるる事あるべし。

第十六條 他の採點

規定せられたる方式によるものと異なる採點は無効なり。

第十七條 補充規定

主催する連盟もしくは協會は告示に補充規定をしここに決定せられたるものと一致する限り任意に採用することは隨意とす。

選手權大會

選手權大會の採點審判員

第十八條

第一項 選手權大會の爲に定められたるスクールの課題は次の規定に基づいて定めらるるものとす。

歐洲選手權大會のスクール課題——省略——世界選手權大會のスクール課題——省略——

二、最高得點數

第三項 更に必要な事項としてスケート場の種類及び大きさ、天候の状態を記載せねばならぬ。

第二十三條 第二十四條乃至第三十條は更に必要な規定の爲にフィギュアー競技規則の第三部として豫備す。

フィギュアー競技に於ける試験に關する規定

第二十四條 フィギュアー競技に於ける試験は四階級に分けられ行わる。

第二十五條 第四級に於いて試験を通過したる競技者に對してはI・S・Uの賞状を得る。第三級、第二級に於いては賞状の他にI・S・Uのブロンズ銀及び金鍍金の徽章が與えられる。

第二十六條

第一項 採點審判は三人の採點審判員により構成せらるる。

第二項 第四級及び第三級に於いては採點審判員は三人の國內もしくは國際採點審判員より成り第二級に於いては三人の國際採點審判員より成り第一級(選手權級)に於いては二人の國際採點審判員と一人の選手權採點審判員より成る。その一人は他の國の連盟に屬して居なくてはならぬ。

第三項 如何なる場合に於いても試験委員は受験者の屬する一協會(クラブ)の採點審判員のみをもつて構成せらるる事は許されず。

第四項 第一級及び第二級に對する試験に於いては受験者の屬する協會の採點審判員は唯一人のみ利用せらるる事を得。

第五項 選手權採點審判員に對する費用は主催せる國の連盟もし

世界選手權大會に於ける創除圖型——省略。

第十九條 フリー競技續行時間

第一項 男子世界及び歐洲選手權大會及びベアー競技選手權に對しては四分とす。

最少點

第三項 選手權を獲得する爲には優勝者は決勝審判員の多數に於いて少くともスクール課題の三分の二及びフリーの内容及び演技の種類及び方法に於いて「良好」(四點)の最少點を以て滑走することを要す。

第二十條 制限規定

第十七條に於いて豫め定められたる補充規定は選手權大會に對して適用せず。

第二十一條 原採點表の提出

第一項 選手權大會の原採點表はプログラムと共にI・S・Uの理事に對し競技後四週間以内に提出されることを要す。

第二項 フィギュアー選手權大會に競技者を派遣せる協會に對しては總採點表の全内容の寫本が送附せらるる。

第二十二條 印刷せる記録表の内容

第一項 選手權フリー競技の印刷せる記録表は別表の形式を備ふる事を要す。

第二項 その他の記録表は次の如き内容を有する事を要す。

イ、審判長及び採點審判員の氏名

ロ、競走したるスクール圖型の名稱

ハ、確定せる係數

くは協會が負擔す。

第二十七條

第四級は競技規約中係數一のスクール圖型の總てを含む。

第三級は係數二の總ての圖型、第二級は三番a及びbを除き係數三の圖型、第一組は係數四と五の總ての圖型及びその他三番a及びbを含む。

第二十八條

各級に於いては全國型を滑走せざるべからず。然し唯aもしくはbの形式にてその各個圖型の試験の前に抽籤により決定す。

三番a及びb四番a及びbは左右共滑走せられねばならぬ。

第二十九條

フリーに於ける試験はいずれの級に於いても行われず。

第三十條

第一項 試験の採點は競技規約第六條乃至第九條の規定に従いなされる。

第二項 第二級及び第一級に於いては競技規約第十二條に依り公開採點が適用せらるる。

第四級及び第三級に於いては非公開發採點が許される。

第三項 結果の計算に於いて係數は使用せられず。

第三十一條

各試験は一日の中に同一の採點審判に於いて終らしめられねばならぬ。

第三十二條

試験は受験の屬する國の連盟の前以ての文書による同意あれば他

國に於いても行い事を得る。

第三十三條

受験者は次の場合は試験を通過する事となる。即ち第四第三級に於いては越くとも平均して最高得點の五五%、第二、第一級に於いては越くとも六六%、而もどの探點審判員も第四、第三級に於いては一圖型を二點以下に、又第二、第一級に於いては三點以下に探點せざりし場合なり。

第三十四條

試験の再通知は三十日經過後初めてなされる。

第三十五條

第一項 各試験は順序に従いなされねばならぬ。(この規定は一九四一年六月一日以後効力を生ず)。

第二項 前掲の規定に違反したる時はこの試験を無効とす。

第三十六條

國の連盟はこの試験を自身にて、もしくはその連盟所屬の協會により舉行す。而して三人の探點審判員により記入せられたる原探點表及びI・S・Uにより要求せらるる證據書類が三週間以内にI・S・Uに更に送達せらるることを要す。

第三十七條

結果を檢査したる後I・S・Uの理事は賞狀及び徽章を授與す。

第三十八條

賞狀及び徽章の様式は一九三九年アムステルダムに於ける第二十一回の總會に於いて決定せらる。

第三十九條

第一項 第二、第一級の各試験に對し競技者は五スウェーデンエクローネの申込料をその屬する國の連盟に支拂わさるべからず。

第二項 省略

國際アイスホッケー競技規則

(日本スケート連盟
一九四九年—一九五〇年)

第一章 競技場(リンク)

第一條 リンク

アイスホッケー競技は「リンク」と稱される氷面上に於て行はれる。

第二條 リンクの廣さ

A、リンクは標準を長さ二〇〇呎幅八五呎とし氷面よりの高さ三呎四吋久至四呎の木製の壁又はフェンスで圍まれる。
B、「ボーズ」(Boards)と呼ばれるフェンスは競技者に障害或は危険を與へる構造を避けねばならぬ。又一様の色で(可成白色)塗裝される。

註。氷面上の總ての扉は外側に開かれる様にする。

第三條 ゴールポスト及びネット

A、競技中正規のゴールポスト及びネットはリンクの兩短邊より各一〇呎離れ兩長邊に垂直に氷面を完全に横斷して引かれた幅二吋の赤ラインの中央に固定される。

B、ゴールポストは高さ四呎の垂直なる二つの支柱が六呎(内側)離れて立てられ型狀及材料は適宜に選擇される。

C、適當なるネットが兩ゴールに付けられる。

D、ゴールポスト横木及びネット保持桿は全部赤色に塗られる。

E、ゴールポスト間の氷面に引かれた二吋幅の赤ラインはリンクを完全に横斷する迄延長され「ゴールライン」と呼ばれる。

F、ゴールエリア(ゴールライン及びゴールの基部により圍まれた氷面)は白色に塗られる。

第四條 ゴールクリーズ

A、各ゴールの前方に「ゴールクリーズ」區域が二吋幅の赤ラインで印される。

B、ゴールクリーズは各ゴールポストの外側より六吋離れたる點より二吋幅の赤ラインをゴールラインに垂直に三呎引き各頂點を同様赤ラインで結ぶ。

第五條 氷域

A、二つのゴール間の氷面は各ゴールラインより六〇呎離れ、ゴールラインに平行にリンクを横斷した十二吋幅の青ラインで三分分される。

B、右の氷域に防禦側のゴールに近き氷域を防禦氷域(デフェンスゾーン)中央部を中央氷域(ニュートラルゾーン)防禦チームより離れたる氷域を攻撃氷域(アタッキングゾーン)と呼ぶ。

C、「セクターライン」と呼ばれる十二吋幅の赤ラインがリンクの中央にゴールラインに平行して完全にリンクを横斷して引か

れる。

第六條 中央スポット及びサークル

直徑一二吋の圓點及び半徑十呎幅二吋の同心圓（サークル）が青色でリンクの中央に印される。

第七條 中央水域に於けるフエース・オブ・スポット

中央水域に於て三つの直徑一二吋の赤色圓點が兩青ラインに平行して五呎離れ、リンクを四分して印される。

第八條 エンド・ゾーン・フエース・オブ・スポット及びサークル

A、兩エンドゾーン内の各ゴールの兩側に直徑十二吋の赤色圓點及び半徑十呎の二吋幅の同心圓が印される。

B、エンド・フエース・オブ・スポットの位置は次の様にして定められる。

各ゴールラインに平行して十五呎前方に離れ兩ゴールの中點を結ぶ線から兩側に廿二呎離れた點に二つの點が印される。

第九條 競技者のベンチ

A、リンクは兩チームの競技者用として二個所の座席又はベンチを準備する。之等は各チームの十四名以上を收容し得るもので中央水域の可成中央の水面に置かれる。又脱衣室を取附ける事が望ましい。兩ベンチは適當なる間隔に分けられる可きである。

B、ユニホームを着た競技者、マネジャー、コーチチャー及びブローナーはベンチに着席する事を許される。

第十條 ペナルティーベンチ

リンクは「ペナルティーベンチ」と呼ばれる。ベンチ又は座席は

主將は約三吋の高さの着衣と反對色の「C」文字を胸の目立つ場所に着ける。

B、各チームの主將は常に氷上に居なければならない。若し主將が氷上に居ない時は代將（三名以内）に主將の特權が與へられる。

副將は約三吋の高さの着衣と反對色の「A」文字を胸の目立つ場所に着ける。

C、レフエリー又は記録役員は競技開始前にチームの主將及副將の名前を通告される。

D、ゴールキーパーは主將又は副將に任命される事は出来ない。

第十五條 競技者のユニホーム

A、競技開始に當りゴールキーパーを除いた十七名以内の競技者はユニホームを着用する。

B、兩チームは出場者の名簿を競技開始前にレフエリー又は記録役員に手交し、競技開始後はゴールキーパー以外の名簿の變更又は追加は許されない。

C、チームは何時も一名のゴールキーパーを氷上に置く事は許される。

ゴールキーパーが位置を離れた時は他の競技者が代替され、代表者はゴールキーパーの特權を許されない。

D、ゴールキーパー以外の競技者に、ゴールキーパーの道具を着用する事は許されない。

註、クラブは一名の豫備のゴールキーパーを置く事を許され、又任意に出場させる事が出来る。

準備しなければならない。

之等は八名を收容出来るもので反則競技者、反則計時員、試合計時員に使用される。

「ペナルティーベンチ」は「競技者のベンチ」から適宜に隔れて設けなければならない。

第十一條 信號及計時裝置

A、リンクは計時員用として銅羅又は他の適當な音響裝置を備へなければならない。

B、リンクは競技者及び競技役員に試合中正確な経過時間を示すことが出来る電器時計を備へねばならない。

C、各ゴールの後方にゴール審判員用の標示燈が付けられる。赤色光は得點された事を標示する。自動的に作動する標示燈が有る場合は綠色光は試合のペリオドの終りに標示する。

註、綠色光の點ぜられた時の得點は記録されない。

第十二條 削除

第二章 チーム

第十三條 チームの組成

A、一つのチームは其のクラブに公認された六名の競技者より成立する。

B、各競技者は背部に十吋角以上の大きさの番號を着ける。

第十四條 チームの主將

A、各チームより一名の主將が任命され主將は試合中に起りたる競技規約の疑義に付きレフエリーに對して解釋上の質問をする特權が與へられる。

第十六條 スケーティング・ラインアップ

A、競技開始及各ペリオドの競技開始前に到來チームのマネジャー又はコーチは始めに出場する競技者名（スケーティング・ラインアップ）をレフエリー又は記録役員に提出しなければならない。

又レフエリーの要求があり次第直に氷上に選手を出し速かに競技が行はれる様にしなければならない。

B、レフエリー又は記録役員に提出された始めに出場する競技者又は氷上で競技中の競技者は試合が正當に進行される迄は交替は許されない。

此の規則に反した時は該チームのマネジャー又はコーチに指名された競技者にマイナーペナルティーが課せられる。

第十七條 チーム人員の平衡

何れかのチームに於て試合中ゴールキーパーを除いた十七名の該競技者に事故が起り、六名の競技者を得る事が出来なくなつた時は相手のチームも同數になる様に減員しなければならない。

第十八條 競技者の交替

A、競技者は何時でも競技者のベンチから交替する事が出来る。交替する各競技者は常に自チームの競技者のベンチで交替され又該競技者は競技から離脱した上でなければ如何なる交替も許されない。

B、ペナルティーベンチに居る競技者がペナルティー時間完了後に他の競技者と交替したい場合は該競技者は時間完了後直に氷上より自分のベンチに戻りたる後他の競技者と交替する。

C、此の規則に反した時はマイナーペナルティーが交替者に課せられる。

第十九條 競技者の負傷

A、ゴールキーパーを除いた競技者が試合中負傷させられ又は襲はれ氷上から離れた時は該競技者は競技より除外され他の競技者が代替せられる。

併しながら競技はチームが氷上より離れずに續行されなければならない。

B、若しもゴールキーパーが負傷した時は回復する迄氷上から十分間離れる事が許される。

C、他のゴールキーパーと交替を必要とする時は尙五分間の追加が許される。

交替したゴールキーパーはゴールキーパーに對する規則に従い又特權を與へられ、ゴールキーパーの用具を着用する事を許される。

D、ゴールキーパーの負傷した時はレフエリーの判斷で他の競技者を氷上から離れさせる事が出来る。

併しながらレフエリーの合圖あり次第直に試合が續行出来るようにしなければならない。

E、若しもペナルティーを課せられた競技者が負傷した場合には彼はペナルティーベンチに行かずに更衣室に入る事が許される。

又交替すべき競技者もペナルティーベンチに入る事を必要としない。

第廿一條 スケート

A、ホッケースケートは連盟で公認された型式のものを使用する。

B、スピードスケート、フアンシースケート又は如何なるスケートでも危険な型のものは禁ぜられる。

第廿二條 ゴールキーパーの用具

A、スケート、ステック以外のゴールキーパーの着する總ての用具は單に頭部又は體を保護する目的で用いるもので、如何なる外被を用いたり又はゴールを守る上に都合の良い工夫をしてはならない。

註。グローブのケージ又は下腹部のエプロンが前肢迄下りバツクの外側に出ているものは禁ぜられる。

ケージとはレース、織物又は他のもので作られたゴールキーパーのグローブの親指と人差指を一杯に覆った時の空隙を埋める上に保護し、又ポケット等を付し親指と人差指を覆った時に防禦上便利になる様にされたものである。

B、ゴールキーパーのレックガードは着用の際幅一〇吋を超えてはならない。

C、規定に反した用具を着けたゴールキーパーはマイナーペナルティーが課せられ競技は之等の用具が正規のものにされる迄中止される。

第廿三條 保護用具

グローブ、ヘッドギヤー及びゴールキーパーのレックガードを除

併しながら交替者がペナルティーを課せられた競技者のペナルティー時間の未完了の内に競技に参加する事は許されず右はマネージャー又はコーチの責任となる。

F、此規則に反した時はマイナーペナルティーが課せられる。

G、負傷した競技者が競技を續け又は彼のベンチ迄行く事が出来る場合に競技は該競技者のチームがバックを取得する迄は中止されない。

若しもバックを取得していた際に負傷した場合は競技は彼のチームが得點出来る様な状態にない限り直に中止される。

註、競技者が重傷を負つた場合にはレフエリーは直に競技を中止する事が出来る。

第五章 用具

第二十條 ステック

A、ステックは連盟で公認された木又は他の材料で作られ如何なる突起も付けてはならない。

B、柄の長さは底部から他端迄五三吋又ブレードは全長一四吋四分の三を超えてはならない。

C、ブレードの長さはゴールキーパー以外は三吋、ゴールキーパーは踵部は四吋四分の三其の他は三吋二分の一迄が許される。

D、規定以上のステックを用いたゴールキーパー以外の競技者はミスコンタクトペナルティーを課せられる。

E、規定以上のステックを用いたゴールキーパーはマイナーペナルティーを課せられる。

いた總ての保護用具はユニホームの下に着用する。

レフエリーの注意を受けた後此の規則に反した時はマイナーペナルティーが課せられる。

註。ゴールキーパー以外の競技者が此の規則を犯した場合には用具が補正され又は取去られる迄競技に参加出来ない。

フットボールヘルメットで顔のプロテクター又はマスクを付したものは本規則で禁ぜられる。

第廿四條 危険な用具

金屬其他競技者を傷ける様な材料で作られたバットやプロテクターの使用は禁ぜられる。

第廿五條 バック

バックは厚さ一時直徑三吋の硬化ゴム又は他の適當な材料で作られ連盟で公認されたものを使用する。

註。本章中の用具の計測を必要とする場合は競技の進行の妨げとならぬ様に競技開始前又は各ピリオド間に行はれる可きである。

第四章 罰則

第廿六條 罰則

罰則は競技中に課せられ左記の如く分けられる。

- 1、マイナーペナルティー
- 2、メジャーペナルティー
- 3、ミスコンタクトペナルティー
- 4、マッテペナルティー
- 5、ペナルティシヨット

註。競技中でなくても、競技者によつて、なされた暴行に對しては競技中になされたと同様な罰則が課せられる。

一齊に起つた事故により競技の中止されることは罰せられない。

第廿七條 マイナーペナルティー

ゴールキーパー以外の競技者がマイナーペナルティーが課せられた場合は二分間退場し代りの競技者の出場は許されない。

第廿八條 メジャーペナルティー

A、ゴールキーパー以外の競技者が其の試合中に始めてメジャーペナルティーを課せられた場合は五分間退場し代りの競技者の出場に許されない。

B、同一試合に於てゴールキーパー以外の競技者が彼の二度目のメジャーペナルティーを課せられた場合は十五分退場し代りの競技者は五分間經過後出場する事が許される。

C、B項と同様の三度目のメジャーペナルティーを課せられた場合は該競技者は殘餘の競技時間の出場を禁ぜられ代りの競技者は五分間經過後出場を許される。

第廿九條 ミスコンダクトペナルティー

A、ゴールキーパー以外の競技者がミスコンダクトペナルティーを課せられた場合は各々に對して十分間退場し代りの競技者は直に出場を許される。

B、創 除

C、ゲームミスコンダクトペナルティーを課せられた競技者は殘餘の競技時間の出場を禁ぜられ、代りの競技者は直に出場さ

れる。

註。ゲームミスコンダクトペナルティーが課せられた競技者に對しては合計十分の退場時間が記録される。

第卅條 マッチペナルティー

A、マッチペナルティーを課せられた競技者は殘餘の競技時間の出場を禁ぜられ直に更衣室に入る事を命ぜられる。

代りの競技者は第四九條による場合は經過後第四四又は六四條による場合は五分經過後出場を許される。

註。附加されるペナルティーと交替者に關する規定は第四四四九、六四條に分類される。

如何なる附加されるペナルティーも襲つた側のマネージャー又はコーチが競技していた主將を通じて指命した競技者に對して課せられる。

競技者がマッチペナルティーを課せられ或は附加されるペナルティーを命ぜられた場合でも該競技者に對して合計十分の反則時間が記録される。

B、マッチペナルティーを課せられた競技者は罰則に對して全權を有する會長により彼の問題が討議され適當と認められる迄は罰則を受けた以後如何なる競技にも出場出来ない。

註。レフエリーは總てのマッチペナルティーの報告及び起つた時の状況を試合直後に連盟會長に通告を必要とする。

第卅一條 ペナルティーショット

A、ペナルティーショットと呼ばれる罰則は左記の如く行はれる。

る。

G、ペナルティーショットにより得點された時は通常通り水面の中央點でフエースされる。

得點されなかつた時はペナルティショットの行はれた側のエンドフエースオフスでフエースされる。

H、ペナルティショットを行ふ競技者がその攻撃中にメジャー又はマッチペナルティーを課せられない限り得點は認められる。不當な攻撃による反則に對してはペナルティーが課せられる。得點されなかつた場合に不當な攻撃による反則攻撃が行はれた場合もペナルティーが課せられる。

I、ペナルティショットに要した時間は正規の競技時間又は延長時間に含まれない。

第三二條 ゴールキーパーのペナルティー

A、ゴールキーパーはマイナーペナルティーを課せられた時にペナルティベンチに送られない。併しながら該チームのマネージャー又はコーチが競技をしていた主將を通じて指命した他の競技者がペナルティーを受ける。

B、ゴールキーパーがメジャーペナルティーの規定に反した時はペナルティベンチに送られず代りに該チームのマネージャー又はコーチが競技をしていた主將を通じて指命した他の競技者がペナルティーを課せられる。

C、ゴールキーパーが同一試合中に二度目のメジャーペナルティーを犯した時は彼はゲームミスコンダクトペナルティーを受ける。彼は彼のクラブの競技者又はサブゴールキーパーと交

代し交代者はゴールキーパーの用具を全部着用する事が許され、着用の爲に十五分間が與えられる。

D、ゴールキーパーがミスコンダクトペナルティンを受けた時は、此のペナルティは攻撃が行はれた時に氷上に在つた彼のチームの他の一員に、マネジャー又はコーチが競技をしていた主將を通じて指令して課せられる。

E、ゴールキーパーがゲームミスコンダクトペナルティンを受けた時は彼のクラブの競技者又はサブゴールキーパーと交代し交代者はゴールキーパーの用具を全部着用する事が許され着用の爲に十五分間が與えられる。

F、ゴールキーパーがマッチペナルティンを受けた時は彼のクラブの競技者又はサブゴールキーパーと交代し交代者はゴールキーパーの用具を全部着用する爲に十五分間が與えられる。

併しながらマッチペナルティンを含む個々の規定された附加ペナルティは適用される。

襲つた側のチームに對して左の通りのペナルティが課せられる。

反則したゴールキーパー以外の競技者で反則が行はれた時氷上に在つた者の一人をマネジャー又はコーチが、競技をしていた主將を通じて任命し該競技者が附加されたペナルティを課せられる(第四四、四九、六四参照)

G、マッチペナルティンを受けたゴールキーパーは彼の問題が全權を有する會長により討議され適當と認められない限り將來の試合に出場する事が出来ない。

時間の完了を認めた時は氷上に戻る事が許され該チームは四名以上の競技者を氷上に得る資格を持つ。

同一チームの二名の反則者が同時にペナルティ時間完了する時は該チームの主將は二名の内最初に氷上に戻す競技者をレフエリーに指名し、レフエリーはそれをペナルティタイムキーパーに報告する。

第三四條 ペナルティの通告

A、競技者が攻撃中にマイナーメジャー又はマッチペナルティの規則を犯した時はレフエリーは直にホイッスルを吹きペナルティを該競技者に課する。

B、前項の場合にバックが反則した競技者の相手チームに在る時はレフエリーは該競技者に對して反則を通告し、バックが相手チームの手から離れた時にレフエリーはホイッスルを吹き反則競技者にペナルティを課する。

マイナーペナルティを課せられる可き反則を犯しながらゴールインした場合はマイナーペナルティは課せられない。併しメジャー又はマッチペナルティの場合は得點の有無に拘らず課せられる。

C、反則した競技者が同様の方法でレフエリーのホイッスルの吹かれる前又は後に反則を重ねた場合は引續いてペナルティを課せられる。

第五章 役員

第三五條 役員の任命

A、會長はレフエリー、二名のラインスマン、ゲームタイムギ

註。總てゴールキーパーに課せられたペナルティは代りにペナルティを受けた者に關係なくゴールキーパーに對して記録される。

第三三條 デイレイドペナルティ

A、二名の反則者がペナルティベンチに在る時間一チームの三人目の反則者を生じた場合は三人目の反則者のペナルティ時間は前の二人の内一人のペナルティ時間が完了する迄は課せられない。

之に反して三人目の反則者は直にペナルティベンチに入り、自分のペナルティ時間が開始させることは出来る。

B、同一チームの三人の競技者が同時にペナルティを受け、デイレイドペナルティ規則によつて三人目の反則者に對する交代者が氷上に在る時は、競技が中止されるが交代者が氷上から離れない限りペナルティベンチの三人の何れも氷上に戻る事は出来ない。競技が中止され又は交代者が氷面から離れた場合にペナルティを完了した競技者は再び競技を行うことが出来る。

C、デイレイドペナルティが行はれる場合はレフエリーはペナルティタイムキーパーに競技中止又は氷上から離れた時に氷上に戻る事を許される。ペナルティを完了した競技者に付て通告をする。

併しながら若しもペナルティタイムキーパーが一名又は數名のペナルティを課せられた競技者に對してペナルティ

パーペナルティタイムキーパー、オフィシアルスコアラー、二名のゴールジャッヂを任命する。

B、レフエリー及びシーズン中に任用される全てのクラブ中の役員及び役員として任用される競技者の名簿は會長に提出される。

第三六條 レフエリー

A、レフエリーは競技に關して最高の見解を持ち競技中は(競技停止中を含む)全ての役員及び競技者に對して絶対の支配權を有する。

如何なる論争に對しても彼の裁決が最後のものとなる。

レフエリーは各ペリオドの終りに至ての競技者が彼等の更衣室に入る迄は氷上に残つて居なければならぬ。

B、全てのレフエリー及びライスマンは青色ズボン及び白又は着色されたスエーターを着用しスエーターにはリードにより定められた番號を付ける。

C、レフエリー及ライスマンは常に公平な關係でなければならぬ。

D、レフエリーは試合開始の時及各ペリオドの始にチームに指定された時間に氷上に出る事を命ずる。

十五分以上試合開始を遅らせる様な事が起つたり十分の休憩時間の後、競技の再開が不當に遅れた場合はレフエリーは會長に遲延の理由及び過失を犯したクラブ名を報告しなければならぬ。

E、レフエリーは全ての競技者が競技中正しく着衣及用具を着用

しているかを監視する義務を有する。

F、レフエリーは試合開始前に任命されたゲームタイムキーパー、ペナルティータイムキーパー、オフシヤルスコアラール及びゴールジャッヂが所定の位置に在り、計時及信號装置が完全であることを確める。

G、レフエリーは本規則により定められた反則に對してペナルティーを課し、ゴールに付て論争が起つた時に個々の規則に定められたライズマン及びゴールジャッヂの意見を聞いた後最後の判定を下し決定する。

H、レフエリーはオフシヤルスコアラール又はペナルティータイムキーパーに全ての得點及び課せられたペナルティの種類の通告する。

註。得點者及交代者の名前は擴聲装置で放送する。

得點が反則により認められなかつ時レフエリーは理由をオフシヤルスコアラールに通告し、彼は擴聲装置でレフエリーの判定を放送する。各ペナルティが課せられた時も同様になされ兩チームの競技者が同時に反則をなした時は外來チームの競技者の名を先に發表する。

I、レフエリーはペナルティベンチ内の兩チームの競技者が争はない様に分けられているを監視する。

J、レフエリーはライズマンだけの任務である青ライン又はセンタールライン上のオフサイド又は「アイシングバック」の反則に對して競技を停止させない。ライズマンが任務を遂行出来ない事故の起つた時はレフエリーは競技が停止する迄ラ

C、ライズマンはレフエリーの要求があつた場合競技中に起つた事故に對する自己の判定を發表する。

第三八條 ゴールジャッヂ

A、各ゴールに一名のゴールジャッヂが配される。ゴールジャッヂは兩クラブに關係のない者が任命され競技の進行中は交代されない。

但し競技開始後何れかのゴールジャッヂが不公平の態度又は他の原因により不正の判定がなされた時はレフエリーは彼の代りに他のゴールジャッヂを任命する。

B、ゴールジャッヂは競技中ゴールの後方に彼の動作を妨げない様に適當に遮閉されたケージの中に位置する。

そして競技中は位置の変更は行われない。

C、ゴールが破損した場合でも其處のゴールジャッヂはゴールポスト間のゴールラインをバックが完全に越したか何うかのみを判定し單に「ゴール」又は「ノーゴール」と決定される。

第三九條 ペナルティタイムキーパー

A、ペナルティタイムキーパーは定められた様式で役員により課せられた全てのペナルティの集録を作り、それらは反則競技者の名前、反則の種類、各ペナルティの期間及び反則を課せられた時の時刻を記する。

B、ペナルティタイムキーパーは反則競技者の反則時間を監視する。

彼は反則競技者から殘餘の反則時間を聞かれた時、それを正確に知らせる。

イスマンの任務を代行する。

註。オフサイドによりゴールラインに關して論争が起つた時はレフエリーの判定に従う。

K、レフエリーが競技中事故で氷上から離れた時は競技は自動的に停止される。

L、ライズマンが途中で動けなくなり又は病氣災害に會ひ競技終了後迄任務に耐えられない時はレフエリーは彼の代りを任命する權限を有する。又必要に應じ良いと思はれるならばどちらか適當なチームのマネヂャー又はコーチにより代行される。

N、病氣や災害の爲にレフエリーが任務を續けられなくなつた時ライズマンの一人が殘餘の競技時間を代行する。

レフエリーになるライズマンを選ぶ場合、必要に應じて兩チームのマネヂャー又はコーチにより決められる。

O、レフエリーは試合報告を公表する前にクラブ員の登録名簿及びユニホームを着した全競技者が正當であつたかを確める。

第三七條 ラインズマン

A、ライズマンの任務は青ライン又はセンタールライン上でのオフサイド及び「アイシングバック」の反則に關することに限定される。

B、ライズマンは試合開始、各ペリオドの始め、得點のあつた後及びエンドフェースオフサークル内に於けるフェースを除いて何時でもフェースを行ふ。

註。ペナルティが課せられた反則は、レフエリーの通告通り正しく擴聲装置で放送される。兩チームの競技者が同時に反則した時は外來チームの競技者の名前が先に發表される。

C、ペナルティタイムキーパーは試合終了後ペナルティ記録を會長に提出する爲にオフシヤルスコアラールに手交する。

第四〇條 オフシヤルスコアラール

A、オフシヤルスコアラールは競技開始前兩チームのマネヂャー又はコーチから競技者名簿を入手する。

彼は又外來チームの初めに出場する競技者名簿を入手する。オフシヤルスコアラールは「ラインアップス」が集められた時にマネヂャー又はコーチから通知された主將及び副主將の名前を確認しレフエリーの競技報告書中の彼等（主將副將）の名前の反對側に指定された「C」又は「A」記號を記入する。

此等の報告書は全て公式に決められた様式で記入され競技終了後レフエリーに渡され署名される。

B、オフシヤルスコアラールは得點數、得點者、得點を援助した競技者及び競技中正當に出場していた競技者達の記録をする。

C、競技終了後彼はペナルティタイムキーパーからペナルティ記録を入手し、彼の記録と共に出来るだけ早く會長室へ届ける。

D、オフシャルスコアラール席は競技者のベンチから程良く離れてを上段に置かれベナルティーベンチと通話する電話を設備する。

第四二條 ゲームタイムキーパー

A、ゲームタイムキーパーは競技の開始及終了時間及試合中競技の行はれていた時間を記録する。

B、ゲームタイムキーパーは開始の時及び各十分間の休憩の後第二第三ピリオドの始めにレフエリーに合圖しレフエリーは競技を始め又は再開する。

彼はリンクに自動打鐘装置が無く又は破損した時に銅鑼又はホイッスルを吹き各ベリオド競技の終了を表示する。

C、時間に關して論争が起つた時は調定する爲にレフエリーに報告され、彼の決定に従ふ。

第六章 競技規則

第四二條 役員に對する粗暴なる言動

A、誰人に對しても野卑亂暴なる言辭を弄し又は試合中役員の裁定に對し反對意見を固執し又は粗暴な振舞ひをなしたる競技者は十分のミスコンダクトナベナルティーを課せられる。此場合交代者は直に参加を許される。

B、マネジャー、コーチ又はトレイナーが斯様なミスコンダクトベナルティーを受けた場合はレフエリーの命令によりベンチより引退らねばならない。そして將來の處置の爲に會長に報告される。

C、右の場合ベナルティーを受けた者は彼のベンチの附近に居る

將來の處置の爲に會長に報告される。

第四五條 ボードチェックキング

ボディチェック、クロスチェック、エルボー、チャージ又は相手の足を掬ぐることにより相手がボードに激しく衝突させられた場合にはレフエリーの判斷によりメジャー又はマイナーベナルティーが課せられる。

第四六條 ステックの破損

A、競技者はステック無しでは競技に参加出来ない。ステックを破損した競技者は破損した部分を除けば競技に参加出来る。此の規則に反した場合はマイナーベナルティーが課せられる。

註。破損したステックはレフエリーの判定により競技に不適當とされることがある。

B、ゴールキーパーのステックが破損した場合競技が中止されるまで又は彼が準備されたステックを得るまで破損したステックで競技を続けることが出来る。

C、ステックを破損した競技者は代りのステックをリンクの如何なる場所からも氷面にステックを投げこまれて受取ることは出来ない。彼のベンチで受取らねばならない。ゴールキーパーの場合は味方の競技者からステックを受け取ることが出来る。

代りのステックを不當に受け取つた競技者又はゴールキーパーはマイナーベナルティーにミスコンダクトベナルティーを加へられ課せられる。

事は許されず又直後にベンチと連絡したり連絡出来る様な方法を講じてはならない。

D、レフエリーが競技者、マネジャー、コーチ、トレイナーの誰が亂暴な言辭を用いたか決定出来ない場合は該チームに對してベナルティーが課せられる。

此のベナルティはマネジャー、コーチが競技していた主將を通じて指令した競技者に對して課せられ其の間の交代者は認められない。

第四三條 着衣及用具の調整

A、着衣、用具、スケート又はスティックを調整する理由で競技を中止又は遅延する事は出来ない。

B、此の規則に反するとマイナーベナルティが課せられる。

C、着衣及び用具を正しく着用する事は競技者の義務であり、若しも調整を必要とする場合は彼は氷面から退かねばならぬ。そして競技は交代者によつて支障なく續行される。

D、此の規則はゴールキーパーに對して適用されない。彼はレフエリーの許可を得て競技の中止された後着衣、用具、靴及スケート其他を調整する爲に競技を遅らせる事が出来る。

E、ゴールキーパーが此の規則を犯した時はマイナーベナルティが課せられる。

第四四條 傷害を加へ様とした場合

相手の競技者、役員、マネジャー、コーチ又はトレイナーに如何なる方法でも危害を加へようとした競技者に對してマツチベナルティーが課せられる。交替者は五分後に出場を許される。そして

第四七條 チャージング

A、相手に對して走り又は飛込み又はチャージしたときはマイナー又はメジャーベナルティーが課せられる。

B、ゴールキーパーがゴールクリーズに在る時にゴールキーパーをチャージした時はメジャーベナルティーが課せられる。

註。二歩以上又は二ストローク以上の前進を伴う攻撃をチャージとされる。

第四八條 クロスチェックキング

A、クロスチェックバットエンド又はスビーアを相手になした競技者はマイナーベナルティーが課せられる。

B、右の場合ゴールキーパーに對してなされた場合はメジャーベナルティーが課せられる。

C、右の場合に相手を傷付けた場合はどの競技者でもメジャーベナルティーが課せられる。

註。クロスチェックとはステックを両手に持ち氷面から離して相手をチェックした場合を指す。スビーリングはステックを片手又は両手で運びながらステックの双で相手を突くことを指す。

第四九條 相手を傷害した場合

A、如何なる方法でも相手を傷害した場合はマツチベナルティーが課せられる。

B、右の場合交代者は十分後に出場を許される。

第五十條 リンクの外にバックをシュートした場合

リンクの外へバックをシュート、バツティグ又は投げ、競技を遅

らせた如何なる競技者に對してもマイナーペナルティーが課せられる。

第五一條 エルボワインダ

ヒジを用ひて相手に妨害した如何なる競技者もマイナーペナルティーを課せられる。

第五二條 フェイスオフ

A、バックは二名の競技者のステイクの合ふ水面にレフエリー又はライズマンにより落されフェイスされる。

フェイスオフをする競技者達は大體ステックの長さだけ離れ兩ステックの双を水面に付けて相手の方に向ひ合つてフェイスオフを行う。

他の競技者はバックから十フィート以内に入ることを許されず。又オンサイドの位置にいなければならない。相手の競技者たちのステックは水面に置かれフェイスされる位置から味方のゴールの側に置かなければならない。バックが水面に達する迄は妨害することは許されない。

此の規則に反したときはレフエリー又はライズマンは再びフェイスを行ふ。

B、競技を開始するときに役員(タイム・キーパー)によつてホイッスルは吹かれない。競技はバックがフェイスされた時から始まりホイッスルが吹かれた時に停止する。

C、同一チームの競技者によつてなされた同じフェイスオフに於ける二度目の反則に對して該競技者にマイナーペナルティーが課せられる。

クリーズ内にある時にバックを體や手の中に入れて押しやり抱へ込んだりすることは許されない。

C、此の規則に違反した場合は競技は直に停止されペナルティーショットが該チームに課せられる。

併しながら其れ以上のペナルティーは課せられない。註。本規則は左記の通り註譯される。

ペナルティーショットはバックが競技の停止された時にクリーズ内に在る時のみ課せられクリーズ外に在つた時は第五三條(A)が當てらるペナルティーショットは課せられずマイナーペナルティーが與へられる。

第五四條 殴り合ひ

A、殴り合ひを始めた競技者に對してレフエリーの判斷でマイナー又はメジャーペナルティーが課せられる。

B、殴られた競技者が殴り返したり又殴ろうとした場合マイナーペナルティーが課せられる。併しながら此の競技者が論争を續けるならばレフエリーの判斷によりメジャーペナルティーを課する事が出来る。

第五五條 ゴール(及びアシスト)

A、ゴールはバックが攻撃側の競技者のステイクによりゴールポスト間前方よりクロスバーの下の赤線を完全に通過した際に得點と看なされる。

赤線はゴールポスト間の水面上にポストの一端から他端に引かれる。

B、防禦側のプレーヤーによつて如何なる方法でもバックがゴー

D、此の規則の違反がアタッキングゾーン内で攻撃側競技者によつてなされた場合、次に行なわれるフェイスオフは中央ゾーンの最も近いフェイスオフスポットでなされる。

E、此の規則の違反が兩チームの競技者によつてなされた場合に行われるフェイスはその反則の起つた場所又は競技が停止した場所で行われる。

F、バックがエンドフェイスオフスポットとリンクの終端の間にある時に競技が停止された場合はその時にバックの在つた側のエンドフェイスオフスポットでフェイスが行われる。

G、ゴール又はリンクの側板から十五呎以内の場所ではフェイスは行わない。

H、バックがデیفエディングゾーンに居た役員に當つた結果不當にゴールインした場合は(若しもバックが最後に防禦側に待たれてゐた場合)フェイスオフはデیفエディングゾーンのエンドフェイスオフスポットで行はれる。

若しもバックが攻撃側に持たれて居た場合には中央ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行はれる。

I、競技規則に記載されていない何にかの理由で競技が停止された時は最後にバックがあつた場所でフェイスされる。

第五三條 フォーリーグオンバック

A、ゴールキーパーをのぞいた競技者がバックを彼の體中に入れたり、又は抱へ込んだ場合マイナーペナルオルティーが課せられる。

B、ゴールキーパーを除いた防禦側の競技者でもバックがゴール

ルに入つた時は得點された事になる。

C、攻撃側の競技者がバックをけりそれが防禦側の競技者に當つてネットに入つた時は得點と見なされる。

バックをけつた競技者が得點者とされ補助者(アシスト)は認められない。

D、攻撃側の競技者がゴールにシュートした時味方の競技者の何れの部分に當つてゴールインした場合も得點は認められる。バックを當てられた競技者が得點者となる。バックをけり、又はステイク以外のもののでゴールの中に入れた場合は得點とされない。

E、役員にバックが當つてネットに入つた場合は得點とされない。

F、競技者が對手のゴールクリーズ内にバックを正當に選り混戦となり味方の競技者に渡りゴールインした場合は得點を認められる。

G、公認規則に記載されていない方法でゴールインした場合の得點は認められない。

H、相手のゴールにバックを入れた競技者が得點者となり記録される。

各得點は一點をその競技者の記録に與へられる。

第五六條 グロスミスコンダクト

A、レフエリーは如何なる競技者、マネジャ、コーチ又はトレイナーが如何なる種類のグロスミスコンダクトを犯した場合も殘餘の競技時間を退場させ更衣室に入る様に命令する。

B、競技者が競技に出場する事を停止させられた場合にはゲームミスコンダクトペナルティーを課せられることになる。

交代者は直ちに出場する事が出来る。

C、レフエリーは反則の決定及臨時の報告をを將來の處置の爲に會長に通知する。

第五七條 バックを手で扱ふ事

A、ゴールキーパーを除いた競技者がバックの上に手を伏せた時はホイッスルが吹かれ次いでフエースオフが行はれる。

ゴールキーパーが手でバックを三秒以上保持した時はマイナーパーナルティーが課せられる。

B、ゴールキーパーは意識した動作によつて競技を停止する様なバックの保持は許されず。

又相手のゴールの方へ投げる事は出来ない。又雪を積上げたリ又はネットの附近に障害物を置いてレフエリーが得點を防ぐ爲にされたと思はれるものは許されない。

C、此の規則に反したゴールキーパーはマイナーパーナルティーが課せられる。

註。バックがゴールキーパーにより前方へ投げられ、それが相手側に取得された時はレフエリーは攻撃が一應完了する迄競技を停止させない。そして反則をしないチームが得點した場合は得點は認められ相手に對してペナルティーは課せられない。又得點されなかつた時は競技は停止されペナルティーが課せられる。

D、競技中に手でバックを取り上げた競技者はマイナーパーナルテ

ィーが課せられる。

E、競技者は空中で開いた手を以てバックを止め、打ち又は氷上で手でバックを押す事が許される。そしてレフエリーが前記の動作で味方の競技者に直接バックを減したと判定されない限り競技は續けられる。

右の反則をなした時は競技は停止されバックは反則の起つた場所でもフエースオフされる。

第五八條 ハイステック

A、ステックを肩より上にして運ぶ事は禁ぜられ、レフエリーの判定によりマイナーパーナルティーが反則者に課せられる。

B、バックをステイックに乗せて運ばれたゴールキーパーは防禦側で行はれた場合を除き得點と認められない。

C、競技者がステイックの何れの部でも肩より高く保持した事により相手の顔又は頭を傷けた時はレフエリーは反則者にメデヤーパーナルティーを課する。

D、肩より高い位置でステイックでバックを打つ事は禁ぜられる。之が爲された時は直にホイッスルを吹き、次いでフエースオフが其地點で行はれる。

防禦側が味方のゴールに打込んだ場合は得點したと見なされる。

第五九條 相手を押さへる事

手又はステイック或は他の方法で相手を押へた競技者はマイナーパーナルティーが課せられる。

第六十條 フッキング

れ競技は續けられる。

G、ラインズマンがB項の場合誤りで「アイシング」を宣した時バックは人数の多いチームのデフエンスゾーンから五呎外側のリンクの兩側から中央の地點でフエースされる。

H、ラインズマンが兩チームの人数が同数の時誤りで「アイシング」を宣した時、バックを保持していたチームのゴールから最も離れた中央ゾーンのフエースオフスポットで行はれる。

註。「アイシングザバック」はバックがゴールラインを横切つた時に成立する。

第六二條 妨害

A、相手の行動を妨害したりバックを持つていない相手を打ち又は落したステイックを拾はうとするのを妨げたりした競技者はマイナーパーナルティーが課せられる。

B、競技者がゴールクリーズ内にバックの無い時にクリーズ内のゴールキーパーに對してステイックや體で妨害をなし意識的にゴールキーパーの動作を妨げた時はマイナーパーナルティが課せられる。

C、バックがゴールクリーズ内に無い時に攻撃側の競技者はゴールクリーズラインの上又はクリーズラインの上又はクリーズ内に立つたりステイックをゴールクリーズ内に入れたりする事は出来ない。

此の場合バックがネットに入つた時は得點は認められずフエースオフはアタッキングゾーンに最も近い中央ゾーンフエースオフスポットで行はれる。

A、ステイックで相手を引掛けて進行中を妨げ又は妨害しようとした競技者にマイナーパーナルティーが課せられる。

B、相手をステイックで引掛けて傷つけた競技者はメデヤーパーナルティーが課せられる。

第六一條 アイシングサハック

A、本規則の爲にセンターラインでリンクを半分に分割される相手チームと同様又はより多數のチームの競技者が味方側のリンクの半分から相手のゴールラインを越えてシュートした時競技は停止されバックは攻撃側のエンドフエースオフスポットでフエースオフされる。併しバックが相手のネットに入つた時は停止されず得點と認められる。

B、相手チームより少い数のチームの競技者からシュートされた時は競技は續けられフエースオフは行はれない。

C、フエースオフの場合はバックが味方のゴールラインを越えた時は本規則の違反とはならない。

D、ラインズマンが相手チームの競技者がバックを故意にゴールラインを越えさせたと認めた時はフエースオフは許されず競技は停止されない。

E、バックがゴールラインに到る前に相手チームの競技者のスケート、ステイック其他何れかの場所にさわつた時は「アイシング」されたと認められない。

F、ラインズマンが正當なパスが味方の競技者間で試みられたと判定しバックがパスを受けた競技者に觸れても觸れなくても相手のゴールラインを越えた場合は「アイシング」と考へら

D、攻撃側の競技者が防禦側の競技者によつてクリーズ内に押し入れられた時にバックがネットに入つた時は得點が認められる。

第六三條 見物人による妨害

A、見物人により競技者が押へられた時はレフエリー又はライズマンはホイッスルを吹き競技は停止される。その競技者がバックを持つていた場合にはホイッスルが吹かれるまではその動作を續け完了する事が許される。

そしてバックは競技が停止された時に在つた位置でフエースされる。

B、競技の進行を妨げる様な物が氷上に投げ込まれた時レフエリー又はライズマンはホイッスルを吹き競技を停止し、其時

バックの在つた點でフエースを行う。

第六四條 競技者をける事

相手をけり、又はけらうとした何れの競技者もマッチペナルティーを課せられる。交代者は五分後に出場が許される。

第六五條 バックを蹴る事

バックを蹴ることは全てのゾーン内に於て許される。

併し防禦側の競技者に當つてネットに入つた時は得點が認められる。

第六六條 競技者ベンチ又はペナルティーベンチから離れる事

A、何れの競技者も如何なる時でも競技者ベンチから離れ論争することは許されない、併し交代者は論争に加はらない限りベンチを離れる事は許される。

スコングダクトペナルティーを課し同一試合中に二度目の反則がなされた時はゲームミスコンダクトペナルティーが課せられる。交代者の出場は許される。

B、マネジャー、コーチ又はトレーナーが役員を押へ又は殴つた時は競技から離脱させられ更衣室に入る事を命ぜられる。

第六八條 野卑又は亂暴な言辭

A、競技者は氷上の他の競技者及觀覽人に對して野卑又は亂暴な言辭を弄してはならない。

B、此の反則に對してレフエリーの判斷により十分のミスコンダクトペナルティーが課せられる。

第六九條 オフサイド

A、オフサイドが決定される基準となるものは競技者のスケートの位置でありステイックの位置に關係しない。

反則のあつた時兩スケートが完全にセンターライン又は青ラインを越えた時その競技者はオフサイドに在る。

B、ライズマンが故意のオフサイドが行はれたと判定した時にバックは攻撃していたチームのデフエンスゾーン内のエンドフエースオフスボットでフエースされる。

註。本規則は人數の少い方のチームにより行はれた時に適用せず、その場合はバスが出された地点でフエースされる。

第七〇條 バス

A、バックは同一チームの競技者間で各ゾーン内に於てバスする事が許される。併し前方の他のゾーンに居る味方とのバスは

B、此の反則に對しては十分のミスコンダクトペナルティーが課せられる。

C、各ペリオドの終り又はペナルティー時間の完了した時を除いてどの競技者も如何なる時でもペナルティーベンチを離れる事は出来ない。

D、ペナルティー時間の完了前にペナルティーベンチから離れた競技者は競技中又は停止中に拘らず、又論争に加はらなくてもマイナーペナルティーが追加して課せられる。

E、競技停止中に反則競技者がペナルティーベンチを離れ論争に加はつた時はマイナーペナルティーと十分間のミスコンダクトペナルティーが追加して課せられる。

F、反則競技者がペナルティルベンチから時間完了前に離れた時はペナルティータイムキーパーはレフエリーに合圖をする。

G、前項の場合タイムキーパーの誤による時はその競技者に對して追加のペナルティーは課せられない。

併し未完の時間はペナルティーに服さねばならない。

H、攻撃側の競技者がバックを持ち彼と相手のゴールキーパーとの間に何人も居ない場合に相手側の競技者が不當に競技に入り妨害した時はレフエリーはペナルティネットを課する。

第六七條 役員を襲ふ事

A、レフエリー、ライズマン又は他の役員に對して競技者が彼等の手やステイックで觸れ又は押へ或は妨害やボディーチェックを行ふ様な動作をした時は最初の攻撃に對して十分のミス

許されない。

但しデフエンスゾーンからセンターライン迄のバスはオフサイドにならない限り受ける事が出来る。

此の「オフサイドバス」はバスを受けた競技者がセンターラインにオンサイドに在る時にのみ認められ其他の場合は競技は停止されバスが出された地点でフエースされる。

B、バスがオンサイドに在る味方の競技者に出された時體の下の部分でも又はステイック、スケートに當つた時バスは完了したと認められる。

C、最後にバックに觸れた競技者がバックを保持して居る者と認められる。

D、中央ゾーンに居た競技者が中央ゾーンからバックをバスされアタッキングゾーンに先行した時彼はアタッキングゾーンの中何處へでもバックを取りに行く事が出来る。但し「アイシングバックス」規則が課せられた時は此限りでない。

E、同一ゾーン内でバックが次のゾーンに先行した時はそのゾーン内の競技者は「アイシング」を宣せられない限り次のゾーンでバックを取りに行く事が出来る。

F、攻撃側の競技者がバックをアタッキングゾーンから味方のゴールの方へバスした時相手の競技者は彼（相手）が其時同一ゾーンに居る居ないに拘らずバックが中央ゾーンから次のアタッキングゾーンに先行する限りバックを取り競技する事が出来る。

第七一條 バックより先にアタッキングゾーンに入る事

A、攻撃側の競技者はバックより先にアタッキングゾーンに入る事は出来ない。

B、此の反則に對して競技は停止されバックはアタッキングゾーンに近い中央ゾーン内のフェースオフスポットでフェースされる。

註。バックの先がラインを横切つた時はオフサイドにならない。

C、攻撃側の競技者がバックより先にアタッキングゾーンに入り、バックが防禦側の競技者により青ラインの上又は附近で止められ、彼がバックを中央ゾーンに運び又はパスした時はオフサイドにされず競技は續けられる。

D、競技者が中央ゾーンから味方のデフエンスゾーンに運び又はパスした時相手チームの競技者がそのデフエンスゾーン内に居た時はオフサイドにならず競技は續けられる。

第七二條 バックがボードから出たり競技が出来なくなつた時
A、バックがリンクの兩端又は兩側から出たり、水面から上にあるガラス、鐵線等の障害物に當つた時に他に當てはまる規則の無い場合はバックが放たれた所又は當つた場所でフェースされる。

B、バックがネットの外側に引掛り競技が出来ない時レフエリイは競技を停止させ近い方のフェースオフスポットでフェースを行う。

攻撃側の競技者によつてなされたレフエリイが判斷したるフェースオフは中央ゾーンで行はれる。

競技はリンクの何處に於てもバックが役員に當りチームがそれを直ぐ受けても受けなくても關係なく續行される。

(第五五條E參照)

第七六條 競技開始を拒否した時

A、兩チームが氷上に在る時何かの理由で一チームがレフエリイに命令されても競技開始を拒否した時該チームは競技を始めたる迄又は再び行ふ迄三十秒の時間を許される。

該時間經過後尙拒否した時レフエリイはマネジャー、コーチが競技していた主將を通じて指定した競技者に對して二分間ペナルティーを課する。

尙同様な状態にある時は試合は反則しないチームの勝となり將來の處置の爲に會長に報告される。

第七七條 スラッシング

A、相手を自分のスティックでスラッシングにより妨害し又は妨害になると思はれる行爲をした競技者はマイナーペナルティーが課せられる。

第七八條 競技開始

A、試合は名ペリオドの始にリンクの中央でフェースオフされ始められる。

B、ホームクラブが最初を守るゴールの側を選定するが競技者ベンチが同じ側に在るリンクに於てはホームクラブのベンチに近いゴールをホームクラブが守ることになる。
兩チームは各ペリオド及び延長時間のペリオド毎に位置を換えられる。

C、ゴールキーパーが故意にネットの上にバックを落し競技を停止させた場合彼にマイナーペナルティーが課せられる。

第七三條 バックは常に運ばれていなければならない。

A、バックは常に運ばれていなければならない。

B、ゴールの後へ一回だけ運ばれること以外はバックは味方のデフエンスゾーンから常に前方に運ばれていなければならない。但し相手が之を妨げた場合は此限りでない。

此の初めの反則に對して反則チームのゴールに近いフェースオフスポットでフェースが行はれレフエリイは主將又は代將に反則の理由を説明する。同一ペリオド中に行はれた同一チームの競技者の二度目の反則に對しては該競技者にマイナーペナルティーが課せられる。

C、如何なる方法でもボードにバックを押へ付けたゴールキーパー以外の競技者は相手にバックを取られない限りマイナーペナルティーが課せられる。

D、競技の進行を遅らせる目的でバックを味方のデフエンスゾーンに運び又はパスする事は出来ない。

E、此の反則に對して該チームのデフエンスゾーン中の最も近いフェースオフスポットでフェースが行はれる。

第七四條 バックが見えなくなつた時

折り重なつたり、偶然競技者の中にバックが入りレフエリイに見えなくなつた時ホイッスルを直に吹き競技を停止する。バックは他の規則に觸れない限り停止された地點でフェースされる。

第七五條 バックが役員に當つた時

第七九條 スティックを投げる事

A、ゴールキーパーを含む防禦側にあるどの競技者でも味方のデフエンスゾーンで自分のスティックのどの部分でも投げた場合、レフエリイは攻撃の動作が完了する迄待つてそれによりゴールインしなかつた時はペナルティショットを反則チームに課し得點した時はペナルティは課されない。併しゴールに誰も守る者が居ない時反則により「空いたネット」にシュートする事が妨げられた時攻撃側が得點したと認められる。

B、スティック及び其の一部もゾーン内に投げた「ペナルティショット」又は得點が認められなかつた場合はマネジャーペナルティーが課せられる。

註。競技者がスティックの破損した部分をリンクの端ヘトスした場合(ボードの外でなく)相手を妨害しない様な方法ならばペナルティは課せられない。

C、試合中觀覽者に自分のスティックやスティックの一部分を投げた競技者にミスコンダクトペナルティーが課せられる。

第八〇條 競技時間

A、競技は正味二十分宛三回各ペリオド間に十分間休憩して行はれる。

B、全ペリオドを通じて得點の多きチームが勝者となる。同點の場合は延長戦を十分宛三回迄行ふ事が出来る。休憩時間は五分とする。

C、休憩時間中に水面は清掃される。

第八一條 トリツピング

但し兩チームの諒解があればその必要はない。

A、ステイック、足、腕、手又は肘で相手をつまずかせ又は倒した競技者はマイナーペナルティーが課せられる。

註。競技者が明かにバックを引掛けて自分のものとした時、バックを運んで来た競技者をつまずかせたとレフエリーが認めた場合はペナルティーは課せられない。

B、バックを持った競技者がつまずかされ、又は倒されゴールキーパー以外誰も居らずクリアーなシュートを妨げられた時反則チームにペナルティーショットが課せられる。

併しレフエリーは攻撃側がバックを防禦側に取られる迄は競技を停止しない。

註。「バックを持つ」と言ふ事はステイックでバックを前進させる動作を指す。

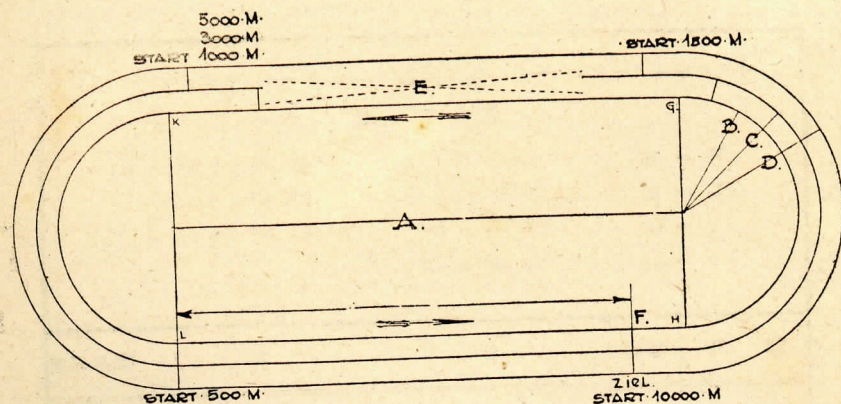
バックを前進中バックが他の競技者に觸れたりゴールポストに當つたりステイックから離れたりした時は其の競技者は最早バックを持つてゐるとは認められない。

此の規則の意向は反則によつて失はれた好機を再び與へることに在り當然得點される様な好機ではなかつた場合ならばペナルティーショットは與へられない。

第八二條 亂暴過ぎる動作

レフエリーが必要以上亂暴な動作をしていると認められた競技者に對してマイナーペナルティーが課せられる。

附則 本規則は競技場、天候、其の他の事情に由り適宜修正する



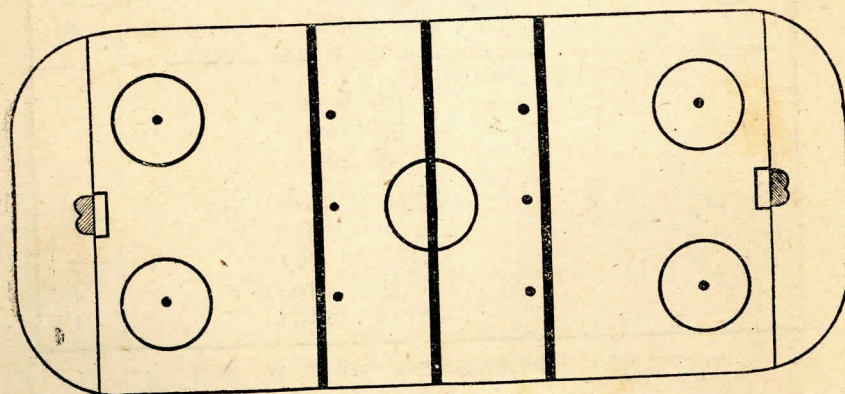
第三條=據ル 400 米標準競技場

内側ノ半径.....	25 米
各コースノ幅.....	5 米
交 丑 線.....	70 米

コースノ長さ

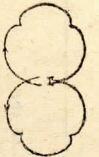
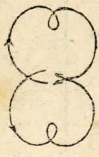
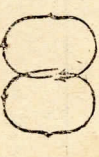
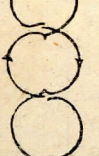
2 × 中 軸(A)	$2 \times 111.945 \text{ 米} = 223.89 \text{ 米}$
内側ノカーヴ(B)	$25\frac{1}{2} \times \text{Radius} = 3.1416 = 80.11 \text{ 米}$
外側ノカーヴ(C)	$20\frac{1}{2} \times \text{Radius} = 3.1416 = 95.82 \text{ 米}$
交 又(E)	$\sqrt{(\text{交丑線ノ長})^2 + (\text{コースノ幅})^2} = 70 \text{ 米} \dots = 0.18 \text{ 米}$

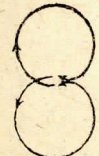
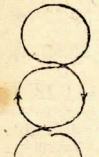
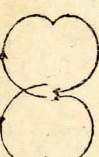
400 米



事が出来る。

以上

圖 形	番 號	名 稱	難 易 係 數
		獨 「ダブル・スリー」 獨 英 佛 Doppeldreier Double-Three double-trois	
	10	RfoTbiTfo — LfoTbiTfo	1
	11	RfiTboTfi — LfiTboTfi	1
	12	RboTfiTbo — LboTfiTbo	1
	13	RbiTfoTbi — LbiTfoTbi	2
		獨 「ループ」 獨 英 佛 Schlinge Loop boucle	
	14	RfoLPfo — LfoLPfo	2
	15	RfiLPfi — LfiLPfi	2
	16	RboLPbo — LboLPbo	2
	17	RbiLPbi — LbiLPbi	2
		獨 「ブラケット」 獨 英 佛 Gegendreier Bracket bracket	
	18a	RfoBbi — LbiBfo	3
	b	LfoBbi — RbiBfo	3
	19a	RfiBbo — LboBfi	3
	b	LfiBbo — RboBfi	3
		獨 「ロッカー」 獨 英 佛 Wende Rocker rocker	
	20a	RfoRKbo — LboRKfo	4
	b	LfoRKbo — RboRKfo	4
	21a	RfiRKbi — LbiRKfi	4
	b	LfiRKbi — RbiRKfi	4

「フイギュア・スケートイング」=於ケル「スクール・フイギュア」			
異 語 解			
R = 右	o = 外	B = 「ブラケット」	
L = 左	i = 内	RK = 「ロッカー」	
f = 前	T = 「スリー」	C = 「カウンター」	
b = 後	LP = 「ループ」		
圖 形	番 號	名 稱	難 易 係 數
		獨 「カーヴ・エイト」 獨 英 佛 Bogen-Achter Curve Eight huit	
	1	Rfo — Lfo	1
	2	Rfi — Lfi	1
	3	Rbo — Lbo	1
	4	Rbi — Lbi	2
		獨 「チェンジ」 獨 英 佛 Schlangenbogen Change changement de carre	
	5a	Rfoi — Lfio	1
	b	Lfoi — Rfio	1
	6a	Rboi — Lbio	2
	b	Lboi — Rbio	2
		獨 「スリー」 獨 英 佛 Dreier Three trois	
	7	RfoTbi — LfoTbi	1
	8a	RfoTbi — LbiTfo	2
	b	LfoTbi — RbiTfo	2
	9a	RfiTbo — LboTfi	1
	b	LfiTbo — RboTfi	1

(獨英佛三箇國語器認解詳細ハ本表末ニ掲ケタリ)

圖形	番號	名 稱	難易係數
		「カウンター」 獨 Gegenwende 英 Counter 佛 contre-rocking	
	22a	RfoCbo — LboCfo	3
	b	LfoCbo — RboCfo	3
	23a	RfiCbi — LbiCfi	3
	b	LfiCbi — RbiCfi	3
		「ワン・フット・ エイト」 獨 Achter auf einem Fusse 英 One-Foot Eight 佛 huit sur un pied	
	24a	Rfoi — Lfio	2
	b	Lfoi — Rfio	2
	25a	Rboi — Lbio	3
	b	Lboi — Rbio	3
		「チェンジ・ スリー」 獨 Schlangenbogen-Dreier 英 Change-Three 佛 changement de carre-trois	
	26a	RfoiTbo — LboiTfo	2
	b	LfoiTbo — RboiTfo	2
	27a	RfioTbi — LbioTfi	3
	b	LfioTbi — RbioTfi	3
		「チェンジ・ ダブルスリー」 獨 Schlangenbogen-Doppeldreier 英 Change-Double-Three 佛 changement de carre-double-trois	
	28a	RfoiTboTfi — LfioTbiTfo	1
	b	LfoiTboTfi — RfioTbiTfo	1
	29a	RboiTfoTbi — LbioTfiTbo	3
	b	LboiTfoTbi — RbioTfiTbo	3

圖形	番號	名 稱	難易係數
		「チェンジ・ ループ」 獨 Schlangenbogen-Schlinge 英 Change-Loop 佛 changement de carrebucle	
	30a	RfoiLPfi — LfioLPfo	2
	b	LfoiLPfi — RfioLPfo	2
	31a	RboiLPbi — LbioLPbo	3
	b	LboiLPbi — RbioLPbo	3
		「チェンジ・ ブラケット」 獨 Schlangenbogen-Gegendreier 英 Change-Bracket 佛 changement de carrebracket	
	32a	RfoiBbo — LboiBfo	3
	b	LfoiBbo — RboiBfo	3
	33a	RfioBbi — LbioBfi	3
	b	LfioBbi — RbioBfi	3
		「スリー・チェ ンジ・スリー」 獨 Dreier-Schlangenbogen-Dreier 英 Three-Change-Three 佛 trois-changement de carretrois	
	34a	RfoTbioTfi — LfiTboiTfo	3
	b	LfoTbioTfi — RfiTboiTfo	3
	35a	RboTfioTbi — LbiTfoiTbo	3
	b	LboTfioTbi — RbiTfoiTbo	3
		「ダブルスリー・ チェンジ・ダ ブルスリー」 獨 Doppeldreier-Schlangenbogen-Doppeldreier 英 Double-Three-Change-Double-Three 佛 double-trois-changement de carre-double-trois	
	36a	RfoTbiTfoiTboTfi — LfiTboTfioTbiTfo	3
	b	LfoTbiTfoiTboTfi — RfiTboTfioTbiTfo	3
	37a	RboTfiTboiTfoTbi — LbiTfoTbioTfiTbo	4
	b	LboTfiTboiTfoTbi — RbiTfoTbioTfiTbo	4

昭和二十五年十二月三十日 印刷
昭和二十五年十二月三十一日 發行

〔定價 金貳百五拾圓〕 送料實費

日本スケート連盟
編輯兼代表 兩角政人

發行所 日本スケート連盟

東京都千代田區神田駿河臺四ノ六
岸記念體育館内

印刷者 若命又男
印刷所 東京證券印刷株式會社
東京都北區神谷町一ノ四八二

圖形	番號	名稱	難易係數
		「ループチェンジ・ループ」 獨 Schlinge-Schlangenbogen-Schlinge 英 Loop-Change-Loop 佛 boucle-changement de carre-boucle	
	38a	R foLPfoiLPfi — L fiLPfioLPfo	4
	b	L foLPfoiLPfi — R fiLPfioLPfo	4
	39a	R boLPboiLPbi — L biLPbioLPbo	5
	b	L boLPboiLPbi — R biLPbioLPbo	5
		「ブラケット・チェンジ・ブラケット」 獨 Gegendreier-Schlangenbogen-Gegendreier 英 Bracket-Change-Bracket 佛 bracket-changement de carre-bracket	
	40a	R foBbioBfi — L fiBboiBfo	4
	b	L foBbioBfi — R fiBboiBfo	4
	41a	R boBfioBbi — L biBfoiBbo	5
	b	L boBfioBbi — R biBfoiBbo	5

(異語詳解)

獨 R = rechts = 右	獨 D = Dreier = 「スリー」
英 R = right = 右	英 T = Three = 「スリー」
佛 d = Droit = 右	佛 T = Trois = 「スリー」
獨 L = links = 左	獨 S = Schlinge = 「ループ」
英 L = left = 左	英 LP = Loop = 「ループ」
佛 g = Gauche = 左	佛 B = Boucle = 「ループ」
獨 v = vorwärts = 前	獨 GD = Gegendreier = 「ブラケット」
英 f = forwards = 前	英 B = Bracket = 「ブラケット」
佛 v = Avant = 前	佛 Bk = Bracket = 「ブラケット」
獨 r = rückwärts = 後	獨 W = Wende = 「ロッカー」
英 b = backwards = 後	英 RK = Rocker = 「ロッカー」
佛 r = Arrière = 後	佛 R = Rocker = 「ロッカー」
獨 a = auswärts = 外	獨 G = Gegenwende = 「カウンター」
英 o = outside = 外	英 C = Counter = 「カウンター」
佛 H = Dehors = 外	佛 C = Contre-rocking = 「カウンター」
獨 e = einwärts = 内	
英 i = inside = 内	
佛 D = Dedans = 内	

本邦の最高水準を行く

NITTAI

アイスホッケー・ステック

水上ホッケー用品専門
陸上

東京都豊島区 日本體育用品株式會社 池袋 2ノ1128

電話 大塚 (86) 3870



運動具全般

製造・販売

東海スポーツ用品株式会社

本社 名古屋市中區鐵砲町三丁目二三

電話 東 (4) 8893

出張所 東京・神田 電話日本橋 (24) 1838

日光のおかへ
りには

きぬ川温泉

川治
きぬ川
温泉



日光から僅か四十分

川治温泉
一星の心館
徳の温泉
光の温泉
あき水閣
さくらや
山くわ
きぬ川
水明館
柏東一
川治屋
偕楽園
庄

ウインタースポーツの殿堂

霧ヶ峰のスキー

蓼の海のスケート

諏訪湖のスケート

日本スケート連盟會員

諏訪観光ホテル

上諏訪温泉 諏訪湖畔

(中央線上諏訪驛)

電話 (27) 480. 481. 482

スケートの日光へ

東照宮表參道口

小西本店

電話 二、三、五八

東照宮表參道口

小西別店

電話 五一五

東照宮表參道口

三河屋旅館

電話 二一〇

日光町下鉢店

大野屋旅館

電話 二〇七

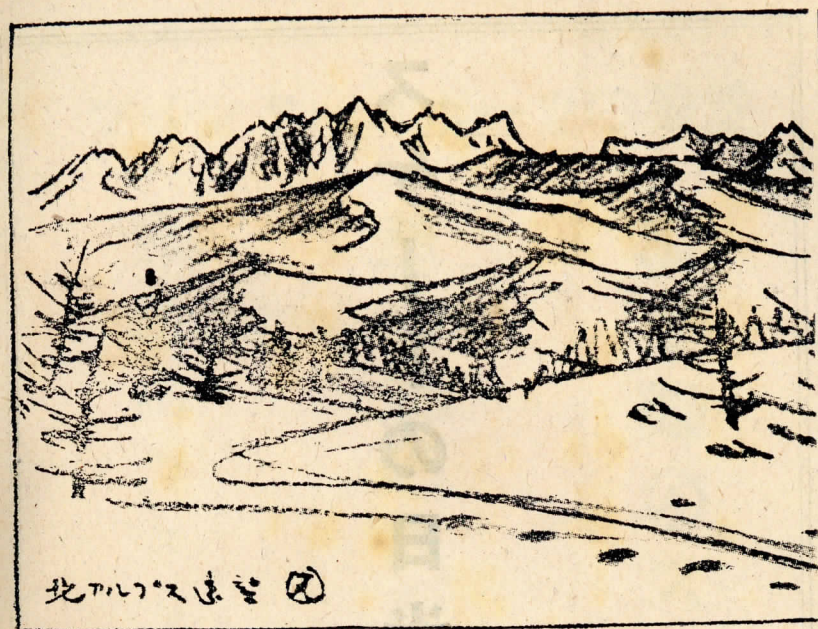
日光警察署前

古橋旅館

電話 四

『スキーとスケートは 奥日光へ中禪寺ス ケートリンク完成』

☆ 日光湯元温泉旅館組合 ☆
☆ 日光中禪寺旅館組合 ☆



北アルプスを見る (横井光二画)

霧ヶ峰より北アルプスを望む (横井光二畫)

激しいスポーツに



痛み、疲れの回復に…打
つた、挫いた時の手當に
効果の速いマツサージ薬

東京田邊製薬

サロメチール

ウィンター・スポーツ
冬季競技の殿堂

「上諏訪温泉」

霧ヶ峰のスキーと

諏訪湖のスケート！

中央線上諏訪驛下車、バスの運轉あり、温泉は全市四
百三十餘口、一日三萬三千餘石の温泉湧き流る、各ホ
テル、サービス改善

諏訪観光協會

諏訪市諏訪商工會館内

電話 諏訪 九三六番

諏訪市観光課

電話 〔一番、一七二番、四七四番、
七一一番〕

お知らせ

全國スケーターの皆様！

今年から伊香保温泉に散水製氷正規のアイス
ホッケー特設リンクが出来ました。

榛名湖のリンクと併てどうぞ御利用下さい。

群馬縣スケート連盟
伊香保温泉旅館組合

G.S.S.

日本スケート連盟推薦

川上工學博士指導各種スケート並器具

後藤スケート製作株式會社

本社・東京都杉並区中通町一番地